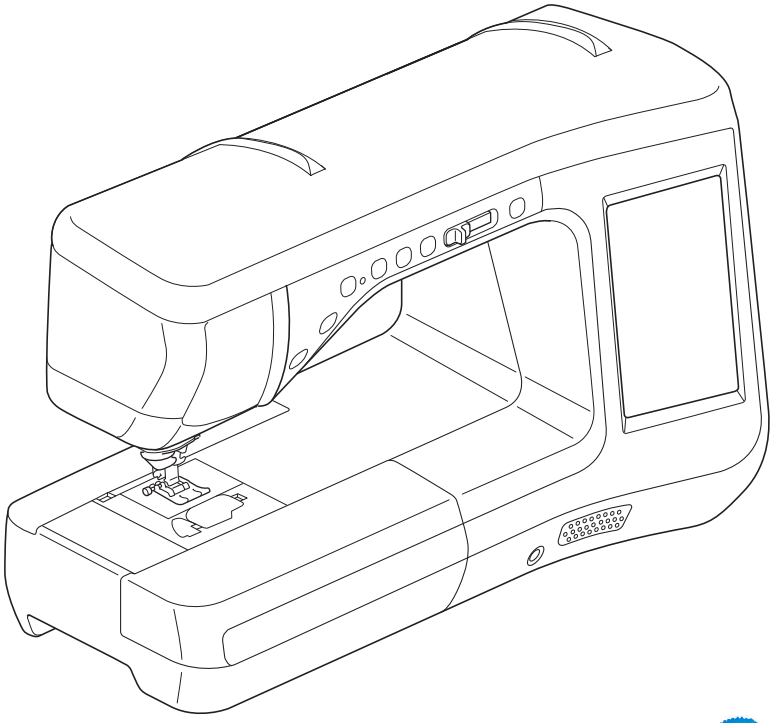
brother

取扱説明書

刺しゅう機付コンピューターミシン

EMC52 シリーズ





● お使いになる前に必ず取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。
● 取扱説明書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

商標

IMPORTANT:

READ BEFORE DOWNLOADING, COPYING, INSTALLING OR USING.

By downloading, copying, installing or using the software you agree to this license. If you do not agree to this license, do not download, install, copy or use the software.

Intel License Agreement For Open Source Computer Vision Library

Copyright © 2000, Intel Corporation, all rights reserved. Third party copyrights are property of their respective owners.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistribution's of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistribution's in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- The name of Intel Corporation may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

This software is provided by the copyright holders and contributors "as is" and any express or implied warranties, including, but not limited to, the implied warranties of merchantability and fitness for a particular purpose are disclaimed. In no event shall Intel or contributors be liable for any direct, indirect, incidental, special, exemplary, or consequential damages (including, but not limited to, procurement of substitute goods or services; loss of use, data, or profits; or business interruption) however caused and on any theory of liability, whether in contract, strict liability, or tort (including negligence or otherwise) arising in any way out of the use of this software, even if advised of the possibility of such damage.

All information provided related to future Intel products and plans is preliminary and subject to change at any time, without notice.

SD は、SD-3C,LLC の登録商標または商標です。
CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は SanDisk 社の登録商標または商標です。
メモリースティックはソニー株式会社の登録商標または商標です。
スマートメディアは、株式会社東芝の登録商標または商標です。
マルチメディアカード（MMC）は、Infineon Technologies 社の登録商標または商標です。
XD ピクチャーカード（xD-Picture Card）は富士フイルム株式会社の登録商標または商標です。
IBM は International Business Machines Corporation の登録商標または商標です。
Microsoft、Windows および Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびそのほかの国における登録商標または商標です。
マジックテープは、株式会社クラレの、面ファスナーの登録商標です。

本取扱説明書に記載されているアプリケーションは、各社によってソフトウェアライセンスの所有・管理がされています。

本取扱説明書に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。ただし、本文中には ® および ™ 等のマークは明記しておりません。

はじめに

この度は、本製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
お使いになる前に「安全にお使いいただくために」をよくお読みいただき、本取扱説明書で機能や使い方を十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。
また、お読みになった後はいつでもご覧になれるところに保証書とともに保管してください。

安全にお使いいただくために

本取扱説明書およびミシン本体および刺しゅう機に使われている表示や絵文字は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
その表示や意味は次のとおりです。

⚠ 警 告	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠ 注 意	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

取扱説明書で使用されている絵文字の意味は次のとおりです。


特定しない
禁止事項


特定しない
義務行為


感電の危険が
あります


分解しては
いけません


電源プラグを
抜いてください


火災の危険が
あります


水に濡らしては
いけません


特定しない
危険通告


針の下に指を入れない
でください

この製品を安全にお使いいただくために、以下の事柄を守ってください。

⚠警 告

	一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。 火災・感電・故障の原因となります。
	以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 火災・感電・故障の原因となります。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・使用中に停電したとき ・接触不良、断線などで正常に動作しないとき ・雷が鳴りはじめたとき

⚠注 意

	延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
	電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

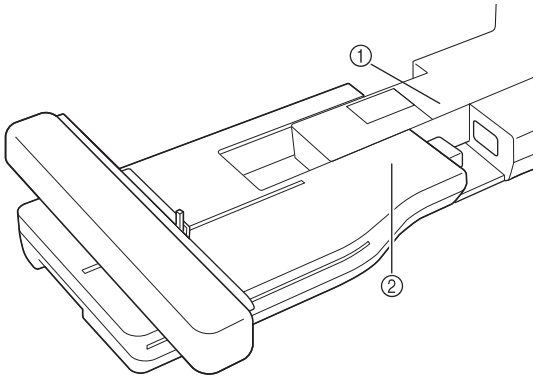
⚠注 意	
	電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物をのせたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。 電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
	長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。
	直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は 0 ～ 40 ℃です。ミシン内部の温度が上がったり、ミシン本体や電源コードの被膜が溶けて火災・感電の原因となります。
	火の気のあるもののそばでは使用しないでください。（火の消えていないたばこ、ろうそくなど） 火災の原因となります。
	野外でのご使用は避けてください。雨などが降り、本体が濡れて感電の原因となります。また濡れたときはお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
	温度や湿度の高い所でのご使用や保管は避けてください。
	スプレー製品などを使用する部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどや火災の原因となります。
	ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてけがをする原因となります。 ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。
	ミシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は、必ず壁から 30cm 以上離して使用してください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。
	ミシン本体の上に花びんや水の入った容器を置くなどして、ミシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
	ミシン本体の重さは約 15kg あります。ミシン本体を持ち運びする際は急激または、不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。
	以下の場所に設置、保管をしないでください。故障の原因になります。 ・温度が著しく高くなる場所 ・温度が著しく低くなる場所 ・急激に温度が変化する場所 ・湿気、湯気の多い場所 ・火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所 ・屋外や直射日光の当たる場所 ・ほこり、油煙の多い場所
	ミシン本体は、必ずハンドルを持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべって落としたりして、けがの原因となります。
	ミシン本体には取扱説明書に記載されている正規の部品を使用してください。他の部品を使用するとけが・故障の原因となります。

⚠注 意	
	お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電およびけがの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番)」にご依頼ください。
	取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。 けが・感電の原因となります。
	<u>ミシン操作中は、針の動きに十分ご注意ください。また、針、プーリー、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。</u>けがの原因となります。
	リッパーで穴を開ける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。本来の使用目的以外での使用はしないでください。
	針や押え等の交換およびそのほかの機能に関する使用については、取扱説明書の指示通りに正しく行ってください。
	縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。けが・針折れの原因となります。
	<u>針の下などに指を入れないでください。</u>けがをするおそれがあります。
	上糸、下糸等に関する操作については、取扱説明書の指示通りに正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみ等が発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。
	曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
	万一、ミシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番)」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	万一、煙が出ている、異臭がする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番)」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。
	本製品が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。
	お子様の玩具として使用しないでください。お子様が使用するときや、お子様の近くで使用するときは、お子様がけがをしないよう十分注意してください。
	フットコントローラーの上に物をのせないでください。 けが・故障の原因となります。
	USB ケーブルは付属のものを使用してください。
	USB マウスは、本製品専用のマウス（別売）を使用してください。

- このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
  This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
  職業用としてご使用になった場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。
- 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたら「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 本機をご使用になる方（お子様を含む）が、身体／知覚／精神的能力になんらかの障害を持つ場合、あるいは経験や知識が十分でない場合には安全を保証できる責任者の監視の下でのみ本機を使用してください。
- お子様が使用するときは、玩具として使用しないよう、十分な監視の下で使用してください。

警告ラベルについて

ミシン本体／刺しゅう機には下記の警告ラベルが表示されています。
警告表示の注意事項を守って作業を行ってください。



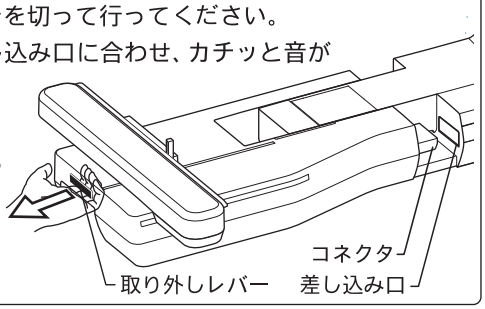
①



②

注 意 刺しゅう機を取り外してからミシンを移動してください。刺しゅう機が落下してけがをするおそれがあります。

- 取り付け・取り外しは、必ず電源スイッチを切って行ってください。
- 刺しゅう機の取り付けは、コネクタを差し込み口に合わせ、カチッと音がするまでしっかりと差し込んでください。
- 刺しゅう機の取り外しは、必ず刺しゅう枠を外し、液晶上の刺しゅう機を収納するキーを押してから行ってください。また取り外すときは、取り外しレバーを押しながら、ゆっくり抜いてください。



このミシンでできること

B 基本機能編

本機をご使用になる前に、まずこの「基本機能編」をお読みください。ここでは、基本的な準備の手順や、本機のより便利な機能を説明しています。

第 1 章 ぬう前の準備

ぬう前に必要な準備を説明します。

B-18 ページ

S 実用ぬい／文字・模様ぬい編

ここでは実用ぬいのさまざまな機能をご紹介しています。基本的な縫製だけでなく、筒ぬいやボタンぬい、または文字・模様ぬいなど、本機をもっと活用したいときの詳しい操作方法を知ることができます。

第 1 章 基本のぬい方

基本のぬい方と上手にぬうコツなどを説明します。

S-2 ページ

第 2 章 実用模様

100 **模様以上の便利な内蔵模様についての説明です。**

S-20 ページ

第 3 章 文字・模様ぬい

文字・模様ぬいの手順を説明します。

S-76 ページ

第 4 章 マイイラスト機能

オリジナルの模様の作り方と保存のしかたを説明します。

S-102 ページ

E 刺しゅう編

ここでは、刺しゅう模様をぬうときの手順をご紹介しています。
第 1 章「刺しゅう」では、本機に内蔵されている模様や外部から取り込んだ模様データを使って刺しゅうをぬうときの手順について知ることができます。第 2 章「編集刺しゅう」では、お好みの刺しゅう模様を作るための編集の手順を記載しています。

第 1 章 刺しゅう

刺しゅうの手順を説明します。

E-2 ページ

第 2 章 編集刺しゅう

刺しゅう模様の編集（組み合わせ、回転、拡大など）の手順を説明します。

E-54 ページ

A 付録

ここでは、本機の操作をする上で重要な情報をご紹介しています。

第 1 章 ボビンワークでぬってみましょう

ボビンワークのしかたを説明します。

A-2 ページ

第 2 章 お手入れ／困ったときには

ミシンのお手入れと困ったときの対処方法などを紹介します。

A-18 ページ

目次

商標
安全にお使いいただくために 1
警告ラベルについて 4
このミシンでできること 5
各部の名称とはたらき 9
主要部 9
針と押え部分 10
刺しゅう機 11
操作スイッチ 11
付属品ケース／補助テーブル 12
付属品 13
別売品 14

B 基本機能編

第 1 章 ぬう前の準備 18

電源の入れ方 19
ミシンを初めて使うとき 20
液晶画面の操作 22
設定キーを使う 26
ミシンヘルプキーを使う 34
操作ガイド機能を使う 35
ぬい方キーを使う 36
模様説明キーを使う 37
下糸の準備 38
下糸を巻く 38
下糸をセットする 43
下糸を引き出す 45
上糸通し 46
上糸通し 46
2 本針を使用する 49
ほどけやすい糸を使用する場合 52
押えの交換 53
押えを取り外す 53
押えを取り付ける 53
付属のアダプターを使用して別売の押えを取り付ける 54
針の交換 56
針を取り外す 56
針交換ツール（別売）を使って針を取り付ける 56
針を手で持って取り付ける 57
針と布について 58
針について 58
布地と糸の種類による針の使い分け 59
刺しゅうの準備 60
刺しゅうの手順 60
刺しゅう押え＜ W ＞を取り付ける 61
LED ポインター付き刺しゅう押え＜ W+ ＞（別売）を使う 62
刺しゅう機を取り付ける 64
ミシンに接続して使う機能 67
市販の USB メディアや別売のカードリーダーを使う 67
パソコンにミシンを接続する 67
USB マウス（別売）を使う 68
デュアルフィード押え（別売）を使う 68

S 実用ぬい／文字・模様ぬい編

第 1 章 基本のぬい方 2

基本のぬい方 3
ぬってみましょう 3
返しぬい／止めぬいをする 5
自動止めぬいをする 6
カーブをぬう 7
ぬい方向を変える 7
厚い布地をぬう 8
面ファスナー（マジックテープ®）をぬう 9
薄い布地をぬう 9
伸びる布地をぬう 9
模様の設定 10
ジグザグの振り幅を調節する 10
ぬい目の長さを調節する 10
ぬい目の基線位置を変える－ L/R シフト設定－ 11
糸調子を調節する 12
便利な機能 14
自動糸切りをする 14
ニーリフターを使用する 15
ピボット 15
自動押え圧補正 17
針位置 - ぬい位置 17
画面をロックする 18

第 2 章 実用模様 20

実用模様の選び方 21
模様を選ぶ 21
模様の設定を記憶する 22
いろいろなぬい方 24
直線ぬい 24
ダーツ 28
ギャザー 28
折り伏せぬい 29
ピンタック 30
ジグザグぬい 30
点線ジグザグぬい 33
たち目かがり 33
キルトぬい 35
まつりぬい 45
アップリケぬい 48
シェルタックぬい 49
スカラップぬい 50
つき合わせぬい 50
スモッキングぬい 50
ファゴティングぬい 51
ゴムひもつけ 52
ヘアルーム 53
ボタン穴かがり 54
ダーニング（つくろいぬい） 58
かんどめ 59
ボタンつけ 60
アイレット 62
横送り（直線・ジグザグ） 62
ファスナーつけ 63
ぬい方早見表 67

第 3 章 文字・模様ぬい 76

模様の選び方 77
大型飾り模様／ 7mm 飾り模様／大型サテンステッチ／ 7mm サテンステッチ／クロスステッチ／実用飾り模様 78
文字模様 78
文字・模様をぬってみましょう 81
きれいにぬうために 81
文字・模様のぬい方 81
模様の調整をする 82
模様の編集のしかた 84
模様の大きさを変える 86
模様の長さを変える（7mm サテンステッチのみ） 86
模様を上下反転させる 86
模様を左右反転させる 86

模様の連続ぬい / 単独ぬい 86
模様の糸密度を変える（大型サテンステッチのみ） 87
横書き／縦書きを切り替える 87
模様の始めに戻る 87
模様のイメージを確認する 88
模様の組み合わせ 89
模様の組み合わせをする前に 89
ちがう模様を組み合わせる 89
大きさを変えた模様を組み合わせる 90
反転模様を組み合わせる 90
長さを変えた模様を組み合わせる 91
ステップ模様を作る（7mm サテンステッチのみ） 92
模様の記憶 94
データに関する注意 94
模様を記憶する 95
模様を市販の USB メディアに記憶する 96
模様をパソコンに記憶する 97
模様を呼び出す 98
USB メディアから呼び出す 99
パソコンから呼び出す 100

第 4 章　マイイラスト機能　102
イラストデザイン 103
イラストの入力 105
マイイラストの記憶 110
マイイラストをリストに保存する 110
保存した模様を呼び出す 111

E 刺しゅう編

第 1 章　刺しゅう　2
刺しゅう模様の選び方 3
ワンポイント／オリジナル模様／花アルファベット／
ボビンワーク模様を選ぶ 4
文字模様を選ぶ 5
枠模様を選ぶ 7
刺しゅうカードの模様を選ぶ 7
USB メディアやパソコンから模様を選ぶ 8
縫製画面の見方 9
布地を張る 11
布地に芯を貼る 11
刺しゅう枠に布地を張る 13
小さい布や布の隅に刺しゅうする 16
刺しゅう枠をセットする 17
刺しゅう模様の確認 19
ぬう位置を確認する 19
刺しゅうイメージを確認する 20
刺しゅうしてみましょう 21
きれいに刺しゅうするために 21
刺しゅうする 22
アップリケをする 23
こんなとき 26
下糸が少なくなったら 26
途中で糸が切れたときは 27
始めからぬい直したいときは 28
電源を切った後、刺しゅうを再開する 28
刺しゅうに関する設定の調整 30
糸調子を整える 30
自動糸切り機能 31
渡り糸切り機能 31
刺しゅうの速度を調節する 32
刺しゅうの糸番号、糸色名を表示する 33
刺しゅうの枠表示を変える 34
刺しゅう模様の修正 35
ぬう位置を移動させる 35
模様と針を合わせる 35
大きさを変える 36
模様を回転させる 37
模様を左右反転させる 38
編集画面を広げる 38
糸密度を変える（文字・枠模様のみ） 39
1 文字ずつ色を変えてぬう 39
文字をつなげて刺しゅうする 40
連続した刺しゅう（1 色の場合） 42
刺しゅう模様の記憶 43
刺しゅうデータに関する注意 43
刺しゅう模様を記憶させる 44
刺しゅう模様を市販の USB メディアに記憶させる 45
刺しゅう模様をパソコンに記憶させる 46
刺しゅう模様を呼び出す 47
USB メディアから刺しゅう模様を呼び出す 48
パソコンから刺しゅう模様を呼び出す 49
応用ぬい 50
枠模様を使ってアップリケをする（1） 50
枠模様を使ってアップリケをする（2） 51
分割模様をぬう 52

第 2 章　編集刺しゅう　54
編集刺しゅうでできること 55
刺しゅう模様の選び方 56
ワンポイント／オリジナル模様／花アルファベット／
枠模様／ボビンワーク模様を選ぶ 57
ひらがな／カタカナ／アルファベットを選ぶ 57
編集のしかた 59
ぬう位置を移動させる 61
模様を回転させる 61
模様の大きさを変える 61
模様を削除する 61
模様を 200％拡大表示する 61
文字の配列を変える 62
文字の間隔を変える 62
文字の間隔を詰める 63
組み合わせた文字模様を切り離す 63
1 文字ずつ色を変えてぬう 64
文字をつなげて刺しゅうする 65
刺しゅうの糸色を変える 65
色パレットを作成する 66
色パレットから色を選ぶ 69
連続模様をつくる 71
模様を繰り返し刺しゅうする 75
模様を複製する 77
編集が終わったら 77
模様の組み合わせ 78
組み合わせ模様を編集する 78
組み合わせ模様を刺しゅうする 81
さまざまな刺しゅうの機能 82
連続した刺しゅう（1 色の場合） 82
刺しゅうのしつけぬい 82
編集刺しゅう模様の記憶 83

A 付録

第 1 章　ボビンワークでぬってみましょう　2
ボビンワークとは 3
ボビンワークの準備 3
準備するもの 3
上糸を通す 4
下糸の準備 5
ボビンワークでぬう（実用ぬい） 9
布地を準備してぬう 9
ボビンワークをフリーモーションでぬう 11
ボビンワークでぬう（刺しゅう） 12
模様を選ぶ 12
刺しゅうをぬう 13
糸調子を調整する 16
困ったときは 17

第 2 章　お手入れ／困ったときには　18

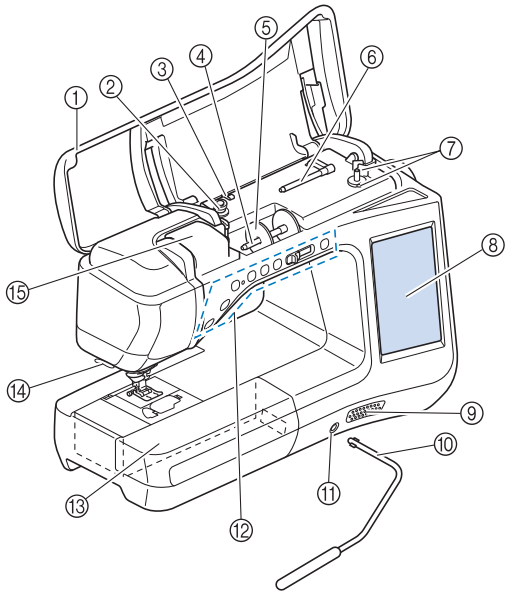
お手入れのしかた 19
注油に関して 19
ミシンを保管するときのご注意 19
画面の汚れの掃除 19
ミシンの汚れの掃除 19
かまの掃除 19
内かま周辺のカッターの掃除 21
点検の警告について 21
画面の調整 22
画面の明るさ調整 22
タッチパネルが反応しない 22
困ったとき 23
よくあるご相談 23
上糸がつる 23
布裏で糸がからまる 24
糸調子が合わない 26
布がミシンに入り込んでとれなくなった 27
簡単なミシンの調整 30
エラーメッセージ 35
仕様 37
アップグレードの方法 38
USB メディアを使用してアップグレードする 38
パソコンを使用してアップグレードする 39
索引 40

各部の名称とはたらき

ここでは、ミシンの各部の名称とはたらきを説明します。ミシンをお使いになる前に、よく読んで覚えておきましょう。

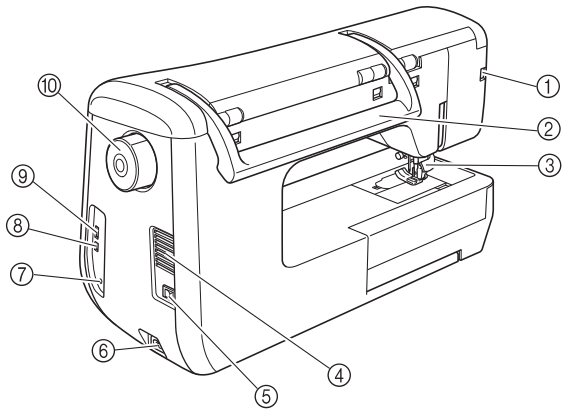
主要部

■ 正面



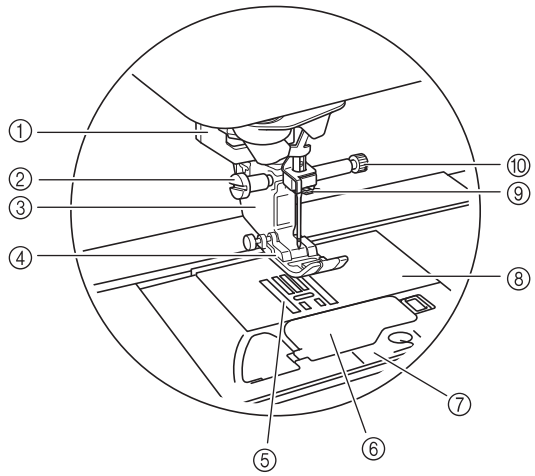
① **上ふた**
上糸を通すときや下糸を巻くときに開けます。
② **下糸巻き案内**（B-38）
下糸を巻くときに糸をかけます。
③ **糸案内**（B-38）
下糸を巻くときに糸をかけます。
④ **糸たて棒**（B-46）
糸こまを差し込みます。
⑤ **糸こま押え**（B-46）
糸こまが抜けないように押さえます。
⑥ **補助糸たて棒**（B-38、B-49）
下糸を巻くときや 2 本針でぬうときに使います。
⑦ **下糸巻き装置**（B-38）
下糸をボビンに巻くときに使います。
⑧ **液晶画面**（B-22）
選択した模様の設定やエラーメッセージが表示されます。
⑨ **スピーカー**
⑩ **ニーリフター**（S-15）
ひざで押えを上げ下げするときに使います。
⑪ **ニーリフター差し込み口**（S-15）
ニーリフターを差し込みます。
⑫ **操作スイッチ（7 つ）とスピードコントロールレバー**（B-11）
ミシンをスタートさせるときや針を上げ下げさせるときなど、ミシンのさまざまな操作に使います。
実用ぬいの模様はスピードコントロールレバーをスライドさせることによって、ぬう速さを調節することができます。
⑬ **付属品ケース／補助テーブル**（B-12）
中に押えやボビンなどを収納します。袖口などの筒ものをぬうときには外します。
⑭ **糸切り**（B-48）
糸を引っかけて切ります。
⑮ **糸案内**（B-46）
下糸を巻くときに糸をかけます。

■ 背面図



① **押えコネクタ**（B-62、B-68）
デュアルフィード押え（別売）や LED ポインター付き刺しゅう押え（別売）の取り付け時にプラグを差し込みます。
② **ハンドル**
ミシンを持ち運ぶときに持ちます。
③ **押えレバー**（B-53）
押えを上げ下げします。
④ **換気口**
ミシンを使用しているときはふさがないでください。
⑤ **電源スイッチ**（B-19）
ミシンの電源を「入」や「切」にするスイッチです。
⑥ **電源ジャック**（B-19）
電源コードを差し込みます。
⑦ **フットコントローラージャック**（S-5）
フットコントローラー（別売）、マルチ機能フットコントローラー（別売）のプラグを差し込みます。
⑧ **パソコン用 USB ポートコネクタ**（B-67、S-97、E-46）
USB ケーブルを差し込み、パソコンに接続します。
⑨ **USB メディア／マウス用 USB ポートコネクタ**（USB 2.0）（B-67、B-68、S-96、E-45）
USB メディアやマウスを差し込みます。
⑩ **プーリー**
針を上げ下げするときに手前に回します。

針と押え部分

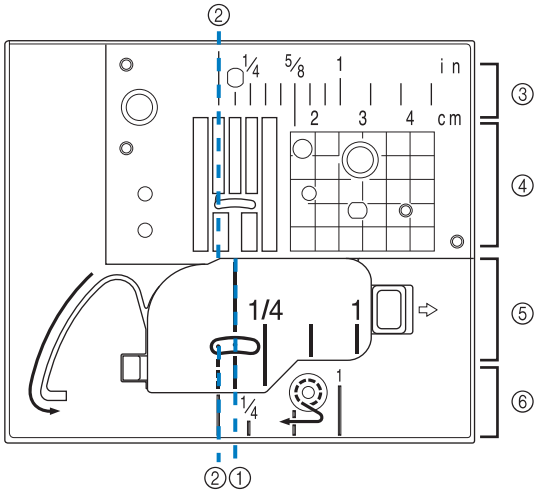


① **ボタン穴かがりレバー**（S-54）
ボタン穴かがりやかんどめをするときに使います。
② **押えホルダーのネジ**（B-54、B-62）
押えホルダーを固定します。
③ **押えホルダー**（B-53）
押えを取り付けます。
④ **押え**（B-53）
布地を押さえます。ぬい方に合った押えを取り付けてください。
⑤ **送り歯**（B-43、S-32）
ぬう方向に布地を送ります。
⑥ **針板ふた**（B-43、S-26）
開けて、中のかまにボビンをセットします。
⑦ **針板カバー**（S-26、E-22）
かまの掃除をするときに取り外します。
⑧ **針板**（S-26）
まっすぐにぬうための目盛りがついています。
⑨ **針棒糸かけ**（B-46）
上糸をかけます。
⑩ **針のとめネジ**（B-54）
針を固定します。

針板／針板ふた（マーク付き）／針板カバーの目盛りを使う

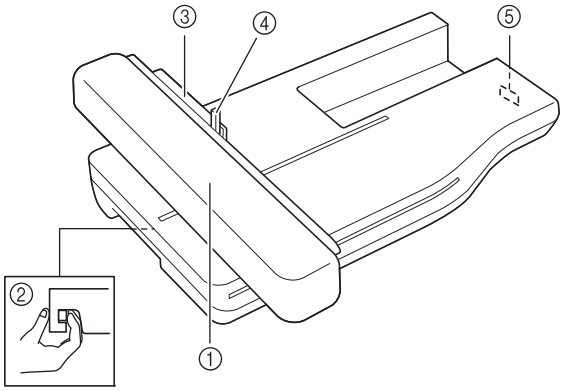
針板ふたの目盛りは、中基線の模様をぬうときの目安です。

針板と針板カバーの目盛りは、左基線の模様をぬうときの目安です。



① **中基線の針落ち位置**
② **左基線の針落ち位置**
③ **左基線のときの針落ち位置からの長さ（インチ）**
④ **左基線のときの針落ち位置からの長さ（cm）**
⑤ **中基線のときの針落ち位置からの長さ（インチ）**
⑥ **左基線のときの針落ち位置からの長さ（インチ）**

刺しゅう機

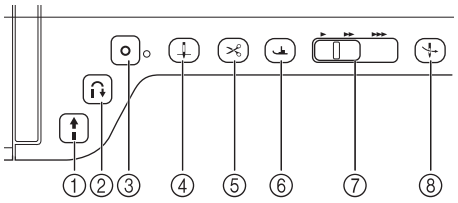


① **キャリッジ**（B-64）
刺しゅうをぬうときに自動的に動きます。
② **刺しゅう機取り外しレバー（裏側）**（B-64）
刺しゅう機を取り外すときに押します。
③ **刺しゅう枠ホルダー**（E-17）
刺しゅう枠を取り付けます。
④ **枠固定レバー**（E-17）
押し下げて刺しゅう枠を固定します。
⑤ **コネクタ**（B-64）
刺しゅう機を取り付けるときに、刺しゅう機差し込み口に差し込みます。

⚠ 注 意

- 刺しゅう機を取り付けたり取り外す前には、必ず電源を切ってください。
- 刺しゅう枠を刺しゅう枠ホルダーに取り付けた後は、枠固定レバーが正しく下がっていることを確認してください。

操作スイッチ



① **スタート／ストップスイッチ**
このスイッチを押すと、数針ゆっくりとぬってから、スピードコントロールレバーで設定されている速度でぬい始めます。もう一度押すとストップします。このスイッチを押し続けると、非常にゆっくりとした速度でぬいます。スタート／ストップスイッチは、ミシンの状態によって色が変わります。
緑：スタートできる状態のときおよび縫製中
赤：スタートできない状態のとき

② **返しぬいスイッチ**
返しぬいを行う直線またはジグザグ模様の場合、このスイッチを押している間だけ低速で返しぬいをします（逆方向にぬいます）。
そのほかの模様では、ぬい始めやぬい終わりの返しぬい、または止めぬいをするときに使います。このスイッチを押すと、同じ場所で 3 針重ねてぬって止まります。（S-5）

③ **止めぬいスイッチ**
このスイッチを押すと 1 針ぬいを繰り返した後で、止めぬいします。
文字・飾りぬいをするときは、模様を最後までぬってから止めぬいをします。模様の途中ではボタンの横の LED ライトが光り、模様を最後までぬうとライトは消えます。（S-5）

④ **針上下スイッチ**
ぬい方向を変えるときや細かいところをぬうときに使います。このスイッチを押すと、針の位置が上下に切り換わります。繰り返し押すと、1 針ぬいができます。

⑤ **糸切りスイッチ**
ぬい終わった後にこのスイッチを押すと、上糸と下糸を自動的に切ります。

⑥ **押え上下スイッチ**
このスイッチを押すと、押えが下がり布地を押さえます。もう一度押すと押えが上がります。

⑦ **スピードコントロールレバー**
このレバーを左右に動かして、ぬう速さを調節します。右に動かすと速く、左に動かすと遅くなります。初心者の方はミシンに慣れるまで、遅い速度でぬってください。

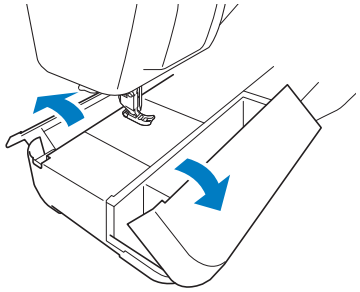
⑧ **自動糸通しスイッチ**
このスイッチを押すと、自動的に針の糸通しをします。

⚠ 注 意

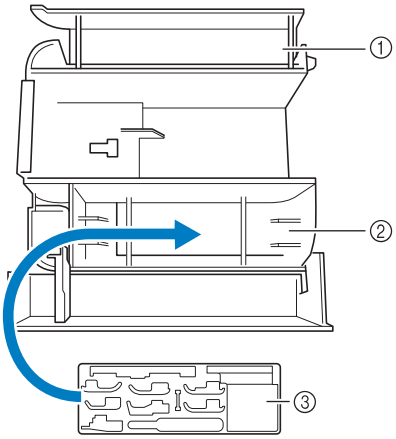
- 糸を切った後は、糸切り操作を繰り返し行わないでください。針が折れたり糸がからまるおそれがあります。また、故障の原因となります。

付属品ケース／補助テーブル

補助テーブルの中に付属品を収納することができます。図のようにふたを開いてください。



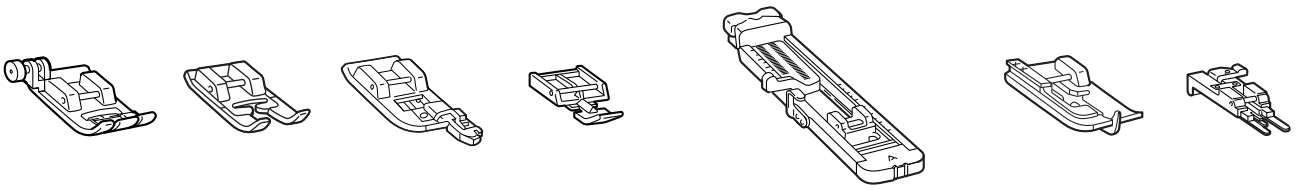
付属品ケース／補助テーブルの中には、押え収納トレイが入っています。



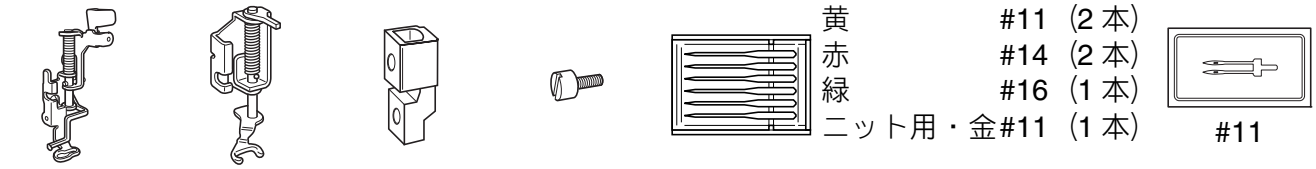
① 付属品ケース
② 押え収納トレイがセットできます。
③ 押え収納トレイ
端ぬい押え< V >など、別売の押えの収納スペースもあります。

付属品

1 2 3 4 5 6 7



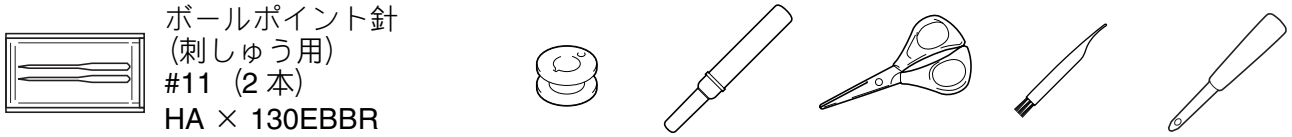
8 9 10 11 12 13



黄　#11（2 本）
赤　#14（2 本）
緑　#16（1 本）
ニット用・金#11（1 本）

#11

14 15 16 17 18 19

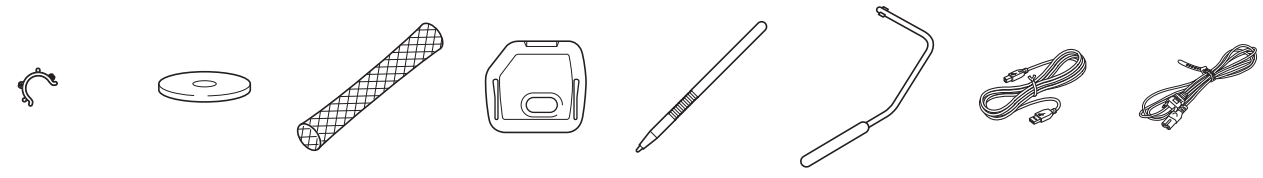


ボールポイント針
（刺しゅう用）
#11（2 本）
HA × 130EBBR

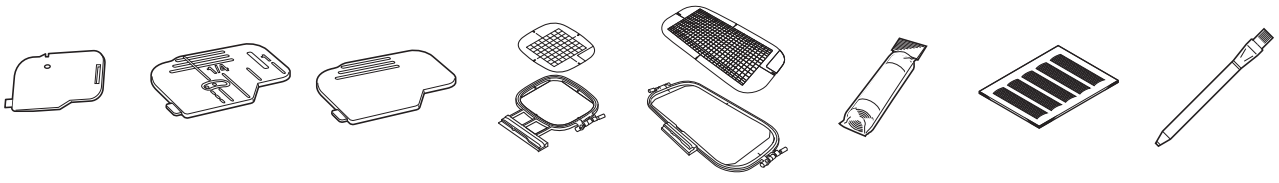
20 21 22 23 24 25 26 27



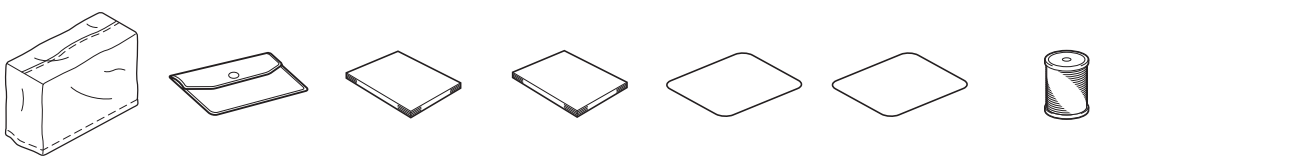
28 29 30 31 32 33 34 35



36 37 38 39 40 41 42 43



44 45 46 47 48 49 50

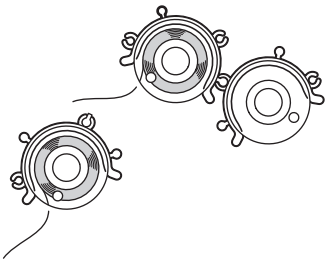


No.	部品名
1	ジグザグ押え＜ J ＞（ミシンに取り付けてあります）
2	模様ぬい押え＜ N ＞
3	たち目かがり押え＜ G ＞
4	片押え＜ I ＞
5	ボタン穴かがり押え＜ A ＞
6	まつりぬい押え＜ R ＞
7	ボタン付け押え＜ M ＞
8	刺しゅう押え＜ W ＞
9	オープントゥキルト押え＜ O ＞
10	アダプター
11	ネジ（小）
12	ミシン針セット *1
13	2 本針 *2
14	ボールポイント針（刺しゅう用）＜ 2 本＞ *3
15	ボビン＜ 10 個＞（1 つはミシンに取り付けてあります）
16	リッパー
17	はさみ
18	ミシンブラシ
19	はとめ穴パンチ
20	ドライバー（小）
21	ドライバー（大）
22	ネジ回し
23	糸たて棒
24	糸こま押え（小）
25	糸こま押え（中）＜ 2 個＞ （1 つはミシンに取り付けてあります）
26	糸こま押え（大）
27	糸こま押え（特殊）
28	ボビンクリップ＜ 10 個＞
29	糸こまフェルト（ミシンに取り付けてあります）
30	糸こまネット＜ 2 個＞
31	刺しゅう専用針板カバー
32	タッチペン
33	ニーリフター
34	USB ケーブル
35	電源コード
36	コードガイドふた（1 つ穴）
37	針板ふた（マーク付）
38	針板ふた（ミシンに取り付けてあります）
39	刺しゅう枠（M）・刺しゅうシート 縫製範囲　縦 10cm ×横 10cm
40	刺しゅう枠（LL）・刺しゅうシート 縫製範囲　縦 30cm ×横 18cm
41	刺しゅう用接着芯
42	マイイラスト用紙
43	チャコペン
44	ソフトケース
45	付属品バッグ
46	取扱説明書
47	模様一覧
48	かんたん操作ガイド（下糸の準備、上糸の準備）
49	かんたん操作ガイド（刺しゅうの準備）
50	刺しゅう専用下糸

*1　黄 #11（2 本）
　　赤 #14（2 本）
　　緑 #16（1 本）
　　ニット用・金 #11（1 本）
*2　#11
*3　ボールポイント針（刺しゅう用）　# 11（2 本）
　　HA × 130EBBR

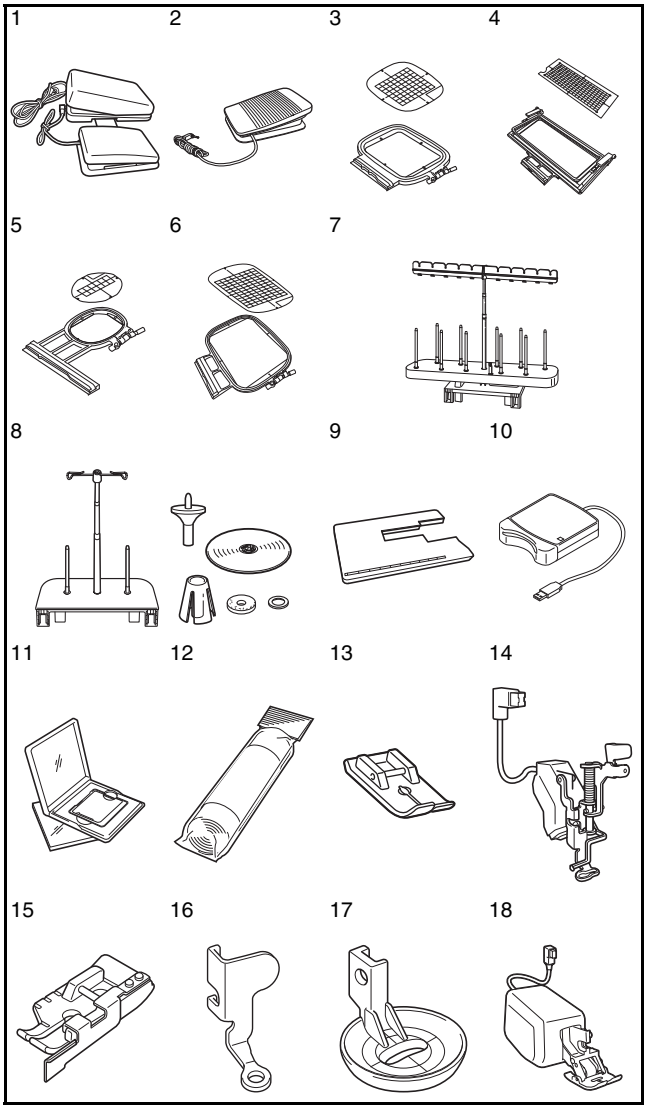
お知らせ

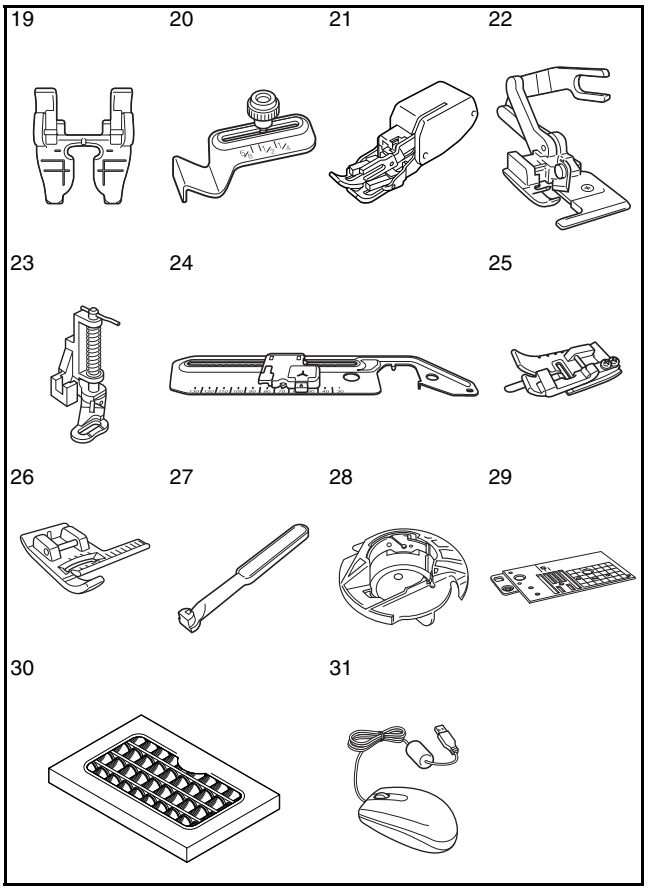
- 当社推奨の付属品のみをご使用ください。
- ボビンクリップを使用すると、ボビンの糸端を固定し、収納しておくことができます。ボビンクリップをつなげてまとめておくと、落として転がっていくようなこともありません。



別売品

別売品・部品については、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にお問い合わせください。





No.	部品名
1	マルチ機能フットコントローラー (MODEL U: MFFC1)
2	フットコントローラー (MODEL T: FC322-91)
3	刺しゅう枠・刺しゅうシート (SEF150) 縫製範囲　縦 15cm ×横 15cm
4	ボーダー枠・刺しゅうシート (BF3) 縫製範囲　縦 30cm ×横 10cm
5	刺しゅう枠（S)・刺しゅうシート (EF73) 縫製範囲　縦 2cm ×横 6cm
6	刺しゅう枠（L)・刺しゅうシート (EF75) 縫製範囲　縦 18cm ×横 13cm
7	糸たてスタンド（10 本）(TS5)
8	糸たてスタンド（2 本）(TS6)
9	ワイドテーブル (WT10)
10	刺しゅうカードリーダー (SAECR1)
11	刺しゅうカード
12	刺しゅう用接着芯 (BM3)
	刺しゅう用水溶性シート (BM4/BM6)
13	直線押え (F042N)
14	LED ポインター付き刺しゅう押え< W+ > (FLED1)
15	ガイド付きピーシング押え (F057)
16	フリーモーションキルト押え< C >
17	エコーキルト押え< E >
18	デュアルフィード押え (DF1)
19	デュアルフィード押え用オープントゥ (F070)
20	シームガイド (SG1)
21	ウォーキングフット (F033)
22	サイドカッター押え (F054)
23	フリーモーションキルト押え (F005N)
24	サーキュラーアタッチメント (SACIRC1J)
25	ディッチフット (F065)
26	端ぬい押え< V > (F063)
27	針交換ツール
28	内かま（灰色、ボビンワーク用）
29	直線針板
30	刺しゅう糸（ウルトラポス）39 色セット (ETS39)
31	USB マウス

お知らせ

- 仕様は予告なしに変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

お願い

- 海外で販売されている刺しゅうカードは使用できません。ご了承ください。
- 別売品・部品については、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番)」にお問い合わせください。

基本機能編

ここでは、基本的な準備の手順や、本機のより便利な機能を説明しています。
ページ数は、「B」の記号で始まります。

第 1 章 ぬう前の準備.....B-18

B 基本機能編

第 1 章
ぬう前の準備

電源の入れ方 19

ミシンを初めて使うとき 20

液晶画面の操作 22

■ ホーム画面 22
■ 実用・文字模様キー 23
■ キーのはたらき 24
設定キーを使う 26
■「エコモード」・「電源オフサポートモード」を選ぶ 30
■ USB マウス使用時のポインターの形を選択する 30
■ 起動画面を選ぶ 30
■ 表示言語を変える 31
■ 刺しゅう模様の背景色を変える 31
■ 模様サムネイルのサイズを変える 32
■ 設定画面を画像として USB メディアに保存する 33
ミシンヘルプキーを使う 34
操作ガイド機能を使う 35
ぬい方キーを使う 36
模様説明キーを使う 37

下糸の準備 38

下糸を巻く 38
■ 補助糸たて棒で下糸を巻く場合 38
■ 糸たて棒で下糸を巻く場合 41
■ ボビン受け座の下に糸がからまってしまったら 42
下糸をセットする 43
下糸を引き出す 45

上糸通し 46

上糸通し 46
2 本針を使用する 49
ほどけやすい糸を使用する場合 52
■ 糸こまネットを使用する 52
■ 垂直糸たて棒を使用する場合 52

押えの交換 53

押えを取り外す 53
押えを取り付ける 53
付属のアダプターを使用して別売の押えを取り付ける 54
■ ウォーキングフットを取り付ける 54

針の交換 56

針を取り外す 56
針交換ツール（別売）を使って針を取り付ける 56
針を手で持って取り付ける 57

針と布について 58

針について 58
布地と糸の種類による針の使い分け 59

刺しゅうの準備 60

刺しゅうの手順 60
刺しゅう押え＜ W ＞を取り付ける 61
LED ポインター付き刺しゅう押え＜ W+ ＞（別売）を使う 62
■ LED ポインター付き刺しゅう押え＜ W+ ＞を取り付ける 62
■ LED ポインター付き刺しゅう押え＜ W+ ＞を使って針落ち位置を確認する 63
■ LED ポインターの調整 63
■ LED ポインターの明るさを調整する 64
刺しゅう機を取り付ける 64
■ 刺しゅう機について 64
■ 刺しゅう機の取り外し方 65

ミシンに接続して使う機能 67

市販の USB メディアや別売のカードリーダーを使う 67
パソコンにミシンを接続する 67
USB マウス（別売）を使う 68
■ キーをクリックする 68
■ ページを変える 68
デュアルフィード押え（別売）を使う 68
■ デュアルフィード押えを取り付ける 68
■ デュアルフィード押えの押え足を取り付ける／取り外す 69
■ デュアルフィード押えのレバーを使う 70
■ デュアルフィード押えの送り量を調整する 70

電源の入れ方

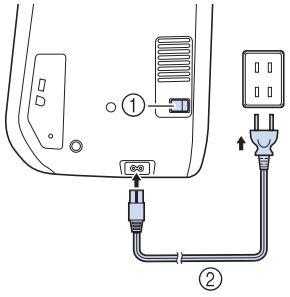
⚠ 警告

- 一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。
  - ミシンのそばを離れるとき
  - ミシンを使用したあと
  - 使用中に停電したとき
  - 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
  - 雷が鳴りはじめたとき
- 電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

⚠ 注意

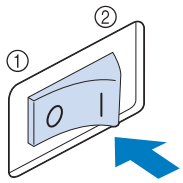
- 付属の電源コード以外は使用しないでください。
- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを、抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときは、まず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物をのせたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードやプラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。
- ミシンから離れる場合は、電源スイッチを切るか、または電源プラグを抜いてください。
- ミシンを点検したり、ふたを外すときも、必ず電源コードを外してください。

1 本体右側面の電源ジャックに電源コードを差し込んでから、電源プラグを家庭用電源コンセント（AC100V）に差し込みます。



① 電源スイッチ
② 電源コード

2 電源スイッチの右側（I 側）を押して「入」にします。



① 切
② 入

お知らせ
- 直線針板がミシンに取り付けられている場合は、針が自動的に中基線に移動します。
- 電源が入ると針や送り歯が動く音がしますが、故障ではありません。

3 電源が入ると、オープニング動画が始まります。画面上をどこでもタッチすると、ホーム画面に移動します。

⚠ 注意
- 画面は必ず指または付属のタッチペンで押してください。シャープペンシル、ドライバーなどの先のとがったものや硬いもので押さないでください。画面を強い力で押したり、先のとがったもので押すと、故障の原因となります。

4 電源を切るときは、電源スイッチの左側（O 側）を押して「切」にします。

お知らせ
- 実用・文字模様モードで縫製中に電源が切れると、再度電源を入れなおしても、ミシンは縫製の中断点を記憶していません。もう一度初めから縫製の手順を行ってください。

ミシンを初めて使うとき

初めて本機の電源を入れたときは、言語と日時を設定してください。以下の手順に従って設定を行ってください。

1 ◄と►を押して、言語を設定します。

* 選択できる言語は、「日本語」、「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「イタリア語」、「オランダ語」、「スペイン語」、「デンマーク語」、「ノルウェー語」、「フィンランド語」、「スウェーデン語」、「ポルトガル語」、「ロシア語」です。

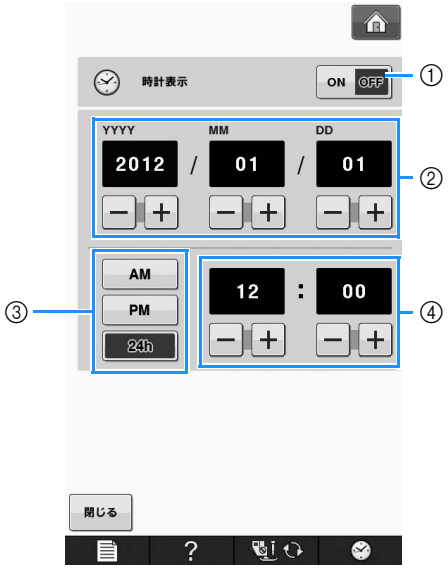


2 OK を押します。

3 日時設定を行うかどうかの確認メッセージが表示されます。日時設定を行う場合は、OK を押し、設定をしない場合は、キャンセル を押します。

→ 日時設定の画面が表示されます。

4 −または＋を押して日時設定をします。



① 押して ON にすると、時刻が画面に表示されます。
② 年（YYYY）、月（MM）、日（DD）を設定します。
③ 24 時間表示／12 時間表示を選択します。
④ 現在の時刻を設定します。

5 閉じる を押してミシンをスタートします。

→ 時計は設定した時刻の 0 秒から始まります。

お知らせ

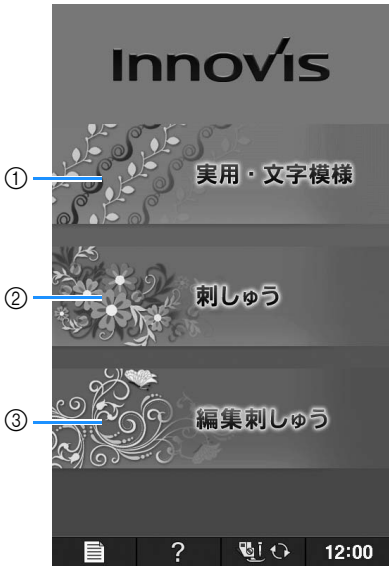
- 一定期間、ミシンを使用しなかった場合は、設定した日時がクリアされます。

液晶画面の操作

⚠ 注 意

- 画面は必ず指または付属のタッチペンで押してください。シャープペンシル、ドライバーなどの先のとがったものや硬いもので押さないでください。画面を強い力で押したり、先のとがったもので押すと、故障の原因となります。

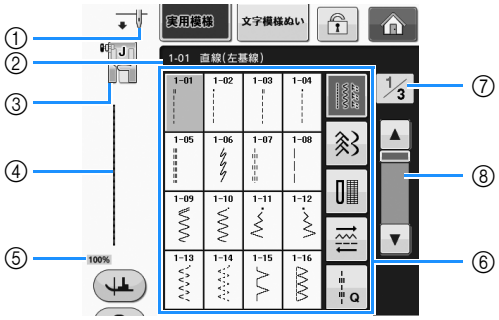
■ ホーム画面

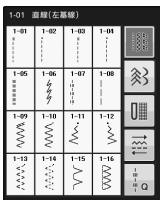


No.	表示	名称	はたらき	参照ページ
①		実用・文字模様キー	直線ぬい、ジグザグ、ボタン穴かがり、まつりぬいなど洋裁によく使う模様（実用模様）、または文字や飾りなどの模様を選ぶときに押します。	B-24
②		刺しゅうキー	刺しゅうをするときに押します。	E-3
③		編集刺しゅうキー	刺しゅうの模様を組み合わせるときに押します。編集刺しゅうでは、オリジナルの刺しゅう模様や枠模様を作ることができます。	E-55

■ 実用・文字模様キー

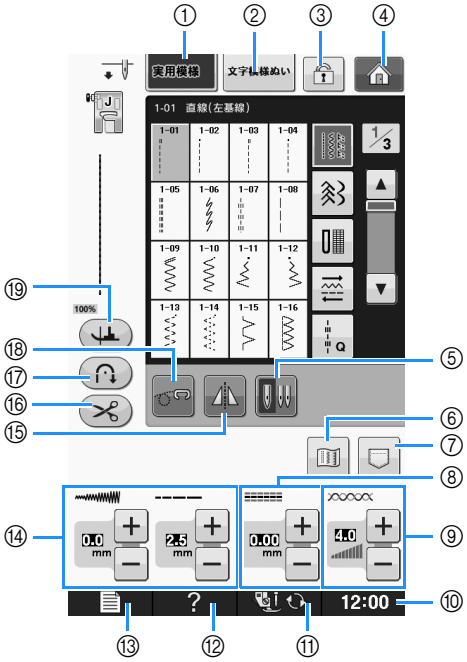
指でキーを押して、模様を選択したり、ミシンの設定や機能を選択してください。キーが灰色に表示されているとき、そのキーは使用できません。



No.	表示	名称	はたらき	参照ページ
①		針位置設定表示	1 本針と 2 本針のどちらが設定されているかを表示します。針位置が上下どちらに設定されているかも表示します。  1 本針／針位置下　 1 本針／針位置上  2 本針／針位置下　 2 本針／針位置上	–
②	1-01 直線(左基線)	選択中の模様	選択中の模様の番号と名前を表示します。	S-3
③		押え表示	押え記号を表示します。ぬう前に、ここで表示している押えを取り付けてください。	B-53
④		模様イメージ	選択中の模様イメージを表示します。100%で表示しているとき、模様はほぼ実寸大で表示されます。	S-21
⑤	100%	模様表示サイズ	選択中の模様イメージのサイズを表示します。 100% : ほぼ実物大 50% : 実際の半分の大きさ 25% : 実際の 1/4 の大きさ * 使用する布地や糸の種類によって、表示されるイメージと実際の模様のサイズは異なってきます。	S-21
⑥		模様選択画面	ぬいたい模様のキーを押します。 を押して模様グループを選択できます。	S-21
⑦	1/3	ページ表示	ほかに表示できるページの数を示します。	–
⑧		スクロールキー	▲または▼を押すと、1 ページずつ移動します。またはバーの上を押すと、一度に複数ページを移動します。	–

* 画面上のほかのキーのはたらきについては、以降のページで紹介します。

■ キーのはたらき



No.	表示	名称	はたらき	参照ページ
①	実用模様	実用模様キー	直線ぬい、ジグザグ、ボタン穴かがり、まつりぬいなど洋裁によく使う模様（実用模様）を選ぶときに押します。	S-21
②	文字模様ぬい	文字模様ぬいキー	ひらがな、カタカナ、アルファベットなど文字や飾りなどの模様を選ぶときに押します。	S-77
③		画面ロックキー	画面をロックするときに押します。ミシンを使用するときに、誤って画面を押すのを防止します。もう一度押すと、解除します。	S-18
④		ホームキー	このキーを押すと、いつでもホーム画面に戻り、ほかのモード（実用・文字模様、刺しゅう、編集刺しゅう）を選択できます。	B-22
⑤		2本針キー	2本針を使用するときに押します。押すごとに、1本針と2本針の設定が切り替わります。キーが灰色で表示されているときは、操作できません。	B-49
⑥		イメージキー	模様が拡大されたイメージで表示されます。	S-22
⑦		記憶キー	模様の設定（ジグザグの振り幅やぬい目の長さ・糸調子・自動糸切りや自動止めぬいなどの設定）をお好みの数値に変更して、その内容を記憶しておくことができます。模様の設定は、1つの模様について5セットまで記憶しておくことができます。	S-22, S-95, S-97
⑧	0.00 mm	L/Rシフトキー	ジグザグの振り幅の中心位置を左右のどちらかにずらすことができます。	S-11
⑨	4.0	糸調子キー	選択した模様の糸調子を示します。通常、糸調子は自動的に設定されます。 －または＋を押すと、糸調子を調節することができます。	S-12
⑩	12:00	時計キー	日時設定ができます。	B-20
⑪		針・押え交換キー	針や押えを交換するときに押します。ミシンが作動しないように他のすべてのキーと操作スイッチがロックされます。	B-53 ～ B-57
⑫	?	ミシンの使い方キー	上糸通し、下糸巻き、押え交換など、ミシンの使い方を知りたいときに押します。	B-34
⑬		設定キー	針の停止位置切り替え、操作音の音量、模様の調整や画面の調整などミシンの設定を変更するときに押します。	B-26
⑭	0.0 mm　2.5 mm	ぬい目調節キー	選択した模様のジグザグの振り幅（模様の幅）とぬい目の長さを示します。 －または＋を押すと、ジグザグの振り幅やぬい目の長さを調節することができます。	S-10

No.	表示	名称	はたらき	参照ページ
⑮		左右反転キー	模様が左右に反転します。キーが灰色で表示されているときは、操作できません。	S-21
⑯		自動糸切りキー	自動止めぬい後に、自動糸切りを設定するときに押します。自動糸切りをあらかじめ設定しておくと、ぬい終わりに自動的に止めぬい（模様によっては返しぬい）をし、糸切りをします。	S-14
⑰		自動止めぬい／返しぬいキー	自動止めぬい（返しぬい）を設定するときに押します。自動止めぬいをあらかじめ設定しておくと、ぬい始めとぬい終わりに自動的に止めぬい（模様によっては返しぬい）をします。	S-6
⑱		フリーモーションモードキー	フリーモーションモードにするときに押します。 押えがフリーモーションキルトに最適な高さになります。	S-40
⑲		ピボットキー	ピボット設定を選択するときに、このキーを押します。ピボット設定を選択してミシンを止めると、針が下がった状態でミシンは停止し、押えは自動的に正しい高さに上がります。再びぬい始めると、押えは自動的に下がります。 •  の表示のときは、操作できません。 • B-27 設定画面の「針位置 - 上／下」が、下に設定されていることを確認してください。	S-15

それぞれの機能の詳しい説明は、参照ページの説明をご覧ください。

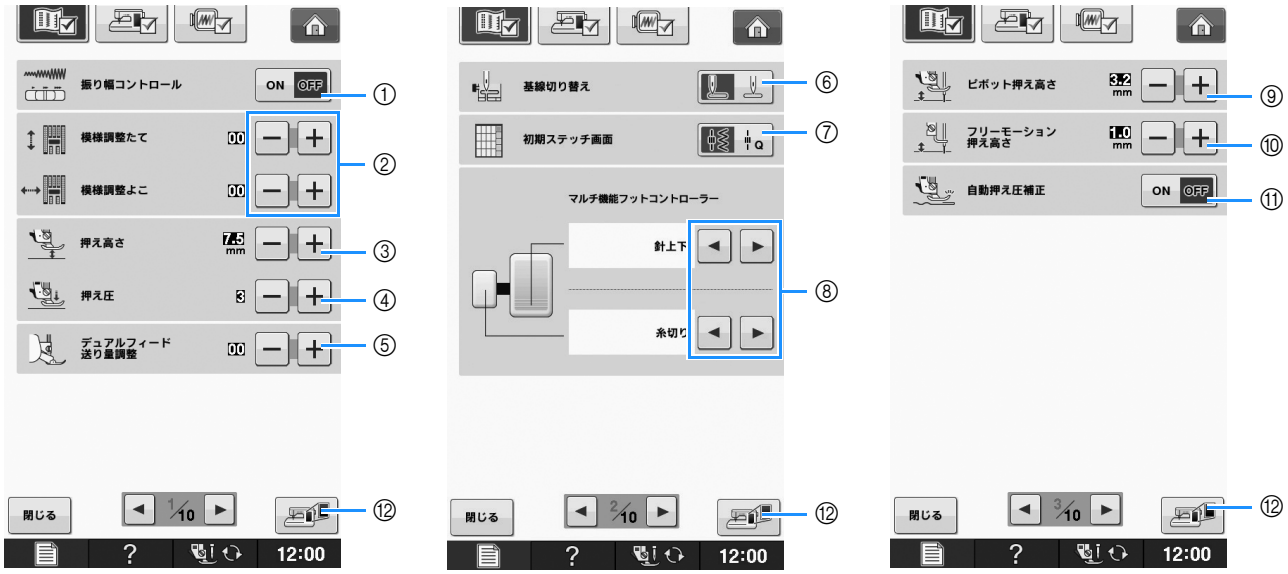
設定キーを使う

を押すと、針の停止位置切り替え、刺しゅうの速度、オープニング画面など、ミシンの標準設定を変えることができます。、または を押すと、機能ごとの設定画面が表示されます。

お知らせ

- ◄ または ► を押すと、設定画面が切り替わります。

実用ぬい、文字模様ぬいの設定



① （スピードコントロールレバー）をジグザグの振り幅調節レバーに切り替えます。(S-39 参照)

② 文字・模様ぬいの模様を調整します。(S-82 参照)

③ 押えの高さを調節します。(押えが上がった状態の、押えの高さを選択します。)

④ 押え圧を調節します。(数字が大きいほど押え圧は強くなります。通常は 3 に設定してください。) (S-17 参照)
デュアルフィード押え（別売）が取り付けられていて、ローラーが下がっている場合、押え圧設定は 2 に固定されて、変更できません。

⑤ デュアルフィード押え（別売）の送りを調整します。デュアルフィード押えの取り付け後に使用できる設定です。(B-68 参照)

⑥ 電源スイッチを入れたときに自動的に選択される模様として、「1-01 直線（左基線）」または「1-03 直線（中基線）」のいずれかを選択します。(S-21 参照)

⑦ 実用モードで最初に表示される模様選択画面を「実用模様」か「キルト模様」のどちらかに設定できます。

⑧ マルチ機能フットコントローラー（別売）を接続後に使用できる設定です。

⑨ ピボット機能を有効にしたときの、縫製停止時の押えの高さを変更します。(S-15 参照)
3.2 mm、5.0 mm、7.5 mm の 3 段階のいずれかを選択します。

⑩ フリーモーションモードに設定したときの、押えの高さを変更します。(S-40 参照)

⑪ ON にすると、センサーが布地の厚さを自動的に読み取って、スムーズに布送りすることができます。(S-8、S-17 参照)

⑫ USB メディアに現在の設定画面を画像として保存できます。(B-33 参照)

共通の設定





① ミシンが停止したときの針位置（上／下）を選択します。ピボット機能を使用する際は下に設定します。(S-15 参照)

② (針上下スイッチ) を押したときの動作を設定します。(S-17 参照)
ON： 1 回押すと針が上がり、 2 回目で布に刺さる直前で止まり、 3 回押すと針が下がります。
OFF：押すたびに、針が上下します。

③ USB マウスを接続したときのポインターの形を選択できます。(B-30 参照)

④「上糸・下糸センサー」を OFF にすると、上糸を通さないでミシンを動かすことができます。(S-4、E-26 参照)

⚠ 注 意

- **「上糸・下糸センサー」が OFF に設定されているときは、上糸を通さずに使用してください。上糸を通して使用すると、上糸が絡まったときにミシンが検知できません。糸が絡まったまま縫製を続けると、故障の原因となります。**

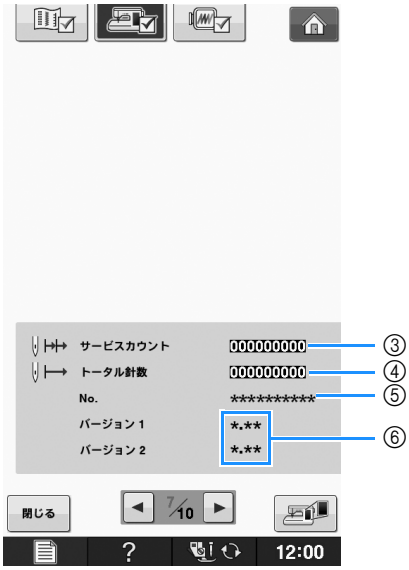
⑤ スピーカーの音量を調整できます。設定値が高いときは音量が大きくなり、設定値が低いときは音量が小さくなります。

⑥「エコモード」あるいは「電源オフサポートモード」を設定すると、消費電力を節約できます。(B-30 参照)

⑦ 電源を入れて始めに表示される画面を選択できます。(B-30 参照)

⑧ 表示言語を選択できます。(B-31 参照)



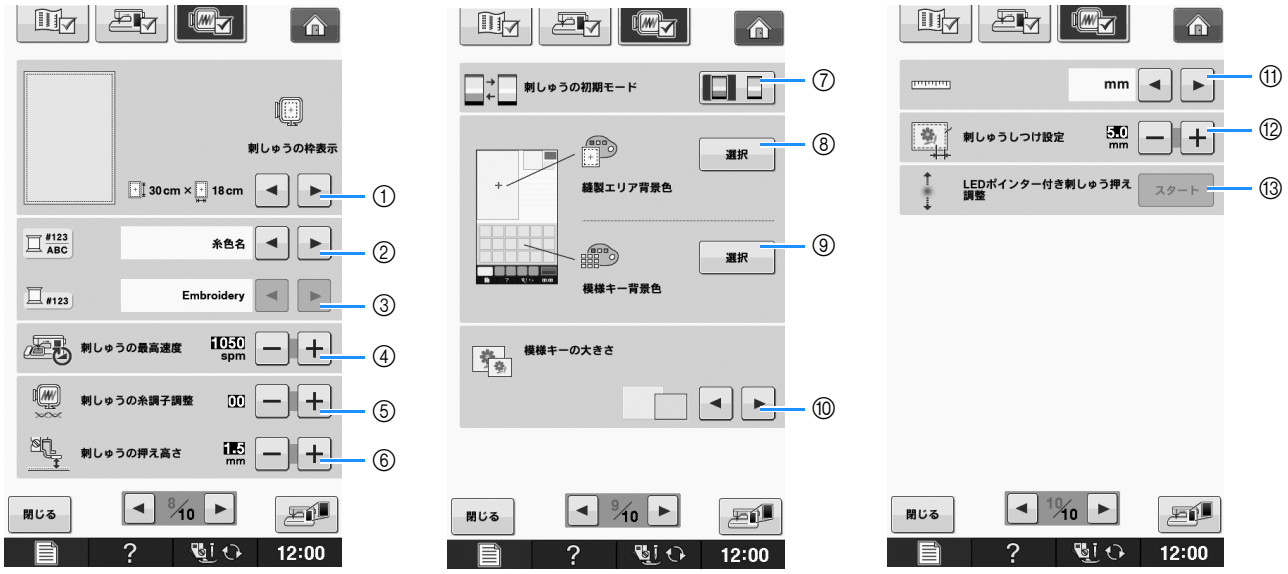


① 針元と縫製エリアのライトの明るさを調整できます。
② 液晶画面の明るさを調整します。(A-22 参照)
③ ミシンの前回のメンテナンス以降にぬわれた針数を表示します。
④ 本機でぬわれた累積針数を表示します。
⑤ お使いのミシンのプロダクトナンバーを示します。
⑥ プログラムのバージョンを示します。「バージョン 1」は液晶画面のバージョン、「バージョン 2」はミシンのプログラムバージョンです。

お知らせ

- ④⑤ のカウンター数値は、ミシンの定期メンテナンスを受けられる時期の目安としてご利用いただけます。定期メンテナンスの時期については、お買い上げの販売店にご相談ください。
- お使いのミシンには、出荷時の最新バージョンのプログラムがインストールされています。
  当社ではプログラムの改善を継続的に行っております。
  また、本製品にトラブルのあるときは、プログラムを新しくすることで解決できることがあります。
  最新バージョンに関する情報（A-38 参照）は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番)」に問い合わせいただくか、ブラザーソリューションセンター
  (http://solutions.brother.co.jp/sewing_support/index.html) で掲載される情報をご参照ください。

刺しゅうの設定



① 刺しゅうのときの枠表示を、16 通りの中から選択します。(E-34 参照)
② 刺しゅうの糸色表示を、糸番号、糸色名に切り替えます。(E-33 参照)
③ ② で糸番号を選択したとき、6 つの刺しゅう糸メーカーのいずれかを選択します。(E-33 参照)
④ 刺しゅうのときの速度を調節します。(E-32 参照)
⑤ 刺しゅうの糸調子を調整します。(E-30 参照)
⑥ 刺しゅう押えの高さを調節します。(E-11 参照)
⑦ 初期画面を「刺しゅう」または「編集刺しゅう」のいずれかに設定します。(E-4 参照)
⑧ 模様表示エリアの背景色を選択できます。(B-31 参照)
⑨ 模様サムネイル表示の背景色を選択できます。(B-31 参照)
⑩ 模様サムネイルのサイズを選択できます。(B-32 参照)
⑪ 表示単位（ミリ／インチ）を選択します。
⑫ 模様からしつけぬいまでの距離を設定します。(E-82 参照)
⑬ LED ポインター付き刺しゅう押え< W+ >（別売）のポインターの位置と明るさを調整できます。LED ポインター付き刺しゅう押え< W+ >の取り付け後に使用できる設定です。(B-63 参照)

■「エコモード」・「電源オフサポートモード」を選ぶ

「エコモード」あるいは「電源オフサポートモード」を選択して、消費電力を節約できます。
本機の電源を入れたまま使用せず、設定した一定時間を過ぎると、以下のモードになります。

エコモードのとき
本機はスリープモードになります。もう一度操作するときは、画面に触れるかスタート／ストップスイッチを押してください。

電源オフサポートモードのとき
本機は設定した一定時間をすぎると省電力状態になります。電源スイッチをいったん「切」にして、もう一度電源「入」にしてから再び使用してください。

状態	エコモード	電源オフサポートモード
設定できる時間	OFF、10 ～ 120 分	OFF、1 ～ 12 時間
表示	緑の点滅	緑のゆっくりした点滅
停止する機能	ミシンライト、画面表示、LED ポインター	すべての機能
再起動時	停止時の操作から再スタート	電源スイッチを「切」にする

（スタート／ストップスイッチ）を押すか、画面に触れると、これらのモードから復帰できます。

1. [設定] を押します。
   → 設定画面が表示されます。
2. [共通] を押します。
   → 共通の設定画面が表示されます。
3. 設定画面の P.5 を表示します。
4. ◀ または ▶ を押して、各モードに入るまでの時間を設定します。



お願い
- 「エコモード」あるいは「電源オフサポートモード」のときに本機の電源を消した場合、5 秒ほど待ってから、もう一度電源を入れてください。

■ USB マウス使用時のポインターの形を選択する

USB マウス使用時に設定画面でポインターの形を選択することができます。背景画面の色に合わせて、3 種類のポインターからいずれかを選択してください。

お知らせ
- 背景色の変え方については、B-31 の「刺しゅう模様の背景色を変える」を参照してください。

1. [設定] を押します。
   → 設定画面が表示されます。
2. [共通] を押します。
   → 共通の設定画面が表示されます。
3. 設定画面の P.4 を表示します。
4. ◀ または ▶ を押して、3 つのポインター（ 、 、 ）のうち 1 つを選択します。



5. [閉じる] を押すと、元の画面に戻ります。

お知らせ
- 本機の電源を切ったあとも、設定は残ります。

■ 起動画面を選ぶ

本機の電源を入れたあとの最初に表示される画面を選択することができます。

1. [設定] を押します。
   → 設定画面が表示されます。
2. [共通] を押します。
   → 共通の設定画面が表示されます。
3. 設定画面の P.5 を表示します。

4 ◄ または ► を押して、起動画面を選択します。



* **オープニング：**本機の電源を入れるとオープニング動画が表れます。画面を押すとホーム画面が表示されます。
* **ホーム：**本機の電源を入れるとホーム画面が表示されます。
* **実用／刺しゅう：**本機の電源を入れたとき、刺しゅう機が取り付けられている場合は「刺しゅう」モードが表示されます。刺しゅう機が取り付けられていない場合は「実用・文字模様」モードが表示されます。

5 閉じる を押すと、元の画面に戻ります。

■ 表示言語を変える

1 [設定] を押します。

→ 設定画面が表示されます。

2 を押します。

→ 共通の設定画面が表示されます。

3 設定画面の P.5 を表示します。

4 ◄ または ► を押して、表示言語を変えます。



① 表示言語

5 閉じる を押すと、元の画面に戻ります。

■ 刺しゅう模様の背景色を変える

模様表示エリアと模様サムネイルの背景色を変えられます。模様の色によって、66 色から背景色を選択します。模様表示エリアと模様サムネイルで、別々の色を背景色に設定できます。

1 [設定] を押します。

→ 設定画面が表示されます。

2 を押します。

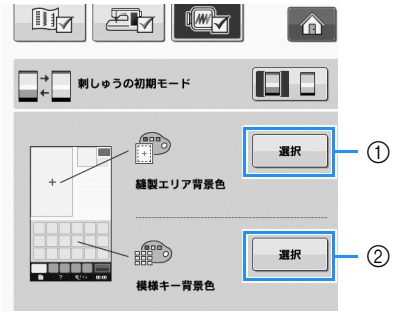
→ 刺しゅうの設定画面が表示されます。

お知らせ

- 「刺しゅう」モード、「編集刺しゅう」モードのいずれかを選択中は、[設定] を押すと、すぐに刺しゅうの設定画面が表示されます。

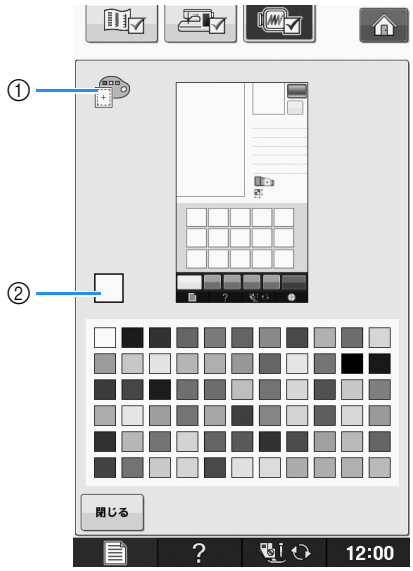
3 設定画面の P.9 を表示します。

4 選択 を押します。

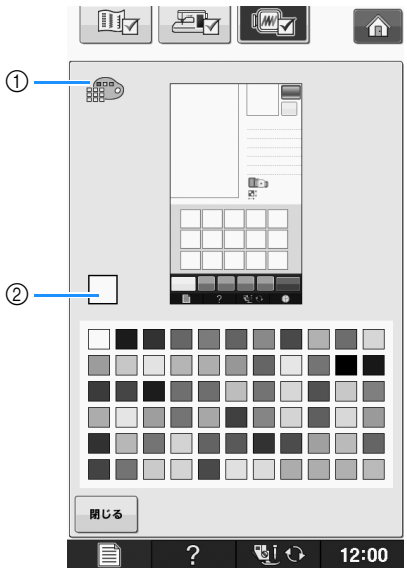


① 模様表示エリアの背景色
② 模様サムネイルの背景色

5 66 色から背景色を選択します。



① 模様表示エリアの背景色
② 選択した色



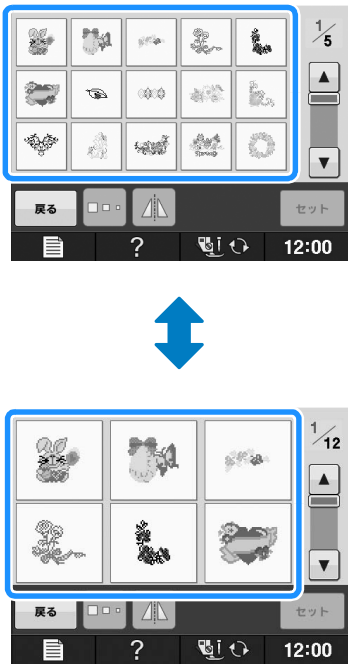
① 模様サムネイルの背景色
② 選択した色

6 閉じる を押すと、元の画面に戻ります。

お知らせ
- 本機の電源を切ったあとも、設定は残ります。

■ 模様サムネイルのサイズを変える

模様サムネイルのサイズを大・小のいずれかから選択できます。大きいサイズは、小さいサイズの 1.5 倍です。



1 を押します。

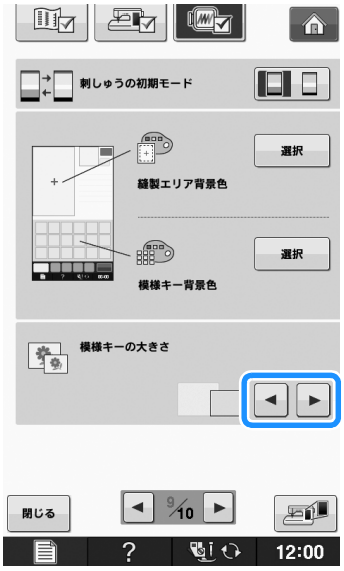
→ 設定画面が表示されます。

2 を押します。

→ 刺しゅうの設定画面が表示されます。

3 設定画面の P.9 を表示します。

4 ◄ または ► を押して、お好みの大きさに変更します。

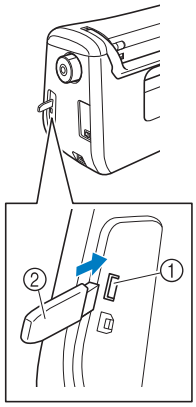


お願い
- サムネイルの大きさを変更した後、すぐにサムネイルの大きさは変わりません。いったん、模様カテゴリーの選択画面に戻り、もう一度模様選択画面を表示してください。

■ 設定画面を画像として USB メディアに保存する

設定画面を BMP 形式の画像として USB メディアに保存できます。
1 つの USB メディアに、最大で 100 画像を保存することができます。

1 USB メディアをミシンの右側にある USB ポートコネクタに差し込みます。



① メディア／マウス用の USB ポートコネクタ
② USB メディア

2 [ ] を押します。

→ 設定画面が表示されます。希望の設定をしたあとで、その画面を画像として保存します。

3 [ ] を押します。

→ USB に画像が保存されます。

4 USB メディアを取り外します。保存した画像は、パソコンで確認できます。

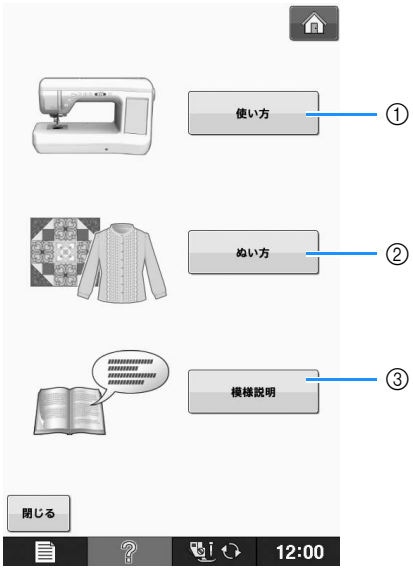
画像は、「S##.BMP」のファイル名で保存されます。
* ファイル名の「##」には自動で割り振られた S00 から S99 までの番号が入ります。

お願い
- USB メディア内に、すでに 100 点の画像が保存されている場合、以下のメッセージが表示されます。この場合は、USB メディアから画像を削除するか、別の USB メディアを使用してください。



ミシンヘルプキーを使う ?

? を押すと、ミシンヘルプキー画面が表示されます。下の画面から、３つの機能を使用できます。



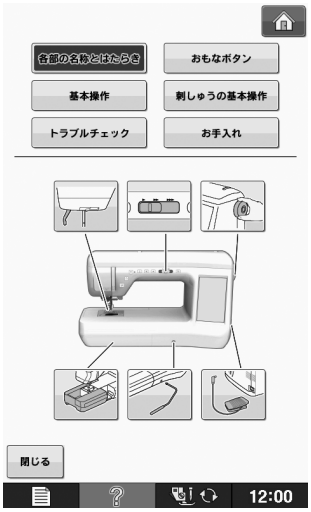
① 上糸通し、下糸巻き、押えの交換、刺しゅうの準備など、ミシンの使い方についての説明を見るときに押します。(B-37 参照)

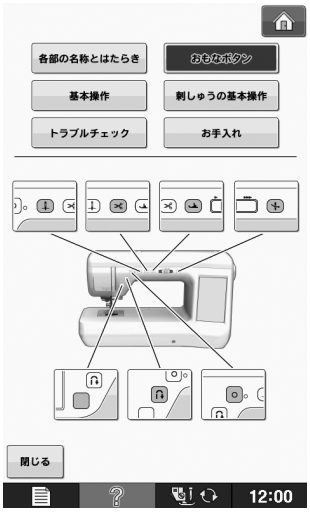
② 実用ぬいの模様で、実際のぬい方がわからないときに押します。(B-35 参照)

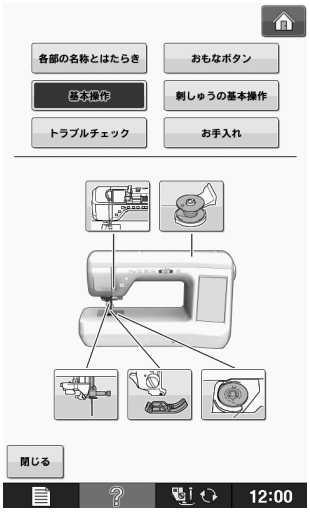
③ 選択中の模様の説明を見るときに押します。(B-36 参照)

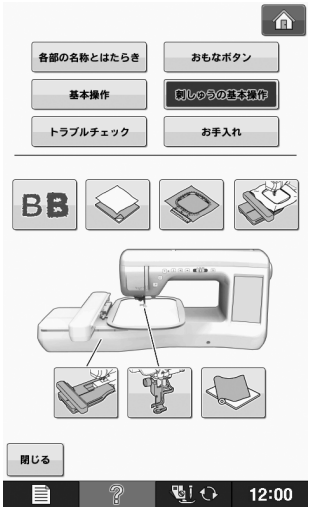
操作ガイド機能を使う

使い方 を押すと、画面上段に 6 つの項目が表示されます。詳しい内容を知りたい項目のキーを押します。

<table>
<tr>
<td>

各部の名称とはたらき は、ミシンの各部の名称とはたらきが知りたいときに押します。この画面は、使い方 を押すと最初に表示されます。</td>
<td>

おもなボタン は、操作スイッチの使い方が知りたいときに押します。</td>
<td>

基本操作 は、糸通しや押えの交換などの基本情報が知りたいときに押します。動画や、コマ送り画像で詳しい操作方法を見ることができる操作もありますので、参考にしてください。</td>
</tr>
<tr>
<td>

刺しゅうの基本操作 は、刺しゅう機の取り付けや布地の準備などの刺しゅうの基本操作が知りたいときに押します。</td>
<td>

トラブルチェック は、トラブルチェックの情報が知りたいときに押します。</td>
<td>

お手入れ は、ミシンのお手入れに関する情報が知りたいときに押します。</td>
</tr>
</table>

例： 上糸の通し方を見るとき

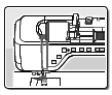
1 ? を押します。

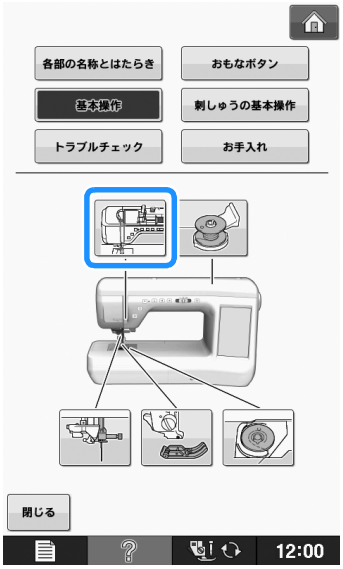
2 使い方 を押します。



3 基本操作 を押します。

→ 画面の下段に基本操作の項目が表示されます。

4  （上糸通し） を押します。



→ 上糸通しの手順が表示されます。

5 手順を読みます。

*  を押すと、画面に動画が表示されます。

動画の操作：

 を押して、頭出しします。

 を押して、一時停止します。

 を押して、停止後の再生をします。

閉じる を押して、動画を終了します。

* ▶ を押すと、次ページへ進みます。

* ◀ を押すと、前ページへ戻ります。

6 閉じる を押すと、元の画面に戻ります。

ぬい方キーを使う

ぬい方キーは、実用模様を選択しているときに使用できます。作りたいものに適した模様がわからないときや、選択したある模様についての詳しい説明が見たいときに、この機能を活用してください。

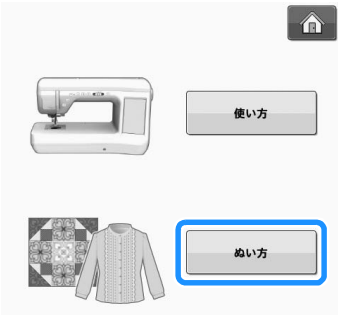
例えば、かがりぬいをしたいのに、使う模様や具体的なぬい方が分からないとき、この画面から参照できます。特に初心者にとっては便利な機能です。

1 ホーム画面から実用／文字模様モードを選択します。

2 ? を押します。

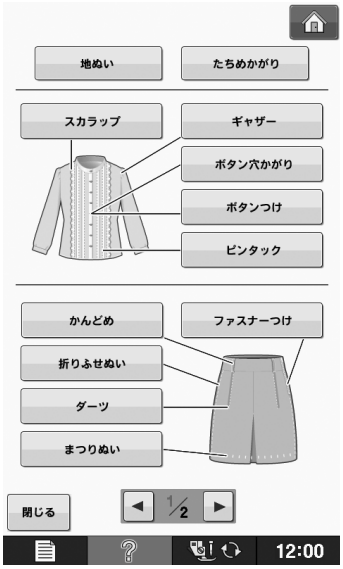
3 ぬい方 を押します。

→ ぬい方画面が表示されます。



4 見たいぬい方説明のカテゴリーキーを押します。

* 閉じる を押しと、元の画面に戻ります。



5 説明を読んで、適切な模様を選択します。

→ 選択した模様のぬい方が画面に表示されます。画面に表示された手順に従ってぬってください。

* ▶ を押すと、次ページへ進みます。
* ◀ を押すと、前ページへ戻ります。

模様説明キーを使う

模様を選んでから ? を押し、模様説明 を押すと、選んだ模様の詳しい説明が表示されます。

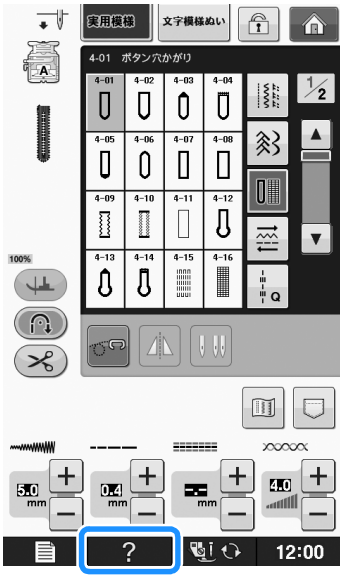
お知らせ

- 模様説明機能では、実用・文字模様モードで選択できる模様の説明が表示できます。
- 実用模様を選択すると、それぞれの模様についての説明が表示されます。文字飾り模様を選択すると、模様のカテゴリーごとの説明が表示されます。
- 模様説明 が灰色になっているときは、模様説明機能が使用できません。

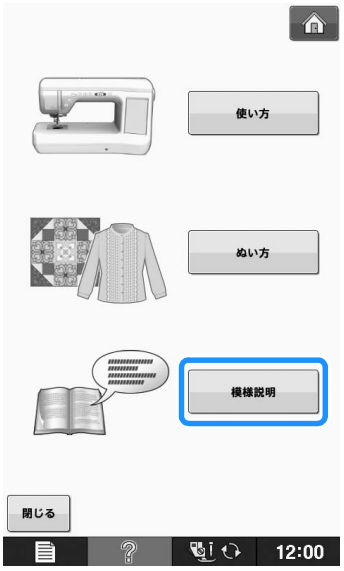
例： 4-01 の詳しい情報を表示するとき

1 4-01 を押します。

2 ? を押します。



3 模様説明 を押します。



→ 4-01 の詳しい情報が表示されます。

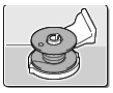
4 閉じる を押すと、元の画面に戻ります。

お知らせ

- ぬい目調節の設定表示は、模様の細かい調整のために、模様説明画面でもそのまま表示されます。

下糸の準備

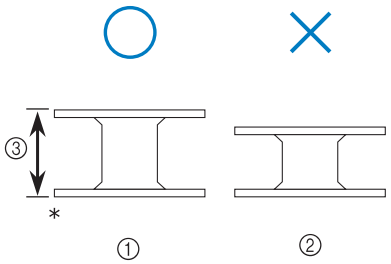
下糸を巻く

? → 使い方 → 基本操作 → 

→ を押すと、下糸の巻き方を説明する動画を見ることができます（B-35 参照）。詳しい操作方法については、以下をご参照ください。

⚠ 注 意

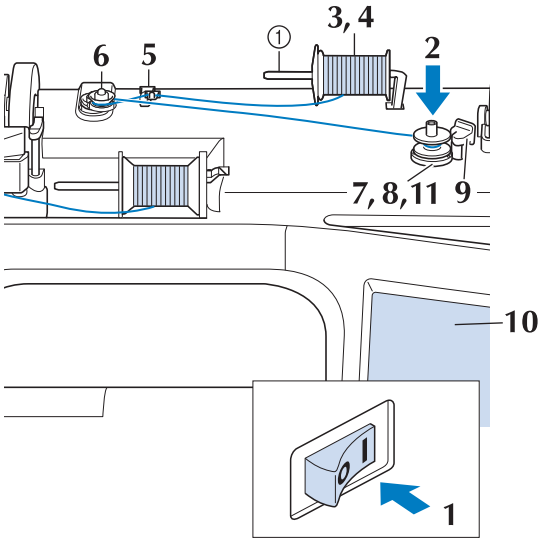
- 必ず専用ボビンをご使用ください。他のボビンを使用すると、けが・故障の原因となります。
- 付属のボビンは本機専用品です。厚みの違うボビンを使用すると、ミシンが正しく動作しません。必ず付属品、または別売の専用ボビンを使用してください。



* 実寸大
① 専用品
② 専用品以外
③ 11.5mm

■ 補助糸たて棒で下糸を巻く場合

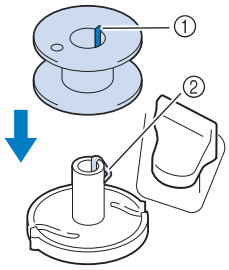
メインの糸たて棒は縫製に使いながら下糸を巻けるので、縫製の途中で下糸を巻くのに便利です。



① 補助糸たて棒

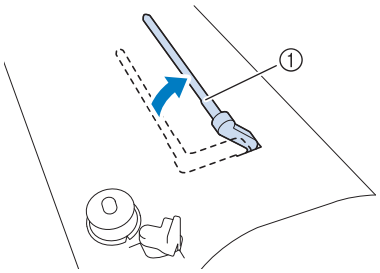
1 電源スイッチを入れ、上ふたを開けます。

2 ボビンのミゾと下糸巻き軸のバネを合わせて、ボビンを軸にセットします。



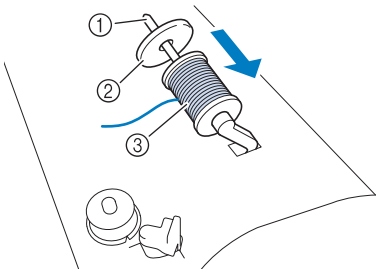
① ボビンのミゾ
② 下糸巻き軸のバネ

3 補助糸たて棒を上におこします。



① 補助糸たて棒

4 糸こまを糸が手前から出るように補助糸たて棒に差し込み、糸こま押えを奥までしっかり差し込みます。



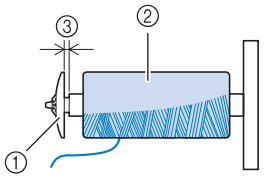
① 糸たて棒
② 糸こま押え
③ 糸こま

⚠ 注 意

- 糸こまの向きや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、故障の原因となります。
- 糸こま押え（大）（中）（小）は糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまより小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、故障の原因となります。

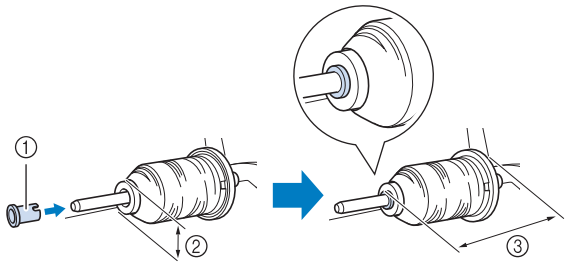
お知らせ

- 細い糸こまを使用するときは、糸こま押え（小）を使い、糸こま押えと糸こまとの間に少しすきまを残してください。



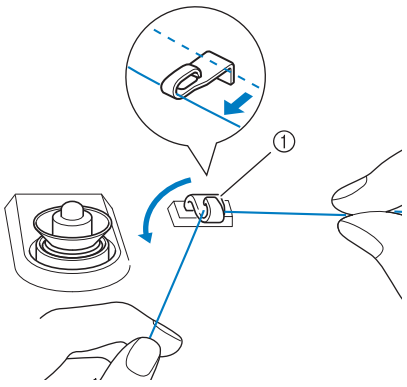
① 糸こま押え（小）
② 糸こま
③ すきま

- 高さ 75mm、芯の直径が 12mm の糸こまを使用する場合は、付属の糸こま押え（特殊）を使用してください。



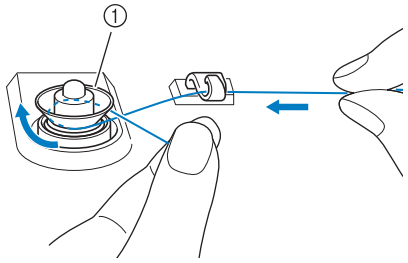
① 糸こま押え（特殊）
② 12mm
③ 75mm

5 右手で糸こまからの糸を持ち、左手で糸端を持って、糸案内に糸をかけます。



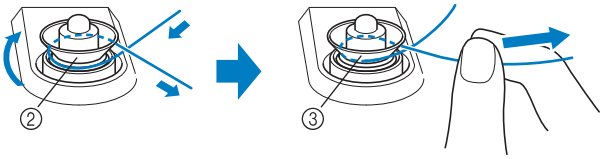
① 糸案内

6 下糸巻き案内の凸部に糸をかけて、皿の間に右回りに糸をかけ、しっかり奥まで入れます。



① 下糸巻き案内

→ 糸が皿の下を通っていることを確認してください。

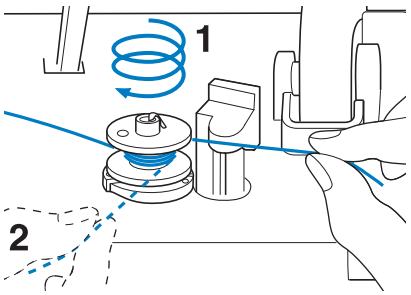


② 下糸巻き案内

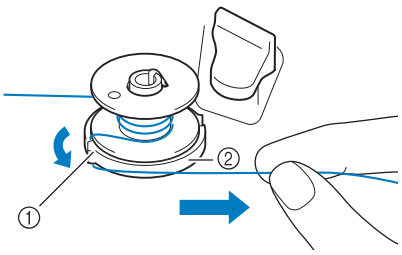
③ しっかり奥まで入れます。

→ 糸が下糸巻き案内の皿の間にしっかり入っていることを確認してください。

7 図のようにボビンに糸を右まわりに5～6回巻きつけます。



8 糸端をボビンの受け座のガイドミゾに引っかけて、図のように右へ糸を引き、カッターで糸を切ります。



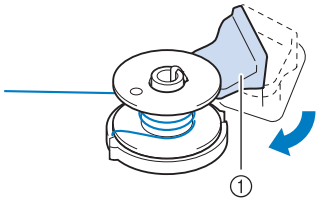
① ガイドミゾ（カッター付）

② ボビンの受け座

⚠ 注 意

- 必ずこの方法で糸を切ってください。ガイドミゾのカッターで糸を切らずに下糸を巻くと糸がうまく巻けません。また、糸量が少なくなったときにボビンに糸がからまり、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

9 ボビンホルダーを左へカチッと音がするまで押します。



① ボビンホルダー（スイッチ）

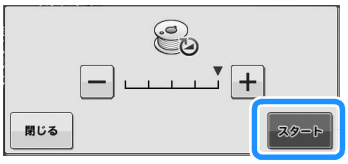
お知らせ

- ボビンホルダーを左へ押すと、下糸巻きモードになります。

→ 下糸巻き画面が表示されます。

10 スタートを押します。

→ 下糸巻きが始まります。巻き終わると自動的に停止し、ボビンホルダーが元の位置に戻ります。

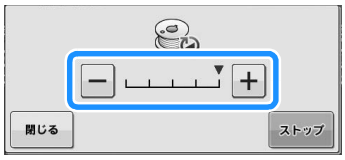


お願い

- 下糸巻きの動作中は、スタートがストップで表示されます。
- 下糸巻きの動作中は、ミシンから離れず、正しく動作していることを確認してください。下糸が絡まるなど、正しく巻かれていない場合は、ただちにストップを押して下糸巻きを中止してください。
- キルト用のナイロン糸など、堅めの糸を下糸に巻くとき、通常の糸を巻くときと異なる動作音がしますが、故障ではありません。

お知らせ

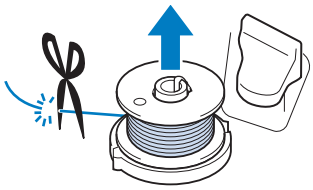
- 下糸巻き画面で−(ゆっくり)、+(はやく)を押して下糸巻きの速度を調整できます。



- 閉じるを押して、下糸巻き画面を最小化できます。下糸を巻いている間、模様を選んだり、糸調子を調整したり、他の操作をすることができます。
- 画面の右上に表示されているを押すと、最小化された下糸巻き画面がもう一度表示されます。



11 糸を切り、ボビンを外します。

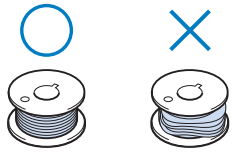


お知らせ

- ボビンを外すとき、ボビンの受け座を引っ張ると、ボビンの受け座が外れ、故障の原因となります。

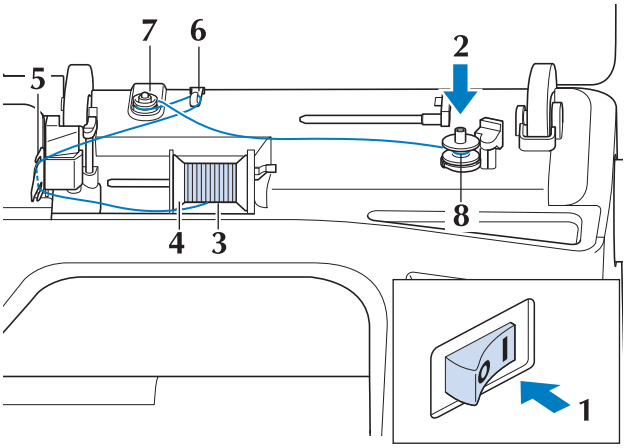
⚠ 注 意

- 下糸は正しく巻かれたものを使用してください。下糸の巻き方が悪いと針折れや糸調子不良の原因となります。



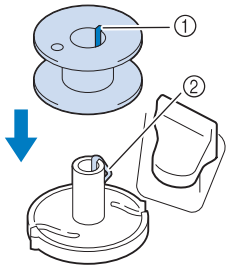
■ 糸たて棒で下糸を巻く場合

ぬい始める前に、糸たて棒を使って下糸を巻いてください。縫製中は補助糸たて棒を使って下糸を巻いてください。



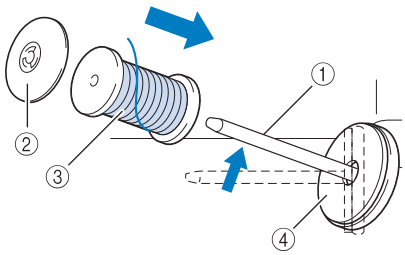
1 電源スイッチを入れ、上ふたを開けます。

2 ボビンのミゾと下糸巻き軸のバネを合わせて、ボビンを軸にセットします。



① ボビンのミゾ
② 下糸巻き軸のバネ

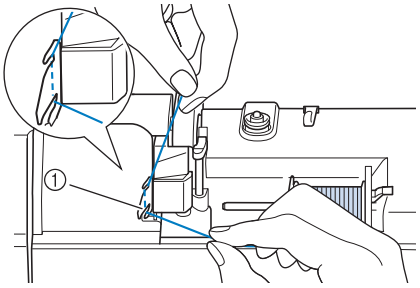
3 糸たて棒をななめ手前に軽くおこし、糸が手前から出るように糸たて棒に糸こまを差し込みます。



① 糸たて棒
② 糸こま押え
③ 糸こま
④ 糸こまフェルト

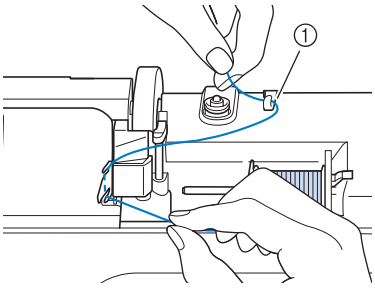
4 糸こま押えを奥までしっかり差し込み、糸たて棒を元に戻します。

5 右手で糸こまからの糸を持ち、左手で糸端を持って、糸案内板のミゾに糸を通します。



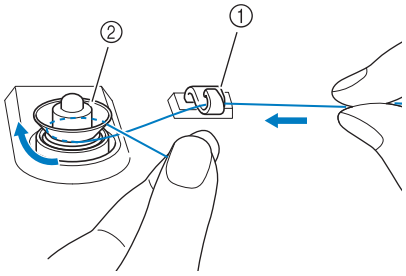
① 糸案内板

6 糸案内に糸をかけます。



① 糸案内

7 下糸巻き案内の凸部に糸をかけて、皿の間に右回りに糸をかけ、しっかり奥まで入れます。糸が皿の下を通っていることを確認してください。

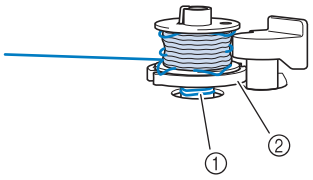


① 糸案内
② 皿

8 以降の作業は、B-40 から B-41 の手順 7 ～ 11 に従ってください。

■ ボビン受け座の下に糸がからまってしまったら

糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていない状態で下糸を巻くと、ボビン受け座の下に糸が巻かれてしまうことがあります。
そうなった場合は、以下の手順に従ってボビン受け座の下に巻かれた糸をほどいてください。

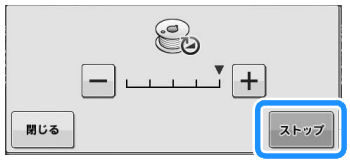


① 糸
② ボビン受け座

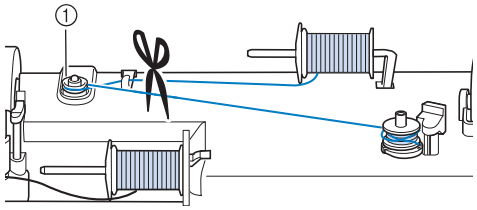
⚠ 注意

- ボビン受け座の下に糸が巻かれても、ボビン受け座は外さないでください。受け座のカッターでけがをするおそれがあります。

1 ボビン受け座の下に下糸がからまり始めたら、ストップを押して下糸巻きを停止します。

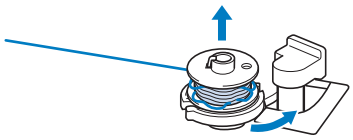


2 下糸巻き案内側で、はさみで糸を切ります。

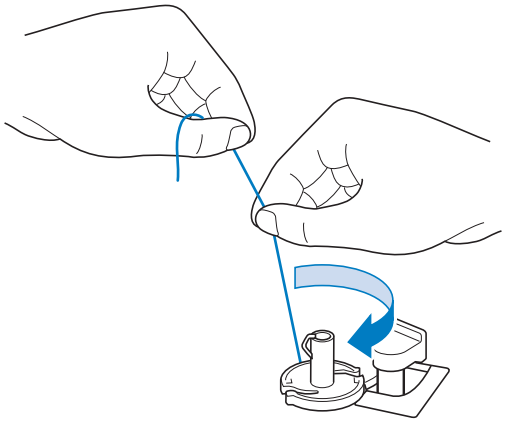


① 下糸巻き案内

3 ボビンホルダーを右に押して、ボビンを軸から外します。



4 図のように左手で糸端を持ち、右手でボビン近くの糸をゆっくりと時計回りに回して、からまった糸をほどきます。



5 下糸巻きをやり直します。

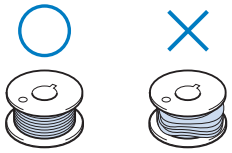
お願い
- 糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていることを確認してください。(B-40 参照)

下糸をセットする

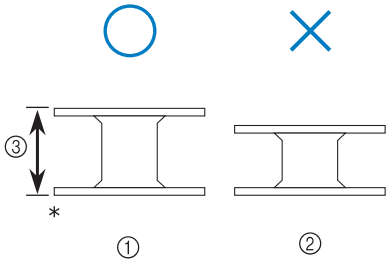
? → 使い方 → 基本操作 →  → を押すと、下糸をセットする手順を説明する動画を見ることができます(B-35 参照)。詳しい操作方法については、以下をご参照ください。

⚠ 注意

- 下糸は正しく巻かれたものをご使用ください。下糸の巻き方が悪いと、針折れや糸調子不良の原因となります。



- 付属のボビンは本機専用品です。厚みの違うボビンを使用すると、ミシンが正しく動作しません。必ず付属品、または別売の専用ボビンを使用してください。



* 実物大
① 専用品
② 専用品以外
③ 11.5 mm

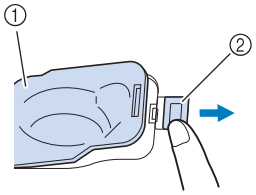
- 下糸をセットするときや交換するときは、必ず液晶画面の を押してください。 が押されていない状態で、(スタート／ストップスイッチ)または他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

1 [ ] を押します。

* 「押えが自動で下がります。よろしいですか？」のメッセージが表示されたら OK を押して操作を続けてください。

→ 画面全体が白くなり、キーと操作スイッチがロックされます。

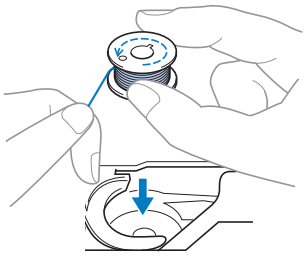
2 針板ふたのつまみを右側に押します。

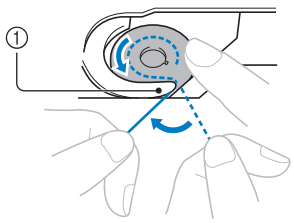


① 針板ふた
② つまみ
→ 針板ふたが開きます。

3 針板ふたを外します。

4 糸が左巻きになるように、右手でボビンを内がまに入れ、左手で巻き終わりの糸を図のようにしっかりツメに引っかけた後、ミゾにそって糸を軽く引っ張ります。





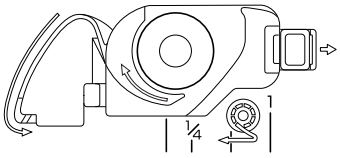
① ツメ
* ボビンが正しくセットされていることを確認してください。

⚠ 注意

- ボビンは、正しい方向から糸が出るようにセットしてください。万一、ボビンを逆の方向にセットすると、針折れや糸調子不良の原因となります。

お知らせ

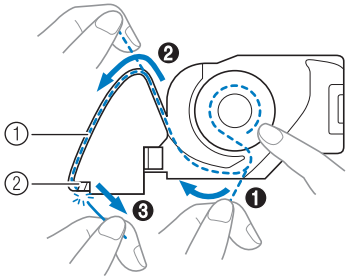
- ボビンをセットする方向が、針板周辺に刻印されています。そちらもあわせて見てください。



5 図のように、右手でボビンを軽く押さえながら、ミゾにそって糸を通します。（❶、❷）

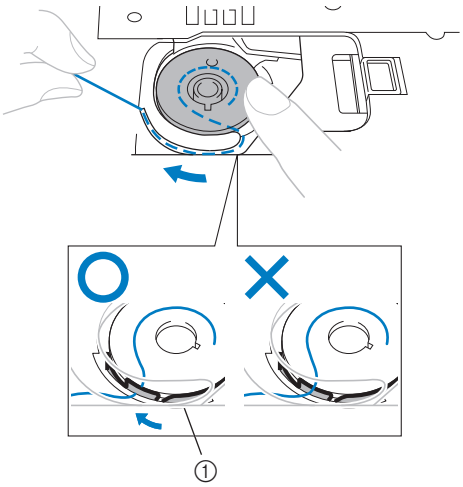
* このとき、ボビンが左回りに軽く回ることを確認してください。

そのあと、手前に引きカッターで糸を切ります。（❸）



① ミゾ
② カッター（カッターで糸を切ります。）

内かまの板バネの間に確実に糸が入っていることを確認してください。糸が正しく入っていない場合は、もう一度糸を通しなおしてください。

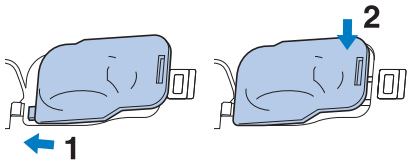


① 板バネ

⚠ 注意

- ボビンは必ず指で押さえ、正しい方向から糸が出るようにセットしてください。万一、ボビンを逆の方向にセットすると、針折れや糸調子不良の原因となります。

6 針板ふたの左下の突起部を差し込み（1）、右側をカチッと音がするまで押して、針板ふたを閉めます（2）。



7 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

下糸を引き出す

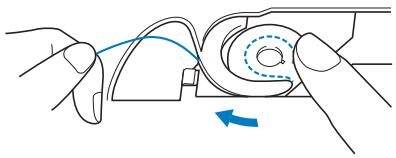
ギャザーやダーツ、フリーモーションキルト、刺しゅうをぬうときなど、あらかじめ下糸を引き出しておきたいときは、以下の手順に従って操作してください。

お知らせ

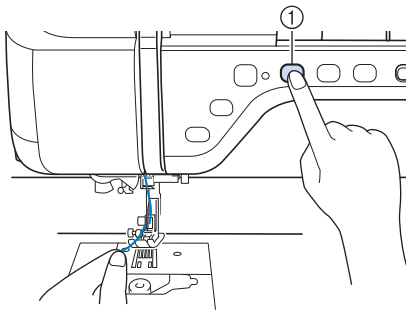
- 先に上糸を通してから、下糸を引き出します。(B-46 の「上糸通し」参照)

1 下糸を矢印のようにミゾにそって通します。

* 糸をカッターで切らないでください。
* 針板ふたは外したままにしてください。



2 上糸を持ち、（針上下スイッチ）を押して針を下げます。

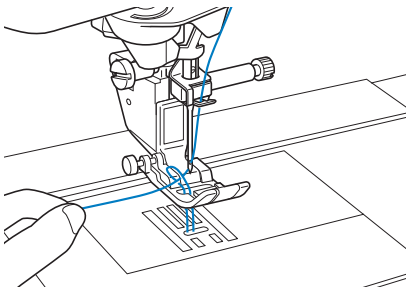


① 針上下スイッチ

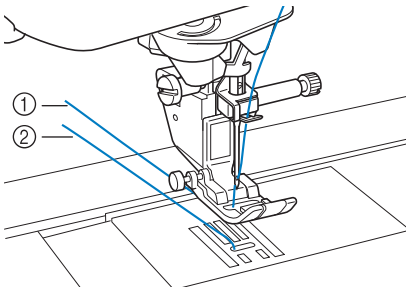
3 （針上下スイッチ）を押して針を上げます。

4 を押して、すべてのキーとスイッチをロックします。

5 上糸を軽く引き上げて、下糸を針板の穴から出します。

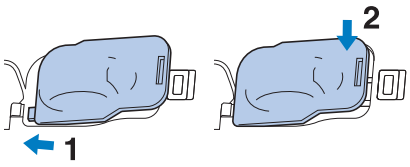


6 そのまま下糸を引き出し、上糸とそろえて押えの下を通し、後ろ側へ約 10cm 引き出しておきます。



① 上糸
② 下糸

7 針板ふたを閉めます。

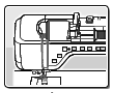


8 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

上糸通し

上糸通し

? → 使い方 → 基本操作 →

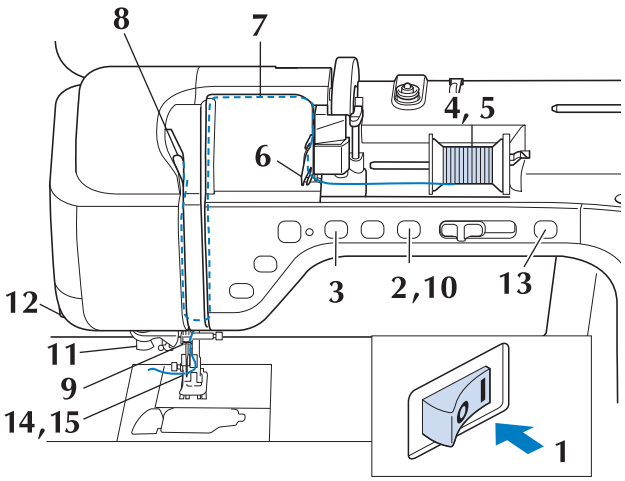
 → を押すと、上糸通しを説明する動画を見ることができます（B-35 参照）。詳しい操作方法については、以下をご参照ください。

⚠ 注意

- 上糸は必ず正しく通してください。糸が正しく通されていない場合、糸がからんで針が折れ、けがをするおそれがあります。
- 別売の部品（押えなど）を使用する場合は、上糸通しを行ってから本体に取り付けてください。

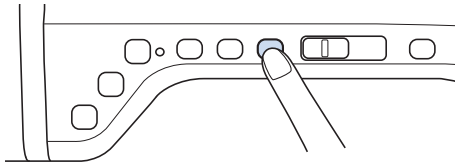
お知らせ

- （自動糸通しスイッチ）は、家庭用ミシン針（HA × 1）11 番～ 16 番で使用してください。
- （自動糸通しスイッチ）は、透明なナイロン糸や太い糸などの特殊な糸では使用できません。
- （自動糸通しスイッチ）は、ウィングニードルや 2 本針では使用できません。

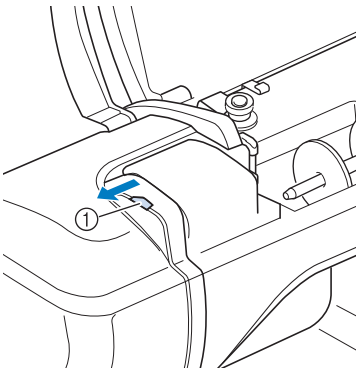


1 電源スイッチを入れます。

2 （押え上下スイッチ）を押して、押えを上げます。



→ シャッターが開いて、糸通しできるようになります。

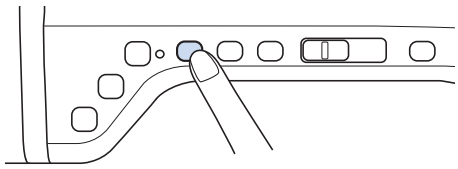


① シャッター

お知らせ

- 本機には、上糸通しが正しく行われていることを確認できるよう、シャッターを装備しています。

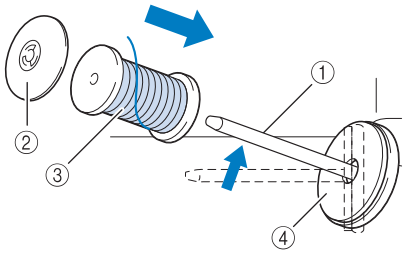
3 （針上下スイッチ）を押して針を上げます。



お願い

- 針を上げて糸通しをしてください。針を上げずに自動糸通しを行うと、上糸が正しくかからないことがあります。

4 糸たて棒をななめ手前に軽くおこし、糸が手前から出るように糸たて棒に糸こまを差し込みます。



① 糸たて棒
② 糸こま押え
③ 糸こま
④ 糸こまフェルト

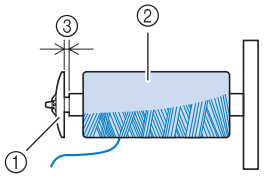
5 糸こま押えを奥までしっかり差し込み、糸たて棒を元に戻します。

⚠ 注 意

- 糸こまの向きや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、故障の原因となります。
- 糸こま押え（大）（中）（小）は糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまより小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、故障の原因となります。

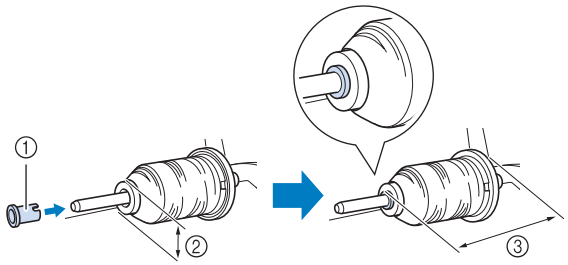
お知らせ

- 細い糸こまを使用するときは、糸こま押え（小）を使い、糸こま押えと糸こまとの間に少しすきまを残してください。



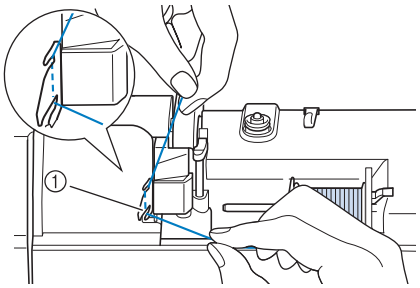
① 糸こま押え（小）
② 糸こま
③ すきま

- 高さ 75mm、芯の直径が 12mm の糸こまを使用する場合は、付属の糸こま押え（特殊）を使用してください。



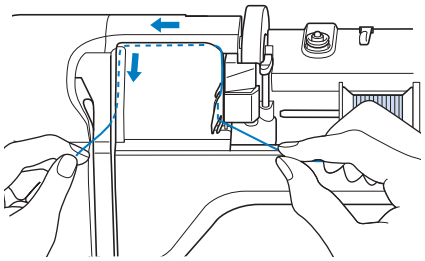
① 糸こま押え（特殊）
② 12mm
③ 75mm

6 右手で糸こまからの糸を持ち、左手で糸端を持って、糸案内板のミゾに糸を通します。

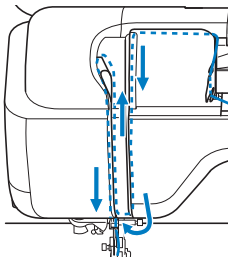


① 糸案内板

7 右手で糸を持ちながら、糸通しカバーの矢印に沿って糸を通します。

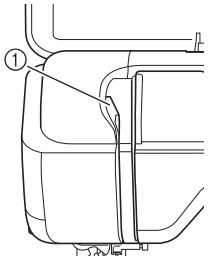


8 図のように、糸をミゾに沿って下に通し、上に上げ、また下に通します。



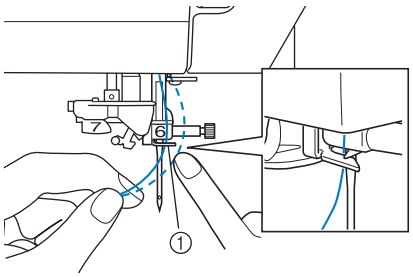
お知らせ

- ミゾの上部から中を見ると、てんびんに糸がかかっていることを確認できます。



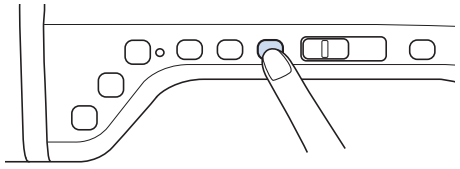
① ミゾの上部を確認します。

9 一方の手で糸を押さえ、もう一方の手で糸の端を持ち、図のように針棒糸かけ（6の印）に糸をかけます。

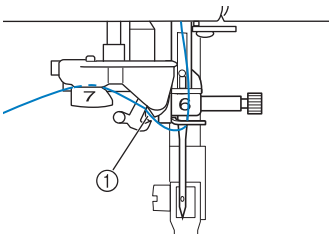


① 針棒糸かけ

10 (押え上下スイッチ）を押して、押えを下げます。

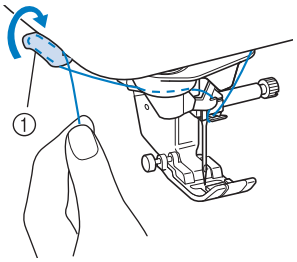


11 糸案内皿（7の印）に糸を通します。糸案内のミゾに糸が通っていることを確認してください。



① 糸案内のミゾ

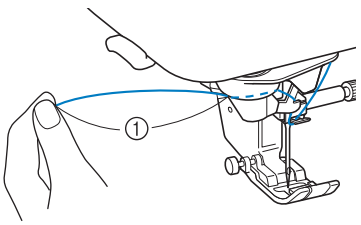
12 図のように、糸を引き上げて、ミシンの糸切りで糸を切ります。



① 糸切り

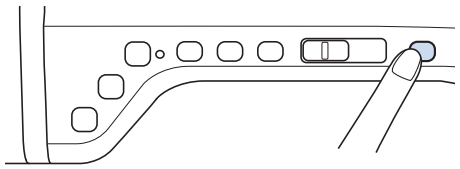
お願い

- メタリック糸のようにほどけやすい糸を使用する場合は、糸を切ってしまうと糸を通しにくくなります。その場合は、糸案内皿（7の印）に糸を通した後、糸切りを使わずに糸を約 8cm 引き出してください。



① 約 8cm

13 (自動糸通しスイッチ) を押して、針に糸を通します。



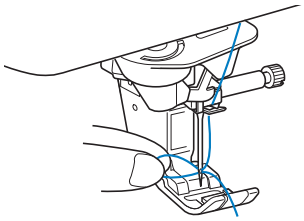
→ 糸が針穴に通ります。

お知らせ

- (自動糸通しスイッチ) を押すと、押えが上がっている場合でも、自動的に下がります。糸通しが終わると、押えは自動的に、(自動糸通しスイッチ) を押す前の位置に戻ります。

14 針穴を通った糸を引っ張ります。

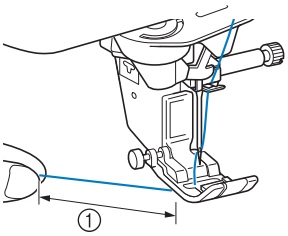
* 針穴を通った糸が輪になった場合は、輪を後ろ側に引っ張り、針穴から糸を引き出します。



お願い

- 糸の輪を針穴から引き出すときは、ゆっくり引き出してください。強く引くと、針折れの原因となります。

15 押えを上げ、糸を約 5cm 引き出して、押えの下を通して、ミシンの後ろ側へ回します。



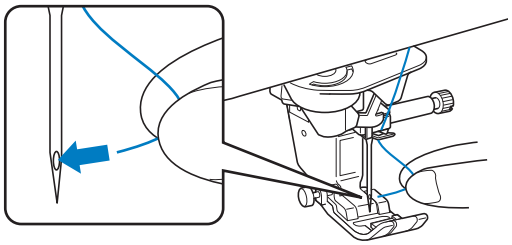
① 約 5cm

お知らせ

- 自動糸通しが正常に行われなかったり、針棒糸かけに正しくかかっていなかった場合は、手順 3 から操作をやり直し、手順 9 の後で、針の穴に糸を通してください。

お願い

- 針の種類によっては、自動糸通しが使用できない場合があります。そのときは、自動糸通しを使用せずに針棒糸かけ（6 の印）に糸をかけた後、手前から奥に向かって手動で針穴に糸を通してください。



2 本針を使用する

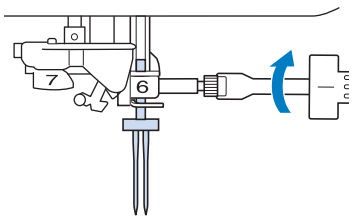
模様を選んだときに が表示される模様のみ、2 本針が使用できます。2 本針が使用できる模様は、S-67 の「ぬい方早見表」で確認することができます。

⚠ 注 意

- 2 本針は必ずブラザー専用 2 本針を使用してください。他の針を使用すると針折れや故障の原因となります。
- 2 本針を使用するときは必ず 2 本針の設定にしてください。2 本針の設定になっていない状態で 2 本針を使用すると、針が折れ故障の原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針が折れ、けがをするおそれがあります。
- 2 本針を使用するときは、必ずジグザグ押え＜J＞を使用してください。
- 2 本針を使用するとき、布地や糸の種類によって、ぬい目が玉になる場合があります。飾り模様では、模様ぬい押え＜N＞を使用してください。

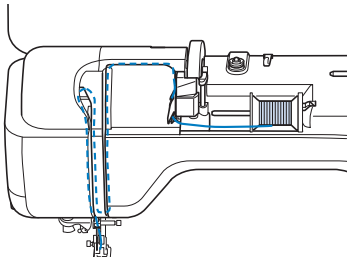
- 下糸をセットするときや交換するときは、必ず液晶画面の を押してください。 が押されていない状態で、(スタート／ストップスイッチ) または他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

1 を押して、すべてのキーとスイッチをロックしてから、2 本針を取り付けます。(B-56 の「針の交換」を参照してください。)

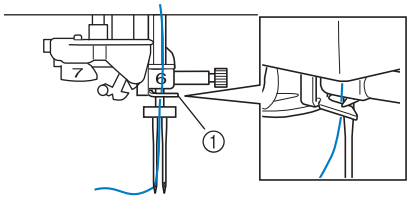


2 上糸を通します。

* 1 本針と同じ手順で 1 本目の糸を通します。
(B-46 の「上糸通し」を参照してください。)



3 糸を針棒糸かけにかけ、左側の針に糸を通します。

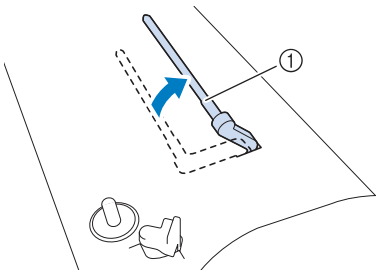


① 針棒糸かけ

お願い

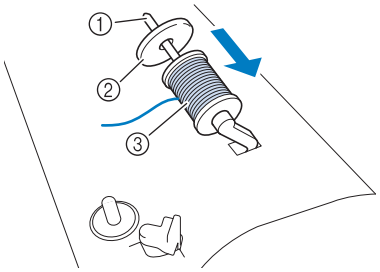
- (自動糸通しスイッチ) は使用できません。
2 本針の手前から向こう側に、手で針穴に糸を通してください。(自動糸通しスイッチ) を使用すると故障の原因となります。

4 補助糸たて棒を垂直におこします。



① 補助糸たて棒

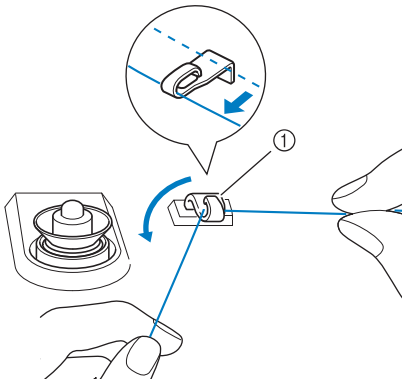
5 もう 1 つの糸こまを、糸が手前から出るように補助糸たて棒に差し込み、糸こま押えを奥までしっかり差し込みます。



① 糸たて棒
② 糸こま押え
③ 糸こま

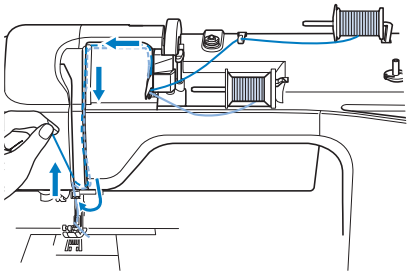
6 糸案内に糸をかけます。

* 下糸巻き案内に糸をかけないように注意してください。

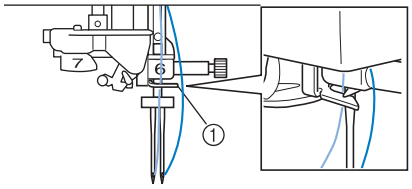


① 糸案内

7 糸こまからの糸を持ち、糸案内板のミゾに下から上に糸を通してから上のミゾを通します。左手で糸端を持って、図の矢印に沿って、ミゾに糸を通します。



8 針棒糸かけには糸をかけずに、右側の針に糸を通します。



① 針棒糸かけ

9 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

10 模様を選びます。（例：）

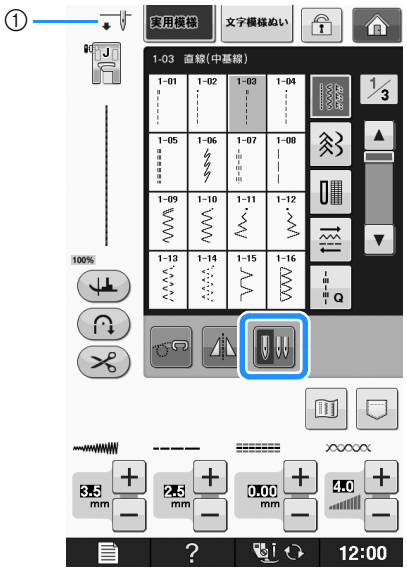
* ジグザグ押え＜J＞を取り付けたときに使用できる模様の詳細については、S-67 の「ぬい方早見表」を参照してください。

→ 選んだ模様が表示されます。

お知らせ

- 模様を選んだときに、キーが灰色で表示されているときは、その模様で 2 本針が使用できないことを表しています。

11 を押して、2 本針の設定にします。



① 1 本針／2 本針設定の表示

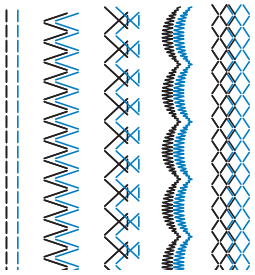
→ 1 本針／2 本針設定の表示が に変わります。

注意

- 2 本針を使用するときは必ず 2 本針の設定にしてください。2 本針の設定になっていない状態で 2 本針を使用すると、針が折れ故障の原因となります。

12 （スタート / ストップスイッチ）を押してぬい始めます。

2 本針のぬい目の例



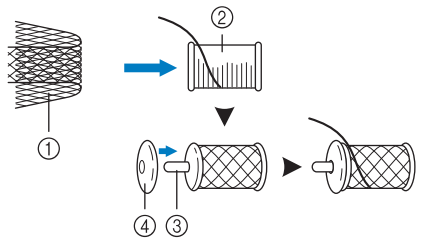
お知らせ

- 2 本針で縫製中に、ぬう方向を変えたい場合は、布から針を上げて、押えを上げてから、布の方向を変えます。

ほどけやすい糸を使用する場合

■ 糸こまネットを使用する

ナイロン透明糸やメタリック糸などを使用する場合は、付属の糸こまネットを糸こまに付けてください。これらの糸を使用するときは、手動で糸をかけてください。
糸こまネットが長すぎる場合は、糸こまの大きさに合わせてネットを折りたたんでから、糸こまに付けてください。



① 糸こまネット
② 糸こま
③ 糸たて棒
④ 糸こま押え

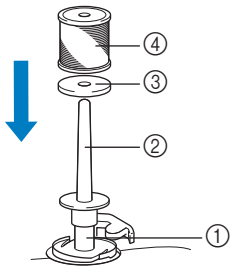
お知らせ

- 糸こまネットを使用する場合は、必ず約 5 ～ 6cm 糸を引き出してください。
- 糸こまネットを使用する場合は、必要に応じて糸調子を調節してください。

■ 垂直糸たて棒を使用する場合

一般的な形状でない糸こまを使用する場合や、メタリック糸で実用ぬいや刺しゅうをする際に、垂直糸たて棒を使用してください。

1 垂直糸たて棒を下糸巻き軸に差します。



① 下糸巻き軸
② 垂直糸たて棒
③ 糸こまフェルト
④ 糸こま

2 糸こまフェルトと糸こまを順番にセットしてから上糸を通してください。

お知らせ

- 糸こまは、糸が手前にほどける向きに差し込んでください。
- メタリック糸を使用するときは、14 番の家庭用ミシン針をお勧めします。
- この手順を行うと、糸が糸こまから出るときにねじれません。

押えの交換

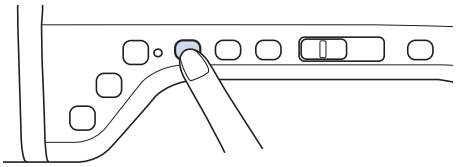
⚠ 注 意

- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 押えは必ず専用品を使用してください。専用品以外の押えを使用するとけがをするおそれがあります。

- 押えを交換する前に、必ず液晶画面の を押してください。 が押されていない状態で、(スタート／ストップスイッチ）または他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

押えを取り外す

1 (針上下スイッチ）を押して針を上げます。

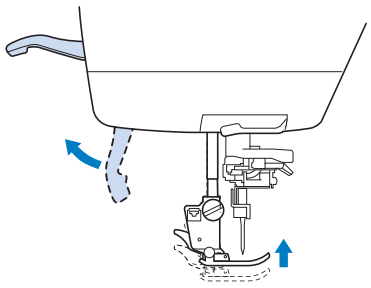


2 を押します。

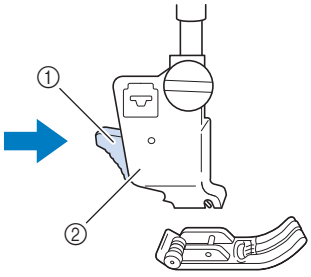
「押えが自動で下がります。よろしいですか？」とメッセージが表示された場合は、OK を押してください。

→ 画面全体が白くなり、キーと操作スイッチがロックされます。

3 押えレバーを上げます。



4 押えホルダーの黒いボタンを押して、押えを外します。



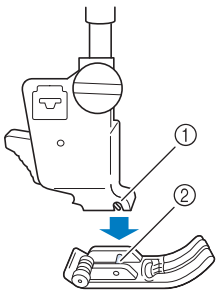
① 黒いボタン
② 押えホルダー

押えを取り付ける

⚠ 注 意

- 押えは前後の向きを確認して正しい向きで取り付けてください。押えの向きを間違えますと針が押えに当たり、折れてけがをする原因となります。

1 押えホルダーのミゾと押えのピンが合うように押えを置き、押えレバーを下げます。押えに記されている押え記号（J、A など）が読める向きに置きます。



① ミゾ
② ピン

2 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

3 押えレバーを上げます。

付属のアダプターを使用して別売の押えを取り付ける

付属のアダプターとネジ（小）を使用して、ウォーキングフットなどの別売の押えを取り付けることができます。

ここでは、例としてウォーキングフットの取り付け方を説明します。

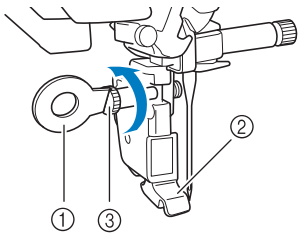


■ ウォーキングフットを取り付ける

ウォーキングフットは、押えと送り歯の間に生地をしっかりはさんで生地を送るため、ぬいにくい生地（キルティングやベルベット）やすべりやすい生地（ビニールクロス、革、人工皮革など）でも、スムーズにぬえます。

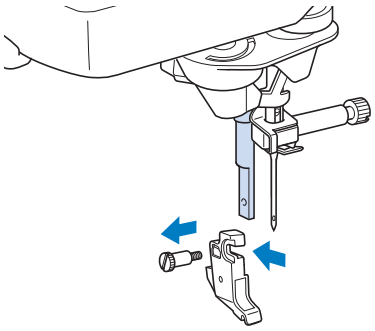
1 前ページの「押えを取り外す」の手順に従って、押えを外します。

2 付属のネジ回しで押えホルダーのネジを緩め、押えホルダーを外します。

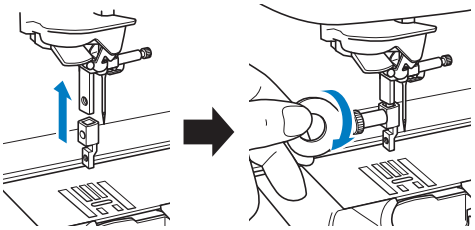


① ネジ回し
② 押えホルダー
③ 押えホルダーのネジ

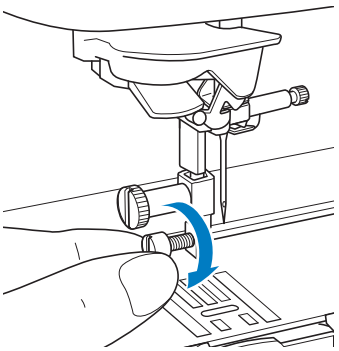
3 押えホルダーのネジを押え棒から完全に取り外します。



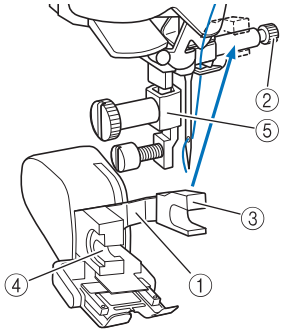
4 押え棒の平らな面とアダプターの平らな面を合わせて差し込みます。アダプターが止まるまで差し込んで、ネジ回しでネジを締めます。



5 付属のネジ（小）を２～３回手で回して、押え棒に仮止めします。

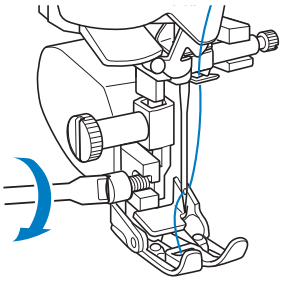


6 ウォーキングフットの操作レバーのふたまた部で針のとめネジの棒をはさむようにして、ウォーキングフットを押え棒に合わせます。ウォーキングフットの軸を押え棒に取り付けたアダプターに合わせます。



① 操作レバー
② 針のとめネジの棒
③ ふたまた部
④ ウォーキングフットの軸
⑤ アダプター

7 押えレバーを下げ、付属のネジ（小）を付属のドライバー（大）で確実にしめます。



針の交換

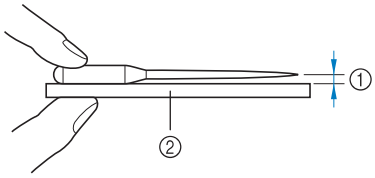
以下の注意を守らないと非常に危険です。よく読んで、必ず守ってください。
仕上がり良くぬい上げるためには、ブラザー専用のミシン針（HA × 1）を推奨します。

⚠ 注 意

- 針は必ず家庭用ミシン針（ＨＡ × 1）を使用してください。そのほかの針を使用すると、針が曲がったり、折れてけがをするおそれがあります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。けがをするおそれがあります。

- 針を交換する前に、必ず液晶画面の [針位置] を押してください。[針位置] が押されていない状態で、(スタート／ストップスイッチ) または他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

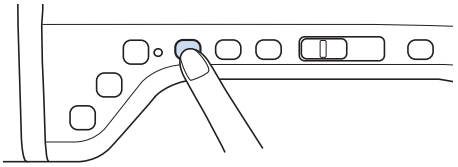
お知らせ
- 正しい針を見分けるには、針の平らな面を平らな板に合わせ、上と横から見て、針と板のすき間が平行かどうかを確認します。曲がった針は捨ててください。



① 平行なすき間
② 平らな面（針板ふたやガラスなど）

針を取り外す

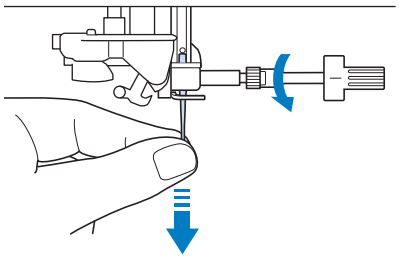
1 (針上下スイッチ) を押して針を上げます。



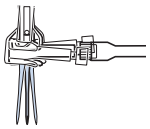
2 [針位置] を押します。
* 「押えが自動で下がります。よろしいですか？」のメッセージが表示されたら OK を押して操作を続けてください。
→ 画面全体が白くなり、キーと操作スイッチがロックされます。

お願い
- 針を交換する前に、押えの下に布や紙を置いて、針が針板の穴から下へ落ちないようにしてください。

3 左手で針を持ちながら、右手でドライバーを手前に回し、針のとめネジをゆるめ、針を抜きます。



お願い
- 針のとめネジに大きな力を加えないでください。針やミシン本体の故障の原因となります。

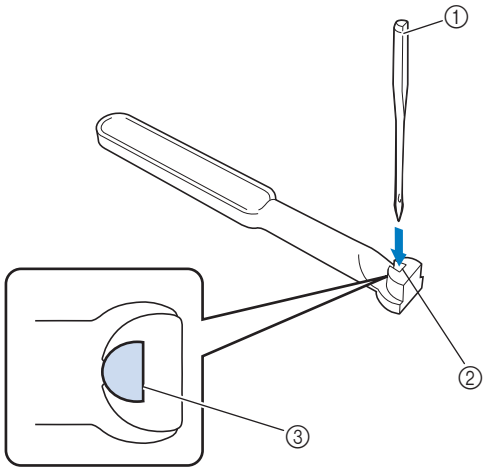


針交換ツール（別売）を使って針を取り付ける

お願い
- 2 本針やウイングニードルには、針交換ツールを使用できません。針を手で持ってとりつけてください。

1 針交換ツールの先端の切り込みを上に向けて持ち、針の先端を切り込みに差し込みます。

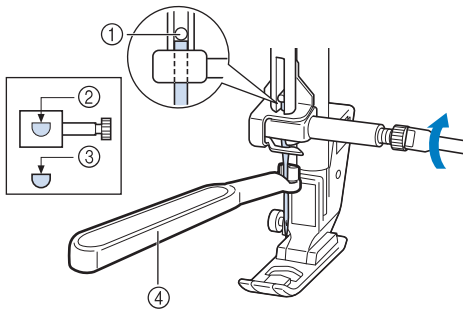
* 針の平らな面と針交換ツールの切り込みの平らな面が合うように差し込んでください。



① 針の平らな面
② 切り込み
③ 平らな面を合わせる

お願い
- 針交換ツールに針を差し込むときは、無理な力を加えないでください。針折れや故障の原因となります。

2 針の平らな面をミシンの後ろ側に向けて、ストッパーに当たるまで針棒に差し込みます。ドライバーで針のとめネジをしっかりしめます。



① ストッパー
② 針取付穴
③ 針の平らな面
④ 針交換ツール

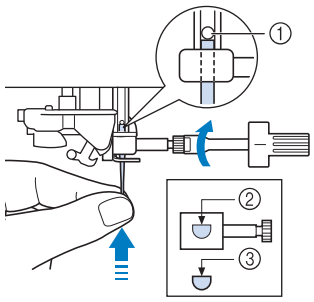
⚠ 注 意
- 針は必ずストッパーに当たるまで差し込み、とめネジをドライバーで確実にしめてください。針が正しく取り付けられていないと、針折れや故障の原因となります。

お願い
- 刺しゅうの場合は、必ず刺しゅう押えを下げた状態で針交換ツールを使用してください。押えを上げたまま、針交換ツールを使用して針を取り付けると、とりつけた後で針交換ツールをとりはずせなくなります。実用ぬいの場合でも、針交換ツールを使用する際は押えを下げておいたほうが、針交換ツールをとりはずしやすくなります。

3  を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

針を手で持って取り付ける

1 新しい針の平らな面を後ろ側に向けて、ストッパーに当たるまで針棒に差し込みます。ドライバーで針のとめネジをしっかりしめます。



① ストッパー
② 針取付穴
③ 針の平らな面

⚠ 注 意
- 針は必ずストッパーに当たるまで差し込み、とめネジをドライバーで確実にしめてください。針が正しく取り付けられていないと、針折れや故障の原因となります。

2  を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

針と布について

針について

ミシン針はミシンの部品の中でも最も重要と言えます。正しい針を選べば、縫製の仕上がりが美しく、また、トラブルが少なくなります。以下の針に関する注意事項を参照の上、正しい針を使用してください。

- 針は数字が小さいほど細くなります。数字が大きくなると、針は太くなります。
- 細い針は薄手の布地に使用し、太い針は厚手の布地に使用してください。
- ぬい目がとぶのを防ぐために、伸縮性のある布地をぬうときは、ニット用針を使用してください。
- ぬい目がとぶのを防ぐために、文字・飾り模様をぬうときは、ニット用針を使用してください。
- 刺しゅうには、11 番の針を使用してください。アルファベットのような、短い渡り糸のある模様に自動糸切り機能を設定して刺しゅうするときは、ボールポイント針（刺しゅう用）を使用してください。
- 14 番の針は、厚手の布地や接着芯が貼られた布地（デニムやパフィーフォームなど）に刺しゅうするときに使用してください。11 番の針でぬうと、針が折れたり曲がったりして、けがをするおそれがあります。

布地と糸の種類による針の使い分け

ミシン針は布地や糸の太さによって使い分けます。次の表を参考にして、布地に合った糸と針を選んでください。

布地の特徴・種類		ミシン糸		針の種類
		種類	太さ	
普通地	ブロード	綿糸	60 ～ 90	11 ～ 14
	タフタ	合繊糸		
	フラノ、ギャバシン	絹糸	50	
薄地	ローン	綿糸	60 ～ 90	9 ～ 11
	ジョーゼット	合繊糸		
	ポーラ	絹糸	50	
厚地	デニム	綿糸	30	16
			50	14 ～ 16
	コーデュロイ	合繊糸	50 ～ 60	
	ツィード	絹糸		
のびる布地	ジャージ	ニット用糸	50 ～ 60	ニット用 11 ～ 14
	トリコット			
ほつれやすい布地		綿糸	50 ～ 90	9 ～ 14
		合繊糸		
		絹糸	50	
ステッチ糸の場合		合繊糸 絹糸	30	16
			50 ～ 60	14 ～ 16

お知らせ

- 透明のナイロン糸を使用するときは、14 ～ 16 番の針を使用してください。通常は、上糸と下糸には同じ糸を使用します。
- 糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。
- 伸縮性のある布地や目がとびやすい布地を使用するときは、ニット用針を使用してください。

⚠ 注 意

- **布地と糸と針の組み合わせは、上記に従ってください。組み合わせが適切でない場合、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因になります。特に厚い布地（デニム等）を細い針（9 ～ 11 番）でぬうと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

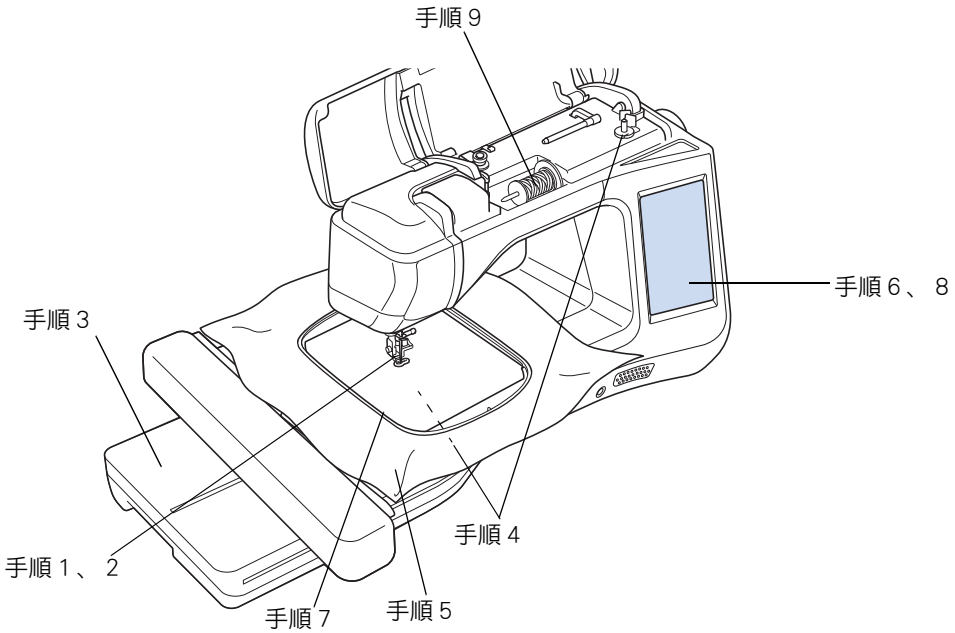
お願い

- 20 番以下の太い糸は使用しないでください。故障の原因となります。

刺しゅうの準備

刺しゅうの手順

刺しゅうの手順は次のとおりです。



手順	目的	操作	参照ページ
1	押えの取り付け	刺しゅう押え< W >または< W+ >を取り付けます。	B-61、B-62
2	針の確認	家庭用ミシン針 (HA × 1) の 11 番を使用します。*	B-58
3	刺しゅう機の取り付け	刺しゅう機を取り付けます。	B-64
4	下糸のセット	刺しゅう用下糸を巻いて下糸をセットします。	B-38
5	布地の準備	接着芯を貼った布地を刺しゅう枠に張ります。	E-11 ～ E-16
6	模様の選択	電源スイッチを入れ、刺しゅう模様を選びます。	E-3
7	刺しゅう枠の取り付け	刺しゅう枠を刺しゅう機にセットします。	E-17
8	レイアウトの確認	刺しゅうの大きさと位置を確認します。	E-19
9	上糸のセット	模様に合わせて上糸をセットします。	E-21

* 厚地や芯地（デニムなど）に刺しゅうをする場合は、家庭用ミシン針 (HA × 1) の 14 番を使用してください。アルファベットのような、短い渡り糸のある模様に自動糸切り機能を設定して刺しゅうするときは、ボールポイント針（刺しゅう用）を使用してください。

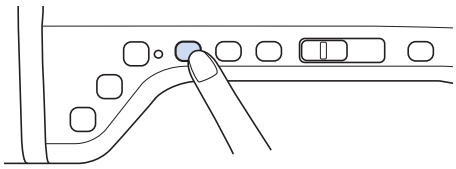
刺しゅう押え＜W＞を取り付ける

⚠ 注意

- 刺しゅうをするときは、刺しゅう押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 針を交換する前に、必ず液晶画面の を押してください。 が押されていない状態で、(スタート／ストップスイッチ) または他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

1 (針上下スイッチ) で針を上げます。



2 を押します。

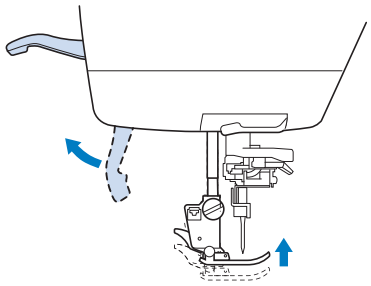
* 「押えが自動で下がります。よろしいですか？」のメッセージが表示されたら OK を押して操作を続けてください。

→ 画面全体が白くなり、キーと操作スイッチがロックされます。

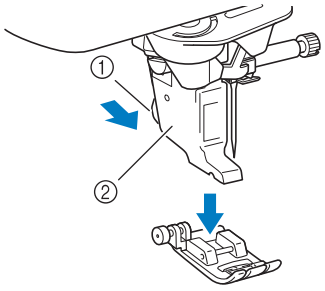
⚠ 注意

- 針を交換する前に、必ず液晶画面の を押してください。 が押されていない状態で、(スタート／ストップスイッチ) または他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

3 押えレバーを上げます。

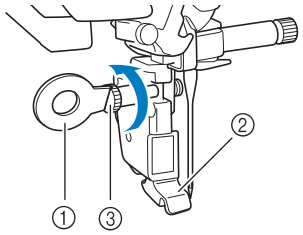


4 押えホルダーの黒いボタンを押して、押えを外します。



① 黒いボタン
② 押えホルダー
→ 押えホルダーから押えを取り外します。

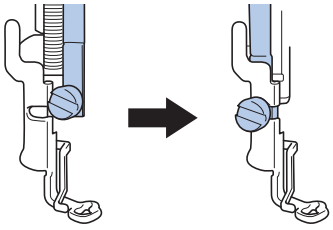
5 付属のネジ回しで押えホルダーのネジをゆるめて、押えホルダーを外します。



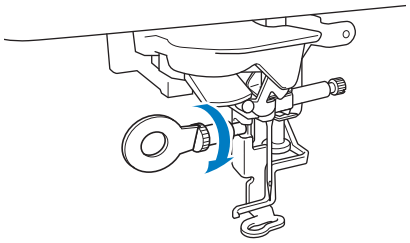
① ネジ回し
② 押えホルダー
③ 押えホルダーのネジ
→ 押えホルダーを取り外します。

6 押え棒のネジ（大）に刺しゅう押え＜W＞のミゾを合わせて取り付けます。

側面



7 刺しゅう押えを右手で押えながら、付属のネジ回しでネジを締めて取り付けます。



⚠ 注 意

- 付属のネジ回しを使用して、刺しゅう押えのネジをしっかり締めてください。ネジがゆるむと、針が押えに当たったりしてけがをするおそれがあります。

8 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

LED ポインター付き刺しゅう押え＜W+＞（別売）を使う

ミシンの背面にあるコネクタにプラグを差し込むと、布地に針落ち位置が LED ポインターで表示されて、実際の刺しゅう位置を確認できます。

■ LEDポインター付き刺しゅう押え＜W+＞を取り付ける

⚠ 注 意

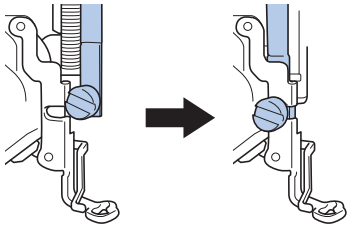
- 刺しゅうをするときは、刺しゅう押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 針を交換する前に、必ず液晶画面の を押してください。 が押されていない状態で、（スタート／ストップスイッチ）または他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

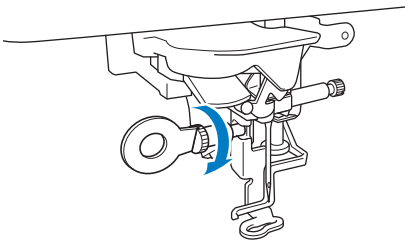
1 B-61 の「刺しゅう押え＜W＞を取り付ける」の手順 1 ～ 5 を参照してください。

2 押え棒のネジ（大）に LED ポインター付き刺しゅう押え＜W+＞のミゾを合わせて取り付けます。

側面



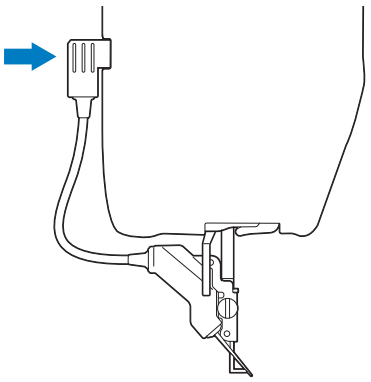
3 刺しゅう押えを右手で押えながら、付属のネジ回しでネジを締めて取り付けます。



⚠ 注 意

- 付属のネジ回しを使用して、刺しゅう押えのネジをしっかり締めてください。ネジがゆるむと、針が押えに当たったりしてけがをするおそれがあります。

4 LED ポインター付き刺しゅう押え＜W+＞のプラグをミシン背面のコネクタに差し込みます。



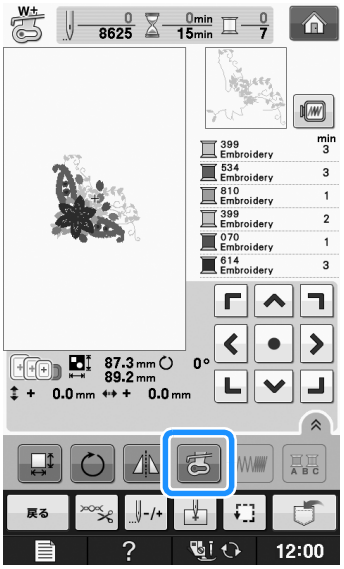
5 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

■LEDポインター付き刺しゅう押え＜W+＞を使って針落ち位置を確認する

LED ポインター付き刺しゅう押え＜W+＞を使う前に、「刺しゅう」「編集刺しゅう」の説明をよくお読みのうえ、操作を始めてください。

1 刺しゅう枠を取り付けた後、縫製画面で を押します。

→ LED ポインターが針落ち位置を示します。



お知らせ

- を押すと、自動的に押えの高さが布の厚さに合わせて調整されます。
- をもう一度押すと、布の厚さを再度測り、押えが適切な高さに再調整されます。

＊ 押えを下げたり、前の画面に戻ったりすると、LED ポインターは自動で消えます。

お願い

- 厚みのある伸縮性の布地を使うと、ふくらんだ部分では針落ち位置が正しく表示されません。このときは、布地の厚みに合わせて、手動で位置を合わせてください。
- キルト布のように、表面の凹凸が大きい布地を使用するとき、針落ち位置は正しく表示されません。この場合、LED ポインターの位置は、目安としてご覧ください。

■LED ポインターの調整

LED ポインターが実際の針落ち位置と異なる場所を示す場合は、LED ポインターの位置調整をしてください。
位置調整をする前に、あらかじめ布にぬい始めの位置をマークしてから、刺しゅう枠に布を張ってからミシンに取り付けてください。

お知らせ

- 基本設定では、ここで示す手順のキーが灰色で表示されて、使えない場合があります。LED ポインター付き刺しゅう押え＜W+＞をミシンに取り付けると、キーが使えるようになり、設定を変えることができます。いったん、LED ポインター付き刺しゅう押え＜W+＞を取り付けると、その後は押えを取り外しても設定は変えることができます。

1 を押します。

→ 設定画面が表示されます。

2 を押します。

→ 刺しゅうの設定画面が表示されます。

お知らせ

- 「刺しゅう」「編集刺しゅう」モードでは、を押すと直接刺しゅうの設定画面が表示されます。

3 設定画面の P.10 を表示します。



4 スタート を押します。

→ LED ポインター付き刺しゅう押え＜ W+ ＞調節画面が表示されます。



① LED ポインター調節

お願い
- 変更した設定は、ミシンのメモリーに記憶されます。模様を続けてぬうときなどに便利です。
- 通常の刺しゅうでは、設定は「00」に戻しておいてください。

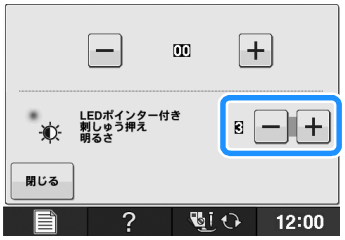
5 −または＋を押して、LED ポインターが実際の針落ち位置を示すように調整します。

6 閉じる を 2 回押して元の画面に戻ります。

■ LEDポインターの明るさを調整する

1 手順 1 ～ 4 に従って、LED ポインター付き刺しゅう押え＜ W+ ＞調節画面を表示します。

2 −または＋を押して、LED ポインターの明るさを調整します。



3 閉じる を 2 回押して元の画面に戻ります。

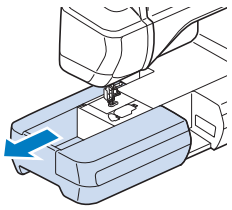
刺しゅう機を取り付ける

■ 刺しゅう機について

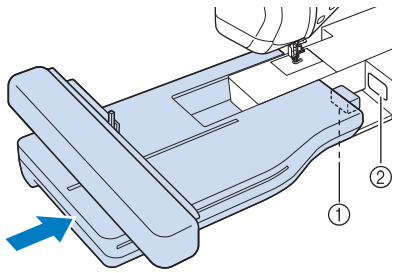
⚠ 注 意
- 刺しゅう機を本体に取り付けたまま、持ち運ばないでください。刺しゅう機が落下するおそれがあり、けがの原因となります。
- 刺しゅう機のキャリッジや刺しゅう枠が動いているときに、手や物を近づけないでください。けがの原因となります。
- 刺しゅう機の初期設定が正常に行われなかった場合、ブザーが鳴ります。その場合は、もう一度初期設定を行います。これは故障ではありません。
- 刺しゅう縫製中は、キャリッジや刺しゅう枠に触れないでください。刺しゅう模様が正しくぬわれず、曲がるおそれがあります。

お願い
- 刺しゅう機が取り付けられた状態でも、実用ぬいや文字・飾りぬいができるので、 を押してから を押してください。キャリッジが動くことを知らせるメッセージが表示されて、実用ぬいや文字・飾りぬいを始めると、送り歯が自動的に上がります。ぬう前に、模様に適した押えを取り付けてください。
- 必ず電源スイッチを切ってから、刺しゅう機を取り付けてください。故障の原因となります。
- 刺しゅう機のコネクタには触らないでください。コネクタピンの破損の原因になります。
- 刺しゅう機のキャリッジを持って持ち上げたり、キャリッジに強い力を加えたりしないでください。故障の原因となります。
- 刺しゅう機は梱包されていた箱に入れて保管してください。

1 電源スイッチを切り、補助テーブルを外します。



2 刺しゅう機のコネクタを刺しゅう機差し込み口に合わせ、カチッと音がするまで、しっかりと差し込みます。



① コネクタ
② 差し込み口

お願い
- 刺しゅう機と本体の間にすき間ができないようにしてください。すき間があると、模様くずれの原因となります。
- 刺しゅう機を取り付けるときは、キャリッジを押さないでください。キャリッジを動かすと、刺しゅう機の故障の原因となります。

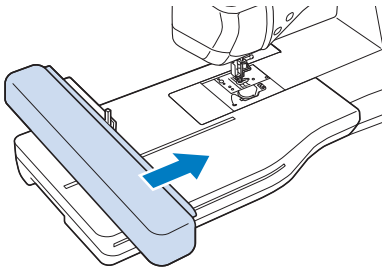
3 電源スイッチを入れます。

→ 画面にメッセージが表示されます。

4 OK を押します。



→ キャリッジが初期設定の位置に移動します。



お知らせ
- 設定画面での選択によって、「刺しゅう」「編集刺しゅう」モードのいずれかが表示されます。

■刺しゅう機の取り外し方

1  または  を押して、 を押します。

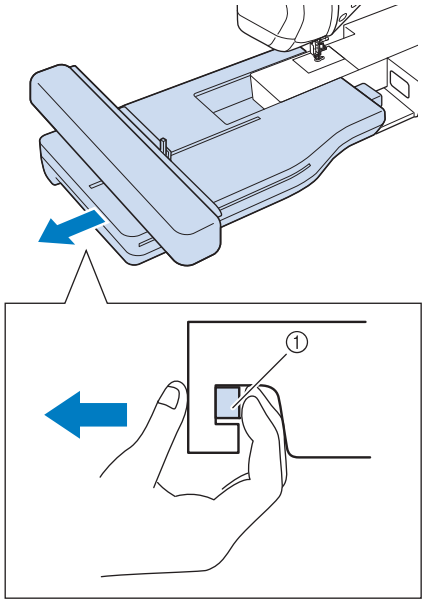
→ キャリッジが収納位置に移動します。

⚠ 注意
- 必ず刺しゅう枠を外してから  を押してください。刺しゅう枠を取り付けたまま操作すると、刺しゅう枠が押えに当たり、けがをするおそれがあります。
- この手順を行わないと、刺しゅう機を梱包されていた箱に収納することができません。

2 電源スイッチを切ります。

お願い
- 必ず電源スイッチを切って刺しゅう機を取り外してください。故障の原因となります。

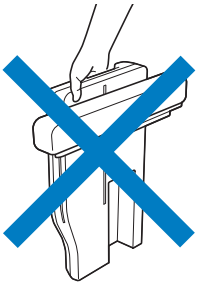
3 取り外しレバーを押しながら、刺しゅう機をゆっくりと抜きます。



① 取り外しレバー

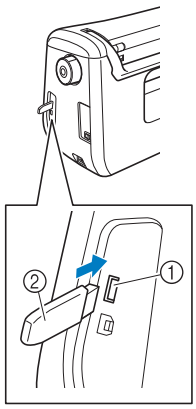
⚠ 注意

- 刺しゅう機を持ち運ぶときは、取り外しレバーの部分を持たないでください。

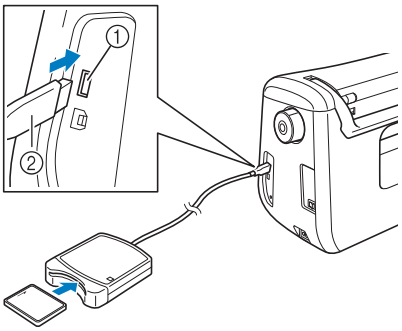


ミシンに接続して使う機能

市販の USB メディアや別売のカードリーダーを使う



① メディア／マウス用の USB ポートコネクタ
② USB メディア



① メディア／マウス用の USB ポートコネクタ
② カードリーダー

お願い

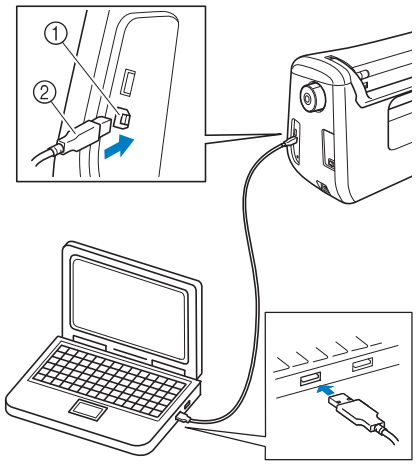
- 当社正規の刺しゅうカードのみをご使用ください。
  正規の刺しゅうカード以外のカードを使用すると、ミシンが誤作動するおそれがあります。
- 本機に接続したカードリーダーに刺しゅうカードを入れて、刺しゅうカードに模様を保存することはできません。

お知らせ

- 一部の USB メディアは、このミシンで使用できない場合があります。詳細は、ブラザーソリューションセンター (http://solutions.brother.co.jp/sewing_support/index.html) をご覧ください。
- USB メディアの種類によって、ミシンの USB ポートコネクタに直接差し込むか、ミシンの USB ポートコネクタに USB カードライター／リーダーを差し込みます。

パソコンにミシンを接続する

付属の USB ケーブルでミシンをパソコンに接続できます。



① パソコンの USB ポートコネクタ
② USB ケーブル

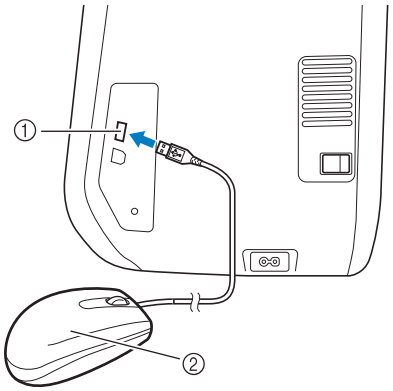
お願い

- USB ケーブルは、差し込む向きが決まっています。うまく差し込めない場合は、無理に差し込まず、向きを確認してください。
- パソコンの USB ポートコネクタ（または USB ハブ）の位置については、ご使用のパソコンの説明書を参照してください。

USB マウス（別売）を使う

ミシンに接続した USB マウスで、さまざまな画面操作ができます。

お知らせ
- 別売の USB マウス以外のものを接続した場合、本書にて説明している操作ができない場合があります。



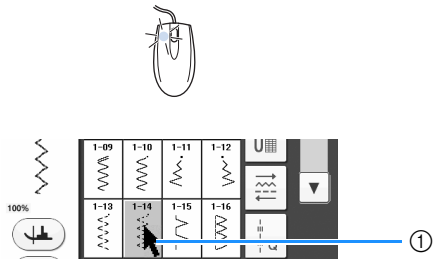
① マウス／メディア用の USB ポートコネクタ
② USB マウス

お願い
- マウスでの操作をしながら、同時に指や付属のタッチペンで画面を押さないでください。
- USB マウスはいつでも抜き差しできます。
- マウスの左ボタンとホイールのみ、操作に使用できます。ほかのボタンはミシンで使用できません。
- オープニング動画では、マウスポインターは表示されません。

■ キーをクリックする

マウスをミシンに接続すると、画面にポインターが表示されます。操作したいキーの上に、マウスを使ってポインターを移動させて、左クリックしてください。

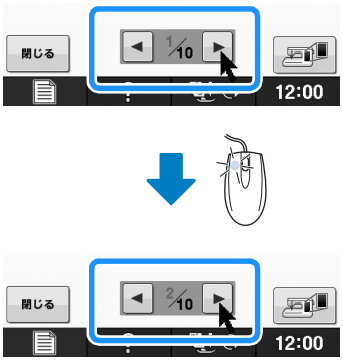
お知らせ
- ダブルクリックによる操作はできません。



① ポインター

■ ページを変える

画面にページ番号とスクロールバーが表示されているときは、複数のページがあります。ポインターを ◄ ／ ► あるいは ▲ ／ ▼ に置いて左クリックし、前後のページを表示させてください。



デュアルフィード押え（別売）を使う

デュアルフィード押えを使えば、針板や押えに貼りついてぬいにくい布（ビニール素材、革、合成皮革など）や、ぬいずれしやすい布（キルト生地など）でもきれいに仕上がります。

お願い
- デュアルフィード押えを使うときは、中速か低速でぬってください。

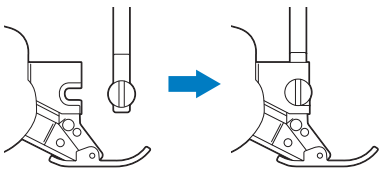
お知らせ
- デュアルフィード押えを取り付けているときは、使用できる模様だけが選択できます。
- お互いに貼りつきやすい布地をぬうときは、ぬいはじめにしつけぬいをすると、きれいに仕上がります。

■ デュアルフィード押えを取り付ける

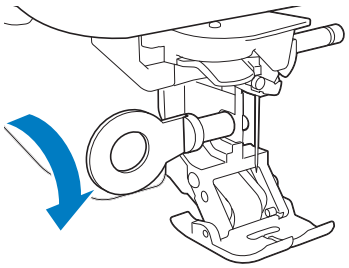
1. B-61 の「刺しゅう押え＜ W ＞を取り付ける」の手順 1 ～ 5 を参照してください。

2. 押え棒のネジ（大）にデュアルフィード押えのミゾを合わせて取り付けます。

側面



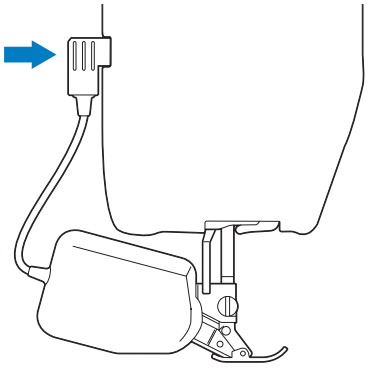
3 デュアルフィード押えを右手で押えながら、付属のネジ回しでネジ（大）をしっかりと締めます。



⚠ 注 意

- 付属のネジ回しを使って、しっかりとネジを締めてください。ネジがゆるい場合、針が押えに当たり、けがをするおそれがあります。

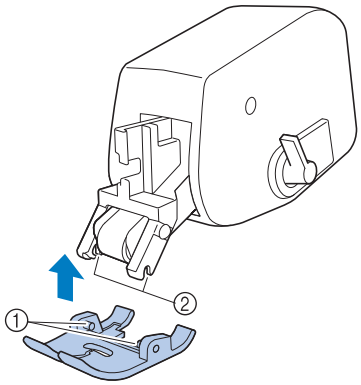
4 デュアルフィード押えのプラグをミシンの背面にあるコネクタに差し込みます。



5 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

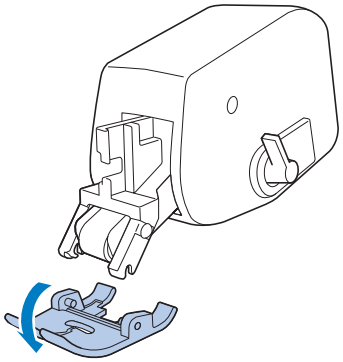
■デュアルフィード押えの押え足を取り付ける／取り外す

押え足のピンを本体の切り欠きに合わせて取り付け、カチッとなるまで押し込みます。



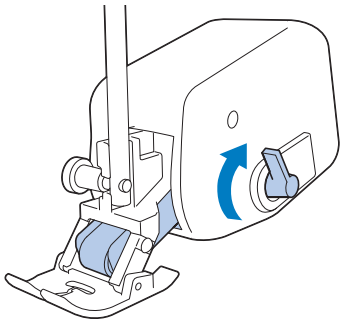
① ピン
② 切り欠き

デュアルフィード押えの先端を押さえると、押え足の部分が外れます。

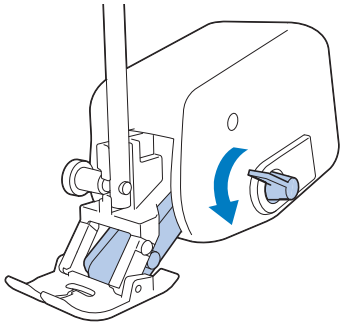


■デュアルフィード押えのレバーを使う

フィード位置レバーが上がっているとき、黒いローラーベルトは上がった状態です。



フィード位置レバーが下がっているとき、黒いローラーベルトが下がり、布送りできる状態です。



お願い
- 縫製中は、フィード位置レバーを操作しないでください。

■デュアルフィード押えの送り量を調整する

デュアルフィード機構によって、上側の布地はぬい目長さの設定に従って送られます。ぬいにくい布地を使う場合は、設定画面の「デュアルフィード送り量調整」で、さらに細かい調整ができます。

お知らせ
- 基本設定では、ここで示す手順のキーが灰色で表示されて、使えない場合があります。デュアルフィード押えをミシンに取り付けると、キーが使えるようになり、設定を変えることができます。いったん、デュアルフィード押えを取り付けると、その後は押えを取り外しても設定は変えることができます。

1 [設定画面]を押します。

→ 設定画面が表示されます。

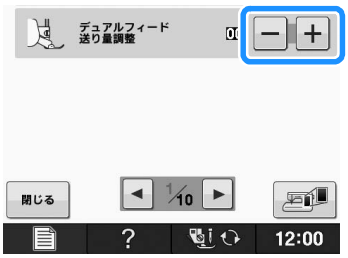
2 [実用ぬい]を押します。

→ 実用ぬい、文字模様ぬいの設定画面が表示されます。

3 設定画面の P.1 を表示します。

4 [−]または[+]を押して、上側の布の送り量を増やしたり減らしたりします。

* 通常は「00」を選択してください。
* 上側の布が下側の布より長く、送り量を増やす必要があるとき、[+]を押して上側の布の送り量を増やしてください。
* 上側の布が下側の布より短く、送り量を減らす必要があるとき、[−]を押して上側の布の送り量を減らしてください。



5 [閉じる]を押すと、元の画面に戻ります。

実用ぬい／文字・模様ぬい編

ここでは、実用ぬいのさまざまな機能を紹介しています。基本的な縫製だけでなく、筒ぬいやボタンぬい、または文字・模様ぬいなど、本機をもっと活用したいときの詳しい操作方法を知ることができます。
ページ数は、「S」の記号で始まります。

第 1 章 基本のぬい方 S-2
第 2 章 実用模様 S-20
第 3 章 文字・模様ぬい S-76
第 4 章 マイイラスト機能 S-102

第 1 章
基本のぬい方

基本のぬい方 3

ぬってみましょう 3
■ フットコントローラー（別売）を使用する 5
返しぬい／止めぬいをする 5
自動止めぬいをする 6
カーブをぬう 7
ぬい方向を変える 7
■ 0.5cm 以下のぬいしろでぬう場合 7
厚い布地をぬう 8
■ 押えの下に布地が入らない場合 8
■ 布地が送られない場合 8
面ファスナー（マジックテープ ®）をぬう 9
薄い布地をぬう 9
伸びる布地をぬう 9

模様の設定 10

ジグザグの振り幅を調節する 10
ぬい目の長さを調節する 10
ぬい目の基線位置を変える－ L/R シフト設定－ 11
糸調子を調節する 12
■ 正しい糸調子 12
■ 上糸が強すぎる（下糸が表に出る）場合 12
■ 上糸が弱すぎる（上糸が裏に出る）場合 13

便利な機能 14

自動糸切りをする 14
ニーリフターを使用する 15
ピボット 15
自動押え圧補正 17
針位置 - ぬい位置 17
画面をロックする 18

基本のぬい方

⚠ 注 意

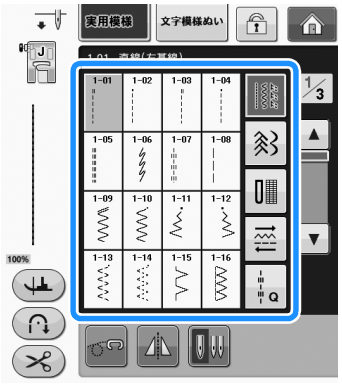
- 縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。けがの原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
- ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- ぬい目が詰まる場合は、ぬい目の長さをあらくしてください。ぬい目が詰まった状態でぬい続けると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- ミシン操作中は、針の動きに十分にご注意ください。また、針、プーリー、天びんなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。
- 押えを交換する前に必ず液晶画面の を押してください。 が押されていない状態で、(スタート／ストップスイッチ) または他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

ぬってみましょう

1 電源スイッチを入れ、実用模様の画面を表示して、(針上下スイッチ) を押して針を上げます。

2 模様を選びます。



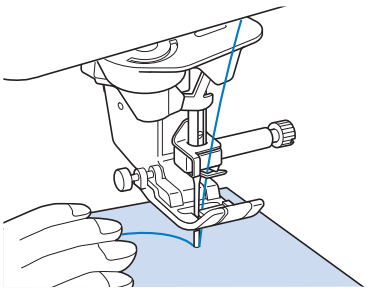
→ 画面の左上に正しい押えが表示されます。

3 押えを取り付けます。(「基本機能編」の「押えの交換」参照)

⚠ 注 意

- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
  模様に適した押えについては、S-67 を参照してください。

4 布地を押えの下に置き、左手で布地と糸端を押さえ、プーリーを回してぬい始め位置に針をさします。



お知らせ

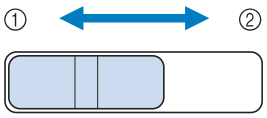
- ジグザグ押え＜J＞の左側の黒いボタンは、布地を送らないときや布地に段差があるときに使います。(S-8 参照) 通常は黒いボタンを使わずにぬいます。

5 (押え上下スイッチ) を押して押えを下げます。

* 下糸を引き出す必要はありません。

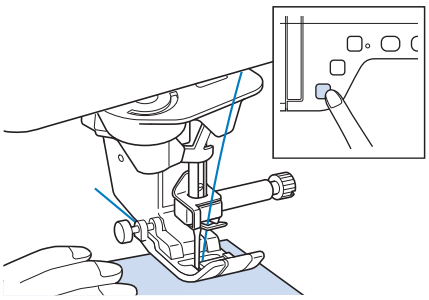
6 (スピードコントロールレバー)でぬう速さを調節します。

* ぬっている途中でも、ぬう速さを調節することができます。



① ゆっくり
② はやく

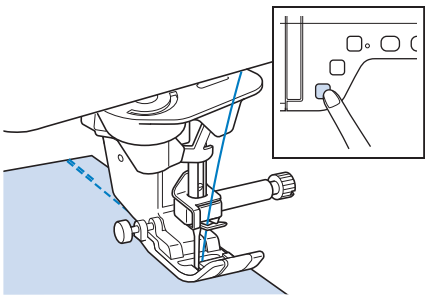
7 布地に軽く手を添え、(スタート／ストップスイッチ) を押して、ぬい始めます。



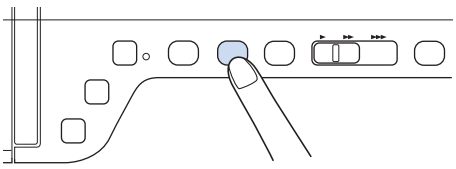
お知らせ

- フットコントローラージャックにフットコントローラーのプラグが差し込まれているときは、(スタート／ストップスイッチ) は使用できません。

8 ぬい終わったら、もう一度 (スタート／ストップスイッチ) を押します。



9 (糸切りスイッチ) を押して糸を切ります。



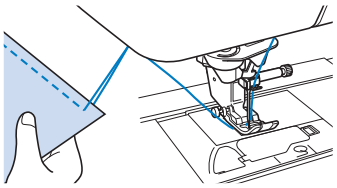
→ 針が自動的に上位置に戻ります。

⚠ 注意

- 糸を切った後は、(糸切りスイッチ) を押さないでください。糸がからまったり、針が折れたり、ミシンが故障する原因となります。
- 押えの下に布地がないときや、ミシンが動いているときは、(糸切りスイッチ) を押さないでください。糸がらみや故障の原因となります。

お願い

- ナイロン糸・メタリック糸など特殊な糸を切る場合は、本体側面の糸切りを使用してください。



10 針が完全に止まったら、押えを上げて布地を取り出します。

お知らせ

- このミシンには下糸残量センサーが付いています。下糸が少なくなるとミシンは自動的に止まり、画面にメッセージが表示されます。その場合は、早めに下糸を補充してください。ただし、(スタート／ストップスイッチ) を押すと数針ぬうことができます。

■ フットコントローラー（別売）を使用する

別売のフットコントローラーまたはマルチ機能フットコントローラーを使って、ミシンを操作することもできます。
ここでは、フットコントローラーの使い方を説明します。

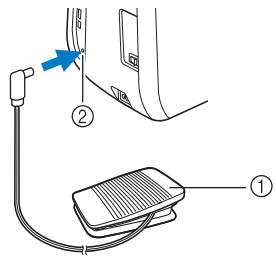
⚠ 注 意

- フットコントローラーに布片やほこりがたまらないようにしてください。火災や感電の危険があります。
- このミシンに使用できるフットコントローラーは以下のモデルです。下記以外のモデル、または他社のものはご使用にならないでください。
  フットコントローラー MODEL T
  マルチ機能フットコントローラー MODEL U

お知らせ

- フットコントローラージャックにフットコントローラーのプラグが差し込まれているときは、(スタート／ストップスイッチ) は使用できません。
- 刺しゅうまたは編集刺しゅうのときは、フットコントローラーは使用できません。(スタート／ストップスイッチ) を使用してください。
- ミシンに刺しゅう機を取り付けているときも、実用ぬいや文字・模様ぬいをするためにフットコントローラーを使用できます。

1 ミシン本体右側面のフットコントローラージャックに、フットコントローラーの接続プラグを差し込みます。



① フットコントローラー
② フットコントローラージャック

2 フットコントローラーをゆっくり踏み込みます。

浅く踏むと遅く、深く踏み込むと早くなります。



お知らせ

- スピードコントロールレバーを左右に動かして、フットコントローラーの最高速度を調整することができます。

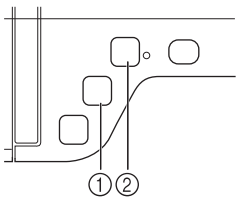
3 ぬい終わりの位置まできたら、フットコントローラーから足を離します。

返しぬい／止めぬいをする

返しぬいまたは止めぬいは、通常、ぬい始めとぬい終わりで行います。

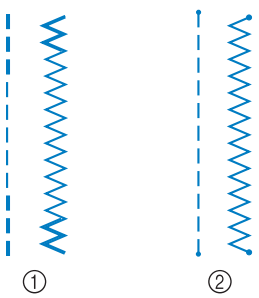
(返しぬいスイッチ) を押している間、模様によって返しぬいまたは止めぬいをします。

(止めぬいスイッチ) を長押しすると、同じ場所で 3~5 針ぬってから止まります。



① 返しぬいスイッチ
② 止めぬいスイッチ

画面で自動止めぬいが設定されているときは、(スタート／ストップスイッチ) を押してぬい始めるときに自動的に返しぬい（または止めぬい）がぬわれます。ぬい終わりは、(返しぬいスイッチ) または (止めぬいスイッチ) を押すと、返しぬいまたは止めぬいができます。



① 返しぬい
② 止めぬい

操作後のミシンの動きは、選択している模様によって異なります。

S-6 の「自動止めぬいをする」参照

お知らせ

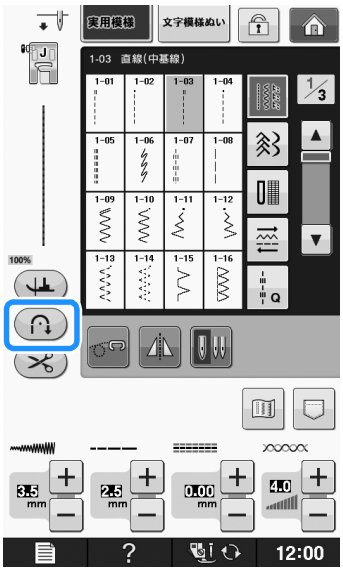
- 文字・模様ぬいの場合に（止めぬいスイッチ）を押すと、模様の途中でスイッチが押されたときも、１模様がぬい終わったところで止めぬいがぬわれます。
- １模様がぬい終わるまでの間は、（止めぬいスイッチ）の右横にある緑のランプが点灯します。止めぬいが終わると、ランプは消えます。

自動止めぬいをする

模様を選んだときに自動止めぬいを設定しておくと、ぬい始めとぬい終わりに自動的に止めぬい（模様によっては返しぬい）をします。

1 模様を選びます。

2 を押して、自動止めぬいを設定します。

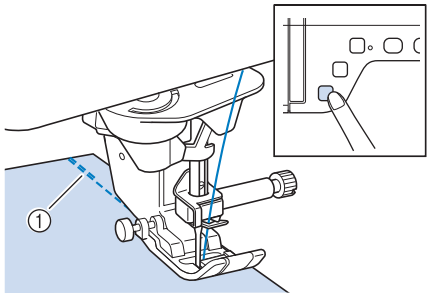


→ 表示が、に変わります。

お知らせ

- ボタン穴かがりやかんどめなどの一部の模様は、ぬい始めに止めぬいを行う必要があります。これらの模様は、止めぬいが自動的に設定されます（模様を選択すると表示がに変わります）。

3 布地をぬい始めの位置に置き、ぬい始めます。



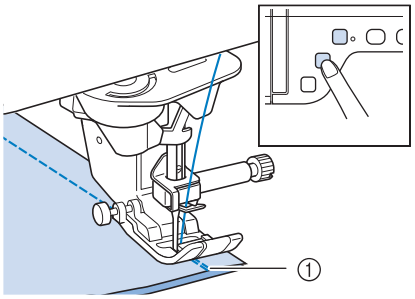
① 返しぬい（または止めぬい）

→ 自動的に返しぬい（または止めぬい）をしてぬい始めます。

お知らせ

- ぬっている途中で（スタート／ストップスイッチ）を押して止めたあと、再びぬい始めた場合は返しぬい（または止めぬい）をしません。

4 （返しぬいスイッチ）または（止めぬいスイッチ）を押します。



① 返しぬい（または止めぬい）

→ 自動的に返しぬい（または止めぬい）をして止まります。詳しくは、次ページの一覧表を参照してください。

お知らせ

- 自動止めぬいを解除するときは、もう一度を押します。表示がに変わります。

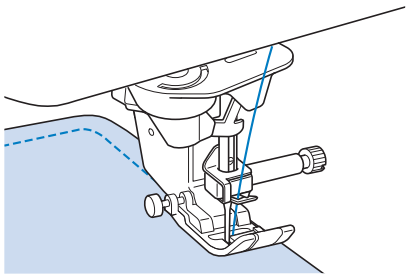
(返しぬいスイッチ)、または(止めぬいスイッチ) を押したときのミシンの動きは、そのとき選択している模様によって異なります。それぞれのスイッチを押したときのミシンの動きについて詳しくは、次の表の説明を参照してください。

	返しぬいスイッチ	止めぬいスイッチ
実用模様 + 1-01 1-03 1-09	ミシンが模様をぬい始め、(返しぬいスイッチ) を押している間だけ返しぬいをします。	ミシンが模様をぬい始め、(止めぬいスイッチ) を押している間 3 ～ 5 針の止めぬいをします。
実用模様 + 1-02 1-04 1-10	ミシンが模様をぬい始め、(返しぬいスイッチ) を押している間だけ返しぬいをします。	ミシンが模様をぬい始め、(止めぬいスイッチ) を押している間 3 ～ 5 針の止めぬいをします。
実用模様 + 1-01 1-03 1-09	ぬい始めとぬい終わりに返しぬいをします。	ぬい始めに返しぬい、ぬい終わりに止めぬいをします。
実用模様 + 1-02 1-04 1-10	ぬい始めに止めぬい、ぬい終わりに返しぬいをします。	ぬい始めとぬい終わりに止めぬいをします。
文字模様ぬい +	ミシンが模様をぬい始め、(返しぬいスイッチ) を押している間は止めぬいをします。	ミシンが模様をぬい始め、ぬい終わりに 1 模様を完成させたあとで止めぬいをします。
文字模様ぬい +	ぬい始めに止めぬいをし、(返しぬいスイッチ) を押すともう一度止めぬいをします。	ぬい始めに止めぬいをし、ぬい終わりに 1 模様を完成させたあとで止めぬいをします。

* は自動止めぬい設定時の表示、は自動止めぬいを解除しているときの表示です。

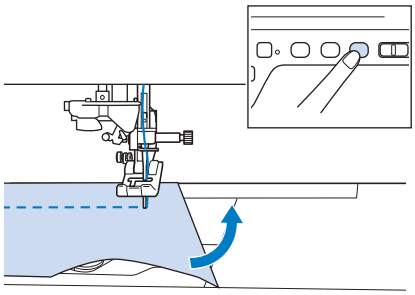
カーブをぬう

ぬい目を布端と平行になるように、ミシンを止めて少しずつ布地の向きを変えながらぬいます。



ぬい方向を変える

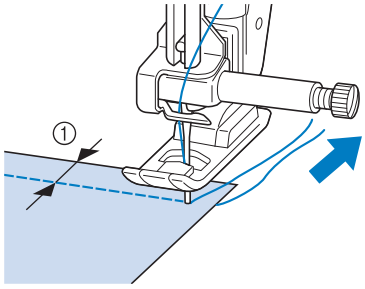
方向を変える位置でミシンを止めます。針を布にさしたまま(押え上下スイッチ) を押して押えを上げます。針を軸にして布地を回し、ぬい方向を変えたあと、(押え上下スイッチ) を押して再び押えを下げてぬい始めます。



ぬい方向を変えるときは、ピボット機能を有効にしておくと便利です。布の角でミシンを止めたときに、針が布に刺さった状態で止まり、押えが自動的に上がるため、布を回しやすくなります。(S-15 の「ピボット」)

■ 0.5cm 以下のぬいしろでぬう場合

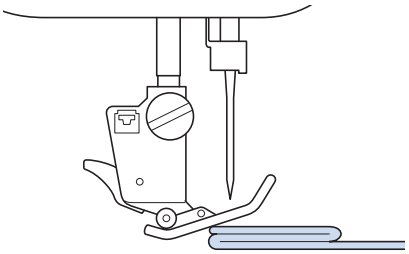
角部にしつけ糸をつけ、方向を変えたらしつけ糸を後ろに引っ張りながらぬいます。



① 0.5 cm

厚い布地をぬう

このミシンでは、厚さが約 6mm までの布地をぬうことができます。布地の厚みで布地に段差ができるときは、手で布を送りながらぬい、下り方向になるようにぬってください。

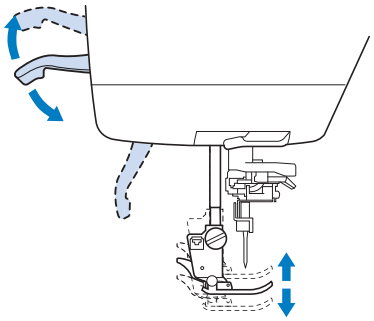


⚠ 注 意

- 6mm 以上の厚地をぬったり、無理に布地を押しこんだりすると、針が折れけがをするおそれがあります。
- 厚い布地ほど太い針を使用してください。(「基本機能編」の「針と布について」参照)

■ 押えの下に布地が入らない場合

押えレバーは 2 段階に上がります。厚地の重ねぬいなど布地を入れにくいときは、レバーをさらに押し上げると、押えがもう一段上がり布地が入れやすくなります。



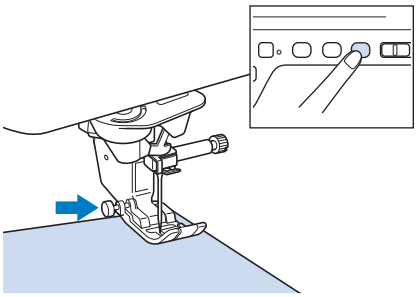
お知らせ

- (押え上下スイッチ) を押して押えを上げた後は、押えレバーは使用できません。

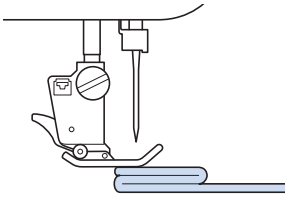
■ 布地が送られない場合

ぬい始めに布地が送られないときや布地に段差があって送られない場合は、ジグザグ押え＜ J ＞の左側の黒いボタンを使います。

1. 押えレバーを上げます。
2. ジグザグ押え＜ J ＞を水平に保持して、左側の黒いボタンを押したまま、(押え上下スイッチ) を押して押えを下げます。



3. ボタンから手を離します。



→ 押えが水平になり、布が送られます。

お知らせ

- ぬい進めると押えはもとに戻ります。
- 設定画面で「自動押え圧補正」を ON にすると、センサーが布地の厚さを自動的に読み取ります。スムーズに布送りでき、きれいに仕上げることができます。(詳細は、S-17 を参照してください。)

面ファスナー（マジックテープ®）をぬう

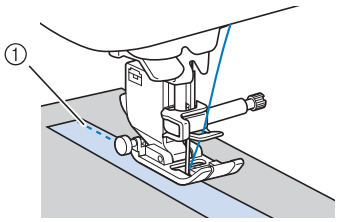
お知らせ
- “マジックテープ®”は、株式会社クラレの、面ファスナーの登録商標です。

⚠ 注意
- 面ファスナーは、のりが付いていない縫製用のものを使用してください。のりが針やかまに付着すると、故障の原因となります。
- 面ファスナーを細い針（9 ～ 11 番）でぬうと、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

お願い
- ミシンでぬう前に、しつけをして面ファスナーと布地をぬい合わせておいてください。

プーリーを手で回して面ファスナーに針をさし、針がスムーズに通ることを確認してから、面ファスナーの端を低速でぬいます。

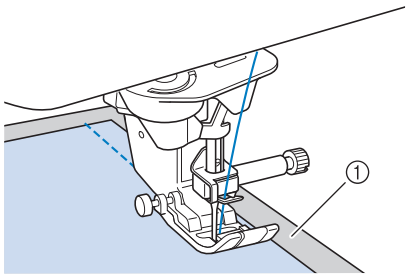
針が通らない場合は、厚地用の針と糸に交換してください。(「基本機能編」の「布地と糸の種類による針の使い分け」参照)



① 面ファスナーの端

薄い布地をぬう

アイロンスプレーのりを使ってアイロンをかけたり、布地の下にハトロン紙などの薄い紙、または刺しゅう用の芯をしいてぬうと、ぬいやすくなります。紙や芯をしく場合は、ぬい終わった後にていねいに取り除きます。



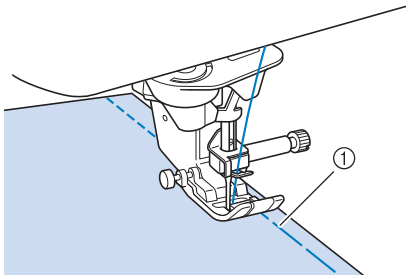
① ハトロン紙など

伸びる布地をぬう

あらかじめしつけをして、布地を引っ張らないようにぬいます。

また、ニット用の糸を使用したり伸縮ぬいを使用すると、きれいにぬうことができます。

お知らせ
- 伸びる布地は、押え圧を弱くするときれいに仕上がります。(「基本機能編」の「設定キーを使う」参照)



① しつけ

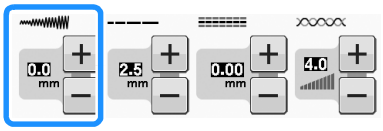
模様の設定

ジグザグの振り幅やぬい目の長さ、L/R シフト設定、上糸調子は、あらかじめ模様ごとに標準値に設定されています。この設定は、必要に応じて変えることができます。

お知らせ
- 模様によっては、設定を変えられないものがあります。(S-67 の「ぬい方早見表」参照)
- 模様の設定を保存せずに（S-22 の「模様の設定を記憶する」)、ミシンの電源スイッチを切ったり、他の模様を選択すると、標準の設定に戻ります。

ジグザグの振り幅を調節する

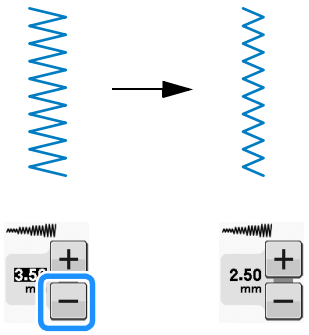
ジグザグの振り幅（模様の幅）を広くしたりせまくしたりすることができます。



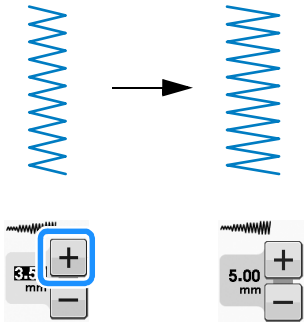
お知らせ
- (スピードコントロールレバー)を使って振り幅を調節することもできます。(S-40 参照)

例：

振り幅の[−]を押すごとに表示の数値が小さくなり、ジグザグの幅がせまくなります。



振り幅の[+]を押すごとに表示の数値が大きくなり、ジグザグの幅が広くなります。

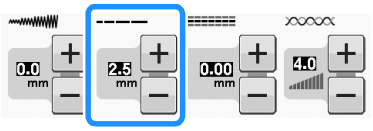


お知らせ
- [ ]を押して表示される画面で[ ]を押すと、標準の設定に戻ります。

お願い
- 振り幅を調節したときはプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

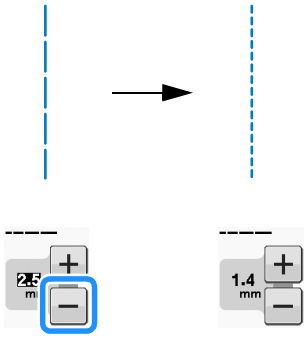
ぬい目の長さを調節する

ぬい目の長さをあらくしたり細かくしたりすることができます。

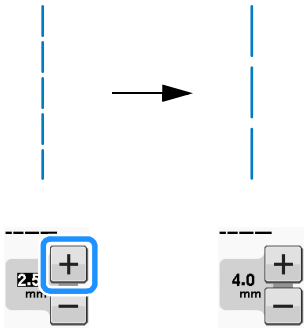


例：

ぬい目の長さの［－］を押すごとに表示の数値が小さくなり、ぬい目が細かくなります。



ぬい目の長さの［＋］を押すごとに表示の数値が大きくなり、ぬい目があらくなります。



→ 表示の数値が大きくなります。

お知らせ

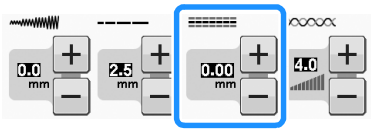
- ［ ］を押すと、ぬい目の設定を確認できます。
- ［ ］を押して表示される画面で［ ］を押すと、標準の設定に戻ります。

⚠ 注 意

- ぬい目が詰まる場合は、ぬい目の長さをあらくしてください。ぬい目が詰まった状態でぬい続けると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

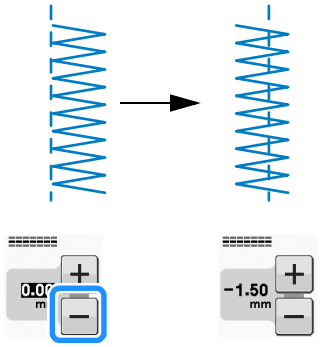
ぬい目の基線位置を変える －L/R シフト設定－

L/R シフト設定を使って、ぬい目の基線を左右に移動することができます。ここでは、ジグザグ模様を例にして説明します。



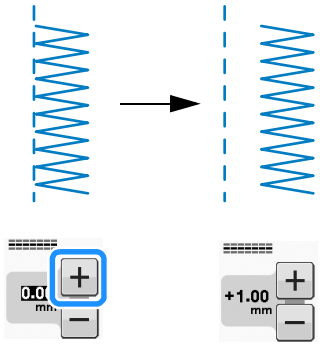
例：

L/R シフトの［－］を押すごとに、ぬい目の基線が左に移動します。



→ 表示の数値がマイナス（－）の表記になります。

L/R シフトの［＋］を押すごとに、ぬい目の基線が左基線よりも右側に移動します。



→ 表示の数値がプラス（＋）の表記になります。

お知らせ

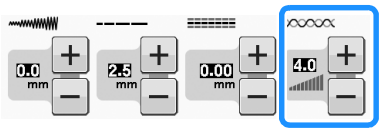
- ［ ］を押して表示される画面で［ ］を押すと、標準の設定に戻ります。

⚠ 注 意

- L/R シフト設定を調節したときは、プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

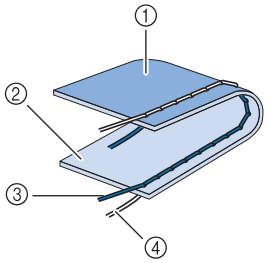
糸調子を調節する

通常は、布地や糸の種類に関係なく、自動的に標準の糸調子が取れるように設定されています。布や糸の種類によって、糸調子を調節してください。



■ 正しい糸調子

上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。布地の表に出るのは上糸だけで、布地の裏に出るのは下糸だけになります。



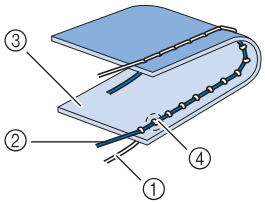
① 裏
② 表
③ 上糸
④ 下糸

■ 上糸が強すぎる（下糸が表に出る）場合

下糸が布地の表に出る場合は、上糸の糸調子が強すぎます。

お願い

- 下糸が正しくセットされていないと、上糸が強くなることがあります。上糸が強いときは、下糸のセットを再度行ってください。「基本機能編」の「下糸をセットする」を参照してください。

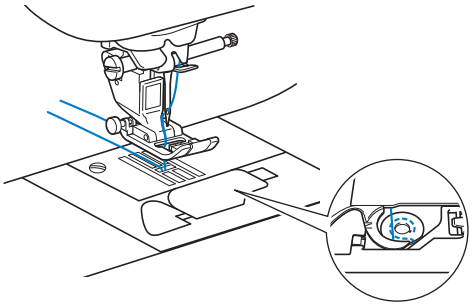


① 下糸
② 上糸
③ 表
④ 上糸が強いと上糸と下糸の重なりが表にできます。

糸調子の**－**を押します。押すごとに表示の数値が小さくなり、上糸が弱くなります。

お知らせ

- ぬい終わったとき、針板ふたを外して糸が下図のように見えることを確認してください。糸が下図のようにならないときは、内かまの板バネの間に下糸が入っていません。下糸を正しく入れなおしてください。「基本機能編」の「下糸をセットする」参照。

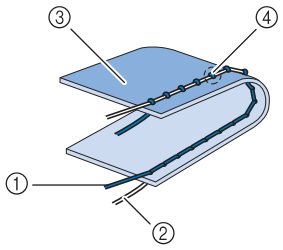


■ 上糸が弱すぎる（上糸が裏に出る）場合

上糸が布地の裏に出る場合は、上糸の糸調子が弱すぎます。

お願い

- 上糸が正しくセットされていないと、上糸が弱くなることがあります。上糸が弱いときは、上糸のセットを再度行ってください。「基本機能編」の「上糸通し」を参照してください。



① 上糸
② 下糸
③ 裏
④ 上糸が弱いと上糸と下糸の重なりが裏にできます。

糸調子の＋を押します。押すごとに表示の数値が大きくなり、上糸が強くなります。

お知らせ

- を押して表示される画面でを押すと、標準の設定に戻ります。

便利な機能

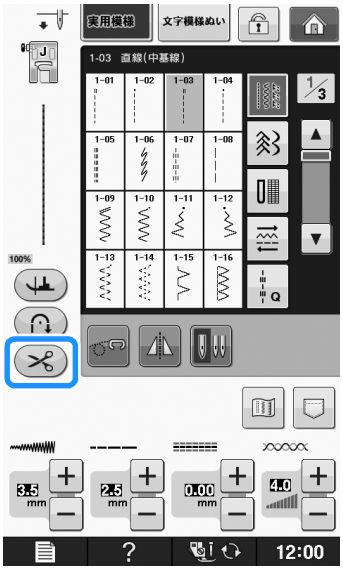
自動糸切りをする

模様を選んだときに自動糸切りを設定しておくと、ぬい始めとぬい終わりに自動的に止めぬい（模様によっては返しぬい）をして、ぬい終わりに自動的に糸を切ります。ボタン穴かがりやかんどめをぬうときに便利です。

お知らせ
- 自動糸切りは、自動止めぬいを設定しているときに設定できます。

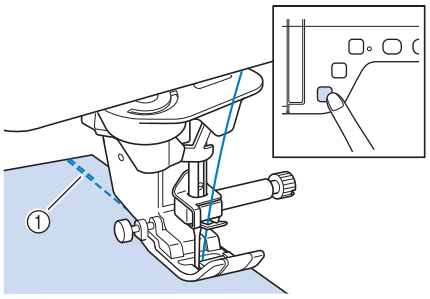
1 模様を選びます。

2 を押して、自動糸切りを設定します。



→ 表示が、に変わります。

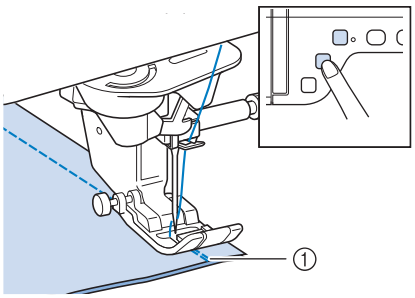
3 布地をぬい始めの位置に置き、ぬい始めます。



① 返しぬい（または止めぬい）
→ 自動的に返しぬい（または止めぬい）をしてぬい始めます。

お知らせ
- ぬっている途中で（スタート／ストップスイッチ）を押して止めたあと、再びぬい始めた場合は返しぬい（または止めぬい）をしません。

4 （返しぬいスイッチ）か（止めぬいスイッチ）を押します。



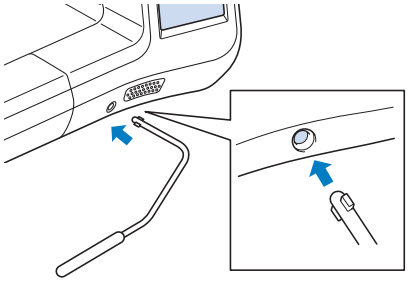
① 返しぬい（または止めぬい）
→ 自動的に返しぬい（または止めぬい）をして糸を切ります。

お知らせ
- 自動糸切りを解除するときは、もう一度を押します。表示がに変わります。

ニーリフターを使用する

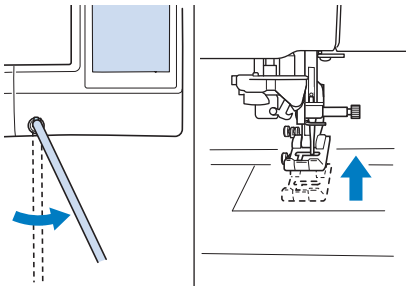
ニーリフターを使うと、ひざで押えの上げ下げができ、両手が使え便利です。

1 **ニーリフターの先端の突起部をミシン本体の前面にある差し込み口のミゾに合わせ、ニーリフターを押し込みます。**



お願い
- ニーリフターは差し込み口の奥までしっかりと差し込んでください。正しく差し込まれていないと、使用中に外れることがあります。

2 **押えを上げるときは、ニーリフターをひざで右に押します。押えを下げるときは、ニーリフターからひざを離します。**



⚠ 注 意
- **縫製中は、ニーリフターにひざが触れないように注意してください。縫製中にニーリフターを押すと、針が折れたり、糸調子が変わる可能性があります。**

お知らせ
- 押えが上がっているときは、ニーリフターを右いっぱいに押してからひざを離すと、押えが下がります。

ピボット

ピボット設定が選択されている場合、縫製中に（スタート／ストップスイッチ）を押すと、針が下がった（布地の中にある）状態でミシンは停止し、押えは自動的に正しい高さに上がります。もう一度（スタート／ストップスイッチ）を押すと、押えは自動的に下がり、操作が継続されます。ミシンを止めて布地を回転するときに便利です。

⚠ 注 意
- **ピボット設定が選択されている場合、（スタート／ストップスイッチ）や、フットコントローラーを押すと、押えが上がっていてもミシンが作動します。事故を防ぐために、針の付近に手や物を近づけないように注意してください。**

お知らせ

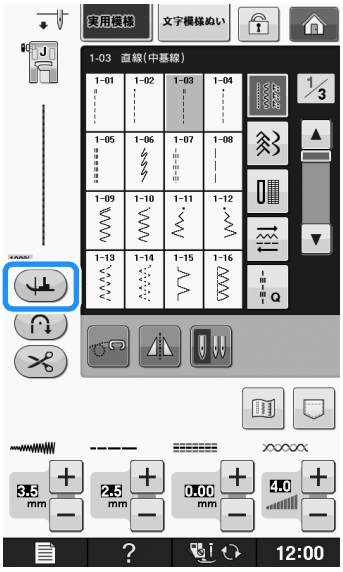
- ピボット設定が選択されている場合、使用している布地の種類に合わせて、ぬい終わりの押えの高さを変えることができます。 を押すと、「ピボット押え高さ」が表示されます。－または＋を押して、3 つの高さ（3.2mm、5.0mm、7.5mm）のいずれかを選びます。押えを高くするには、設定値を大きくします。（通常、3.2mm に設定されています。）



- ピボット機能を使用するには、「針位置 - 上 / 下」が下に 設定されている必要があります。「針位置 - 上 / 下」が上に設定されていると、が灰色で表示され使用できません。
- 画面の左上に押え＜ J ＞または＜ N ＞が表示されている模様にのみ、ピボット機能が使用できます。他の模様が選択されていると、が灰色で表示され、使用できません。
- 押えが完全に上がり、自動糸切りキーが押されている場合は、（押え上下スイッチ）を押して押えを下げてから、（スタート／ストップスイッチ）を押して操作を続けます。
- ピボット設定を選択していると、設定画面の「押え高さ」の－と＋を使用できません。

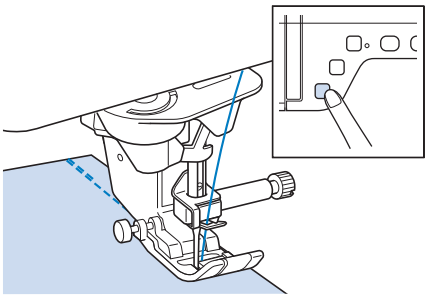
1 **模様を選びます。**

2 **を押して、ピボット設定を選びます。**



→ 表示が に変わります。

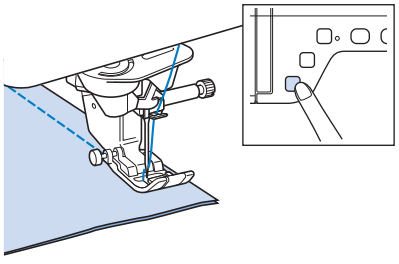
3 **布地をぬい始めの位置に合わせて、（スタート／ストップスイッチ）を押します。ミシンがぬい始めます。**



お知らせ

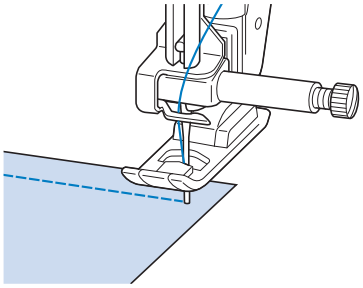
- 縫製中に（スタート／ストップスイッチ）を押して止めたあと、再びぬい始めた場合は返しぬい（または止めぬい）をしません。

4 **（スタート／ストップスイッチ）を押して、方向を変える位置でミシンを止めます。**



→ 針が布地にささった状態でミシンが止まります。このとき、押えは上がっています。

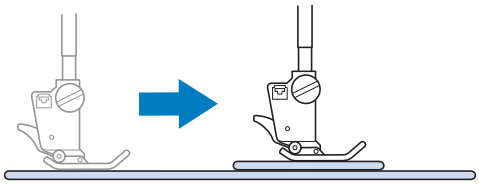
5 布地を回転して、(スタート／ストップスイッチ) を押します。

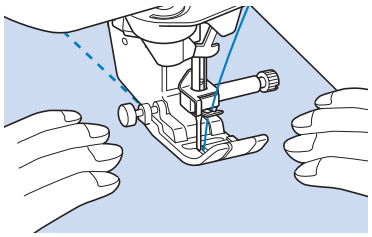


→ 押えが自動的に下がり、ぬい始めます。

自動押え圧補正

使用中に、内蔵されたセンサーで布地の厚さが自動的に感知され、押えが調節されます。そのため、布地をスムーズに送ることができます。厚地の布 (S-8 参照) やキルト生地 (S-35 参照) をぬう場合、この機能は便利です。

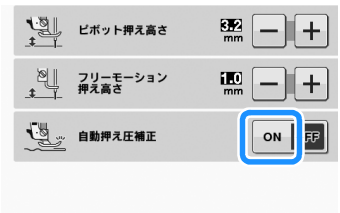




1 [設定] を押します。

→ 設定画面が表示されます。

2 「自動押え圧補正」を押して、「ON」にします。



3 [閉じる] を押すと、元の画面に戻ります。

針位置 - ぬい位置

「針位置 - ぬい位置」が設定されているときは、ぬい始めの針落ち位置を確認するために、針が布地にささるギリギリの高さでいったん止まるので、もう一度 (針上下スイッチ) を押して針が完全に布地にささるまで下げてください。

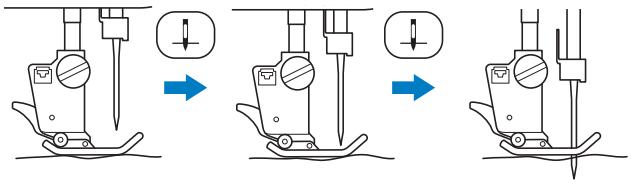
(針上下スイッチ) を押すたびに針位置が変わります。

「針位置 - ぬい位置」の設定を解除しているときは、(針上下スイッチ) を押すたびに、針位置は布地の上下どちらかで切り替わります。

① 設定が「ON」のとき

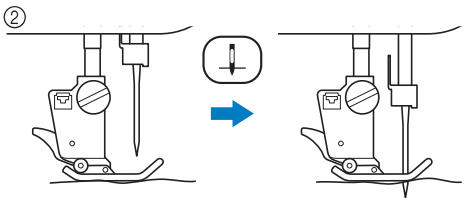
② 設定が「OFF」のとき

①



* (針上下スイッチ) を押して、針が下がりかけた状態のとき、送り歯が下がるので、布地を動かして針落ち位置を細かく合わせることができます。

②



1 [設定] を押します。

→ 設定画面が表示されます。

2 「針位置 - ぬい位置」を押して、「ON」または「OFF」にします。



3 [閉じる] を押すと、元の画面に戻ります。

画面をロックする

ジグザグの振り幅やぬい目の長さなどの設定をロック（固定）することができます。大きな布や作品をぬう場合に、布が画面に触れて設定が変わったり、途中でミシンが止まったりすることを防ぎます。実用模様と文字模様ぬいのときに設定できます。

1. 模様を選びます。
2. ジグザグの振り幅やぬい目の長さなどを設定します。
3. を押して、画面をロックします。
   → 表示がに変わります。
4. ぬい始めます。
5. ぬい終わったら、を押して画面ロックを解除します。

⚠ 注意

- 画面ロック（）を解除するには、を押します。画面がロックされると、キー操作はできません。
- 電源スイッチを切ると、画面ロックは解除されます。

第 2 章
実用模様

実用模様の選び方 21

模様を選ぶ 21
■ 模様を左右反転するには 21
■ イメージキーを使用する 22
模様の設定を記憶する 22
■ 模様の設定を記憶する 22
■ 記憶した設定を呼び出す 23

いろいろなぬい方 24

直線ぬい 24
■ 針位置の変え方（左基線・中基線の模様） 25
■ 針板や針板ふたの目盛りを基準にする場合 26
■ 直線針板（別売）と直線押え（別売）を使用する場合 26
■ しつけぬい 27
ダーツ 28
ギャザー 28
折り伏せぬい 29
ピンタック 30
ジグザグぬい 30
■ たち目かがり（ジグザグぬい） 31
■ アップリケ（ジグザグぬい） 31
■ パッチワーク（クレイジーキルト） 31
■ カーブをぬう場合（ジグザグぬい） 31
■ コードガイドふたを使用する（ジグザグぬい） 32
点線ジグザグぬい 33
■ ゴムひもつけ 33
■ たち目かがり 33
たち目かがり 33
■ たち目かがり押え＜Ｇ＞を使うたち目かがり 33
■ ジグザグ押え＜Ｊ＞を使うたち目かがり 35
キルトぬい 35
■ ピーシング 36
■ ガイド付ピーシング押え（別売）を使う 37
■ アップリケ 38
■ サテンぬいのキルト 39
■ フリーモーションキルト 40
■ エコーキルト押え＜Ｅ＞（別売）を使用して、エコーキルトをぬう 43
まつりぬい 45
■ 針がかかりすぎているとき 47
■ 針がかかっていないとき 47
アップリケぬい 48
■ 急なカーブをぬう場合 48
■ 角をぬう場合 48
シェルタックぬい 49
スカラップぬい 50
つき合わせぬい 50
スモッキングぬい 50
ファゴティングぬい 51
ゴムひもつけ 52
ヘアルーム 53
■ デイジーステッチ 53
■ ドロンワーク（1） 53
■ ドロンワーク（2） 54
ボタン穴かがり 54
■ 伸びる布地をぬう場合 57
■ ボタンが台皿にのらない場合 57
ダーニング（つくろいぬい） 58
かんどめ 59
■ 厚地の場合 60
ボタンつけ 60
■ 4つ穴ボタンをつけるときは 61
■ ボタン足をつけるときは 61
アイレット 62
横送り（直線・ジグザグ） 62
ファスナーつけ 63
■ つき合わせ 63
■ 脇あき 64

ぬい方早見表 67

実用模様の選び方

模様を選ぶ

このミシンには、5 種類の実用模様があります。

1 **電源スイッチを入れて、画面を指で軽く押します。**

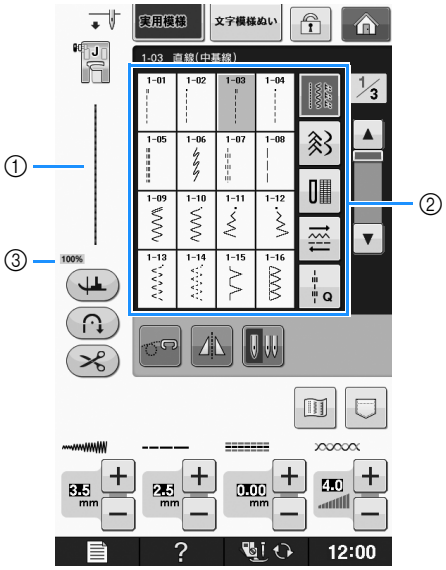
→ 設定画面で選択された設定に基づいて、「1-01 直線（左基線）」または「1-03 直線（中基線）」のいずれかが表示されます。

2 **を押して、ぬいたい模様を選びます。**

* 他の画面が表示されている場合は 実用模様 を押します。

* ▼ を押すと次のページが表示されます。

* ▲ を押すと前のページが表示されます。



① 選択した模様の表示
② 模様選択画面
③ 表示サイズ（%）

3 **ぬいたい模様のキーを押します。**

お知らせ

- 模様の詳細については、S-67 の「ぬい方早見表」を参照してください。

■ 模様を左右反転するには

実用模様の種類によっては、模様を左右反転することができます。

模様を選んだとき が点灯すれば、その模様を左右反転することができます。

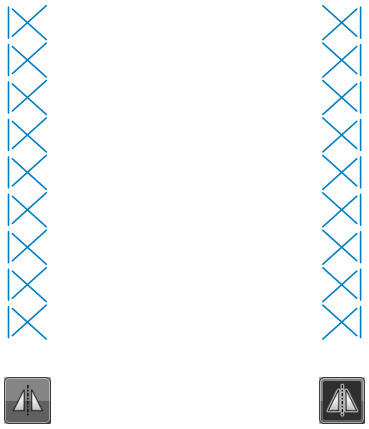
お知らせ

- 模様を選んだときに、 が灰色表示される模様は、左右に反転することはできません（ボタン穴かがり、横送り模様など）。

を押すと、模様が左右に反転します。

キーの表示が、 に変わります。

例：



■ イメージキーを使用する

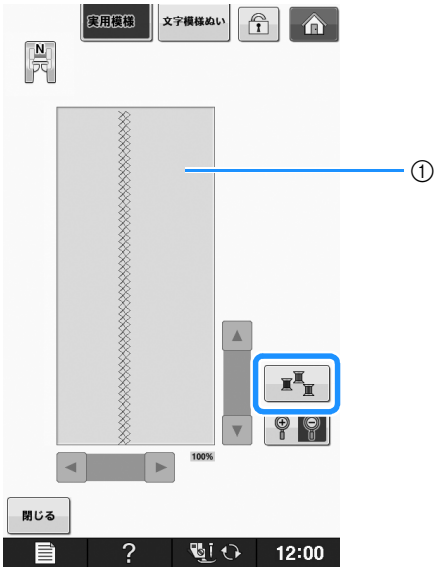
選択した模様のイメージを実寸で表示することができます。イメージの色を画面で確認し、変更することもできます。

1 を押します。

→ 選択した模様のイメージが表示されます。

2 画面に表示されている模様の糸の色を変えるには、を押します。

* 模様の拡大したイメージ表示するには、を押します。



① 模様画面

お知らせ

- を押すたびに、糸の色が変わります。

お願い

- 模様画面に表示される模様が表示エリアよりも大きく、表示しきれない場合があります。そのときは濃い色で表示されている矢印マークを押して、隠れている部分の模様が見えるように表示を動かしてください。

3 閉じる を押すと、元の画面に戻ります。

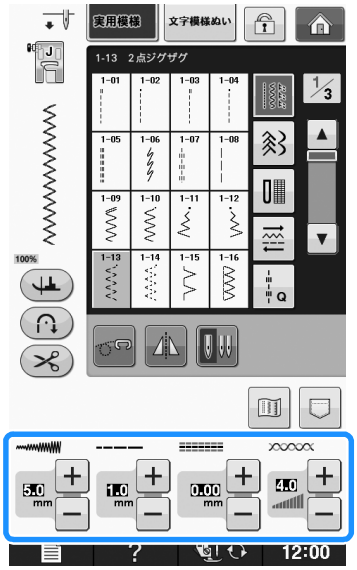
模様の設定を記憶する

ジグザグの振り幅、ぬい目の長さ、糸調子、自動糸切り、自動止めぬいなどは、あらかじめ模様ごとの標準値に設定されています。お好みの数値に設定しておきたいときは、標準の数値を変更し、模様ごとに記憶することができます。設定は、1 つの模様について 5 セットまで記憶することができます。

■ 模様の設定を記憶する

1 模様を選びます。（例：）

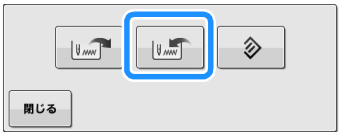
2 ジグザグの振り幅、ぬい目の長さなどをお好みの設定にします。



3 を押します。

→ メモリー機能画面が表示されます。

4 を押します。



→ 設定が保存されます。閉じる を押すと、元の画面に戻ります。

お知らせ

- ある模様の設定がすでに 5 セット記憶されている状態で、設定を記憶しようとすると、メッセージが表示されます。メッセージの指示に従って、記憶されている設定のいずれか 1 つを消去し、新しい設定を記憶してください。（S-23）

■ 記憶した設定を呼び出す

1 模様を選びます。

お知らせ
- 模様を選択すると、前回呼び出された設定が表示されます。この設定は、電源スイッチを切っても、別の模様を選択しても、そのまま残ります。

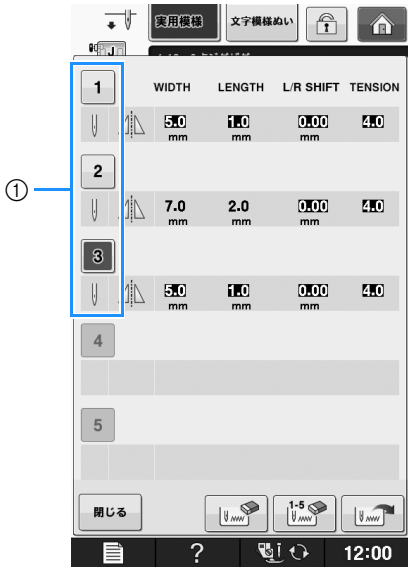
2 を押します。

→ メモリー機能画面が表示されます。

3 を押します。

4 呼び出す設定の番号の付いたキーを押します。

* 閉じる を押すと、設定を呼び出さずに元の画面に戻ります。



① 番号の付いたキー

5 を押します。

→ 設定が呼び出されます。閉じる を押すと、元の画面に戻ります。

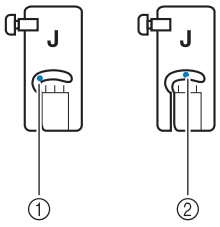
お知らせ
- ある模様の設定がすでに 5 セット記憶されている状態で、さらに設定を記憶する場合は、まず を押します。次に、削除する設定の番号が付いたキーを押します。
  を押したあと、OK を押します。
  閉じる を押してからもう一度 を押します。
  新しい設定は、直前に削除した設定の番号に保存されます。
- 1-5 を押すと、選択されている模様に保存されている設定を全て削除することができます。

いろいろなぬい方

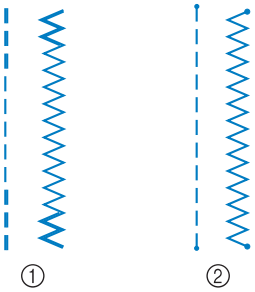
直線ぬい

ぬい模様について詳しくは、S-67 を参照ください。

ぬい方	名前	押え
1-01	直線（左基線）	J
1-02	直線（左基線）	J
1-03	直線（中基線）	J
1-04	直線（中基線）	J
1-05	3 重ぬい	J
1-06	伸縮ぬい	J
1-07	飾りぬい	N
1-08	しつけぬい	J



① 左基線
② 中基線

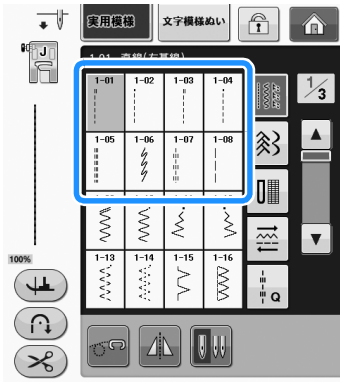


① 返しぬい
② 止めぬい

お知らせ

- 返しぬいと止めぬいについて詳しくは、S-5 の「返しぬい／止めぬいをする」を参照してください。

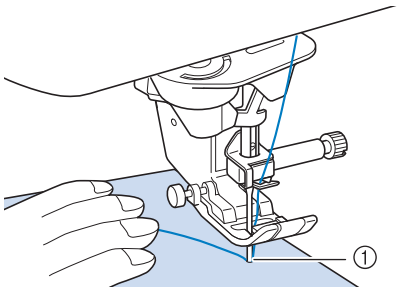
1 模様を選びます。



2 ジグザグ押え＜ J ＞を取り付けます。

* 1-07 を選択したときは、模様ぬい押え＜ N ＞を取り付けます。

3 左手で糸と布地を押さえ、右手でプーリーを手前に回して、布のぬい始めの位置に針をさします。

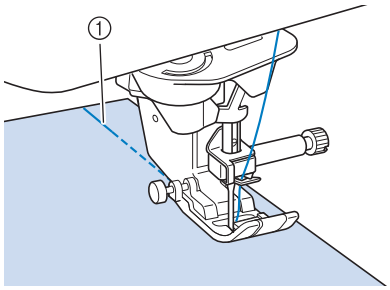


① ぬい始めの位置

4 押えを下げ、(返しぬいスイッチ) または (止めぬいスイッチ) を押しながら数針返しぬいをします。

→ 自動的に返しぬい（または止めぬい）をします。

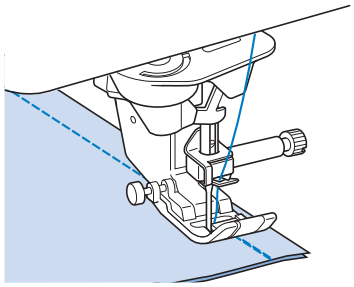
5 (スタート／ストップスイッチ) を押して、ぬい始めます。



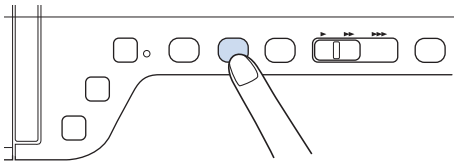
① 返しぬい
→ ゆっくりと縫製を開始します。

> **⚠ 注 意**
> • ぬうときには、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

6 ぬい終わりは、(返しぬいスイッチ) または (止めぬいスイッチ) を押しながら、数針返しぬい（または止めぬい）をします。



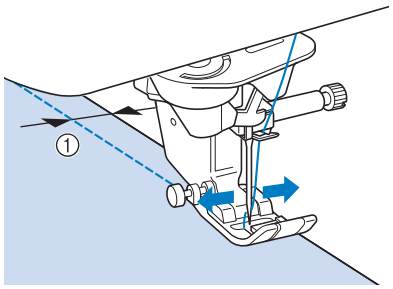
7 (糸切りスイッチ) を押して糸を切ります。



お知らせ
• 液晶画面で自動糸切りキーと自動止めぬいキーを選択しておくと、ぬい始めに (スタート／ストップスイッチ) を押したときに、ミシンが自動的に返しぬい（または止めぬい）をします。ぬい終わりは、(返しぬいスイッチ) または (止めぬいスイッチ) を押すと、返しぬい（または止めぬい）をして、自動的に糸を切ります。

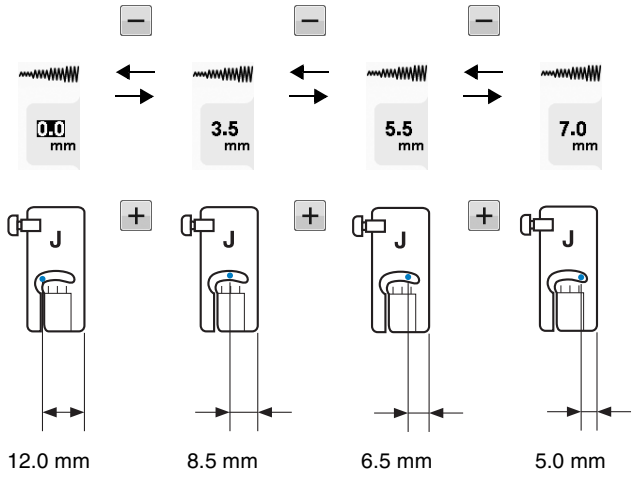
■ 針位置の変え方（左基線・中基線の模様）

左基線と中基線の直線ぬいは、振り幅の − または ＋ を押して針位置を左右に移動させることができます。押えの右端から針までの長さをぬいしろの幅に合わせると、押えの右端に布端を合わせながらぬえばよいので便利です。



① ぬいしろ幅

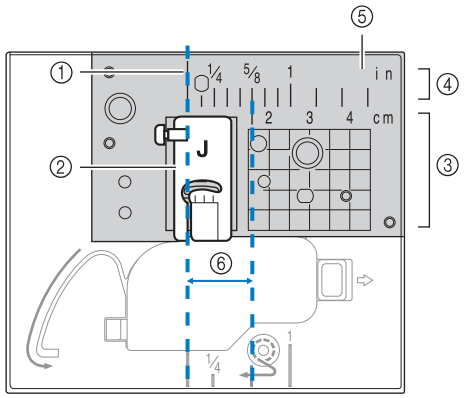
例： 左基線・中基線の模様



■ 針板や針板ふたの目盛りを基準にする場合

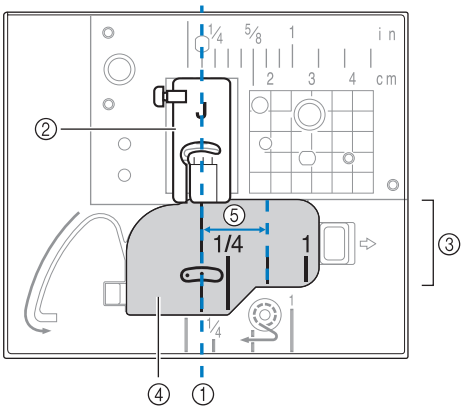
布端を、針板か針板ふたの 16mm の目盛りに合わせてぬいます。（左基線・中基線の模様を選択した場合）

左基線の模様の場合（振り幅：0.0mm）



① ぬい目
② 押え
③ cm 目盛り
④ インチ目盛り
⑤ 針板
⑥ 針板ふた（目盛り付き）

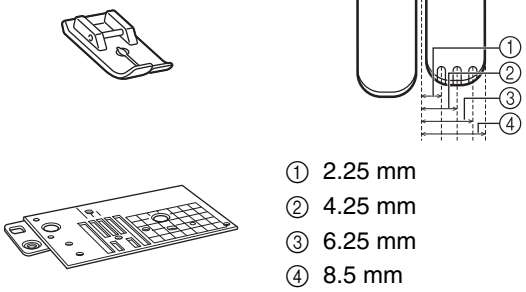
中基線の模様の場合（振り幅：3.5mm）



① ぬい目
② 押え
③ インチ目盛り
④ 針板ふた
⑤ 15mm

■ 直線針板（別売）と直線押え（別売）を使用する場合

直線針板および直線押えが使用できるのは、中基線の直線ぬいのみです。直線針板と直線押えは、薄地をぬうときや針穴に引き込まれやすい小さな布片をぬうときに使用してください。
直線押えは、薄地のぬいちぢみを防ぐのに適しています。押えの小さなミゾで布をしっかり押さえてぬいます。

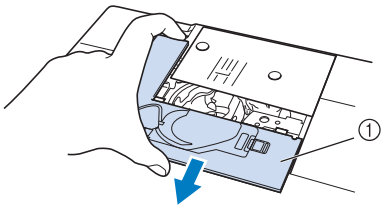


① 2.25 mm
② 4.25 mm
③ 6.25 mm
④ 8.5 mm

⚠ 注 意

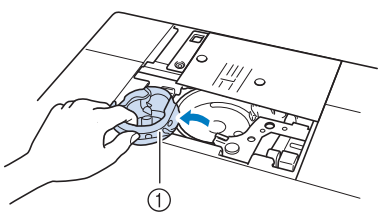
- 直線押えは必ず直線針板と組み合わせて使用してください。

1. （針上下スイッチ）を押して針を上げ、電源スイッチを切るか を押して、すべてのキーとスイッチをロックします。
2. 針と押えホルダーを取り外します。（「基本機能編」の「針の交換」および「押えの交換」参照）
3. 補助テーブルを取り外します。
4. 針板カバーを手前に引いて外します。



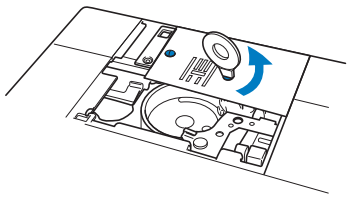
① 針板カバー

5. 内かまを取り出します。

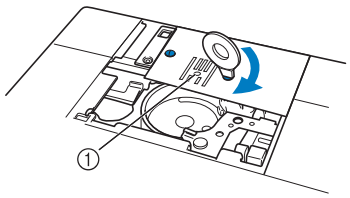


① 内かま

6 付属のネジ回しを使って標準針板を外します。



7 直線針板をはめ込み、付属のネジ回しでネジをしめます。



① 丸い穴

お願い
- 針板の 2 つのネジ穴を、針板取り付け部の 2 つの穴と合わせてください。付属のネジ回しでしっかりとネジをしめてください。

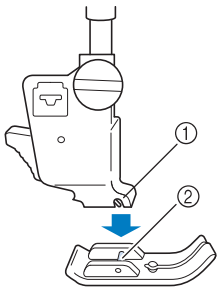
8 内かまを正しい位置に戻し、針板カバーを取り付けます。

9 直線ぬいのいずれかを選びます。

お知らせ
- 直線針板を使用すると、直線ぬいはすべて中基線でぬわれます。振り幅設定のキーを押しても、針位置を変えることはできません。
- 内かまを元の位置に戻す前に、必ず針板が正しく取り付けられているかを確認してください。
- 直線針板を使用すると、L/R シフト設定は変更することができません。

⚠ 注意
- 直線ぬい以外の模様を選択すると、エラーメッセージが表示されます。
- プーリーをゆっくりと手前に回し、針が直線押えと直線針板に当たらないことを確認してから、(スタート／ストップスイッチ) を押してください。

10 針と直線押えを取り付けます。



① ミゾ
② ピン

11 ぬい始めます。

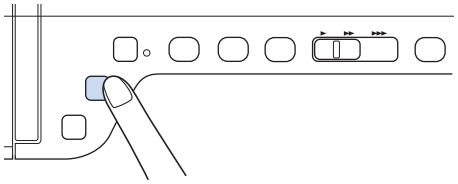
* ぬい終わったら、必ず直線針板と直線押えを外し、標準針板、針板カバー、ジグザグ押え＜J＞を取り付けてください。

お知らせ
- ぬいちぢみを起こしやすい薄地には、11 番の針を使用し、ぬい目を短くします。厚地には、14 番の針を使用し、ぬい目を長くします。

■ しつけぬい

1 1-08 を選び、ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

2 ぬい始めに、(返しぬいスイッチ) を押して止めぬいをします。

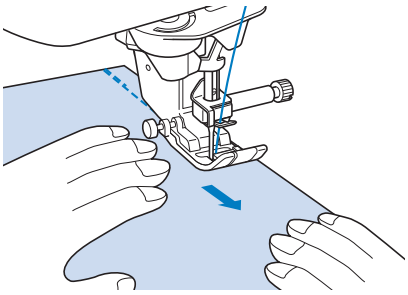


お知らせ
- しつけぬいでギャザーをぬうときはぬい始めに止めぬいをしないでください。押えを上げてプーリーを手前に回し、下糸を引き出して、上糸とそろえて押えの下を通し、ミシンの後ろ側へ引き出しておいてください。
- ぬい始めに止めぬいをしない場合は、押えを上げプーリーを回して下糸を引き上げ、上糸と下糸を後側に引き出します。
  ぬい目は、0.5cm ～ 3cm の範囲で設定できます。



① 0.5cm ～ 3cm

3 布を軽く押えながらぬいます。



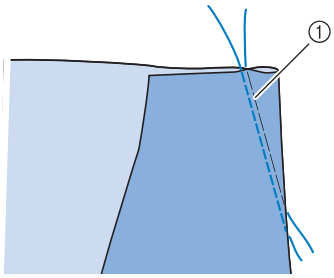
4 ぬい終わりに、(返しぬいスイッチ) を押して止めぬいをします。

ダーツ

1 1-01 を選び、ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

2 ぬい始めに (返しぬいスイッチ) を押して返しぬいをし、幅の広い方から先端に向かって布地を伸ばさないようにぬいます。

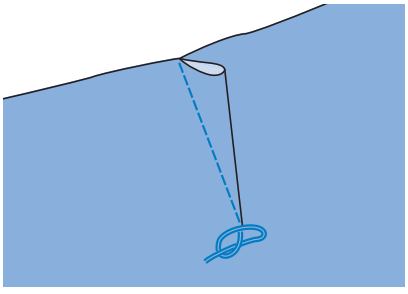
* あらかじめ自動止めぬいを設定しておくと、止めぬいをしてからぬい始めます。



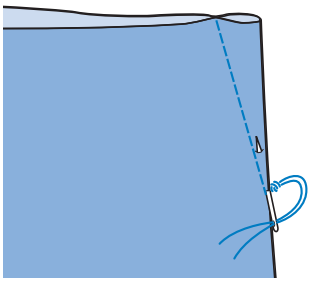
① しつけ

3 ぬい終わりに、上糸と下糸を約 5cm 残して切り、2 本一緒に結びます。

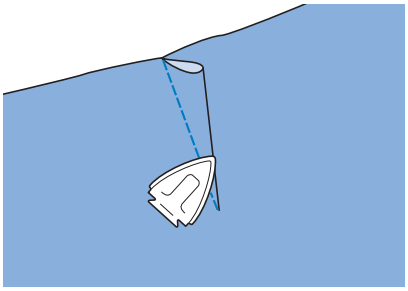
* ぬい終わりには返しぬいをしないように注意してください。



4 ぬい針で糸端をダーツの中にぬい込みます。



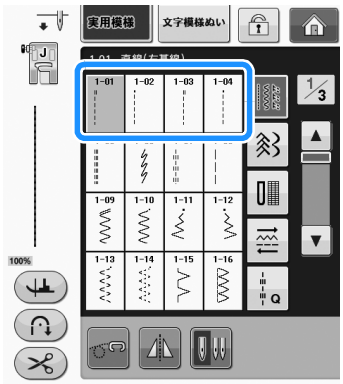
5 アイロンでダーツを片側に倒します。



ギャザー

ギャザースカートのウェストや袖などに使います。

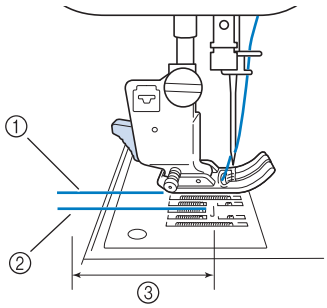
1 直線ぬいを選び、ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。



2 ぬい目の長さを 4.0mm に、糸調子を 2.0 (ゆるめ) 前後に設定します。

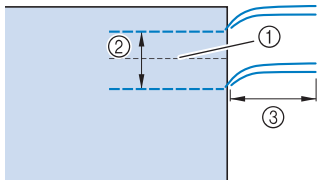
* ? を押した後、ぬい方 を押し、ギャザー を選んだ場合、自動的にぬい目は 4.0mm に、糸調子は 2.0 に設定されます。

3 上糸と下糸を約 5cm 引き出しておきます。(「基本機能編」の「下糸を引き出す」参照)



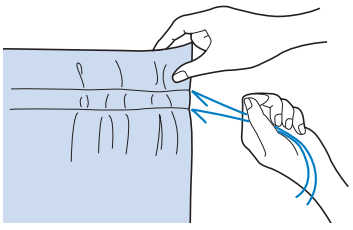
① 上糸
② 下糸
③ 約 5cm

4 出来上がり線をはさんで平行に 2 本ぬい、上糸と下糸を端から 5cm 残して切ります。

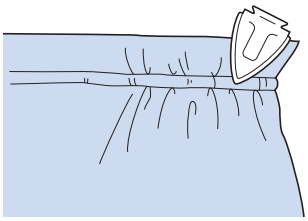


① 出来上がり線
② 1.0 ～ 1.5cm
③ 約 5cm

5 下糸を引っ張りながらギャザーを寄せ、糸を結びます。



6 ギャザーをととのえ、ぬいしろ部分にアイロンをかけます。



7 出来上がり線をぬって、しつけを取ります。

折り伏せぬい

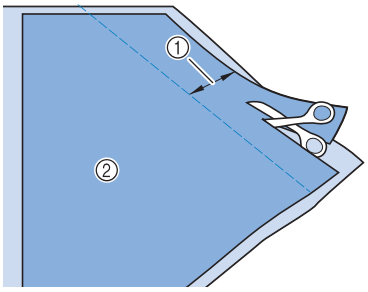
ぬいしろを丈夫にし、きれいに端の始末をしたいときに使います。

1 

を選び、ジグザグ押え＜ J ＞を取り付けます。

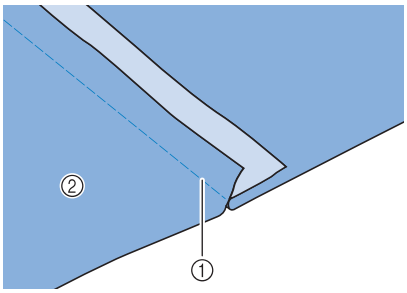
2 布地を中表にして出来上がり線をぬい、裏側のぬいしろを半分切り落とします。

* あらかじめ自動糸切りと自動止めぬいを設定しておくと、ぬい始めに自動的に止めぬいをします。ぬい終わりに、
(返しぬいスイッチ) を押すと、自動的に止めぬいをして糸を切ります。



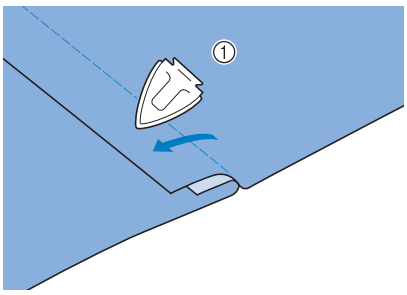
① 約 1.2cm
② 裏

3 出来上がり線を軸に布地を広げます。



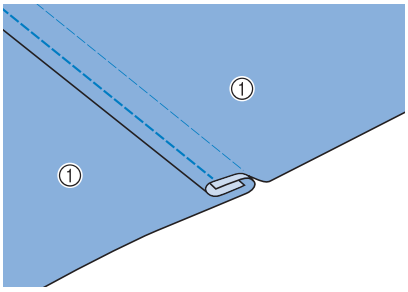
① 出来上がり線
② 裏

4 切り落としたぬいしろ側へ 2 枚一緒に倒してアイロンをかけます。



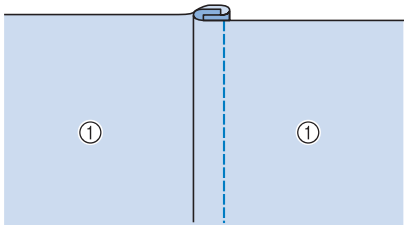
① 裏

5 幅の広いぬいしろで幅の狭いぬいしろをくるみ、折り山の端をぬいます。



① 裏

ぬい上がり

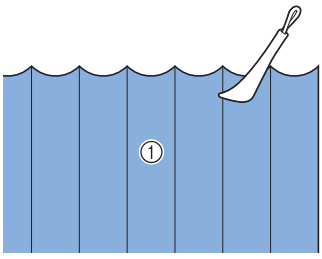


① 表

ピンタック

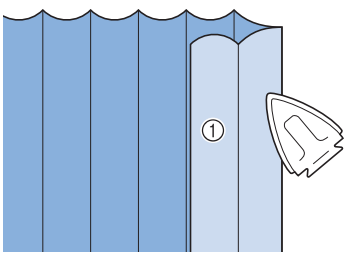
ブラウスなどの装飾に使います。

1 布地の裏からへらで折り山に印をつけます。



① 裏

2 表に返し、折り山をアイロンで押さえます。



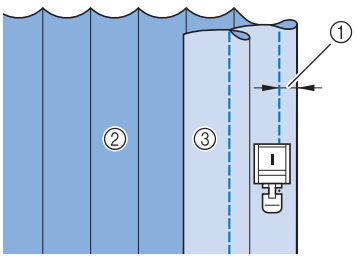
① 表

3 

を選び、片押え＜I＞を取り付けます。

4 折り山をぬいます。

* あらかじめ自動糸切りと自動止めぬいを設定しておくと、ぬい始めに自動で止めぬいをします。ぬい終わりに、(返しぬいスイッチ) を押すと、自動的に止めぬいをして糸を切ります。

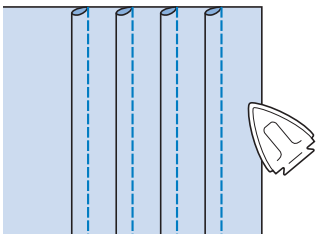


① ピンタック幅

② 裏

③ 表

5 アイロンで片側に倒します。



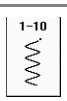
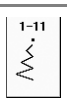
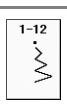
ジグザグぬい

ジグザグぬいは、たち目かがりやアップリケ、パッチワークなどいろいろな用途に使えて便利です。

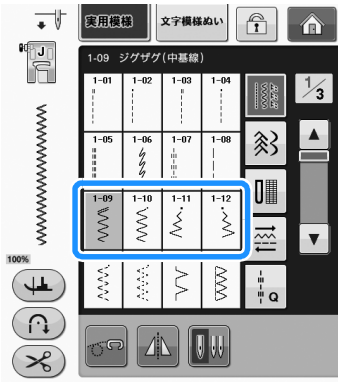
模様を選び、ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

返しぬいと止めぬいについて詳しくは、S-5 を参照ください。

ぬい模様について詳しくは、S-67 を参照ください。

ぬい方	名前	押え
	ジグザグぬい（中基線）	
	ジグザグぬい（中基線）	
	ジグザグぬい（右基線）	
	ジグザグぬい（左基線）	

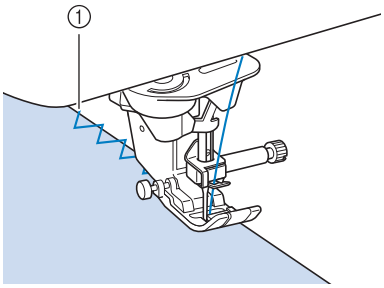
1 模様を選びます。



2 ジグザグ押え＜Ｊ＞を取り付けます。

■ たち目かがり（ジグザグぬい）

針が布端よりわずかに外側に落ちるようにぬいます。



① 針落ち位置

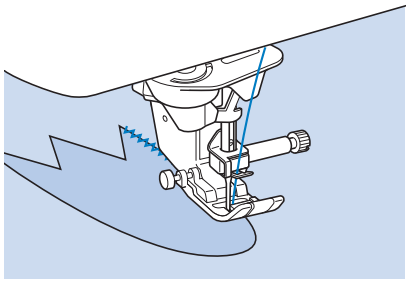
⚠ 注 意

- 振り幅を調節したときはプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

■ アップリケ（ジグザグぬい）

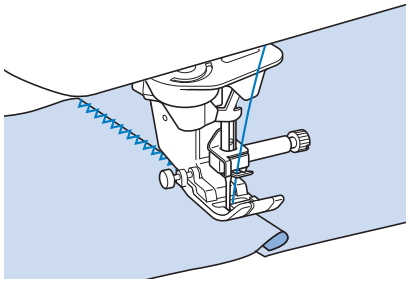
アップリケ布にスプレーのりを薄く付けるか、しつけをかけてからぬいます。

＊ 針がアップリケ布の端よりわずかに外側に落ちるようにぬいます。



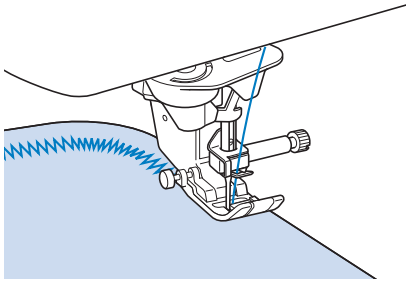
■ パッチワーク（クレイジーキルト）

上側の布地の端を折り、下側の布地に重ねて両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。



■ カーブをぬう場合（ジグザグぬい）

ぬい目の長さを少し短めに設定し、カーブの外側に針をさしたまま押えを上げて少しずつ方向を変えながらぬうと、きれいなぬい目ができます。

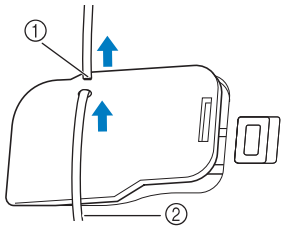


■ コードガイドふたを使用する（ジグザグぬい）

1 針板ふたを外します。(「基本機能編」の「下糸をセットする」参照)

2 コードガイドふたの穴に芯ひもを上から下へ通し、切り欠き部から引き出します

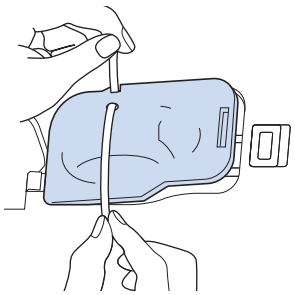
* 芯ひもは、直径 1.5mm 以下のものを使用してください。



① 切り欠き部
② 芯ひも

3 コードガイドふたをカチッと音がするまで押して閉め、芯ひもが送られるようにします。

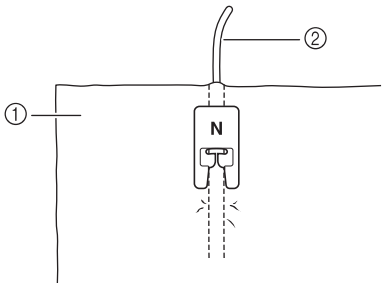
* 芯ひもを引いて、ひっかかりがないことを確認してください。



4 ジグザグの振り幅を2.0mm～2.5mmに設定します。

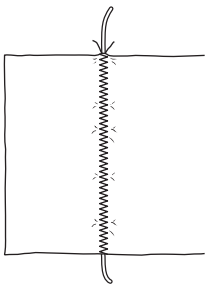
5 模様ぬい押え＜ N ＞を取り付けます。

6 芯ひもを、押えの下に位置するようにミシンの後ろ側へ引き出します。その上に布地の表面を上にして置きます。



① 布地（表）
② 芯ひも

7 押えを下げ、ぬい始めます。



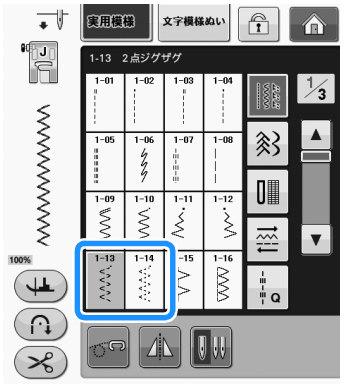
点線ジグザグぬい

点線ジグザグぬいは、ゴムひもつけ、たち目かがりやつくろいぬいなど幅広い用途に使用します。

ぬい模様について詳しくは、S-67 を参照ください。

ぬい方	名前	押え
	2 点ジグザグぬい	
	3 点ジグザグぬい	

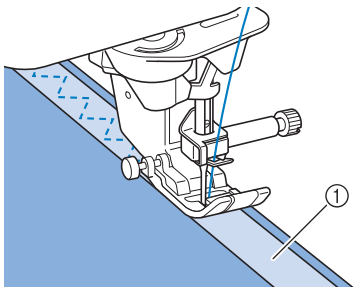
1 模様を選びます。



2 ジグザグ押え＜ J ＞を取り付けます。

■ ゴムひもつけ

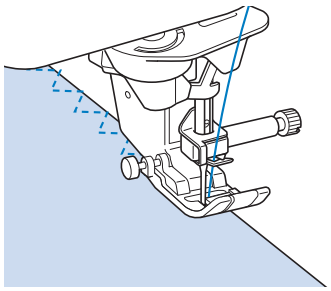
ゴムひもを前後に伸ばしながらぬいます。



① ゴムひも

■ たち目かがり

伸びる布地をぬうときに使います。針が布端よりわずかに外側に落ちるようにぬいます。



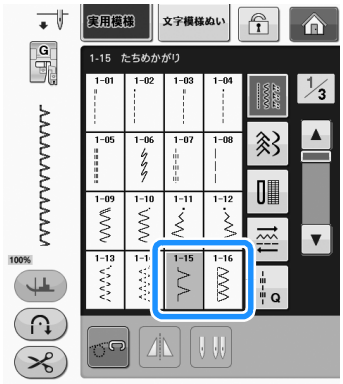
たち目かがり

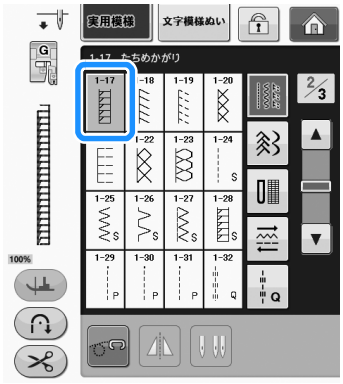
ズボン、スカートなどのぬいしろの始末や、たち目の始末に使います。模様によってたち目かがり押え＜ G ＞、ジグザグ押え＜ J ＞、サイドカッター押え（別売）を使います。

■ たち目かがり押え＜ G ＞を使うたち目かがり

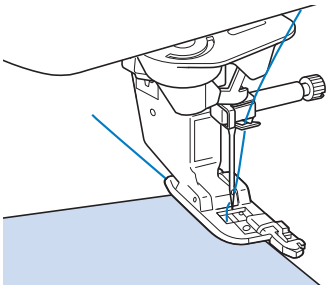
ぬい方	名前	押え
	たち目かがり	
	たち目かがり	
	たち目かがり	

1 模様を選び、たち目かがり押え＜ G ＞を取り付けます。

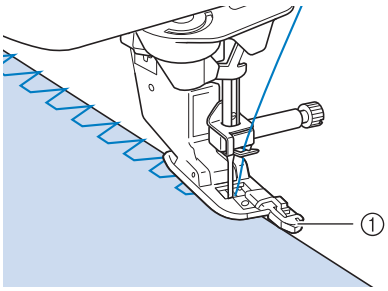




2 押えのガイドに布端を当て、押えレバーを下げます。



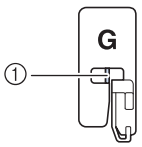
3 布端をガイドに当てながら、ガイドにそってぬいます。



① ガイド

⚠ 注意

- 振り幅を調節したときはプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が押えに当たると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります



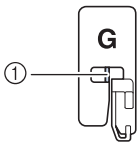
① 針が当たらないように注意してください。

- 押えを最上位置まで上げると、針が押えに当たる可能性があります。

4 ぬい終わったらミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

お願い

- ぬい終わった後は、布地を後ろに引いてください。前方向や横方向に布地を引っ張ると、押えのピンが破損するおそれがあります。



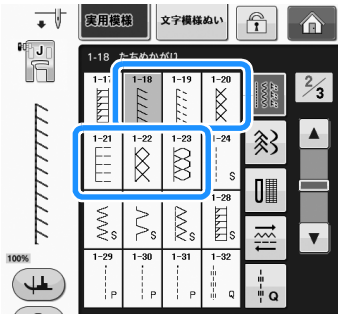
① ピン

■ ジグザグ押え＜J＞を使うたち目かがり

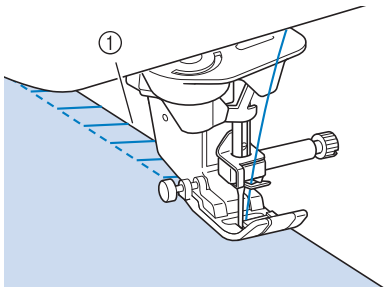
ぬい模様について詳しくは、S-67 を参照ください

ぬい方	名前	押え
1-18	たち目かがり	J
1-19	たち目かがり	J
1-20	たち目かがり	J
1-21	たち目かがり	J
1-22	たち目かがり	J
1-23	たち目かがり	J

1 模様を選び、ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。



2 針が布端よりわずかに外側に落ちるようにぬいます。



① 針落ち位置

お願い
- L/R シフト設定で布地の位置を細かく調整できます。ぬう前に実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしてください。

お知らせ
- 伸びる布地は、押え圧を弱くするときれいに仕上がります。

キルトぬい

仕上がりのきれいなキルトが簡単にできます。キルトぬいでは、ニーリフターやフットコントローラーを使用すると、両手が使えて便利です（S-5 の「フットコントローラー（別売）を使用する」および S-15 の「ニーリフターを使用する」を参照）。

Q-01 から Q-30 までの 30 模様のキルト模様と、模様キーの模様イメージの右下に「P」あるいは「Q」が表示される実用模様がキルトぬいに最適です。「P」はピーシング、「Q」はキルトぬいに適していることを示しています。

ぬい模様について詳しくは、S-67 を参照ください。

ぬい方	名前	押え	
			C
Q-01	ピーシング直線（中基線）	J	C
Q-02	ピーシング直線（右基線）	J	C
Q-03	ピーシング直線（左基線）	J	C
Q-04	手ぬい風直線（中基線）	J	C
Q-05	しつけぬい（中基線）	J	C
Q-06	伸縮ぬい	J	C
Q-07	ジグザグ	J	C
Q-08	ジグザグ（右基線）	J	C
Q-09	ジグザグ（左基線）	J	C
Q-10	2 点ジグザグ	J	C

ぬい方	名前	押え	
Q-11	3 点ジグザグ	J	
Q-12	アップリケ	J	
Q-13	シェルタック	J	
Q-14	アップリケ	J	
Q-15	キルティング模様	J	
Q-16	たち目かがり	J	
Q-17	ゴムひもつけ	J	
Q-18	飾りぬい	N	
Q-19	ファゴティング	J	
Q-20	ファゴティング	J	
Q-21	つきあわせ	J	
Q-22	つきあわせ	J	
Q-23	スモッキング	J	
Q-24	飾りぬい	J	
Q-25	飾りぬい	N	
Q-26	飾りぬい	J	
Q-27	飾りぬい	N	
Q-28	飾りぬい	N	

ぬい方	名前	押え	
Q-29	たち目かがり	J	
Q-30	たち目かがり	J	
1-29	ピーシング直線（右基線）	J	
1-30	ピーシング直線（中基線）	J	C
1-31	ピーシング直線（左基線）	J	
1-32	手ぬい風直線	J	
1-33	ジグザグ	J	
1-34	アップリケ	J	
1-35	キルティング模様	J	

お知らせ

- キルトぬいカテゴリーの模様（Q-02 ～ Q-30）は、他のカテゴリーの同じ模様よりも振り幅を細かく設定できます。
  たとえば、Q-03 は 57 段階の針落ち位置を設定でき、Q-19 では 29 段階の振り幅を設定できます。
- 「Q」のつくキルトぬい模様のみ、細かく振り幅を設定できます。
- フリーモーションキルト押え＜ C ＞は別売です。

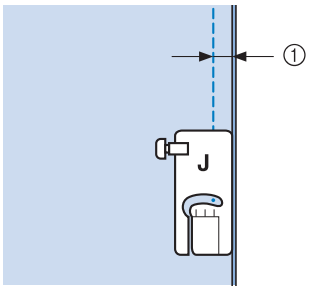
■ ピーシング

ピーシングとは、布と布をぬい合わせることをいいます。正確にピーシングを行うために、ぬいしろを 7.0mm つけて裁断してください。

1 Q-02 または Q-03 を選び、ジグザグ押え＜ J ＞を取り付けます。

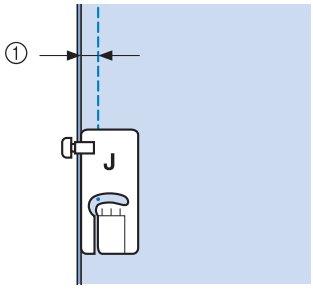
2 押えの端に布端を合わせてぬいます。

* ぬいしろが右側のときは、押えの右側に布端を合わせ、の模様でぬいます。



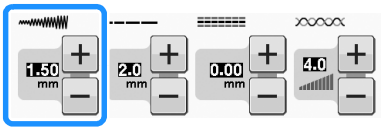
① 7.0mm

* ぬいしろが左側のときは、押えの左端に布端を合わせ、の模様でぬいます。



① 7.0 mm

* 針位置を変えたいときは、振り幅の + − を押して調節してください。

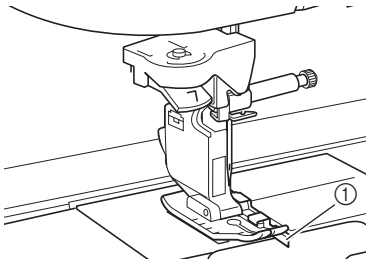


お知らせ
- 直線ぬい（中基線）を使うとぬいやすくなります。S-24 を参照してください。

■ ガイド付ピーシング押え（別売）を使う

このピーシング押えを使うと、6.4mm または 3.2mm のぬいしろで正確に仕上げできます。キルトのピーシングや、飾りぬいに使うことができます。

1 を押し、次にガイド付ピーシング押えを取り付けます。

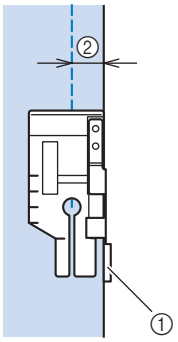


① ガイド

注意
- ガイド付きピーシング押えを使用する場合は、必ず（中基線）を選んでください。違う模様を使用すると針折れやけがの原因になります。
- プーリーを手前に回し、針と押えが当たらないことを確認してから（スタート / ストップスイッチ）を押してください。

2 押えのガイドとしるしを使うと、正確なぬいしろで仕上がります。

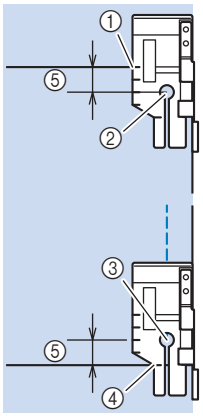
ぬいしろ 6.4mm のピーシング
布地の端をガイドに当てながら、ぬいます。



① ガイド
② 6.4mm

お知らせ
- 正確な位置合わせについては、S-26 の「針板や針板ふたの目盛りを基準にする場合」を参照してください。

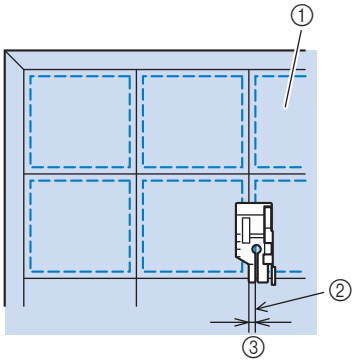
正確なぬいしろで仕上げる場合
布地の端から 6.4mm の位置で、ぬい始め、ぬい終り、布地の回転を行います。



① このしるしを、ぬい始めの布地の端に合わせます。
② ぬい始め
③ ぬい終り
④ 布地のぬい終り、または布地を回転する側
⑤ 6.4mm

お知らせ
- ピボットの詳細は、S-15 の「ピボット」を参照してください。

3.2mm の飾りぬいキルト
布地の端を押えの左側に合わせて、ぬいます。

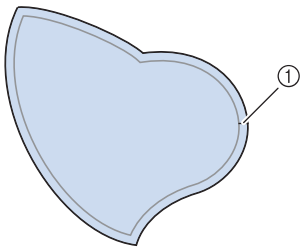


① 表
② ぬい目
③ 3.2mm

■ アップリケ

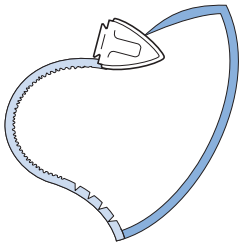
上糸にナイロン透明糸を使うと、ぬい目を目立たなく仕上げることができます。

1 アップリケ布に3～5mmのぬいしろを付けて裁ちます。

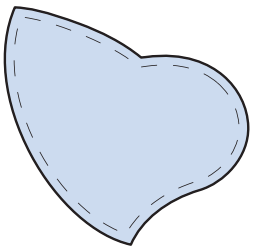


① ぬいしろ（3 ～ 5mm）

2 アップリケ布の裏に厚紙の型紙を置き、アイロンでぬいしろを内側に折ります。カーブの部分は、必要に応じて切り込みを入れます。

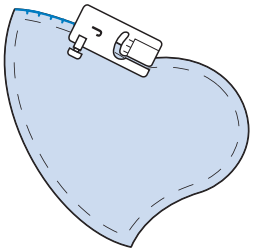


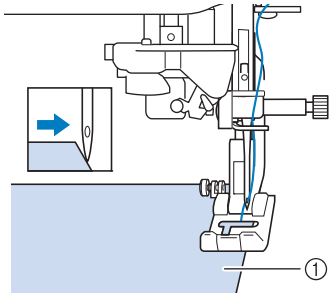
3 アップリケ布を表に返し、型紙をまち針またはしつけ糸で止めます。

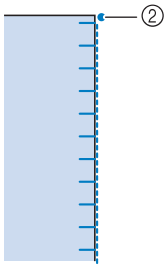


4  を選び、ジグザグ押え＜ J ＞を取り付けます。

5 ジグザグぬいを使用してアップリケをぬい付けます。針が落ちる位置を確認し、針がアップリケ布の端よりわずかに外側に落ちるようにまわりをぬいます。







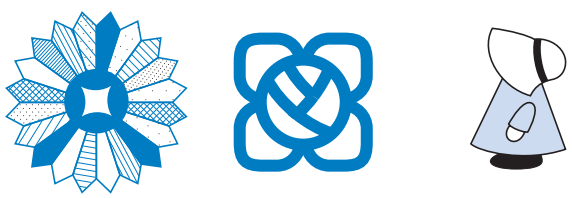
① アップリケ布
② 針落ち位置

⚠ 注 意

- ぬうときには、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

アップリケぬいを使うと、下図のような図案のアップリケができます。

(参考例)



① ドレスデンプレート
② ステンドグラス
③ サンボネットスーちゃん

■ サテンぬいのキルト

フットコントローラー（別売）を使用してぬいます。(スピードコントロールレバー）で振り幅を調節することにより、微妙に振り幅を変化させながらサテン模様をぬうことができます。

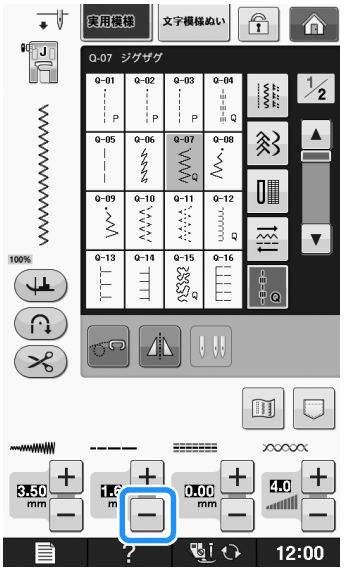
お知らせ

- フットコントローラージャックにフットコントローラーが差し込まれているときは、(スタート／ストップスイッチ）は使用できません。

1 フットコントローラーを取り付けます。(S-5 参照)

2 Q-07 を選び、ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

3 「ぬい目の長さ」の − を押して、ぬい目を細かくします。



お知らせ

- ぬい目の長さを 0.3 ～ 0.5mm に設定すると、きれいなサテン模様になります（ぬい目の設定は、布地の種類や糸の太さによって異なります）。

4 を押します。

* (スピードコントロールレバー）をジグザグの振り幅調節レバーに切り替えます。

5 「振り幅コントロール」を押して、「ON」にします。



お知らせ

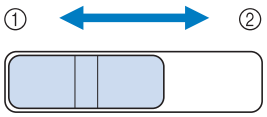
- 振り幅は、(スピードコントロールレバー) で調節します。ぬう速さは、フットコントローラーで調節します。

6 閉じる を押します。

→ 元の画面に戻ります。

7 ぬい始めます。

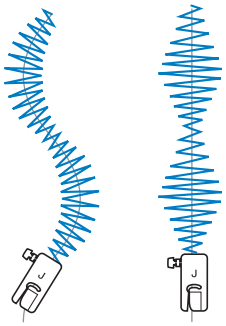
* ぬいながら(スピードコントロールレバー) を動かし、振り幅を調節してください。レバーを左に動かすと、振り幅は狭くなり、右に動かすと、振り幅は広くなります。振り幅は、針の中基線を中心として左右均等に変わります。



① 狭くなる

② 広くなる

例： 振り幅の調整



* ぬう速度は、フットコントローラーで調節します。

8 ぬい終わったら、「振り幅コントロール」を「OFF」に戻します。

■ フリーモーションキルト

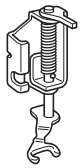
フリーモーションキルトぬいの場合、 を押して送り歯を下げると、布を自由に動かせます。ミシンをフリーモーションモードにすると、押えがフリーモーションぬいに最適な高さになります。フットコントローラー（別売）を取り付けて、一定の速度でぬうことをお勧めします。ぬう速度は、ミシンの(スピードコントロールレバー) で調節できます。

⚠ 注意

- **フリーモーションキルトでは、ぬう速度に合うように布を動かしてください。無理に速く布地を動かすと、針が折れたり、他の損傷が起きるおそれがあります。**

オープントゥキルト押え＜O＞を使用する

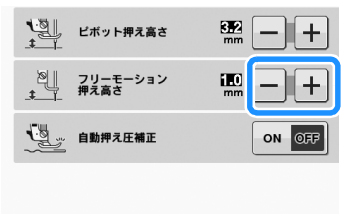
オープントゥキルト押え＜O＞は、ジグザグ模様や飾り模様でフリーモーションキルトをぬう場合や、厚さが均一ではない布地にフリーモーションキルトの直線ぬいをする場合に使用します。オープントゥキルト押え＜O＞を使用すると、いろいろな模様をぬうことができます。使用できる模様については、S-67 の「ぬい方早見表」を参照してください。



オープントゥキルト押え＜O＞

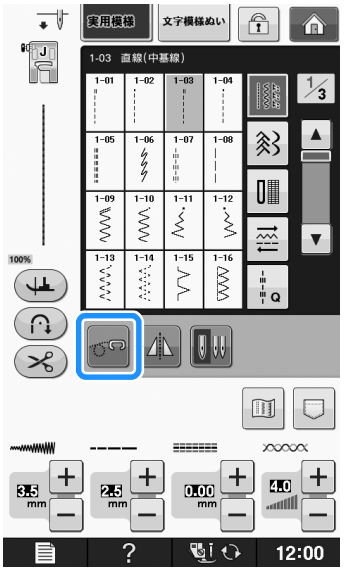
お知らせ

- ぬい始めるときに内蔵されたセンサーが布地の厚さを感知し、設定画面で指定した高さにキルト押えが上がります。 を押し、「フリーモーション押え高さ」の−または＋を押して、キルト押えを上げる高さを選びます。たとえば、やわらかい布地をぬう場合は、＋を押して高い数値に設定すると、より簡単にぬうことができます。



- バランスのとれた糸調子でぬうには、上糸の調節（S-12 参照）が必要になります。ぬい始める前に、使用する布地と同質の布地で試しぬいをしてください。

1 を押して、ミシンをフリーモーションモードに設定します。

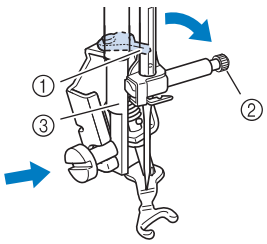


→ 表示が に変わり、キルト押えは、フリーモーションぬいに必要な高さに上がります。

2 模様を選びます。

3 押えホルダーを外します。

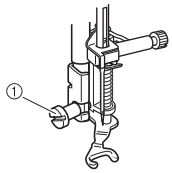
4 オープントゥキルト押え＜O＞のピンを針のとめネジの上に配置して、左下を押え棒に合わせて、オープントゥキルト押え＜O＞を取り付けます。



① ピン
② 針のとめネジ
③ 押え棒

お願い
- キルト押えが傾斜していないことを確認してください。

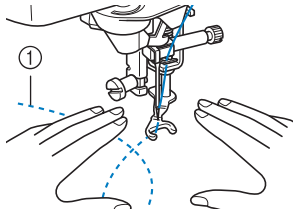
5 右手でキルト押えを持ちながら、左手で押えホルダーのネジを付属のネジ回しでしめます。



① 押えホルダーのネジ

⚠ 注意
- ネジをしめるときは、必ず付属のネジ回しを使用してください。ネジを確実にしめないと針がキルト押えに当たり、曲がったり折れたりするおそれがあります。

6 両手で布地を引っ張り、一定の速度で布地を送り、ぬい目の長さが均一に約 2.0 ～ 2.5mm になるようにぬいます。



① ぬい目

7 を押して、フリーモーションモードを解除します。

→ プーリーを手前に回して送り歯を上げてください。

お知らせ
- 最初はきれいに仕上がらないことがありますが、きれいな仕上がりになるように練習してください。

フリーモーションキルト押え＜C＞（別売）を使用する

フリーモーションキルト押え＜C＞は、直線針板（別売）を使用するフリーモーションぬいに使います。



フリーモーションキルト押え＜C＞

⚠ 注 意

- フリーモーションキルト押え＜ C ＞を使用する場合、必ず直線針板を使用し、針位置を中央にしてぬうようにしてください。針が中央（中基線）以外の位置にあると、針が折れて、けがの原因となります。

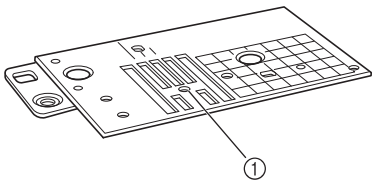
お知らせ

- ぬい始めるときに内蔵されたセンサーが布地の厚さを感知し、設定画面で指定した高さにキルト押えが上がります。[ ]を押し、「フリーモーション押え高さ」の[−]または[＋]を押して、キルト押えを上げる高さを選びます。たとえば、やわらかい布地をぬう場合は、[＋]を押して高い数値に設定すると、より簡単にぬうことができます。



- バランスのとれた糸調子でぬうには、上糸の調節（S-12 参照）が必要になります。ぬい始める前に、使用する布地と同質の布地で試しぬいをしてください。

1 直線針板（別売）を取り付けます。（S-26 参照）



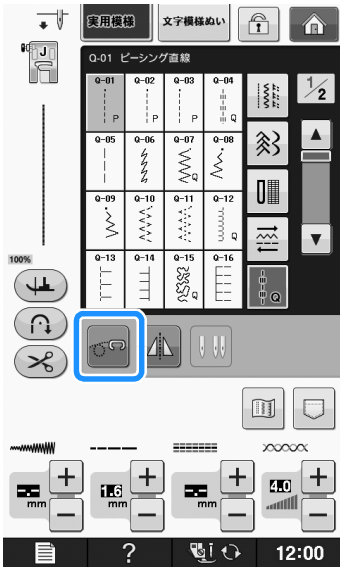
① 丸穴

お知らせ

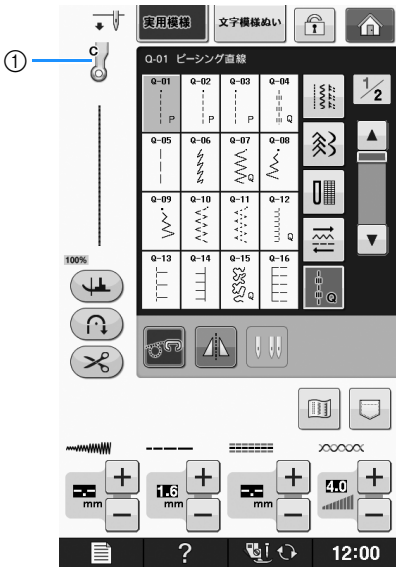
- この針板の穴が丸穴であることに注意してください。

2 [Q-01]または[1-30]を選びます。

3 [ ]を押して、ミシンをフリーモーションモードに設定します。



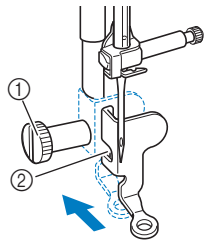
→ 表示が[ ]に変わり、キルト押えはフリーモーションぬいに必要な高さに上がり、送り歯は下がります。



① フリーモーションキルト押え＜ C ＞

→「Q-01」または「1-30」の模様が選択されている間は、フリーモーションキルト押え＜ C ＞が画面の左上に表示されます。

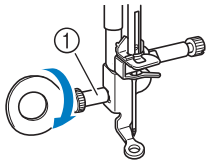
4 押えホルダーのネジをフリーモーションキルト押え＜C＞のミゾに合わせて、前面から取り付けます。



① 押えホルダーのネジ
② ミゾ

お願い
- フリーモーションキルト押え＜C＞が正しく取り付けられ、傾斜していないことを確認してください。

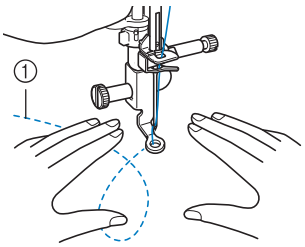
5 右手でフリーモーションキルト押え＜C＞を持ちながら、左手で押えホルダーのネジを付属のネジ回しで閉めます。



① 押えホルダーのネジ

⚠ 注意
- ネジをしめるときは、必ず付属のネジ回しを使用してください。ネジを確実にしめないと針がキルト押えに当たり、曲がったり折れたりするおそれがあります。

6 両手で布地を引っ張り、一定の速度で布地を送り、ぬい目の長さが均一に約 2.0 ～ 2.5mm になるようにぬいます。



① ぬい目

7 を押して、フリーモーションモードを解除します。

→ プーリーを手前に回して送り歯を上げてください。

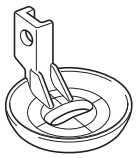
8 ぬい終わった後は、必ず直線針板とフリーモーションキルト押え＜C＞を取り外し、標準針板と針板ふたを取り付けてください。

お願い
- オープントゥキルト押え＜O＞は、直線針板を組み合わせて使うこともできます。厚さが均一ではない布地のフリーモーションぬいにオープントゥキルト押え＜O＞を使うことをお勧めします。
- 直線針板を使用するときは、直線ぬい模様が全て中基線になります。振り幅の設定でも、針落ち位置を変えることはできません。

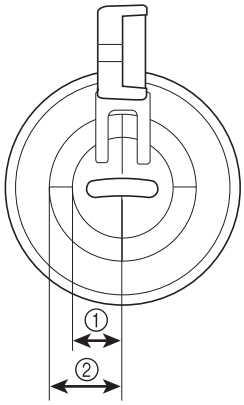
お知らせ
- 通常の縫製時は、送り歯を上げて使用します。
- 最初はきれいに仕上がらないことがありますが、きれいな仕上がりになるように練習してください。

■ エコーキルト押え＜E＞（別売）を使用して、エコーキルトをぬう

モチーフの周囲を等間隔で幾重にもキルトする方法を、エコーキルトと呼びます。モチーフに沿って波状に広がる線が、エコーキルトの特徴です。
エコーキルトにはエコーキルト押え＜E＞を使用します。押えの寸法を参考にして、モチーフの周囲を一定の間隔でぬいます。
フットコントローラー（別売）を取り付けて、一定の速度でぬうことをお勧めします。



エコーキルト押え＜E＞の寸法



① 6.4mm
② 9.5mm

⚠ 注 意

- フリーモーションキルトでは、布を送る速度がぬう速度に合うように調節します。ぬう速度よりも速く布地を動かすと、針が折れたり、他の損傷が起きるおそれがあります。

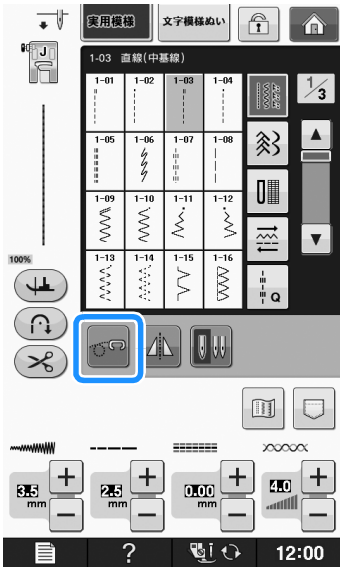
お知らせ

- ぬい始めるときに、内蔵されたセンサーが布地の厚さを感知し、設定画面で指定した高さにキルト押えが上がります。[■] を押し、「フリーモーション押え高さ」の [−] または [+] を押して、キルト押えを上げる高さを選びます。たとえば、やわらかい布地をぬう場合は、[+] を押して高い数値に設定すると、より簡単にぬうことができます。



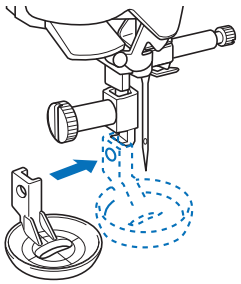
- バランスのとれた糸調子でぬうには、上糸の調節（S-12 参照）が必要になります。キルト用布地で試しぬいをしてください。

1. [1-03] を選択します。
2. [ ] を押して、ミシンをフリーモーションモードに設定します。

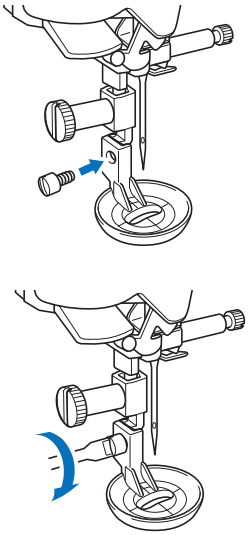


→ 表示が [ ] に変わり、エコーキルト押えは、フリーモーションぬいに必要な高さに上がり、送り歯が下がります。

3. 押えホルダーを取り付けます。（「基本機能編」の「付属のアダプターを使用して別売の押えを取り付ける」参照）
4. エコーキルト押え＜Ｅ＞の穴と押え棒を合わせて、エコーキルト押え＜Ｅ＞を押え棒の左側に置きます。



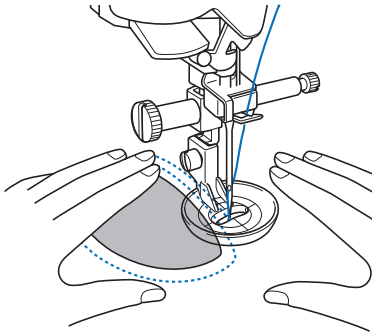
5. 付属のドライバーでネジをしめます。

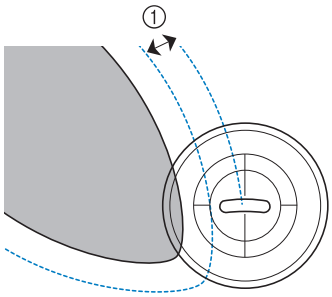


⚠ 注 意

- ネジをしめるときは、必ず付属のドライバーを使用してください。ネジを確実にしめないと針がキルト押えに当たり、曲がったり折れたりするおそれがあります。

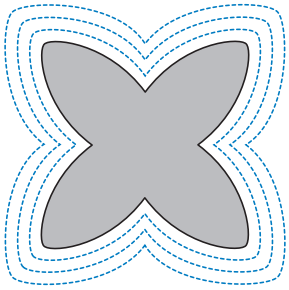
6 エコーキルト押え＜E＞の寸法を参考にして、モチーフの回りをぬいます。





① 6.4mm

完成した作品



7 を押して、フリーモーションモードを解除します。

→ プーリーを手前に回して送り歯を上げてください。

まつりぬい

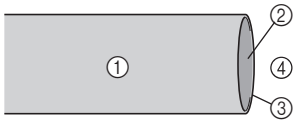
ワンピース、ブラウス、ズボン、スカートのすそや折り返しに使います。

ぬい方	名前	押え
	まつりぬい	
	まつりぬい	

お知らせ

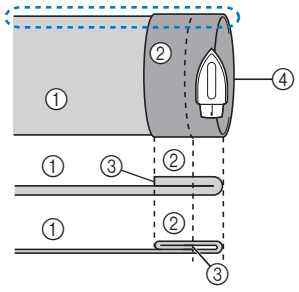
- 筒の大きさがアームに入らないほど小さいときや、筒の長さが短いときは、布地がうまく送られず、きれいに仕上がらないことがあります。

1 すそ上げをするスカートやズボンを裏返します。



① 裏
② 表
③ 布端
④ すそ側

2 できあがり線で布を表に返し、アイロンをかけます。



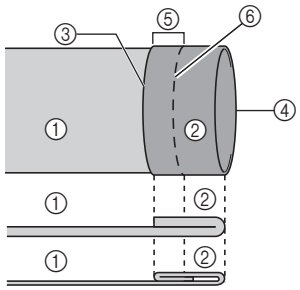
① 裏
② 表
③ 布端
④ できあがり線

＜厚い布地＞

＜普通地＞

＜ を横から見た図＞

3 布端から約 5mm のところにチャコペンで印をつけ、しつけをします。



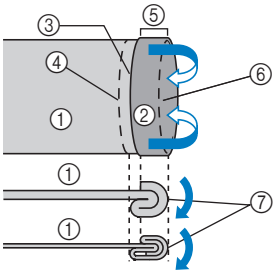
① 裏
② 表
③ 布端
④ できあがり線
⑤ 5mm
⑥ しつけ

< 厚い布地 >

< 普通地 >

< 横から見た図 >

4 しつけをしたところから、内側へ折り込みます。



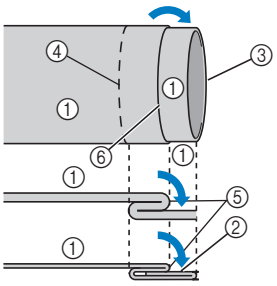
① 裏
② 表
③ 布端
④ できあがり線
⑤ 5mm
⑥ しつけ
⑦ しつけの位置

< 厚い布地 >

< 普通地 >

< 横から見た図 >

5 布端を開いて裏返します。



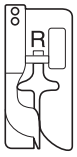
① 裏
② 表
③ 布端
④ できあがり線
⑤ しつけの位置
⑥ しつけ

< 厚い布地 >

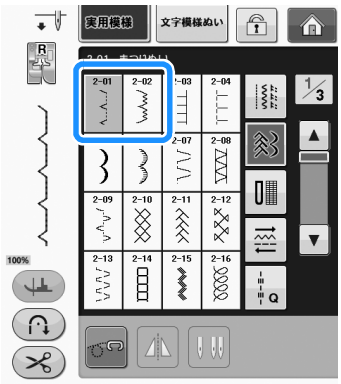
< 普通地 >

< 横から見た図 >

6 まつりぬい押え <R> を取り付けます。

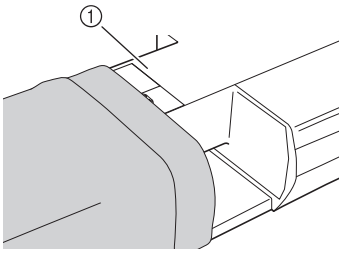


7 2-01 または 2-02 を選択します。



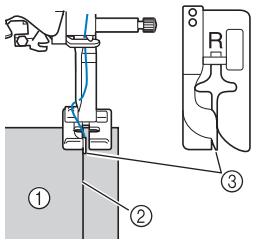
8 ミシンをフリーアームにします。

9 アームに布地を入れ、布地を回すことができるのを確認します。



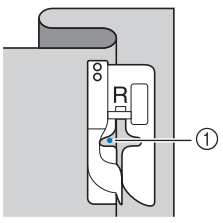
① アーム

10 押えのガイドと布地の折り山が合うように布地をセットし、押えを下げます。



① 裏
② 折り山
③ ガイド

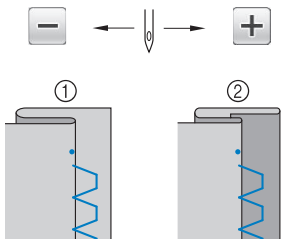
11 プーリーをゆっくり手前に回して針を下げ、針が折り山に少しかかる位置にあるか確認します。



① 針落ち位置

針落ち位置を変更するときは、針を上げてからジグザグの振り幅を変更します。

振り幅



① 厚い布地
② 普通地

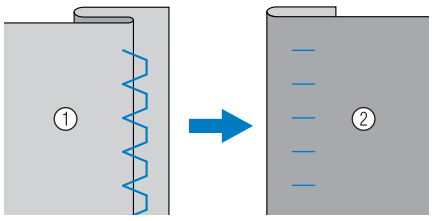
お知らせ
- 左側の針落ち位置が折り山にかからなければ、しつけぬいをすることができません。また、針があまり折り山のほうにかかりすぎると、折りを広げることができず布地の表側にぬい目が大きく出て、目立ってしまいます。
うまくしつけぬいをできないとき、次の解決方法を参照してください。

■針がかかりすぎているとき

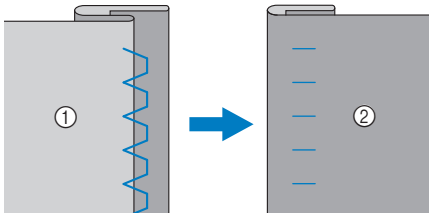
針が左側にいきすぎています。
振り幅の ＋ を押して針位置を右に動かし、針が折り山に少しかかるように調節します。



普通地



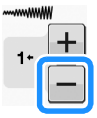
厚地



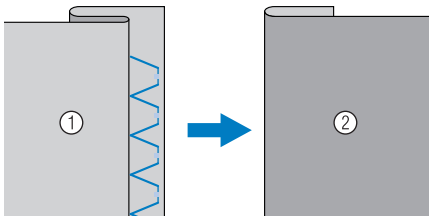
① 裏
② 表

■針がかかっていないとき

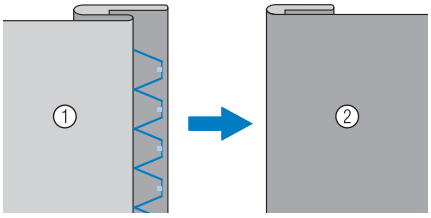
針が右側にいきすぎています。
振り幅の － を押して針位置を左に動かし、針が折り山に少しかかるように調節します。



普通地



厚地



① 裏
② 表

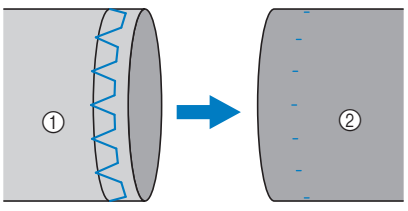
お知らせ
- S-10 の「ジグザグの振り幅を調節する」を参照してください。

12 折り山に押えのガイドを沿わせてぬいます。

13 ぬい終ったらミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

お願い
- ぬい終わった後は、布地を後ろに引いてください。前方向や横方向に布地を引っ張ると、押えが破損するおそれがあります。

14 しつけをほどき、布地を表に返します。

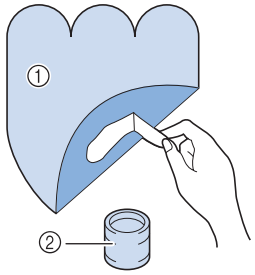


① 裏
② 表

アップリケぬい

1 のりまたはスプレーのりでアップリケ布がずれない程度にのり付けするか、しつけして固定します。

* これは、ぬいずれを防ぐためです。



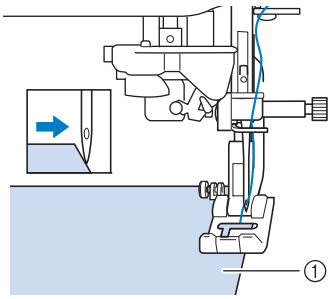
① アップリケ布
② 布用のり

2  または  を選びます。

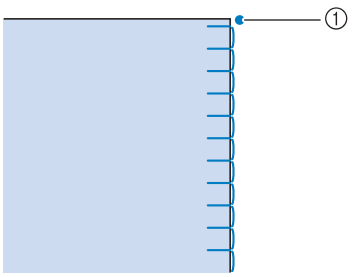
* ジグザグの振り幅やぬい目の長さは、アップリケの形、大きさ、素材に応じて調節してください。(S-10 参照)

お知らせ
- 模様の詳細については、S-67 の「ぬい方早見表」を参照してください。

3 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。針がアップリケ布の端よりわずかに外側に落ちるようにぬいます。



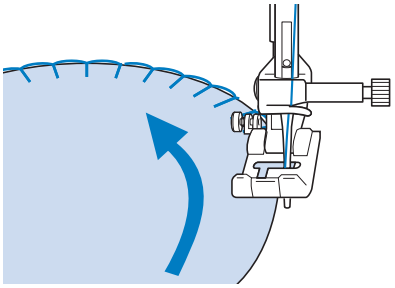
① アップリケ布



① 針落ち位置

■ 急なカーブをぬう場合

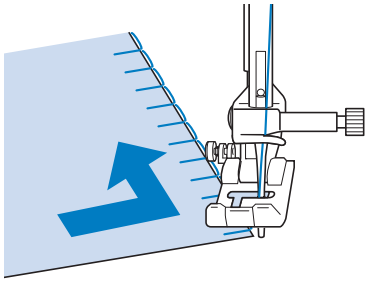
アップリケ布の外側に針をさしたまま押えを上げて少しずつ方向を変えながらぬうと、きれいなぬい目に仕上がります。



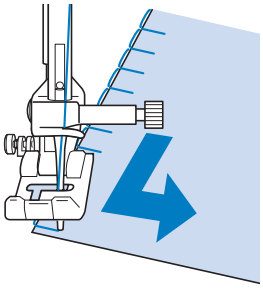
■ 角をぬう場合

針が右側に落ちているときに縫製を止めます。布端が左右どちらにあるかによって、針が落ちている場所が布地の外側になったり、内側になったりします。
押えを上げて、布地を回転して布端とぬう方向が並行になるようにした後、押えを下げて、引き続きぬい進めます。

①



②



① 外側が角のとき
② 内側が角のとき

お知らせ
- アップリケ布の端にそって、布地の下に薄手の接着芯を置いてぬうと、位置合わせの精度が上がります。

シェルタックぬい

シェルタックぬいは、貝殻を並べたような模様のふち飾りになり、ブラウスやワンピースの襟やそでなどのふち飾りに使います。

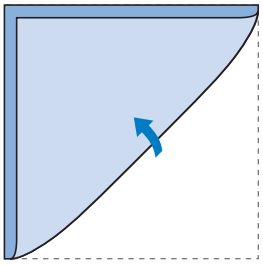
1  を選択します。

お知らせ
- 模様の詳細については、S-67 の「ぬい方早見表」を参照してください。

2 シェルタックの山がきれいにできるように、糸調子を強めにします。(S-12 参照)

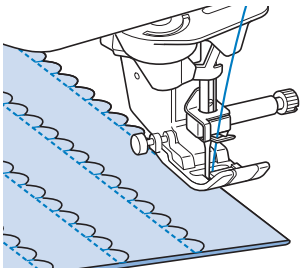
お知らせ
- 糸調子が弱すぎるとシェルタックの山ができません。

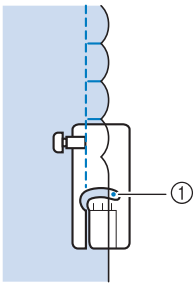
3 布地をバイアスに 2 つ折りにします。



お知らせ
- 布地は薄地を使用してください。

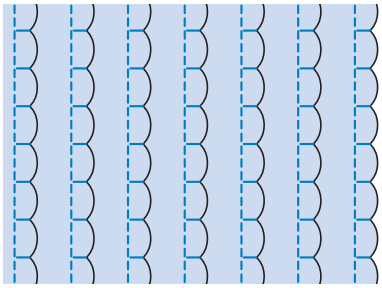
4 ジグザグ押え＜ J ＞を取り付け、針が布端よりわずかに外側に落ちるようにぬいます。





① 針落ち位置

5 布を広げアイロンで折り山を片側に倒します。



お知らせ
- 襟元にシェルタックを付ける場合は、模様の指示に従い、このシェルタックぬいを使ってふち飾りを付けてください。

スカラップぬい

スカラップは半月状の丸いカーブの連続した波型の模様です。ブラウスの衿やハンカチなどのふち飾りに使います。

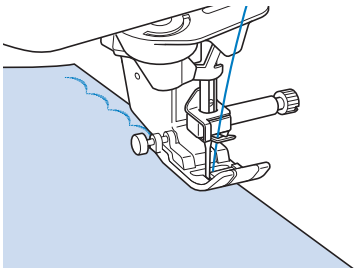
お知らせ
- 薄地には、必要に応じて布用スプレーのりを付けてください。実際にぬう前に、ためしぬいをしてください。
- 模様の詳細については、S-67 の「ぬい方早見表」を参照してください。

1 2-05 を選択します。

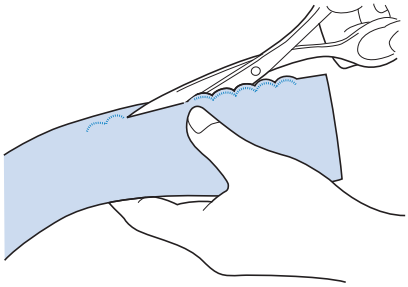
2 **模様ぬい押え＜ N ＞を取り付け、布端をぬいます。**

* 針が布端にかからないように注意してください。

お願い
- 実際にぬう前にためしぬいをしてください。



3 糸を切らないように注意しながらぬい目にそって布地を切ります。



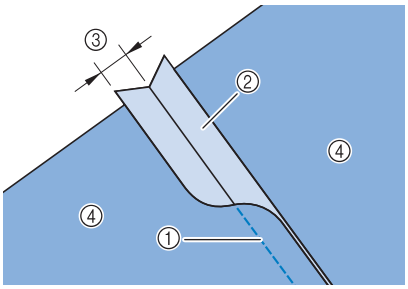
お知らせ
- スカラップの縁は、ほつれ止め液で仕上げてください。

つき合わせぬい

ぬいしろを上から押さえてぬうとクレージーキルトの飾り模様にもなります。

1 **直線ぬいを選び、ジグザグ押え＜ J ＞を取り付けます。**

2 **2 枚の布地を中表にしてぬい合わせた後、ぬいしろを割ります。**

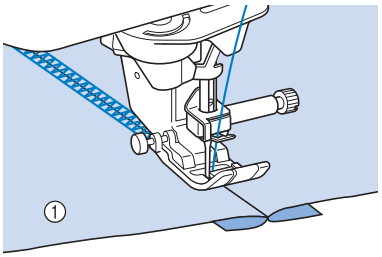


① 直線ぬい
② ぬいしろ
③ 6.5mm
④ 裏

3 つき合わせぬいを選びます。

2-07 2-08 2-09

4 布地を表に返し、押えの中心とぬい目を合わせてぬいます。



① 表

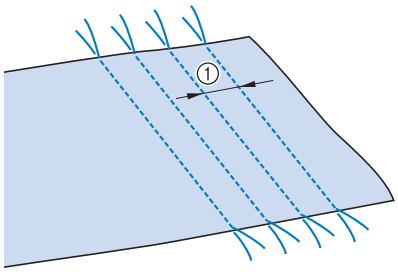
スモッキングぬい

布地にギャザーを寄せて作る飾りぬいです。

1 **直線ぬいを選び、ジグザグ押え＜ J ＞を取り付けます。**

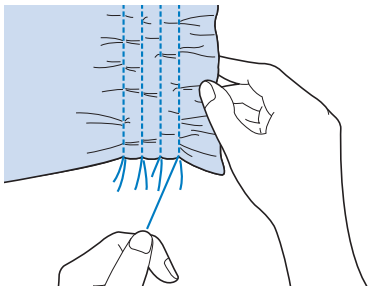
2 **ぬい目の長さは 4.0mm に、糸調子は 2.0（ゆるめ）に設定します。（S-10 の「ぬい目の長さを調節する」、S-12 の「糸調子を調節する」）**

3 約 1cm の間隔で数本ぬい、上糸と下糸を端から 5cm 残して切ります。



① 約 1cm

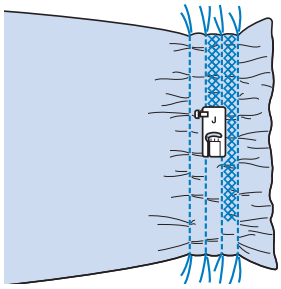
4 下糸を引っ張ってギャザーを寄せ、アイロンでギャザーをととのえます。



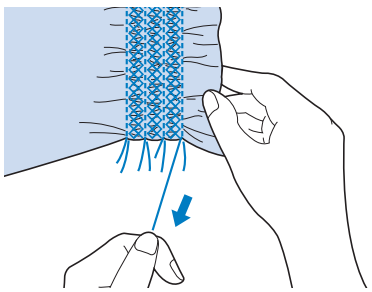
5 2-10 または 2-12 を選びます。

お知らせ
- 模様の詳細については、S-67 の「ぬい方早見表」を参照してください。

6 直線ぬいのぬい目とぬい目の間をぬいます。



7 直線ぬいの糸を引き抜きます。

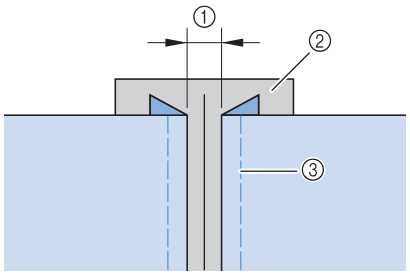


ファゴティングぬい

ファゴティングとは、布地と布地の間を離して糸でかがる手法で、ブラウスや子供服などに使います。

1 布地と布地の間隔を 4.0mm あけて、薄い紙にしつけぬいします。

* 薄い紙や水溶性シートの中心に線を引くと、ぬいやすくなります。

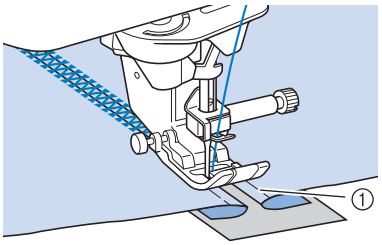


① 4.0mm
② 薄い紙
③ しつけ

2 2-11 または 2-12 を選びます。

お知らせ
- 模様の詳細については、S-67 の「ぬい方早見表」を参照してください。

3 ジグザグ押え＜ J ＞を取り付け、押えの中心とはぎ合わせた布の中心とを合わせてぬいます。



① しつけぬい

お知らせ
- 太い糸を使用してください。

4 ぬい終わったら、ていねいに紙をはがします。

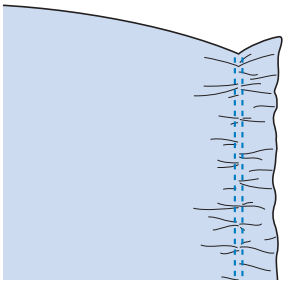
ゴムひもつけ

1 直線ぬいを選び、ジグザグ押え＜ J ＞を取り付けます。

2 ぬい目の長さは 4.0mm に、糸調子は 2.0（ゆるめ）に設定します。（S-10 の「ぬい目の長さを調節する」、S-12 の「糸調子を調節する」）

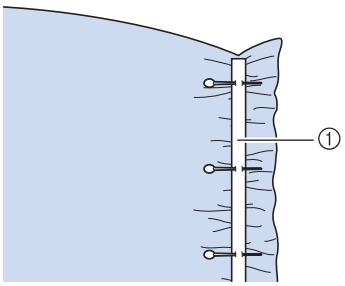
お知らせ
- 自動止めぬい や自動糸切り は設定しないでください。

3 生地の表に直線ぬいを 2 本ぬい、下糸を引っ張ってギャザーを寄せます。



お知らせ
- 直線ぬいをかける前に、プーリーを回して下糸を引き出します。押えを上げた状態で、上糸と下糸を後側に引き出します。

4 裏のギャザーの上にゴムひもをまち針で止めます。



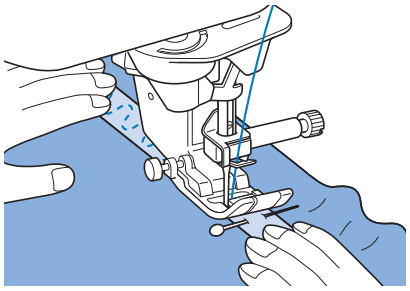
① ゴムひも

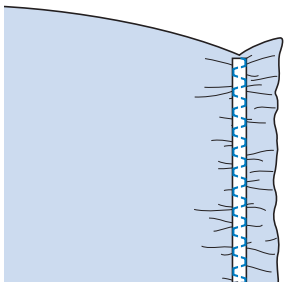
5 2-13 または 1-13 を選びます。

お知らせ
- 模様の詳細については、S-67 の「ぬい方早見表」を参照してください。

6 布地とほぼ同じ長さになるようゴムひもを伸ばしながら、左手で押えの後ろへ送り出された布地を、右手で押えから一番近いまち針のところを引っ張って、送りのスピードに合わせてぬいます。

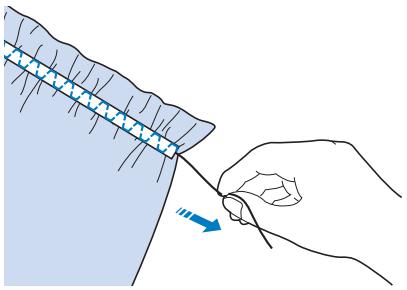
お知らせ
- フットコントローラー（別売）を使用すると、作業がしやすくなります。





⚠ 注意
- ぬうときには、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

7 直線ぬいの糸を引き抜きます。



ヘアルーム

■デイジーステッチ

別売のウィングニードル（WN001）を使用し、針穴を大きくあけてレース風の飾り模様をぬいます。テーブルクロスや洋服のすそ飾り、洋服の前たての飾りなどに使います。

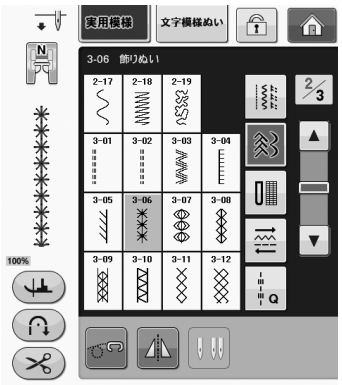
お知らせ
- 布地は平織りの薄地から普通地で、少し張りのあるものを使ってください。

1 ウィングニードル（別売：WN001）を取り付けます。

⚠ 注意
- （自動糸通しスイッチ）は使用できません。手前から向こう側に、手で針穴に糸を通してください。（自動糸通しスイッチ）を使用すると故障の原因となります。
- ウィングニードル（WN001）を使用すると、きれいな仕上がりになります。ウィングニードルを取り付け、振り幅を調節したときはプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。

2 模様を選び、模様ぬい押え＜ N ＞を取り付けます。

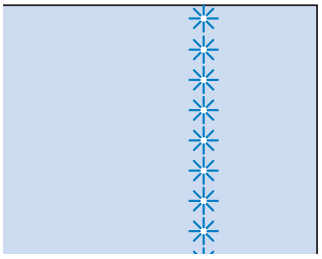
* 3-01 から 3-22 のいずれかの模様を選びます。



お知らせ
- 模様の詳細については、S-67 の「ぬい方早見表」を参照してください。

3 ぬい始めます。

例： 仕上がり図

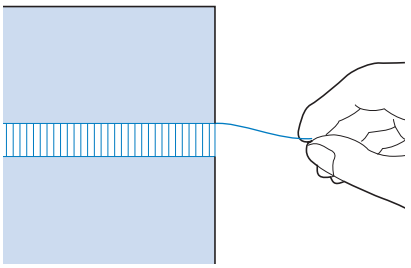


ヘアルームの一種で部分的に糸を抜き取ってかがるぬい方を「ドロンワーク」といいます。織りがゆるい布地を使用すると、きれいに仕上がります。ここではドロンワークのぬい方の例を 2 つ紹介します。

■ドロンワーク（1）

1 布地の織り糸を数本抜きとり、約 3mm のすき間をあけます。

* 布地の織り糸を 5、6 本（約 3mm 分）抜きとります。

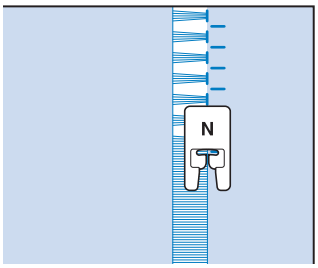


お知らせ
- 織のゆるい布を使うときれいに仕上がります。

2  を選択します。

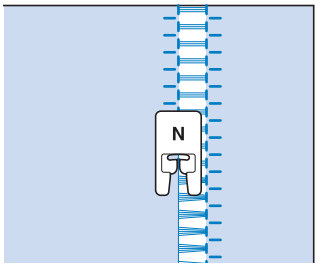
お知らせ
- 模様の詳細については、S-67 の「ぬい方早見表」を参照してください。

3 模様ぬい押え＜ N ＞を取り付け、表を上にして布を置き、織り糸を抜いた部分の右端をぬいます。



4 を押して、模様を左右に反転します。

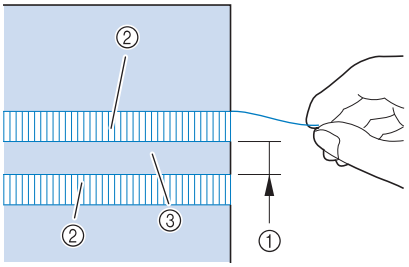
5 模様が左右対称になるように、織り糸を抜いた部分の左端をぬいます。



■ ドロンワーク（2）

1 図のように、間に布地を約 4mm 残して織り糸を抜き取ります。

* 4 本の織り糸を抜き、5 本分（約 4mm 幅）の織り糸を残し、さらに 4 本の織り糸を抜きとります。

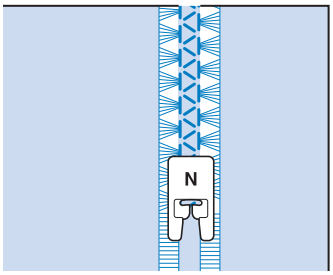


① 約 4mm
② 4 本抜く
③ 5 本残す

2 を選択します。

お知らせ
- 模様の詳細については、S-67 の「ぬい方早見表」を参照してください。

3 模様ぬい押え＜ N ＞を取り付け、残した 5 本分の布地の中央をぬいます。



お知らせ
- ウィングニードル（別売：WN001）も使用できます。

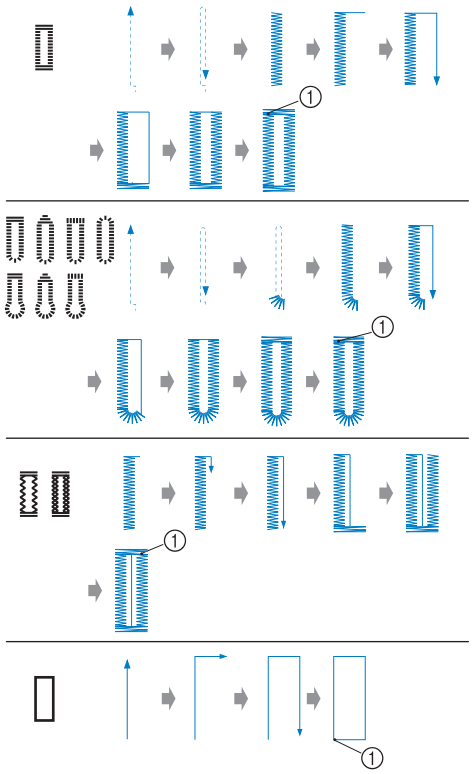
ボタン穴かがり

ボタンの穴に合わせた穴かがりができます。
ぬい模様について詳しくは、S-67 を参照ください。

ぬい方	名前	押え
4-01	ボタン穴かがり	A
4-02	ボタン穴かがり	A
4-03	ボタン穴かがり	A
4-04	ボタン穴かがり	A
4-05	ボタン穴かがり	A
4-06	ボタン穴かがり	A
4-07	ボタン穴かがり	A
4-08	ボタン穴かがり	A
4-09	ボタン穴かがり	A
4-10	ボタン穴かがり	A

ぬい方	名前	押え
4-11	ボタン穴かがり	A
4-12	ボタン穴かがり	A
4-13	ボタン穴かがり	A
4-14	ボタン穴かがり	A

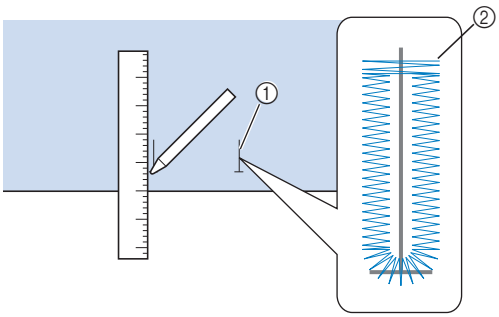
ボタン穴かがりは、図のように押えの手前から後ろに向かってぬいます。



① 止めぬい

1 ボタン穴かがり模様を選び、ボタン穴かがり押え< A >を取り付けます。

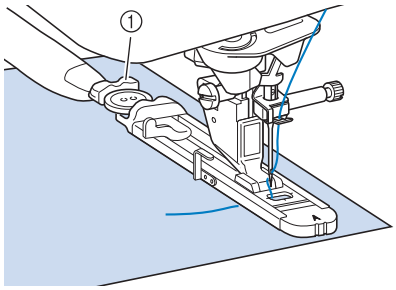
2 布地の穴かがりをしたい場所に、ボタンの直径と厚みを合わせた長さのしるしをつけます。



① しるし
② 出来上がり

お知らせ
- 「ボタンの直径 + 厚み」が 28mm までのボタン穴かがりができます。

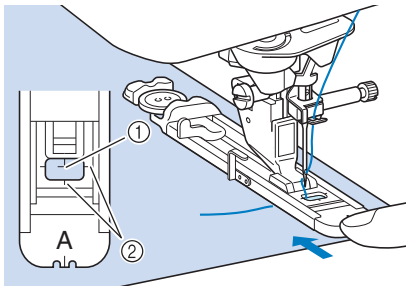
3 押えの台皿を引き出し、ボタンをのせてはさみます。



① 台皿

お知らせ
- 台皿に入れたボタンの大きさによって、ボタン穴かがりの大きさがきまります

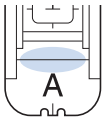
4 指で押えを押しながら、布地につけたしるしに押えのしるしを合わせ、押えを下げます。



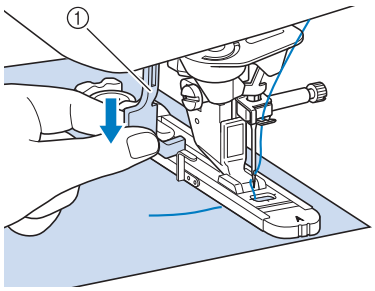
① 布地のしるし
② 押えのしるし

お願い

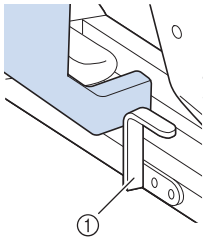
- 上糸は押えの下に入れてください。
- ボタン穴かがり押え＜A＞の水色で示された部分（下図参照）のすきまがなくなるまで、押えを押し込んでください。すき間があると、つくろいぬいの寸法が不正確になります。



5 ボタン穴かがりレバーを下げます。図のようにレバーは押えの金具の後ろ側まで下げます。



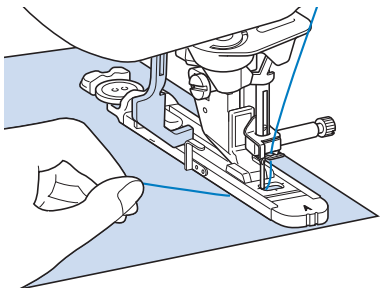
① ボタン穴かがりレバー



① 金具

6 上糸の端を軽く持ってぬい始めます。

* 布をゆっくり送りながら、ボタン穴かがりをしてください。

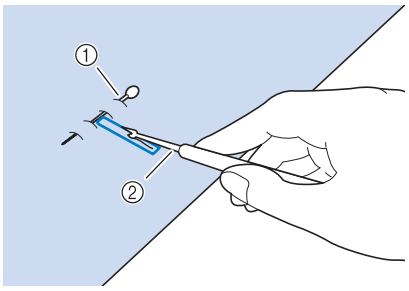


→ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

お知らせ

- あらかじめ自動糸切りを設定しておくと、ぬい終わりに止めぬいをしてから自動的に上糸と下糸の糸を切ります。
- 厚みがあって布地が送られないときは、ぬい目を粗くしてください。

7 かんどめの内側にまち針をさし、リッパーでボタン穴の中央に切り込みを入れます。



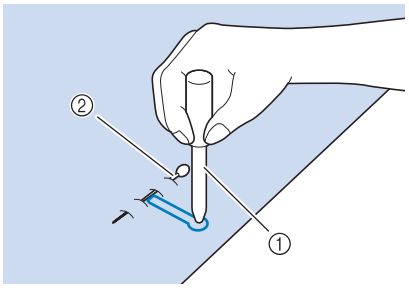
① まち針
② リッパー

⚠ 注意

- リッパーで切り込みを入れるとき、ボタン穴の近くに手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。
  本来の使用目的以外での使用はしないでください。

お知らせ

- はとめ穴の場合は、付属のはとめ穴パンチで穴を開けてから、リッパーで切り込みを入れてください。あらかじめ布地の下に厚紙などを敷いてください。



① まち針
② はとめ穴パンチ

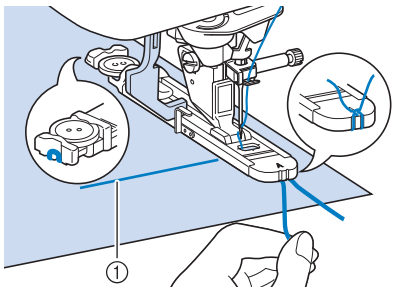
■ 伸びる布地をぬう場合



または

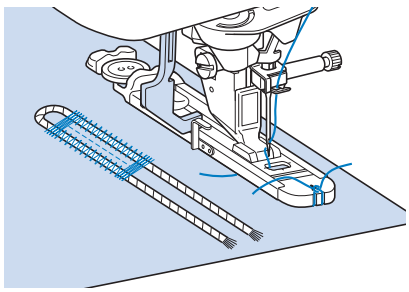

を選んで伸びる布地にボタン穴かがりをするときは、ボタン穴かがりに芯ひもを入れてください。

1 ボタン穴かがり押え＜ A ＞の後部のつのに芯ひもをひっかけて、押えの下を手前に向かって平行に張ります。芯ひもの端は、押えの前部のミゾにはさんで仮結びします。



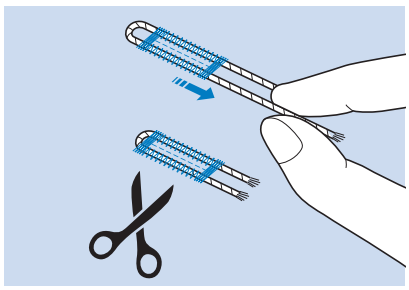
① 上糸

2 押えレバーを下げてぬい始めます。



お知らせ
- 振り幅は、芯ひもの幅に合わせて設定し、ボタン穴の幅は芯ひもの幅の 2 ～ 3 倍に設定します。

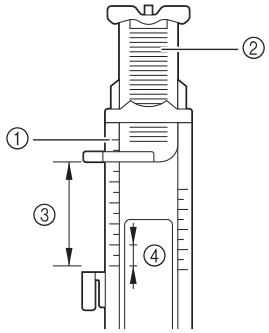
3 ぬい終わったら、芯ひもをぴんと張り、余分な部分を切り落とします。



お知らせ
- ボタン穴の中央線に沿って渡されている糸をリッパーで切り、糸端を切り取ってください。

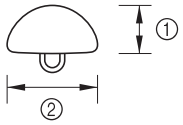
■ ボタンが台皿にのらない場合

押えスケールの目盛りを使って、穴かがりの大きさを設定します。押えスケールは 1 目盛り 5mm です。
押えスケールの目盛りをボタンの直径 + 厚みの寸法に合わせてください。



① 押えスケール
② 台皿
③ でき上がり寸法（直径 + 厚み）
④ 5mm

お知らせ
- 例）直径 1.5cm 厚み 1cm のボタンの場合、スケールを 2.5cm に合わせます。



① 厚み 1cm
② 直径 1.5cm

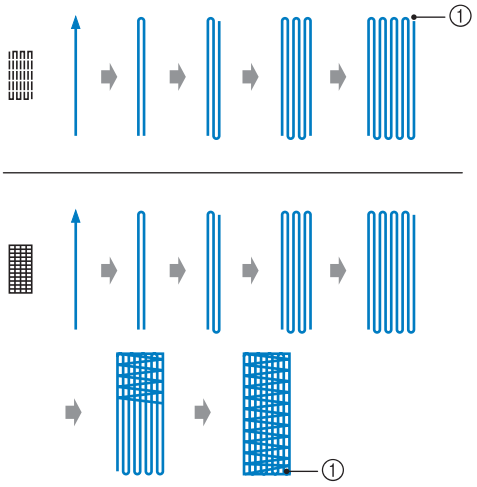
ダーニング（つくろいぬい）

つくろいぬいなどに使います。

ぬい模様について詳しくは、S-67 を参照ください。

ぬい方	名前	押え
4-15	ダーニング	A
4-16	ダーニング	A

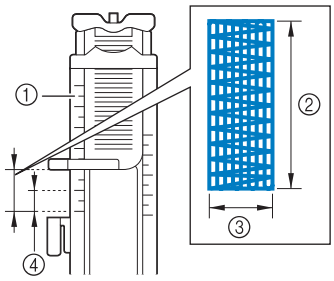
ダーニングぬいは、図のように押えの手前から後ろに向かってぬいます。



① 止めぬい

1 模様を選び、ボタン穴かがり押え＜ A ＞を取り付けます。

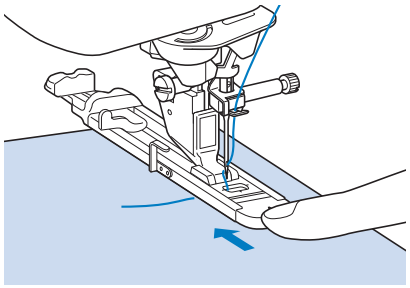
2 押えスケールの目盛りを、つくろいぬいの長さに合わせます。



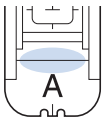
① 押えスケール
② でき上がり寸法
③ 7mm 幅
④ 5mm

お知らせ
- 最大 28mm のダーニングぬいができます。

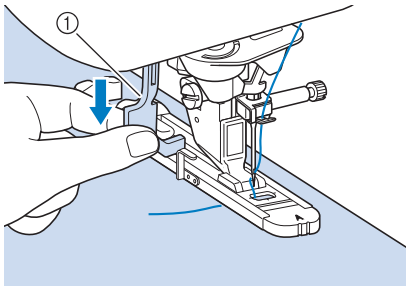
3 つくろいぬいを始める位置に針が落ちることを確かめ、上糸を押え＜ A ＞の下に送り、押えを下げます。



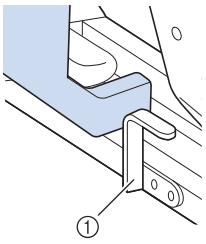
お願い
- 上糸は押えの下に入れてください。
- ボタン穴かがり押え＜ A ＞の水色で示された部分（下図参照）のすきまがなくなるまで、押えを押し込んでください。すき間があると、つくろいぬいの寸法が不正確になります。



4 図のように、ボタン穴かがりレバーを金具の後ろ側に下げます。

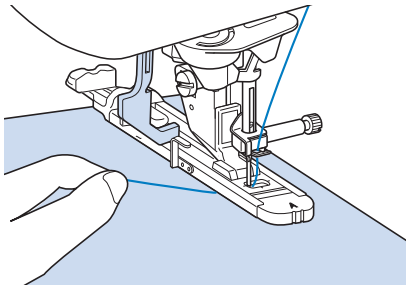


① ボタン穴かがりレバー



① 金具

5 上糸の端を軽く引っ張って、(スタート／ストップスイッチ）を押し、ぬい始めます。



→ ぬい終わると自動的に止めぬいをして止まります。

お知らせ
- あらかじめ自動糸切りを設定しておくと、ぬい終わりに止めぬいをしてから自動的に上糸と下糸の糸を切ります。
厚みがあって布地が送られないときは、ぬい目を粗くしてください。

かんどめ

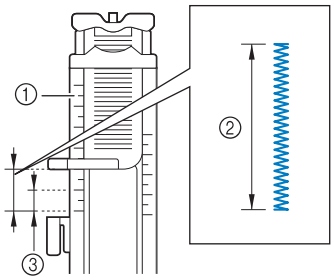
かんどめは、止めぬいの一種で、ポケット口やスリットのあき止まりなど、力のかかる部分を補強するときに使います。

ぬい模様について詳しくは、S-67 を参照ください。

ぬい方	名前	押え
4-17	かんどめ	A

1 4-17 を選びます。

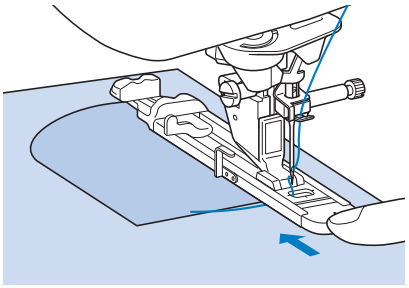
2 ボタン穴かがり押え＜ A ＞を取り付け、目盛りをかんどめの長さに合わせます。



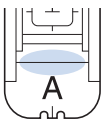
① 押えスケール
② でき上がり寸法
③ 5mm

お知らせ
- かんどめの長さは、5mm から 28mm の範囲で設定できます。一般的な長さは、5mm から 10mm の範囲です。

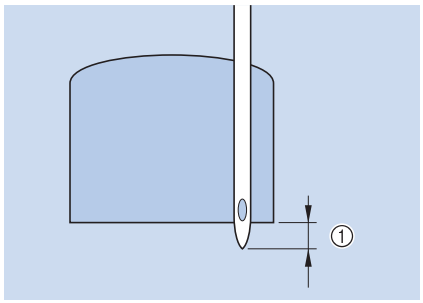
3 ポケット口が手前にくるように布地を置きます。指で押えを押します。



お願い
- 上糸は押えの下に入れてください。
- ボタン穴かがり押え＜ A ＞の水色で示された部分（下図参照）のすきまがなくなるまで、押えの外枠を押し込んでください。完全に押し込まれていないと、かんどめの寸法が不正確になります。

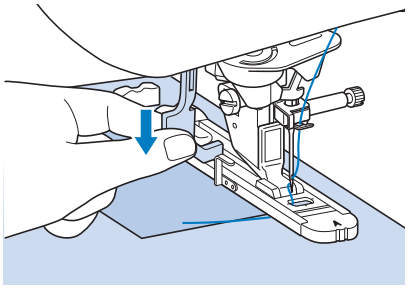


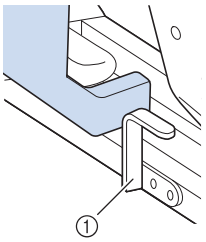
4 最初の針落ち位置を確認して押えレバーを下げます。



① 最初の針落ち位置 2mm

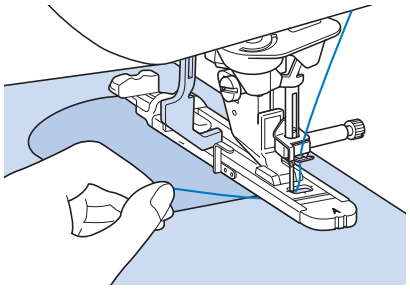
5 図のように、ボタン穴かがりレバーを金具の後ろ側に下げます。





① 金具

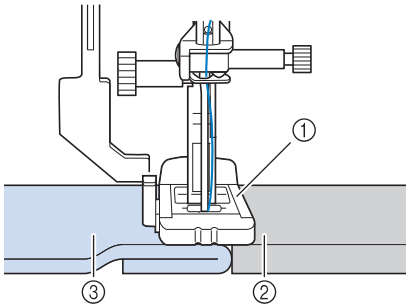
6 上糸の端を軽く引っ張ってぬい始めます。



→ ぬい終わると自動的に止めぬいをして止まります。

■ 厚地の場合

布または紙を折りたたんだものを押えの右側にはさんで、段差ができないようにしてください。



① 押え
② 厚紙
③ 布地

お知らせ

- あらかじめ自動糸切りを設定しておくと、ぬい終わりに止めぬいをしてから自動的に上糸と下糸の糸を切ります。
- 布の厚みで布地が進まないときはぬい目をあらくしてください。

ボタンつけ

このミシンではボタンつけができます。

ボタンつけできるのは、2 つ穴または 4 つ穴のボタンです。

ぬい模様について詳しくは、S-67 を参照ください。

ぬい方	名前	押え
4-18	ボタンつけ	M

お願い

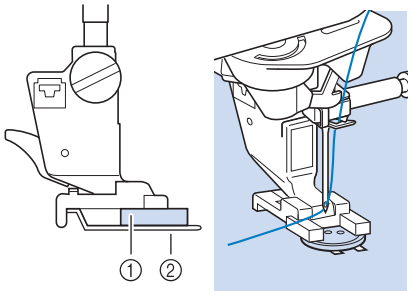
- ボタンつけをするときは自動糸切り機能を使用しないでください。糸の始末ができなくなります。

1 4-18 を選びます。

→ 自動的に送り歯が下がります。

2 押えを上げます。

3 ボタン付け押え＜ M ＞を取り付け、ボタンを押えにはさんで押えを下げます。



① ボタン
② 金属板

4 プーリーを回し、針がボタンに当たらずに左右のボタン穴に入ることを確かめます。

* 針が左側の穴に入らない場合は、ぬい目を調節してください。
* ボタン付けの操作を 2 回繰り返すと、ボタンがしっかり付きます。

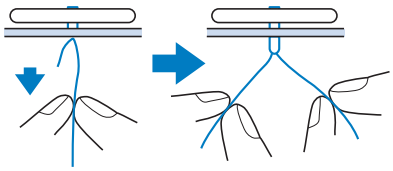
5 上糸の端を軽く持ってぬい始めます。

→ ぬい終わるとミシンは自動的に止まります。

⚠ 注 意

- ぬうときには、ボタンに針が当たらないように注意してください。針が折れるとけがをするおそれがあります。

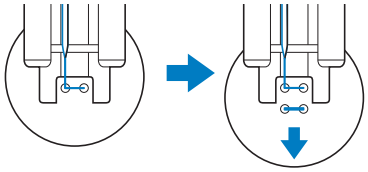
6 裏から下糸の端を引っ張って上糸を引き出して結び、余分な糸を切ります。



7 ボタンつけが終わった後は、他の模様を選んで、プーリーを手前に回して送り歯を上げます。

■ 4 つ穴ボタンをつけるときは

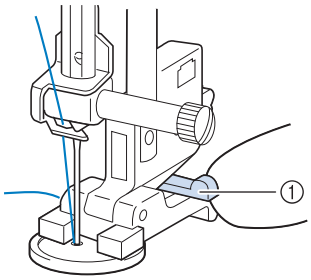
手前の 2 つの穴からボタンつけをします。ぬい終わったら押えを上げ、針が次の 2 つ穴に入るように布を手前に引き、ボタン付けをします。



■ ボタン足をつけるときは

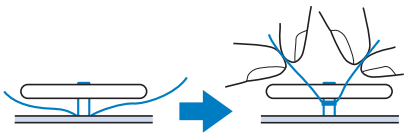
ボタンの付け根に足（糸足）を付けるときは、ボタンと布地の間にすき間をあけた状態でぬい、あとで手で巻き付けます。ボタンをしっかりと付けることができます。

1 ボタン付け押え＜ M ＞にボタンを取り付けたら、足レバーを手前に押します。



① 足レバー

2 上糸と下糸をボタンと布の間から引き出し、上糸を糸足に巻きつけてしっかり結びます。



3 ぬい始めとぬい終わりの下糸の両端を布地の裏側で結びます。

4 余分な糸を切ります。

アイレット

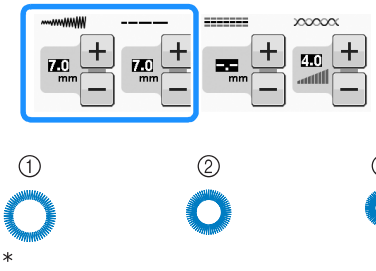
ベルトの穴かがりなどに使います。

ぬい模様について詳しくは、S-67 を参照ください。

ぬい方	名前	押え
4-19	アイレット	N

1 4-19 を選びます。

2 「振り幅」の − + または「ぬい目の長さ」を使って、アイレットの大きさを選びます。



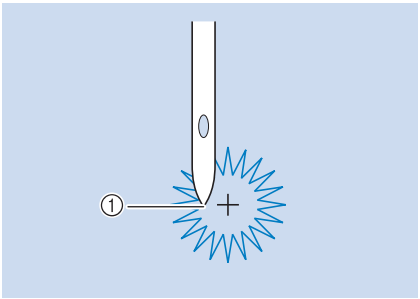
＊ 実寸大

① 7mm

② 6mm

③ 5mm

3 模様ぬい押え＜ N ＞を取り付け、プーリーを回して針が落ちる位置を確認します。



① 針落ち位置

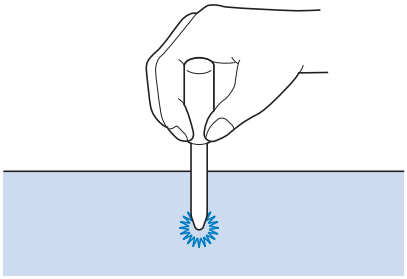
4 押えを下げてぬい始めます。

→ ぬい終わると自動的に止めぬいをして止まります。

お願い

- きれいに仕上がらない場合は、調節を行ってください。（S-81 の「文字・模様をぬってみましょう」参照）

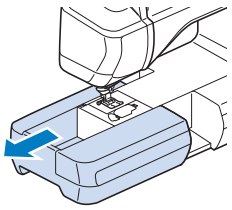
5 はとめ穴パンチで穴をあけます。



横送り（直線・ジグザグ）

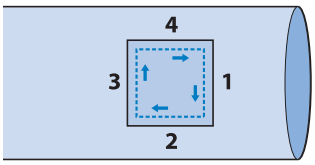
袖やズボンなどの筒状の布地にワッペンなどをつける場合などに使います。

1 補助テーブルを外してフリーアームにします。

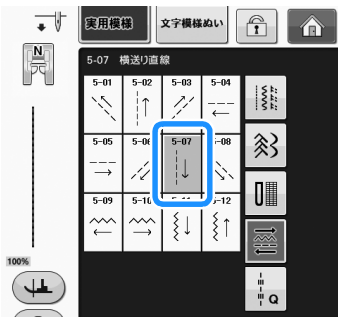


お知らせ

- 筒状の布地をフリーアームに通し、図のようにぬいます。



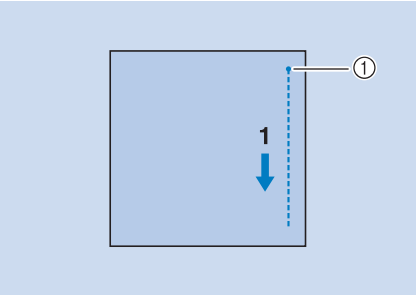
2 5-07 を選び、模様ぬい押え＜ N ＞を取り付けます。



お知らせ

- 模様の詳細については、S-67 の「ぬい方早見表」を参照してください。

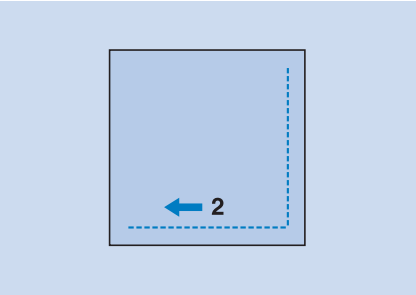
3 ぬい始めの位置に針をさし、図のようにぬい目 1 をぬいます。



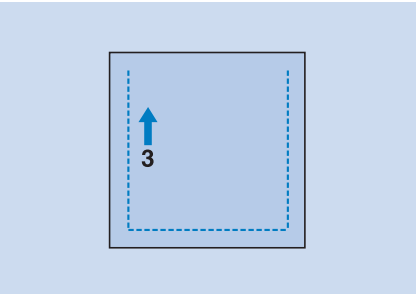
① ぬい始め位置

4  を選び、図のようにぬい目 2 をぬいます。

* 布地が曲がらないように手で軽く押さえながらぬってください。

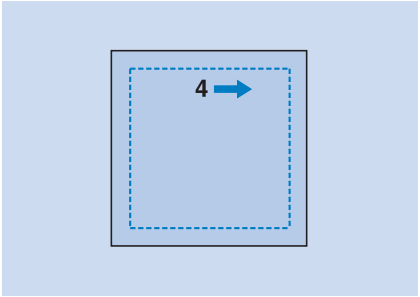


5  を選び、図のようにぬい目 3 をぬいます。



→ 布地は手前に送られます。

6  を選び、図のようにぬい目 4 をぬいます。



→ ぬい目 1 のぬい始めの位置までぬい進みます。

ファスナーつけ

■ つき合わせ

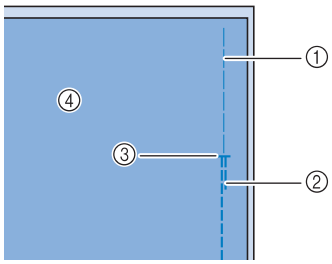
袋物などに使います。

1  を選びます。

お知らせ
- 模様の詳細については、S-67 の「ぬい方早見表」を参照してください。

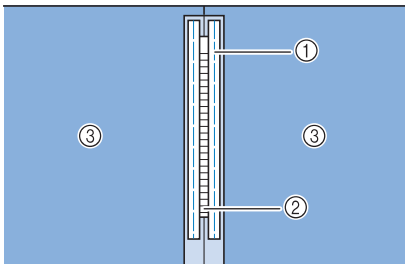
お願い
- 必ず直線（中基線）を選んでください。

2 ジグザグ押え＜J＞を取り付け、あき止まりまで直線でぬい、あきの部分はしつけぬいをかけます。(S-27 参照)



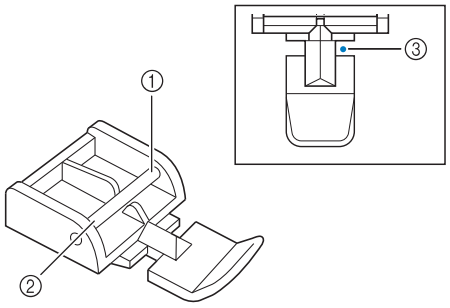
① しつけぬい
② 返しぬい
③ あき止まり
④ 裏

3 ぬいしろを割り、図のようにファスナーの中央とぬい目を合わせ、しつけぬいでファスナーを付けます。



① しつけぬい
② ファスナー
③ 裏

4 ジグザグ押え＜J＞を外し、片押え＜I＞の右側のピンを押えホルダーに合わせて取り付けます。

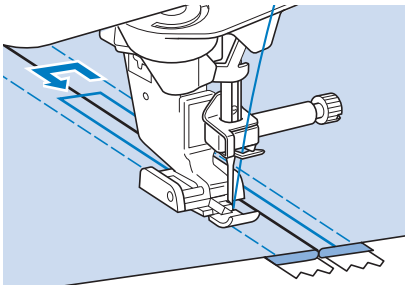


① 右側
② 左側
③ 針落ち位置

⚠ 注意

- 片押え＜I＞を使用するときは、必ず直線（中基線）を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を選ぶと、針が押えに当たり、折れてけがをするおそれがあります。

5 表を上にして 0.7 ～ 1.0cm のぬいしろでぬい、ぬい終わったらしつけぬいを外します。



⚠ 注意

- ぬうときには、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

■ 脇あき

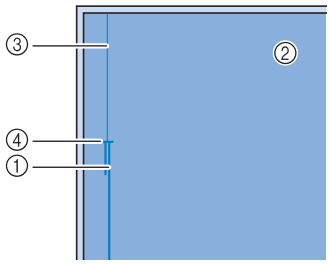
スカートやワンピースの脇あきに使います。

1  を選びます。

お願い

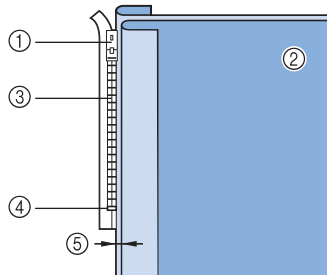
- 必ず直線（中基線）を選んでください。

2 ジグザグ押え＜J＞を取り付け、あき止まりまで直線でぬい、あきの部分はしつけぬいをします。



① 返しぬい
② 裏
③ しつけぬい
④ あき止まり

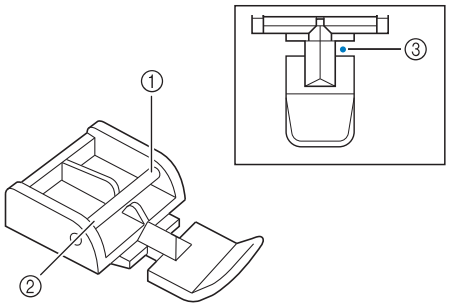
3 ぬいしろを割り、後ろスカート（後ろ身頃）のぬいしろを 3mm 出して折り山をファスナーのムシのきわに合わせます。



① スライダー
② 裏
③ ムシ
④ あき止まり
⑤ 3mm

4 ジグザグ押え＜J＞を外します。

5 片押え＜I＞の右側のピンを押えホルダーに合わせて取り付けます。



① 右側
② 左側
③ 針落ち位置

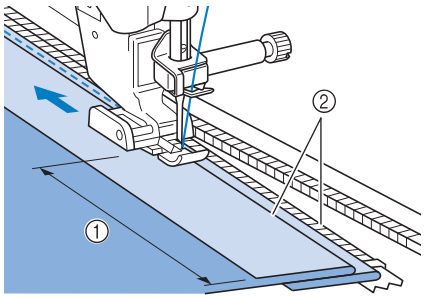
⚠ 注意

- 片押え＜I＞を使用するときは、必ず直線（中基線）を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を選ぶと、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

6 3mm の幅の中心をあき止まりからぬいます。

7 ファスナーの先端から約5cmのところで一旦ミシンを止めます。

8 スライダーを下げ、端までぬいます。

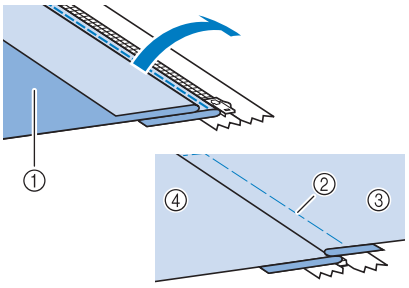


① 5cm
② 3mm

⚠ 注意

- ぬうときには、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

9 ファスナーを閉じて表に返し、しつけぬいをします。



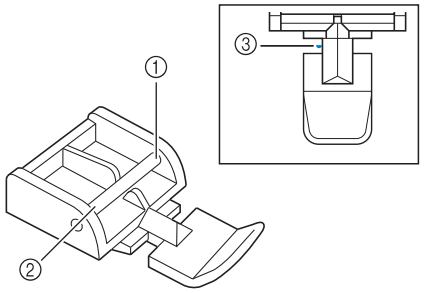
① スカートの前身頃（裏）
② しつけぬい
③ スカートの前身頃（表）
④ スカートの後身頃（表）

お知らせ

- 本機でしつけぬいをする場合は、ジグザグ押え＜J＞を使用します。S-27 の「しつけぬい」を参照してください。

10 押えを外し、押えの左側のピンを押えホルダーに合わせて付け替えます。

* ファスナーの左側をぬうときには、針の位置は押えの右側、ファスナーの右側をぬうときには、針の位置は押えの左側に落ちるようにします。



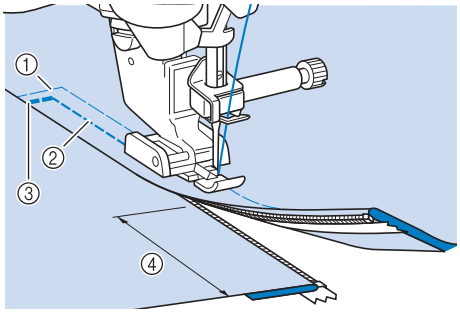
① 右側
② 左側
③ 針落ち位置

11 押えの左端に、ファスナーのムシがくるように布を置きます。

12 ファスナーの端まで返しぬいをし、ぬい続けます。

13 布端から約5cm手前で針を落としたましつけぬいを外します。

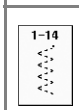
14 スライダーを下げ、端までぬいます。



① しつけぬい
② 0.7 ～ 1cm
③ 返しぬい
④ 5cm

ぬい方早見表

この表では、実用ぬい模様のジグザグの振り幅やぬい目の長さの設定についてを用途に合わせて紹介しています。また、それぞれの模様で 2 本針が使用できるかどうかも、あわせて記載しています。

ぬい方	名前	押え		主な用途	ジグザグの振り幅＊ [mm （インチ）]		ぬい目の長さ＊ [mm （インチ）]		2 本針 **
					自動	手動	自動	手動	
	**直線（左基線）**			地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	**0.0 (0)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
	**直線（左基線）**			地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	**0.0 (0)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
	**直線（中基線）**			地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	**3.5 (1/8)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
	**直線（中基線）**			地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	**3.5 (1/8)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
	**3 重ぬい**			丈夫なぬい目なので、袖つけや股下をぬうときに便利です。また、伸びる布地をぬうときやステッチをかけるときに使用します。	**0.0 (0)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
	**伸縮ぬい**			伸縮性のあるぬい目なので、伸びる布地をぬうときに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	**1.0 (1/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
	**飾りぬい**			飾りぬいに使用します。	**0.0 (0)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
	**しつけぬい**			しつけに使用します。	**0.0 (0)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**20 (3/4)**	5 - 30 (3/16 - 1-3/16)	×
	**ジグザグ（中基線）**			たち目かがりやアップリケなどに使用します。	**3.5 (1/8)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.4 (1/16)**	0.0 - 5.0 (0 - 3/16)	○ (J)
	**ジグザグ（中基線）**			たち目かがりやアップリケなどに使用します。	**3.5 (1/8)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.4 (1/16)**	0.0 - 5.0 (0 - 3/16)	○ (J)
	**ジグザグ（右基線）**			右の針位置からぬい始まります。	**3.5 (1/8)**	2.5 - 5.0 (3/32 - 3/16)	**1.4 (1/16)**	0.3 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
	**ジグザグ（左基線）**			左の針位置からぬい始まります。	**3.5 (1/8)**	2.5 - 5.0 (3/32 - 3/16)	**1.4 (1/16)**	0.3 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
	**2 点ジグザグ**			普通地、伸びる布地のたち目かがりやゴムひもつけ、つくろいぬいなど幅広い用途に使用します。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.0 (1/16)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
	**3 点ジグザグ**			普通地、厚地、伸びる布地のたち目かがりやゴムひもつけ、つくろいぬいなど幅広い用途に使用します。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.0 (1/16)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)

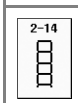
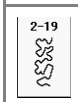
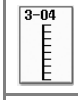
＊—：調節できません。** ○：使用できます。×：使用できません。*** サイドカッター押えは別売です。**** キルト押えは別売です。

ぬい方	名前	押え		主な用途	ジグザグの振り幅＊［mm （インチ）］		ぬい目の長さ＊［mm （インチ）］		2 本針 **
					自動	手動	自動	手動	
1-15	**たち目かがり**	G		薄地、普通地のたち目かがりに使用します。	**3.5 (1/8)**	2.5 - 5.0 (3/32 - 3/16)	**2.0 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
1-16	**たち目かがり**	G		厚地のたち目かがりに使用します。	**5.0 (3/16)**	2.5 - 5.0 (3/32 - 3/16)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
1-17	**たち目かがり**	G		厚地のたち目かがりや飾りぬいに使用します。	**5.0 (3/16)**	3.5 - 5.0 (1/8 - 3/16)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
1-18	**たち目かがり**	J	O	伸びる布地のたち目かがりに使用します。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
1-19	**たち目かがり**	J	O	普通地、厚地のたち目かがりや飾りぬいに使用します。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
1-20	**たち目かがり**	J	O	伸びる布地のたち目かがりや飾りぬいに使用します。	**4.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**4.0 (3/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
1-21	**たち目かがり**	J	O	伸びる布地のたち目かがりに使用します。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**4.0 (3/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
1-22	**たち目かがり**	J	O	伸びる布地のたち目かがりに使用します。	**6.0 (15/64)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**3.0 (1/8)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
1-23	**たち目かがり**	J	O	伸びる布地のたち目かがりに使用します。	**6.0 (15/64)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.8 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
1-24	**サイドカッター** ***	S		布を切りながら直線ぬいをします。	**0.0 (0)**	0.0 - 2.5 (0 - 3/32)	**2.5 (3/32)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
1-25	**サイドカッター** ***	S		布を切りながらジグザグぬいをします。	**3.5 (1/8)**	3.5 - 5.0 (1/8 - 3/16)	**1.4 (1/16)**	0.0 - 5.0 (0 - 3/16)	×
1-26	**サイドカッター** ***	S		布を切りながらたち目かがりをします。	**3.5 (1/8)**	3.5 - 5.0 (1/8 - 3/16)	**2.0 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
1-27	**サイドカッター** ***	S		布を切りながらたち目かがりをします。	**5.0 (3/16)**	3.5 - 5.0 (1/8 - 3/16)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
1-28	**サイドカッター** ***	S		布を切りながらたち目かがりをします。	**5.0 (3/16)**	3.5 - 5.0 (1/8 - 3/16)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
1-29	**ピーシング直線 (右基線)** ****	J	O	ピーシング用の直線です。押えの右端に布地を合わせてぬうと、ぬいしろの幅が 7.0mm でぬえるように針位置が設定されています。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.6 (1/16)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
1-30	**ピーシング直線 (中基線)**	J	C	ピーシング用の直線です。	**—**	—	**1.6 (1/16)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
1-31	**ピーシング直線 (左基線)**	J	O	ピーシング用の直線です。押えの左端に布地を合わせてぬうと、ぬいしろの幅が 7.0mm でぬえるように針位置が設定されています。	**2.0 (1/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.6 (1/16)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×

＊—：調節できません。** ○：使用できます。×：使用できません。*** サイドカッター押えは別売です。**** キルト押えは別売です。

ぬい方	名前	押え		主な用途	ジグザグの振り幅＊［mm （インチ）］		ぬい目の長さ＊［mm （インチ）］		2 本針 **
					自動	手動	自動	手動	
1-32	**手ぬい風直線**	J	O	上糸にナイロン透明糸、下糸にキルトに合った色の糸を使うと手ぬい風のキルト直線がぬえます。	**0.0 (0)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
1-33	**ジグザグ**	J	O	アップリケキルトやフリーモーションキルト、サテンぬいなどに使用します。	**3.5 (1/8)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.4 (1/16)**	0.0 - 5.0 (0 - 3/16)	×
1-34	**アップリケ**	J	O	アップリケやバインディングをするときに使用します。	**1.5 (1/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.2 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
1-35	**キルティング模様**	J	O	キルトで背景を埋めるときに使用します。	**7.0 (1/4)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.6 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
2-01	**まつりぬい**	R		普通地のまつりぬいに使用します。	**00**	3← - →3	**2.0 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
2-02	**まつりぬい**	R		伸びる布地のまつりぬいに使用します。	**00**	3← - →3	**2.0 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
2-03	**アップリケ**	J	O	アップリケに使用します。	**3.5 (1/8)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
2-04	**シェルタック**	J	O	シェルタックは貝殻を直線状にならべたような円弧状のひだを作るもので、ふち取りなどに用いるほか、ブラウス、ワンピースなどの胸元や袖に飾りぬいとして使用します。	**4.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
2-05	**サテンスカラップ**	N	O	スカラップは半月状の丸いカーブの連続した波形の模様をいいます。ブラウスやハンカチなどのふち飾りに使用します。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**0.5 (1/32)**	0.1 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
2-06	**スカラップ**	N	O	スカラップは半月状の丸いカーブの連続した波形の模様をいいます。ブラウスやハンカチなどのふち飾りに使用します。	**7.0 (1/4)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.4 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
2-07	**つきあわせ**	J	O	パッチワークや飾りぬいに使用します。	**4.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.2 (1/16)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
2-08	**つきあわせ**	J	O	パッチワークや飾りぬいに使用します。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
2-09	**つきあわせ**	J	O	コードなどを使った飾りぬいに使用します。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.2 (1/16)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
2-10	**スモッキング**	J	O	スモッキングや飾りぬいに使用します。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.6 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
2-11	**ファゴティング**	J	O	ファゴティングは布地と布地の間を離して糸でかがる方法をいい、ブラウスや子供服などに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)

＊—：調節できません。** ○：使用できます。×：使用できません。*** サイドカッター押えは別売です。**** キルト押えは別売です。

ぬい方	名前	押え		主な用途	ジグザグの振り幅＊ [mm （インチ）]		ぬい目の長さ＊ [mm （インチ）]		2 本針 **
					自動	手動	自動	手動	
	**ファゴティング**			ファゴティングは布地と布地の間を離して糸でかがる方法をいい、ブラウスや子供服などに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
	**ゴムひもつけ**			伸びる布地にゴムひもをつけるときに使用します。	**4.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.0 (1/16)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
	**飾りぬい**			飾りぬいに使用します。	**4.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**3.0 (1/8)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
	**飾りぬい**			飾りぬいに使用します。	**4.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
	**飾りぬい**			飾りぬいに使用します。	**5.5 (7/32)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.6 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
	**飾りぬい**			飾りぬいやゴムひもつけに使用します。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.0 (1/16)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
	**飾りぬい**			飾りぬいやアップリケに使用します。	**6.0 (15/64)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.0 (1/16)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
	**飾りぬい**			飾りぬいに使用します。	**7.0 (1/4)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.6 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
	**飾りぬい**			左基線の 3 重ぬいで、すそ飾りなどに使用します。	**1.0 (1/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
	**飾りぬい**			中基線の 3 重ぬいで、すそ飾りなどに使用します。	**3.5 (1/8)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
	**飾りぬい**			ふち飾りなどに使用します。	**6.0 (15/64)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**3.0 (1/8)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
	**飾りぬい**			レースつけやふち飾りなどに使用します。	**3.5 (1/8)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
	**飾りぬい**			ふち飾りなどに使用します。	**3.0 (1/8)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**3.5 (1/8)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
	**飾りぬい**			ふち飾りなどに使用します。	**6.0 (15/64)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**3.0 (1/8)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
	飾りぬい			ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**3.5 (1/8)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
	飾りぬい			ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**3.5 (1/8)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
	飾りぬい			ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**3.5 (1/8)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)

＊—：調節できません。** ○：使用できます。×：使用できません。*** サイドカッター押えは別売です。**** キルト押えは別売です。

ぬい方	名前	押え		主な用途	ジグザグの振り幅＊［mm （インチ）］		ぬい目の長さ＊［mm （インチ）］		2 本針 **
					自動	手動	自動	手動	
3-10	飾りぬい	N	O	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**4.0 (3/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
3-11	飾りぬい	N	O	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**4.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
3-12	飾りぬい	N	O	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
3-13	飾りぬい	N	O	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**6.0 (15/64)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**3.5 (1/8)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
3-14	飾りぬい	N	O	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**6.0 (15/64)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.6 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
3-15	飾りぬい	N	O	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**6.0 (15/64)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**3.0 (1/8)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
3-16	飾りぬい	N	O	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**6.0 (15/64)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**4.0 (3/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
3-17	飾りぬい	N	O	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**4.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
3-18	飾りぬい	N	O	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.0 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
3-19	飾りぬい	N	O	つき合わせや飾りぬいに使用します。	**6.0 (15/64)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**2.0 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
3-20	飾りぬい	N	O	ふち飾りやぬった後にリボンを通して飾りとして使用します。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**3.0 (1/8)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	○ (J)
3-21	飾りぬい	N	O	飾りぬいやスモッキングに使用します。	**6.0 (15/64)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.6 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
3-22	飾りぬい	N	O	飾りぬいやスモッキングに使用します。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 7.0 (0 - 1/4)	**1.6 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
4-01	ボタン穴かがり	A		ねむり穴、横穴用。薄地から普通地のボタン穴かがりに使用します。ブラウス、シャツなどに使用します。	**5.0 (3/16)**	3.0 - 5.0 (1/8 - 3/16)	**0.4 (1/64)**	0.2 - 1.0 (1/64 - 1/16)	×
4-02	ボタン穴かがり	A		横穴用。厚地の布や厚みのあるボタンを使うときに使用します。	**5.5 (7/32)**	3.5 - 5.5 (1/8 - 7/32)	**0.4 (1/64)**	0.2 - 1.0 (1/64 - 1/16)	×
4-03	ボタン穴かがり	A		横穴用。ウエストベルトなど力がかかるところに使用します。	**5.0 (3/16)**	3.0 - 5.0 (1/8 - 3/16)	**0.4 (1/64)**	0.2 - 1.0 (1/64 - 1/16)	×
4-04	ボタン穴かがり	A		横穴用。厚地のボタン穴かがりに使用します。	**5.0 (3/16)**	3.0 - 5.0 (1/8 - 3/16)	**0.4 (1/64)**	0.2 - 1.0 (1/64 - 1/16)	×

＊—：調節できません。** ○：使用できます。×：使用できません。*** サイドカッター押えは別売です。**** キルト押えは別売です。

ぬい方	名前	押え		主な用途	ジグザグの振り幅＊ [mm （インチ）]		ぬい目の長さ＊ [mm （インチ）]		2 本針 **
					自動	手動	自動	手動	
4-05	ボタン穴かがり	A		ボタン穴かがり + かんどめ	**5.0 (3/16)**	3.0 - 5.0 (1/8 - 3/16)	**0.4 (1/64)**	0.2 - 1.0 (1/64 - 1/16)	×
4-06	ボタン穴かがり	A		ねむり穴。普通地から厚地のボタン穴かがりに使用します。ジャケットやブラウスに使用します。	**5.0 (3/16)**	3.0 - 5.0 (1/8 - 3/16)	**0.4 (1/64)**	0.2 - 1.0 (1/64 - 1/16)	×
4-07	ボタン穴かがり	A		両止めボタン穴かがり。麻、木綿など、ある程度腰のある素材に適しています。ホームウェアやブラウスなど手軽にぬえるものに使用します。	**5.0 (3/16)**	3.0 - 5.0 (1/8 - 3/16)	**0.4 (1/64)**	0.2 - 1.0 (1/64 - 1/16)	×
4-08	ボタン穴かがり	A		両止めボタン穴かがり。厚地の布や厚みのあるボタンを使うときに使用します。	**5.5 (7/32)**	3.5 - 5.5 (1/8 - 7/32)	**0.4 (1/64)**	0.2 - 1.0 (1/64 - 1/16)	×
4-09	ボタン穴かがり	A		横穴用。厚地のボタン穴かがりに使用します。	**6.0 (15/64)**	3.0 - 6.0 (1/8 - 15/64)	**1.0 (1/16)**	0.5 - 2.0 (1/32 - 1/16)	×
4-10	ボタン穴かがり	A		伸びる布地や編み地のボタン穴かがりに使用します。	**6.0 (15/64)**	3.0 - 6.0 (1/8 - 15/64)	**1.5 (1/16)**	1.0 - 3.0 (1/16 - 1/8)	×
4-11	ボタン穴かがり	A		芯ひもを入れてぬいます。伸びる布地のボタン穴かがりに使用します。芯ひもを入れてぬいます。	**5.0 (3/16)**	0.0 - 6.0 (0 - 15/64)	**2.0 (1/16)**	0.2 - 4.0 (1/64 - 3/16)	×
4-12	ボタン穴かがり	A		はとめ穴。厚地や毛足の長い布のボタン穴かがりに使用します。ブレザー、スーツ、コートなどに使用します。	**7.0 (1/4)**	3.0 - 7.0 (1/8 - 1/4)	**0.5 (1/32)**	0.3 - 1.0 (1/64 - 1/16)	×
4-13	ボタン穴かがり	A		はとめ穴。普通地から厚地のボタン穴かがりに使用します。ジーンズ、ズボンなどに使用します。	**7.0 (1/4)**	3.0 - 7.0 (1/8 - 1/4)	**0.5 (1/32)**	0.3 - 1.0 (1/64 - 1/16)	×
4-14	ボタン穴かがり	A		はとめ穴。厚地や毛足の長い布の横穴ボタン穴かがりに使用します。厚手のコートなどに使用します。	**7.0 (1/4)**	3.0 - 7.0 (1/8 - 1/4)	**0.5 (1/32)**	0.3 - 1.0 (1/64 - 1/16)	×
4-15	ダーニング	A		普通地のつくろいぬいに使用します。	**7.0 (1/4)**	2.5 - 7.0 (3/32 - 1/4)	**2.0 (1/16)**	0.4 - 2.5 (1/64 - 3/32)	×
4-16	ダーニング	A		厚地のつくろいぬいに使用します。	**7.0 (1/4)**	2.5 - 7.0 (3/32 - 1/4)	**2.0 (1/16)**	0.4 - 2.5 (1/64 - 3/32)	×
4-17	かんどめ	A		ぬい目がほどけやすい箇所やポケット口などのあき止まり部分の力の加わる部分を補強したい場合に用います。	**2.0 (1/16)**	1.0 - 3.0 (1/16 - 1/8)	**0.4 (1/64)**	0.3 - 1.0 (1/64 - 1/16)	×
4-18	ボタンつけ	M		ボタンつけに使用します。	**3.5 (1/8)**	2.5 - 4.5 (3/32 - 3/16)	—	—	×
4-19	アイレット	N	O	ベルトの調節用の穴をかがるときなどに使用します。普通地に使用します。	**7.0 (1/4)**	7.0 6.0 5.0 (1/4 15/64 3/16)	**7.0 (1/4)**	7.0 6.0 5.0 (1/4 15/64 3/16)	×
5-01	**横送り直線**	N	O	でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—	—	—	×

＊—：調節できません。** ○：使用できます。×：使用できません。*** サイドカッター押えは別売です。**** キルト押えは別売です。

ぬい方	名前	押え		主な用途	ジグザグの振り幅＊［mm （インチ）］		ぬい目の長さ＊［mm （インチ）］		2 本針 **
					自動	手動	自動	手動	
5-02	**横送り直線**	N		できあがった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—	—	—	×
5-03	**横送り直線**	N		できあがった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—	—	—	×
5-04	**横送り直線**	N		できあがった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—	—	—	×
5-05	**横送り直線**	N		できあがった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—	—	—	×
5-06	**横送り直線**	N		できあがった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—	—	—	×
5-07	**横送り直線**	N		できあがった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—	—	—	×
5-08	**横送り直線**	N		できあがった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—	—	—	×
5-09	**横送りジグザグ**	N		できあがった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—	—	—	×
5-10	**横送りジグザグ**	N		できあがった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—	—	—	×
5-11	**横送りジグザグ**	N		できあがった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—	—	—	×
5-12	**横送りジグザグ**	N		できあがった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—	—	—	×
Q-01	**ピーシング直線（中基線）** ****	J	C	ピーシング用の直線です。	—	—	**1.6 (1/16)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-02	**ピーシング直線（右基線）**	J		ピーシング用の直線です。押えの右端に布地を合わせてぬうと、ぬいしろの幅が 7.0mm でぬえるように針位置が設定されています。	**5.0 (3/16)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**1.6 (1/16)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-03	**ピーシング直線（左基線）**	J		ピーシング用の直線です。押えの左端に布地を合わせてぬうと、ぬいしろの幅が 7.0mm でぬえるように針位置が設定されています。	**2.0 (1/16)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**1.6 (1/16)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-04	**手ぬい風直線**	J		上糸にナイロン透明糸、下糸にキルトに合った色の糸を使うと手ぬい風のキルト直線がぬえます。	**3.50 (1/8)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-05	**しつけぬい**	J		しつけに使用します。	**3.50 (1/8)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**20 (3/4)**	5 - 30 (3/16 - 1-3/16)	×

＊—：調節できません。** ○：使用できます。×：使用できません。*** サイドカッター押えは別売です。**** キルト押えは別売です。

ぬい方	名前	押え		主な用途	ジグザグの振り幅＊ [mm （インチ）]		ぬい目の長さ＊ [mm （インチ）]		2 本針 **
					自動	手動	自動	手動	
Q-06	**伸縮ぬい**	J	O	伸縮性のあるぬい目なので、伸びる布地をぬうときに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	**1.00 (1/16)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-07	**ジグザグ**	J	O	アップリケキルトやフリーモーションキルト、サテンぬいなどに使用します。	**3.50 (1/8)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**1.6 (1/16)**	0.0 - 5.0 (0 - 3/16)	×
Q-08	**ジグザグ (右基線)**	J	O	右の針位置からぬい始まります。	**3.50 (1/8)**	2.50 - 5.00 (3/32 - 3/16)	**1.6 (1/16)**	0.3 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-09	**ジグザグ (左基線)**	J	O	左の針位置からぬい始まります。	**3.50 (1/8)**	2.50 - 5.00 (3/32 - 3/16)	**1.6 (1/16)**	0.3 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-10	**2 点ジグザグ**	J	O	普通地、伸びる布地のたち目かがりやゴムひもつけ、つくろいぬいなど幅広い用途に使用します。	**5.00 (3/16)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**1.0 (1/16)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-11	**3 点ジグザグ**	J	O	普通地、厚地、伸びる布地のたち目かがりやゴムひもつけ、つくろいぬいなど幅広い用途に使用します。	**5.00 (3/16)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**1.0 (1/16)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-12	**アップリケ**	J	O	アップリケやバインディングをするときに使用します。	**2.00 (1/16)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**2.0 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-13	**シェルタック**	J	O	シェルタックは貝殻を直線状にならべたような円弧状のひだを作るもので、ふち取りなどに用いるほか、ブラウス、ワンピースなどの胸元や袖に飾りぬいとして使用します。	**4.00 (3/16)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-14	**アップリケ**	J	O	アップリケに使用します。	**3.50 (1/8)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-15	**キルティング模様**	J	O	キルトで背景を埋めるときに使用します。	**7.00 (1/4)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**1.6 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-16	**たち目かがり**	J	O	伸びる布地のたち目かがりに使用します。	**5.00 (3/16)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**4.0 (3/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-17	**ゴムひもつけ**	J	O	伸びる布地にゴムひもをつけるときに使用します。	**5.50 (7/32)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**1.4 (1/16)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-18	**飾りぬい**	N	O	飾りぬいやゴムひもつけに使用します。	**5.00 (3/16)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**2.0 (1/16)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-19	**ファゴティング**	J	O	ファゴティングは布地と布地の間を離して糸でかがる方法をいい、ブラウスや子供服などに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	**5.00 (3/16)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-20	**ファゴティング**	J	O	ファゴティングは布地と布地の間を離して糸でかがる方法をいい、ブラウスや子供服などに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	**5.00 (3/16)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×

＊—：調節できません。** ○：使用できます。×：使用できません。*** サイドカッター押えは別売です。**** キルト押えは別売です。

ぬい方	名前	押え		主な用途	ジグザグの振り幅＊［mm （インチ）］		ぬい目の長さ＊［mm （インチ）］		2 本針 **
					自動	手動	自動	手動	
Q-21	つきあわせ	J	O	コードなどを使った飾りぬいに使用します。	**5.00 (3/16)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**1.2 (1/16)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-22	つきあわせ	J	O	パッチワークや飾りぬいに使用します。	**5.00 (3/16)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-23	スモッキング	J	O	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**5.00 (3/16)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**1.6 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-24	飾りぬい	J	O	飾りぬいに使用します。	**4.00 (3/16)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**2.5 (3/32)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-25	飾りぬい	N	O	飾りぬいやアップリケに使用します。	**6.00 (15/64)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**1.0 (1/16)**	0.2 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-26	飾りぬい	J	O	飾りぬいに使用します。	**5.50 (7/32)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**1.6 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-27	飾りぬい	N	O	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**5.00 (3/16)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**2.0 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-28	飾りぬい	N	O	つき合わせや飾りぬいに使用します。	**6.00 (15/64)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**2.0 (1/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-29	たち目かがり	J	O	伸びる布地のたち目かがりに使用します。	**6.00 (15/64)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**3.0 (1/8)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×
Q-30	たち目かがり	J	O	伸びる布地のたち目かがりや飾りぬいに使用します。	**4.00 (3/16)**	0.00 - 7.00 (0 - 1/4)	**4.0 (3/16)**	0.4 - 5.0 (1/64 - 3/16)	×

＊—：調節できません。** ○：使用できます。×：使用できません。*** サイドカッター押えは別売です。**** キルト押えは別売です。

第 3 章
文字・模様ぬい

模様の選び方 77

大型飾り模様／7mm 飾り模様／大型サテンステッチ／
7mm サテンステッチ／クロスステッチ／実用飾り模様 78
文字模様 78
■ 文字を削除するには 79
■ 文字間を調整する 80

文字・模様をぬってみましょう 81

きれいにぬうために 81
文字・模様のぬい方 81
模様の調整をする 82

模様の編集のしかた 84

■ キーのはたらき 84
模様の大きさを変える 86
模様の長さを変える（7mm サテンステッチのみ） 86
模様を上下反転させる 86
模様を左右反転させる 86
模様の連続ぬい / 単独ぬい 86
模様の糸密度を変える（大型サテンステッチのみ） 87
横書き／縦書きを切り替える 87
模様の始めに戻る 87
模様のイメージを確認する 88

模様の組み合わせ 89

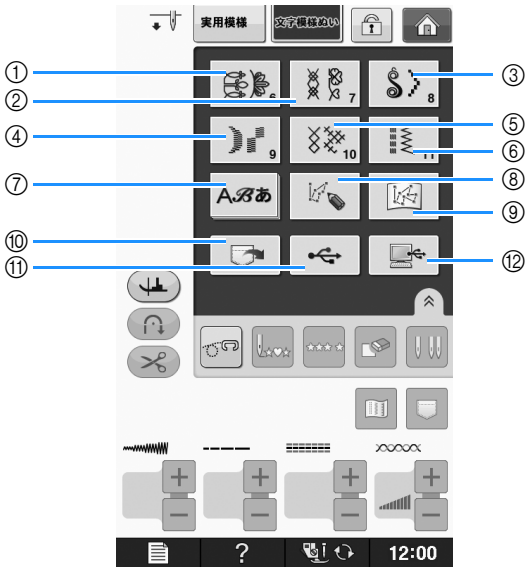
模様の組み合わせをする前に 89
ちがう模様を組み合わせる 89
大きさを変えた模様を組み合わせる 90
反転模様を組み合わせる 90
長さを変えた模様を組み合わせる 91
ステップ模様を作る（7mm サテンステッチのみ） 92
■ そのほかの組み合わせ例 93

模様の記憶 94

データに関する注意 94
■ 使用可能なデータの種類 94
■ 使用可能な USB デバイス／メディア 94
■ 使用可能なパソコンの種類と OS 94
■ パソコンでデータを作成・保存するときの注意 94
模様を記憶する 95
■ 記憶できないときは 95
模様を市販の USB メディアに記憶する 96
模様をパソコンに記憶する 97
模様を呼び出す 98
USB メディアから呼び出す 99
パソコンから呼び出す 100

模様の選び方

文字模様ぬい を押すと下の画面が表示されます。このミシンには、7 種類の文字・模様ぬいがあります。



① 大型飾り模様
② 7mm 飾り模様
ぬい目の長さと振り幅を設定できます。
③ 大型サテンステッチ
④ 7mm サテンステッチ
ぬい目の長さと振り幅を設定できます。
⑤ クロスステッチ
⑥ 実用飾り模様
⑦ 文字模様（ゴシック体、筆記体、アウトライン文字、キリル文字、ひらがな／カタカナ）
⑧ マイイラスト機能を使って模様を作るときに、このキーを押します。(S-102 参照)
⑨ マイイラスト機能に保存した模様（S-102 参照）
⑩ 記憶した模様の呼び出し（S-98 参照）
⑪ USB メディアからの模様の呼び出し（S-99 参照）
⑫ パソコンからの模様の呼び出し（S-100 参照）

お願い

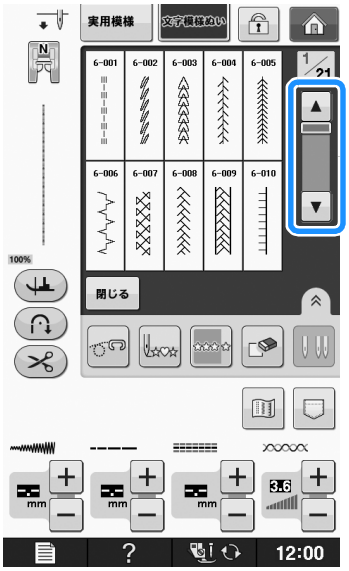
- 画面がロックされている（🔒）ときは、🔒を押してロックを解除してください。画面がロックされていると、他のキーは操作できません。

大型飾り模様／7mm 飾り模様／大型サテンステッチ／7mm サテンステッチ／クロスステッチ／実用飾り模様

1 ぬいたい模様の種類を選びます。

2 ぬいたい模様のキーを押します。

* ▼を押すと次のページが表示されます。
* ▲を押すと前のページが表示されます。
* ▼と▲の間のバーを押すと、ページをジャンプすることができます。
* 別の模様を選ぶときは、を押します。模様が消えたら、新しい模様を選びます。



→ 選んだ模様が表示されます。

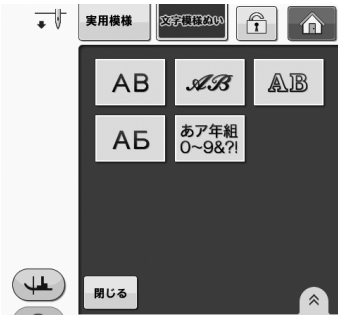
文字模様

例： 「Blue Sky」と入力する。

1 AAあ を押します。



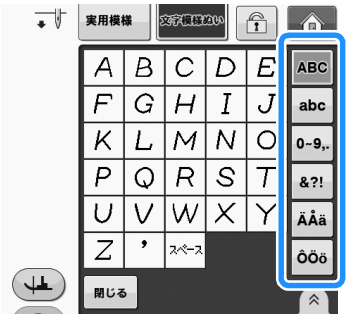
2 AB 、 AB 、 AB 、 AБ または あア年組 0~9&?! のいずれかを押して、書体を選びます。



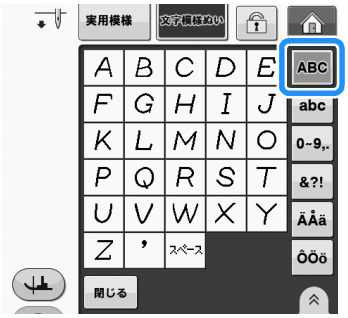
お知らせ

- 文字模様は、4 種類のアルファベット書体とひらがな／カタカナを選択できます。それぞれの書体について、詳しくは「模様一覧」をご参照ください。

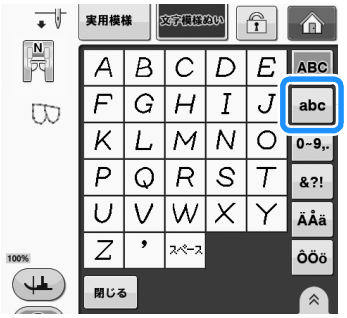
3 右側のインデックスから文字選択画面を選びます。



4 ABC を押してから、「B」を入力します。



5 abc を押してから、「lue」を入力します。



6 スペース（スペース）を押して、スペースを入力します。



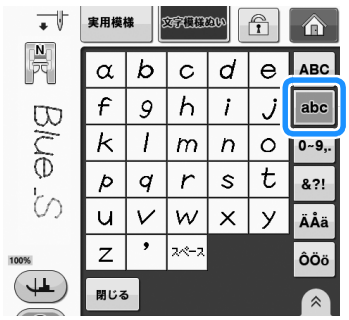
7 もう一度 ABC を押してから、「S」を入力します。



① スペースには渡り糸が入ります。

* ぬい終わってから、渡り糸を切ってください。

8 abc を押してから、「ky」を入力します。



* フォントを変えて、続けて文字を入力したい場合は、閉じる を押して 2 からの手順を繰り返してください。

■ 文字を削除するには

1 を押すと、最後の文字が削除されます。



お知らせ

- 文字は、最後に入力されたものから順に削除されます。

2 正しい文字を選びます。

* を押し続けると、文字を全て消すことができます。

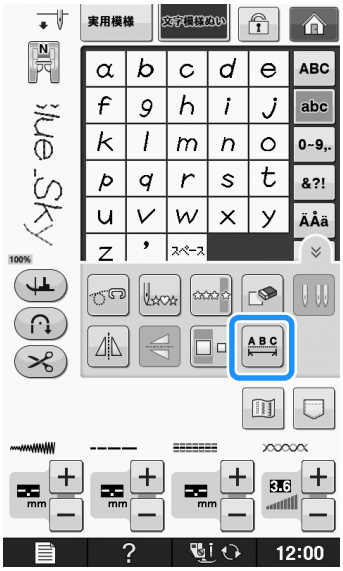


■ 文字間を調整する

文字の間隔を調整できます。

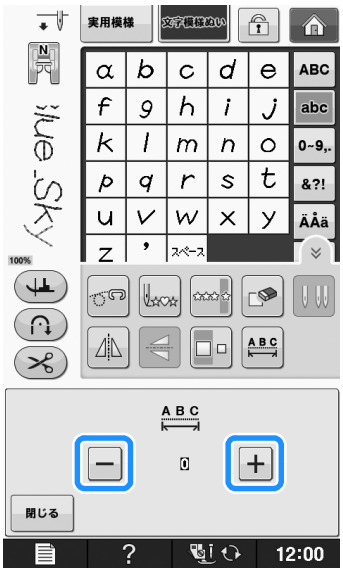
1 [ABC] を押します。

* [^] を押すと、画面上に [ABC] が表示されます。



→ 文字間調整画面が表示されます。

2 [−] [+] を押して文字間を調整してください。



* [+] を押すと文字間が広がり、[−] を押すと文字間が詰まります。

例：

* それぞれの設定値に対応する文字間については以下をご参照ください。



設定値	mm
0	0
1	0.18
2	0.36
3	0.54
4	0.72
5	0.9
6	1.08
7	1.26
8	1.44
9	1.62
10	1.8

お知らせ

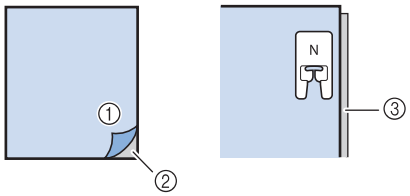
- 購入時の設定は「0」です。「0」以下の数値は設定できません。
- この方法で設定した文字間は、入力した文字全てに適用されます。設定後に入力した文字も、引き続き同じ文字間になります。

文字・模様をぬってみましょう

きれいにぬうために

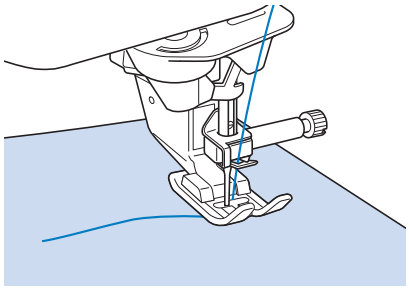
きれいに文字模様をぬうために、布地・糸・針は以下の表を参照してください。

お願い
- 布地の種類や厚さ、接着芯の種類などによって、模様がくずれることがあります。必ず試しぬいをしてください。
- サテンステッチをぬうときは、ぬい縮みや目詰まりが起こすことがあるため、必ず接着芯を貼ってください。
- ぬうときには布地がずれないように、手を添えてぬってください。

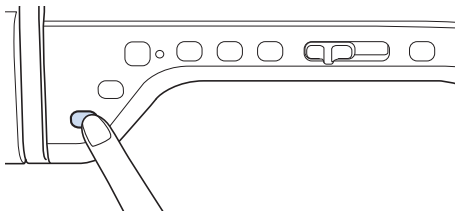
布地	伸びる布地、薄地、織りのあらい布地は、裏面に別売の接着芯を貼ってください。接着芯を貼りたくないときは、ハトロン紙などの薄い紙を布地の下に敷いてぬってください。  ① 布地 ② 接着芯 ③ 薄い紙
糸	50 ～ 60 番
針	薄地、普通地：家庭用ミシン針（HA × 1）11 番 厚地：家庭用ミシン針（HA × 1）14 番 伸びる布地：ニット用針
押え	模様ぬい押え＜ N ＞ 模様ぬい押え＜ N ＞以外を使用すると、きれいに仕上がらないことがあります。

文字・模様のぬい方

1. 模様を選びます。
2. 模様ぬい押え＜ N ＞を取り付けます。
3. 布地を押えの下に置き、上糸を押えの下から横に出して押えレバーを下げます。



4. (スタート／ストップスイッチ) を押してぬい始めます。

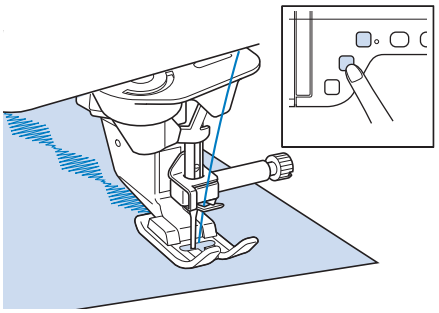


注意
- 7mm サテンステッチを使った模様などでぬい目が詰まる場合は、ぬい目の長さをあらくしてください。ぬい目が詰まった状態で無理にぬい続けると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。(S-10 の「ぬい目の長さを調節する」参照)

お知らせ
- ぬっている途中で布地を引っ張ったり押さえたりすると、模様がくずれるおそれがあります。また、模様によっては前後に加え、左右にも動くため、布地がまっすぐ送られるように布を軽く押さえながらぬってください。

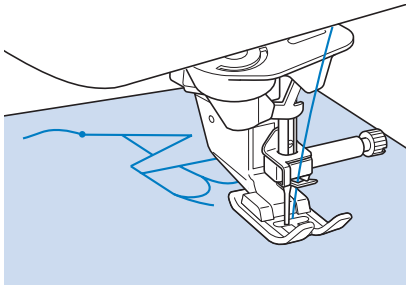
5 (スタート／ストップスイッチ）を押して、ミシンを止めます。

6 (返しぬいスイッチ）か (止めぬいスイッチ）を押して、止めぬいをします。

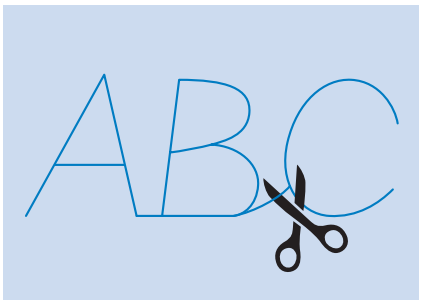


お知らせ

- 文字ぬいの場合は、ぬい始めとぬい終わりに自動的に止めぬいをします。



- ぬい終わったら、余分な糸（渡り糸）を切り取ります。



- 選択した模様によっては針が上に停止したまま布地を送ります。そのとき、縫製音とは異なった音がしますが故障ではありません。

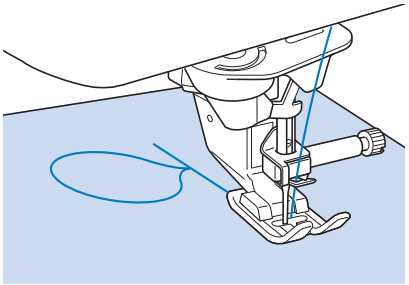
模様の調整をする

布地の種類、厚さ、接着芯の種類、ぬう速さなどによっては、模様がくずれる場合があります。模様がくずれた場合は、実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをし、次のように調整してください。 で模様の調整を行っても、模様がくずれる場合は、個々の模様で調整を行ってください。

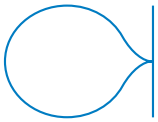
1 を押して、大型飾り模様の 19/21 の を選びます。



2 模様ぬい押え＜ N ＞を取り付け、模様をぬいます。



3 ぬい上がりを次の正しい模様と比較してください。



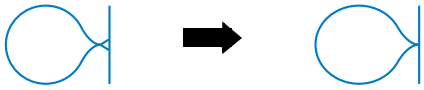
4 [■■■]を押し、「模様調整たて」または「模様調整よこ」を使って模様を調整します。



* 模様がつまっているとき：

「模様調整たて」の [＋] を押します。

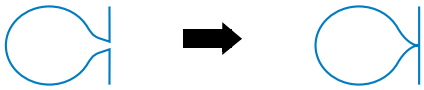
→ このキーを押すごとに表示値が大きくなり、模様が伸びます。



* 模様にすきまがあるとき：

「模様調整たて」の [－] を押します。

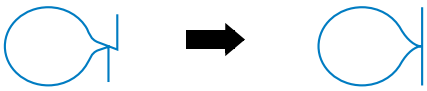
→ このキーを押すごとに表示値が小さくなり、模様がつまります。



* 模様が左にずれているとき：

「模様調整よこ」の [＋] を押します。

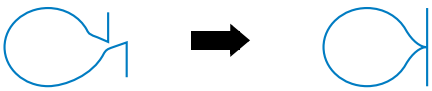
→ このキーを押すごとに表示値が大きくなり、模様が右にずれます。



* 模様が右にずれているとき：

「模様調整よこ」の [－] を押します。

→ このキーを押すごとに表示値が小さくなり、模様が左にずれます。



5 もう一度ぬいます。

* 模様がくずれている場合はもう一度調整します。正しい模様がぬえるようになるまで調整してください。

お知らせ

- 設定画面のままぬうことができます。

6 正しい模様がぬえるようになったら、調節を終わります。[閉じる]を押して、元の画面に戻ります。

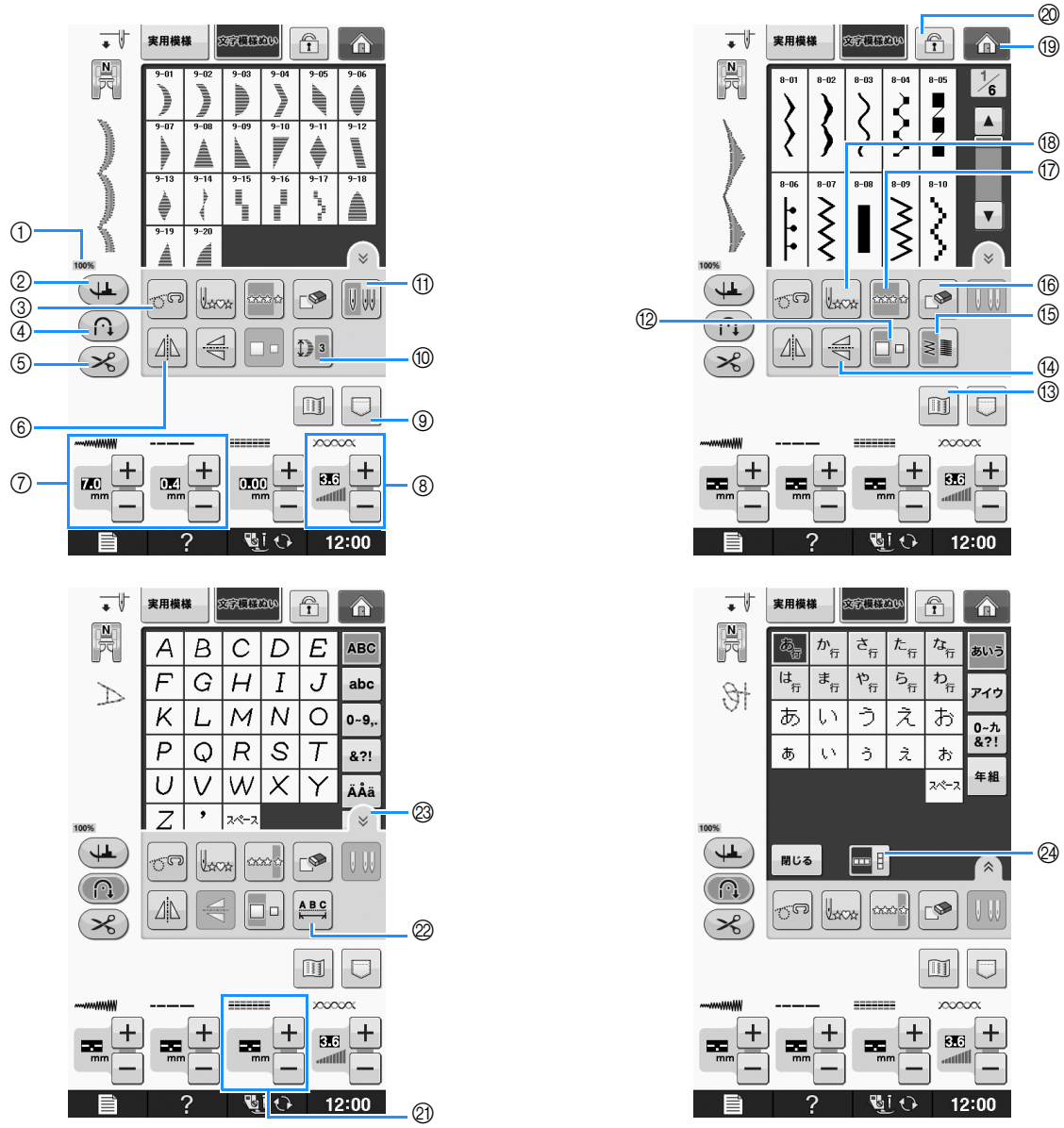
模様の編集のしかた

■ キーのはたらき

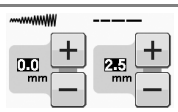
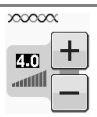
模様の編集機能を使って、模様の大きさを変えたり、模様を反転させることができます。

お知らせ

- 模様の種類によっては、編集機能が使えないものもあります。使用できる機能は、模様を選んだときに表示されます。



No.	画面表示	名称	はたらき	参照ページ
①	100%	表示サイズ	選択した模様が実際と比べてどのくらいのサイズで表示されているかを、大まかな数値で表しています。 100% : 実際とほぼ同じサイズで表示されています。 50% : 実際の半分のサイズで表示されています。 25% : 実際の 1/4 のサイズで表示されています。 * 実際の模様の大きさは、使用する布地や糸の種類によって異なります。	S-21

No.	画面表示	名称	はたらき	参照ページ
②		ピボットキー	ピボット設定にするときに押します。ピボット設定にしている間は、ミシンを停止したとき、針が下がり、押えは少し上がった状態になります。さらに、再度ぬい始めると、自動で押えが下がります。 • このキーが灰色（）で表示されているときは、ピボット設定は使用できません。 • 設定画面の「針位置 - 上／下」は、下に設定してください。	S-15
③		フリーモーションモードキー	フリーモーションモードに設定するときに押します。 送り歯が下がり、押えがフリーモーションキルトに適した高さまで上がります。	S-40
④		自動止めぬいキー	自動止めぬい機能を有効にするときに押します。	S-6
⑤		自動糸切りキー	自動糸切り機能を有効にするときに押します。	S-14
⑥		左右反転キー	模様を選んでから押すと、模様が左右に反転します。	S-86
⑦		ぬい目調節キー	選択した模様の振り幅とぬい目の長さを示します。通常は自動的に標準の値が設定されています。	S-10 ～ S-12
⑧		糸調子キー	選択された模様の糸調整を示します。通常は自動的に標準の値が設定されています。	S-12
⑨		記憶キー	組み合わせた模様を記憶することができます。	S-95 ～ S-96
⑩		模様の長さキー	7mm サテンステッチの模様を選んでから押すと、ジグザグの振り幅・ぬい目の長さを変えずに、模様の長さを 5 段階から選ぶことができます。	S-86
⑪		2 本針キー	1 本針と 2 本針の切り替えをします。	「基本機能編」
⑫		大きさキー	模様を選んでから押すと、模様の大きさが変わります。（大／小）	S-86
⑬		イメージキー	大きな組み合わせ模様を確認するときに押します。	S-88
⑭		上下反転キー	模様を選んでから押すと、模様が上下に反転します。	S-86
⑮		糸密度キー	模様を選んでから押すと、模様の糸密度が変わります。	S-87
⑯		削除キー	間違えて模様を選んだときに押すと、選んだ模様を取り消します。模様の組み合わせを間違えた場合も、このキーを使って模様を取り消します。	S-78, S-79
⑰		連続／単独ぬいキー	単独ぬいと連続ぬいの切り替えをします。	S-86
⑱		模様の頭出しキー	停止時に押すと、縫製中の模様を先頭に戻すことができます。	S-87
⑲		ホームキー	（刺しゅう・実用ぬい兼用ミシンのみ） ホーム画面に戻るときに押します。	–
⑳		画面ロックキー	画面をロックするときに押します。画面をロックすると、振り幅やぬい目の長さなどの各設定がロック（固定）されます。もう一度押すと、解除されます。	S-18
㉑		L/R シフトキー	＋を押すとぬい模様が右へずれ、－を押すと左へずれます。選択している模様によっては、この機能が使用できません。模様ごとの購入時の設定値は、反転表示されます。	S-11
㉒		文字間隔キー	文字模様の文字間隔を調整できます。	S-80
㉓		機能ページキー	操作可能なキーを全て表示したいときに押します。	S-80
㉔		よこたてキー	日本語の文字を選んでから押すと、横書き / 縦書きが切り替わります。	S-87

模様の大きさを変える

模様を選んでから を押し、模様の大きさを変えます。反転表示されている大きさで模様ぬいが行われます。

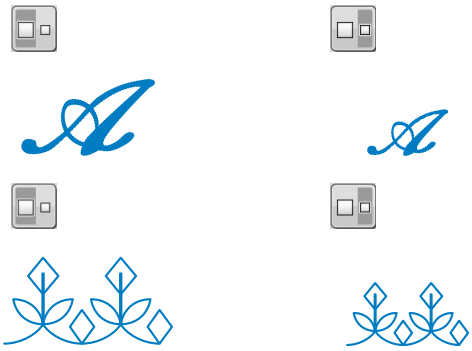


お知らせ

- 続けて別の模様を選んだ場合も、模様の大きさは変わりません。
- 文字や模様を組み合わせた後で、まとめて大きさを変えることはできません。

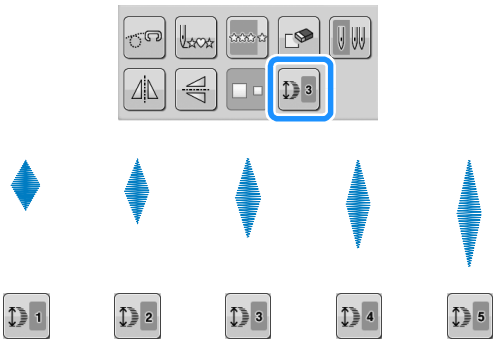
実物大

* 模様の大きさは、使用する布地や糸の種類によって異なります。



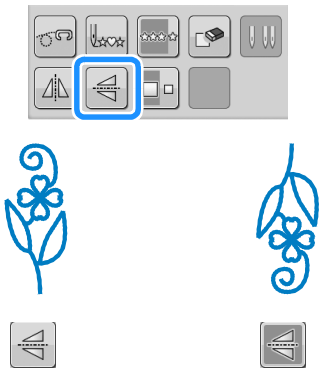
模様の長さを変える（7mm サテンステッチのみ）

7mm サテンステッチの模様を選んだ後、 を押すと、ジグザグの振り幅・ぬい目の長さを変えずに、模様の長さを 5 種類から選べます。



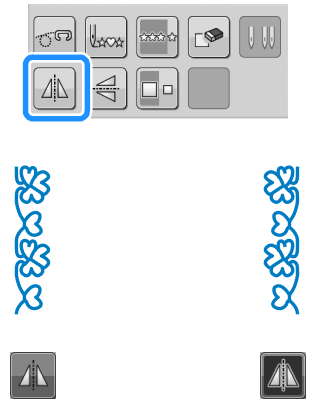
模様を上下反転させる

上下反転した模様を作るときは、模様を選んでから を押します。



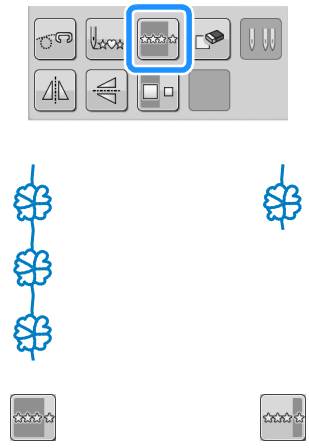
模様を左右反転させる

左右反転した模様を作るときは、模様を選んでから を押します。



模様の連続ぬい / 単独ぬい

を押して、連続ぬい／単独ぬいを切り替えます。



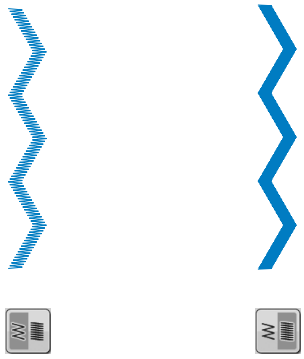
お知らせ

- ぬっている途中で を押すと、そのときぬっていた模様を 1 サイクル分ぬって自動的に止まります。

模様の糸密度を変える（大型サテンステッチのみ）

模様を選んでから を押して、お好みの糸密度を選びます。





⚠ 注 意

- 糸密度を に変えた後、ぬい目が詰まる場合は、糸密度を に戻してください。ぬい目が詰まった状態で無理にぬい続けると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

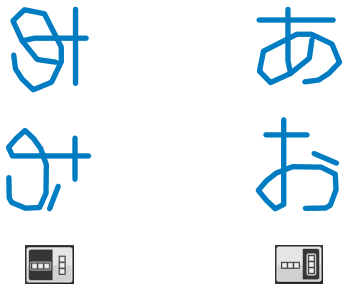
お知らせ

- 糸密度を変えた後で新しい模様を選んでも、糸密度の設定を変えるまで糸密度は変わりません。
- 模様を組み合わせた後で、まとめて糸密度を変えることはできません。

横書き／縦書きを切り替える

を押すと、日本語の文字（ひらがな／カタカナ／漢字）の横書き／縦書きが切り替わります。





模様の始めに戻る

文字・飾り模様の場合、試しぬいの後、または模様が正しくぬわれていないときには模様の始めに戻ることができます。

1 （スタート／ストップスイッチ）を押して、ミシンを止めてから、 を押します。



→ ミシンを止めた位置から、選択された模様のぬい始めの位置（上の例では、「W」）に戻ります。

お知らせ

- ミシンの停止中に、模様の頭出しキーを押したあと、模様のキーを押した場合は、組み合わせ模様の最後に模様が追加されます。（下の例では、「!」が追加されています。）



2 （スタート／ストップスイッチ）を押して、続行します。

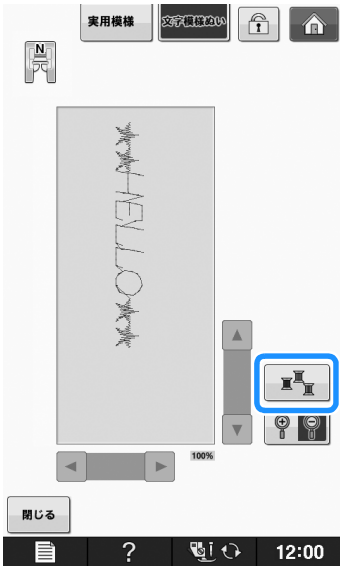
模様のイメージを確認する

選択した模様のイメージを実寸で表示することができます。イメージの色を画面で確認し、変更することもできます。

1 を押します。

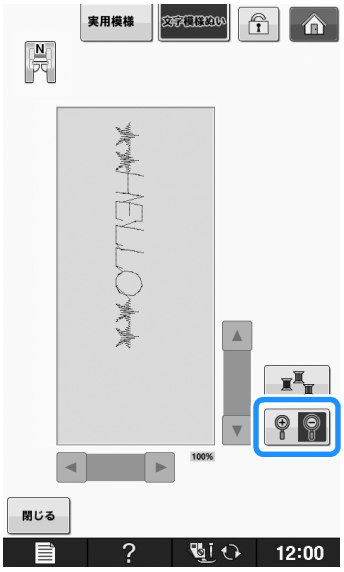
→ 選択した模様のイメージが表示されます。

2 を押すと、糸の色が変わります。

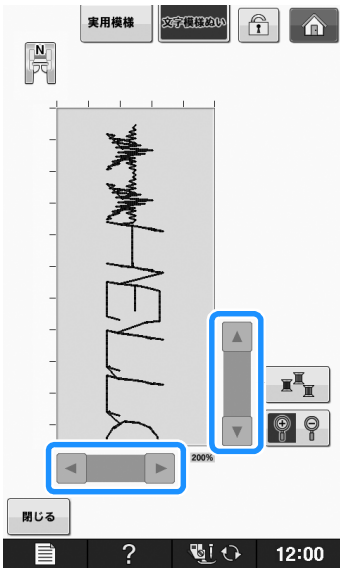


→ このスイッチを押すたびに赤、青、黒と色が変わります。

3 を押すとイメージが拡大します。



4 表示エリアからはみ出している部分を見るには、▲ ▼ ◀ ▶ を押します。



5 閉じる を押すと、元の画面に戻ります。

お知らせ

- 押え記号が表示されているときは、この画面から文字・模様ぬいを行うこともできます。
- 選択した模様によっては、表示サイズを変更できない場合があります。

模様の組み合わせ

文字、サテンステッチ、クロスステッチ、マイイラスト機能を使って作った模様（S-102 の「マイイラスト機能」参照）など模様を組み合わせると使い方が広がります。ちがう種類の模様を組み合わせたり、大きさを変えて組み合わせたり、反転模様を組み合わせたり、いろいろな組み合わせを楽しんでください。

模様の組み合わせをする前に

模様は組み合わせをすると自動的に単独ぬいになります。組み合わせた模様を連続ぬいにしたい場合は、模様を組み合わせた後、を押してください。

模様を組み合わせた後で、まとめて大きさを変えたり、反転させたりすることはできません。大きさを変えたり、反転させたりしたい場合は、１模様ごとに設定をして組み合わせてください。

ちがう模様を組み合わせる

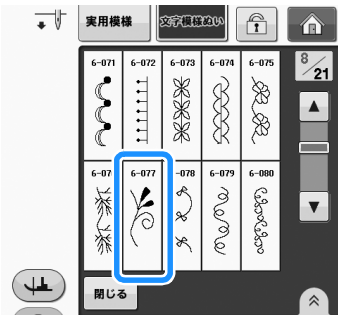
例：



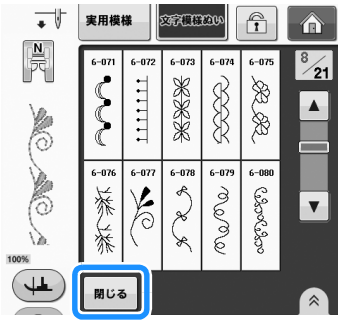
1 を押します。



2 を選びます。



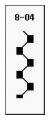
3 閉じるを押します。

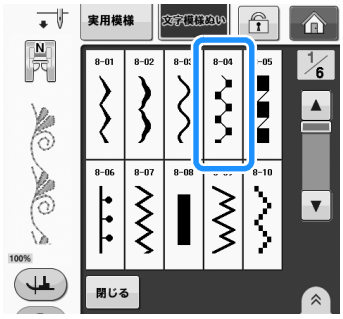


→ 模様の種類を選択する画面に戻ります。

4 を押します。

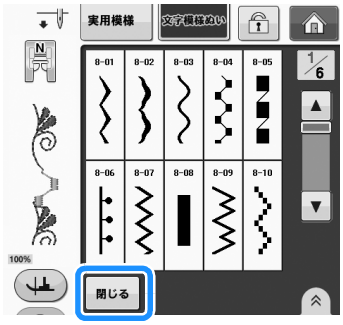


5  を選びます。



6 連続ぬいにしたいときは、 を押します。

7 閉じる を押します。



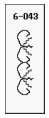
お知らせ

- 模様を取り消したいときは、 を押すと最後に選んだ模様から 1 つずつ順番に取り消されます。

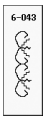
大きさを変えた模様を組み合わせる

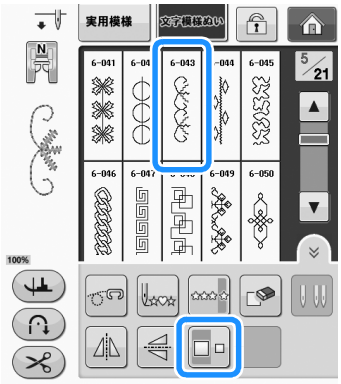
例：



1  を選びます。

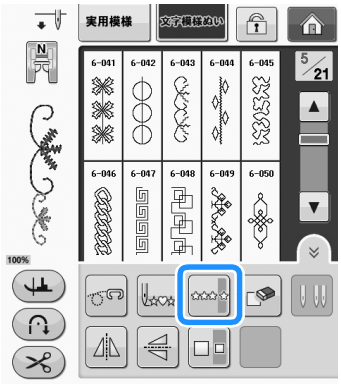
→ 模様が大きく表示されます。

2 もう一度  を選び、 を押します。



→ 模様が小さく表示されます。

3 連続ぬいにしたいときは、 を押します。



→ 模様が連続表示に変わります。

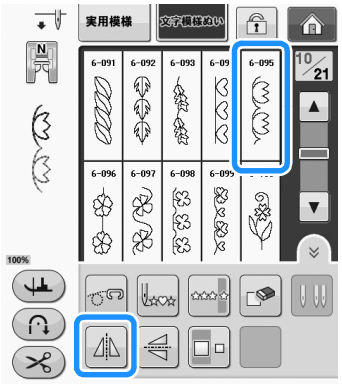
反転模様を組み合わせる

例：



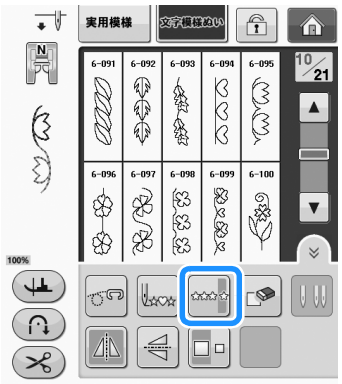
1  を選びます。

2 もう一度  を選び、 を押します。



→ 模様が左右反転します。

3  を押します。



→ 模様が連続表示に変わります。

長さを変えた模様を組み合わせる

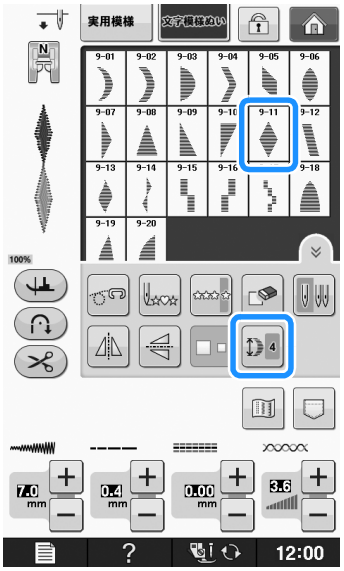
例：



1  を選び、 を 1 回押します。

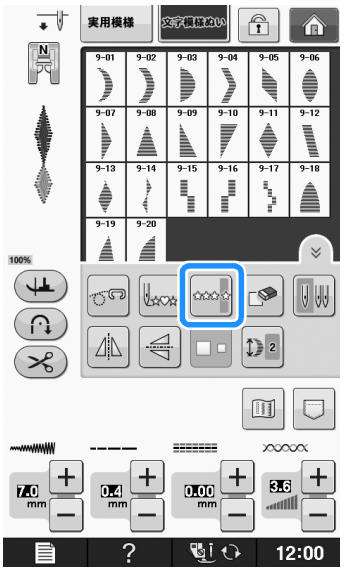
→ 模様の長さが  に設定されます。

2 もう一度  を選び、 を 3 回押します。



→ 模様の長さが  に設定されます。

3  を押します。



→ 模様が連続表示に変わります。

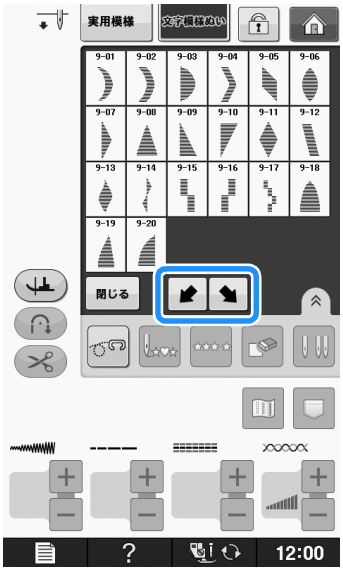
ステップ模様を作る（7mm サテンステッチのみ）

模様の位置がステップ状になった模様を、ステップ模様といいます。

7mm サテンステッチでは、 を使ってステップ模様を作ることができます。

* を 1 回押すと、模様の幅の半分の長さ分、左に移動します。

* を 1 回押すと、模様の幅の半分の長さ分、右に移動します。



例：



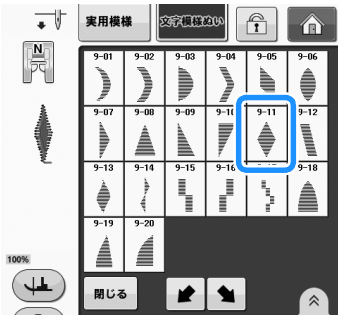
1 を選びます。

2 を押します。



→ 次の模様が右に移動します。

3 をもう一度選びます。

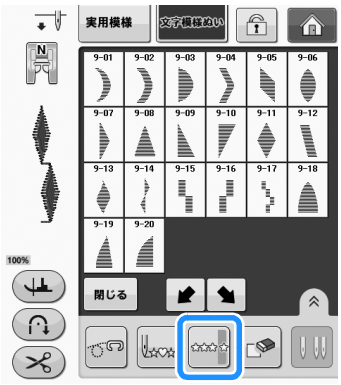


4 を押します。



→ 次の模様が左に移動します。

5 を押します。

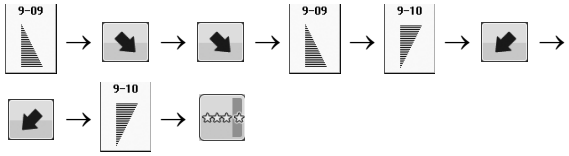


→ 模様が連続表示に変わります。

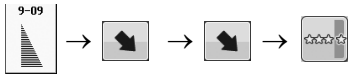
■ そのほかの組み合わせ例

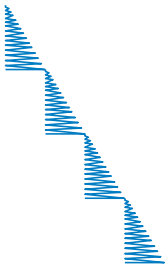


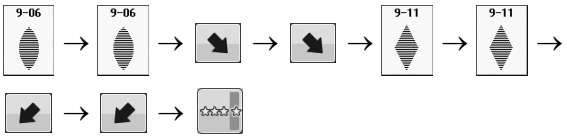














模様の記憶

データに関する注意

このミシンで作成・記憶した以外のデータを扱うときは、以下の点に注意してください。

■ 使用可能なデータの種類

- 文字・模様ぬいモードでは、拡張子が「.pmv」「.pmx」「.pmu」のファイルを読み込むことができます。「.pmu」ファイルは読み込むことはできますが、本機で保存しなおしたときは「.pmv」ファイルとして保存されます。
- 当社正規のデータ作成装置またはミシンで作成された模様以外のデータを扱うと、ミシンが誤作動するおそれがあります。

■ 使用可能な USB デバイス／メディア

模様データは、USB メディアに記憶し、呼び出すことができます。次の仕様を満たすメディアを使用してください。

- USB フロッピーディスクドライブ
- USB フラッシュドライブ（USB フラッシュメモリー）

呼び出しのみが可能な模様データ

- USB CD-ROM、CD-R、CD-RW ドライブ

次の USB メディアを USB メモリーカードリーダー／ライターとともに使うこともできます。

- SD メモリーカード
- コンパクトフラッシュ
- メモリースティック
- スマートメディア
- マルチメディアカード（MMC）
- XD ピクチャーカード

お願い

- 一部の USB メディアは、このミシンで使用できない場合があります。詳細は、ブラザーソリューションセンター (http://solutions.brother.co.jp/sewing_support/index.html) をご覧ください。
- USB デバイス／メディアの挿入後、アクセスランプが点滅を始めます。デバイス／メディアの認識に、5 ～ 6 秒かかります。（この時間は USB デバイス／メディアによって異なります）。

- フォルダーを作成する場合は、パソコンを使用してください。

■ 使用可能なパソコンの種類と OS

- 対応機種：
  USB ポートコネクタ標準装備の IBM-PC またはその互換機
- 対応 OS:
  Microsoft Windows XP,Windows Vista,Windows 7, Windows 8

■ パソコンでデータを作成・保存するときの注意

- データのファイル名は半角英数字を使用してください。他の文字を使用すると、模様が表示されないことがあります。
- USB デバイス／メディア内に作成されたフォルダーに格納された模様データは本機で読み込むことができます。
- リムーバブルディスクにはフォルダーを作成しないでください。フォルダーを作成し、フォルダー内にデータを記憶した場合、ミシンで模様データを表示することはできません。

模様を記憶する

自分の名前など、よく使う名前や言葉、組み合わせ模様を、ミシンのメモリーに記憶させることができます。メモリーに記憶させることができる模様は、511KB までです。

お願い
- 「記憶中」のメッセージが表示されているときは、電源スイッチを切らないでください。記憶されている模様データが消えるおそれがあります。

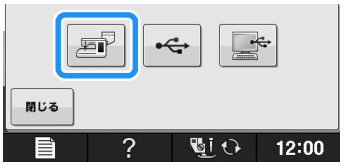
お知らせ
- 記憶するのに数秒かかります。
- 記憶した文字・模様を呼び出すときは、S-98 を参照してください。

1 を押します。



2 を押します。

* 閉じる を押すと、記憶せずに元の画面に戻ります。



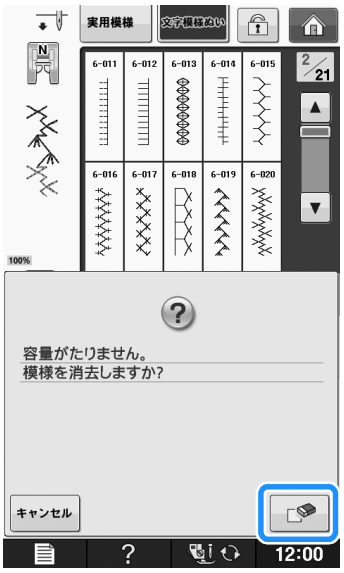
→「記憶中」のメッセージが表示されます。模様が記憶されると、自動的に元の画面に戻ります。

■ 記憶できないときは

模様をメモリーに記憶させようとしたときに下の画面が表示されたときは、メモリーの容量が不足し、模様を記憶できません。模様をメモリーに保存するには、すでに保存されている模様を削除する必要があります。

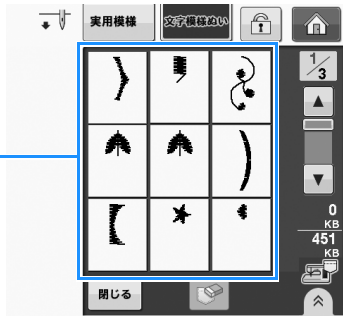
1 を押します。

* キャンセル を押すと、記憶せずに元の画面に戻ります。



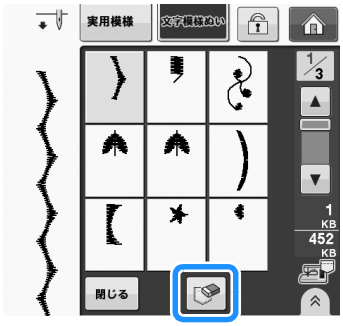
2 消去する模様を選びます。

* 模様を消去しない場合は 閉じる を押します。



① 記憶された模様の入っているポケット

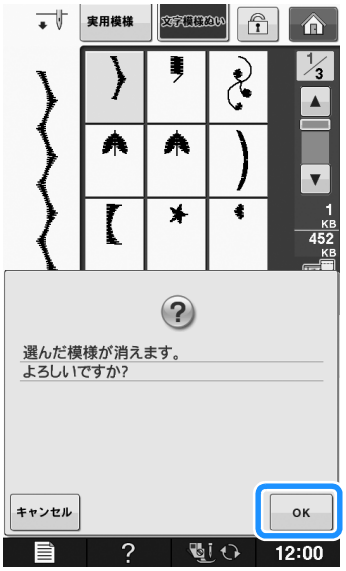
3 を押します。



→ 確認のメッセージが表示されます。

4 OK を押します。

* 消去したくない場合は、キャンセル を押します。



→ 選んだ模様が消去され、新しい模様が自動的に記憶されます。

模様を市販の USB メディアに記憶する

模様をミシンから USB メディアに送るときには、USB メディアのプラグをミシンの USB ポートコネクタに差し込みます。

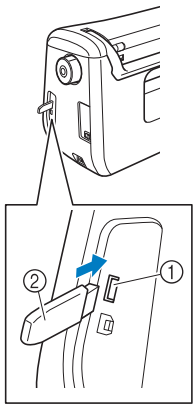
お知らせ

- 一部の USB メディアは、このミシンで使用できない場合があります。
  詳細は、ブラザーソリューションセンター (http:/solutions.brother.co.jp/sewing_support/index.html) をご覧ください。
- USB メディアの種類によって、ミシンの USB ポートコネクタに直接差し込むか、ミシンの USB ポートコネクタに USB カードライター／リーダーを差し込みます。
- USB メディアは、データの記録中や削除中以外は、いつでも挿入、取り外しができます。

1 を押します。



2 USBメディアをミシンのUSBポートコネクタに差し込みます。



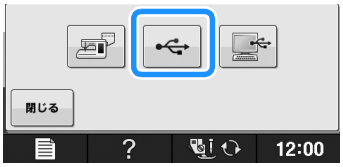
① メディア／マウス用の USB ポートコネクタ
② USB メディア

お知らせ

- 保存する模様のサイズによって、保存にかかる時間は異なります。

3 を押します。

* 閉じる を押すと、記憶せずに元の画面に戻ります。



→「記憶中」のメッセージ画面が表示されます。模様が記憶されると、自動的に元の画面に戻ります。

お願い

- 「記憶中」のメッセージ画面が表示されている間は、USB メディアを抜き差ししないでください。記憶中の模様が欠損あるいは、消去されることがあります。

模様をパソコンに記憶する

付属の USB ケーブルでミシンをパソコンに接続できます。模様をパソコンのリムーバブルディスクに保存したり読み込んだり、呼び出すことができます。合計で約 772KB の模様をパソコンのリムーバブルディスクに保存することができますが、いったん保存した模様はパソコン内に残らず、ミシンの電源を切ったときに消去されます。

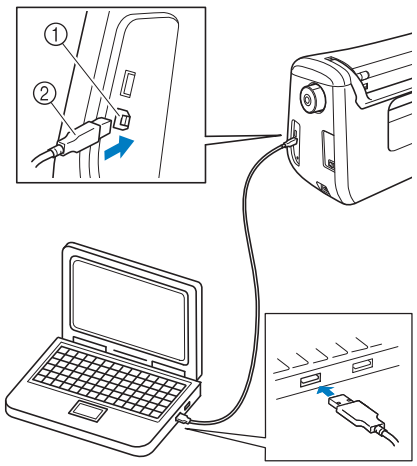
お願い

- 「記憶中」のメッセージが表示されているときは、電源スイッチを切らないでください。記憶しようとしている模様データが消えるおそれがあります。

1 ミシンとパソコンのUSBポートコネクタに USB ケーブルを差し込みます。

2 パソコンの電源を入れて、「コンピュータ（マイ コンピュータ）」を選択してください。

* パソコンとミシンに電源が入っていないときでも、USB ケーブルでパソコンとミシンを接続できます。



① パソコン用 USB ポートコネクタ

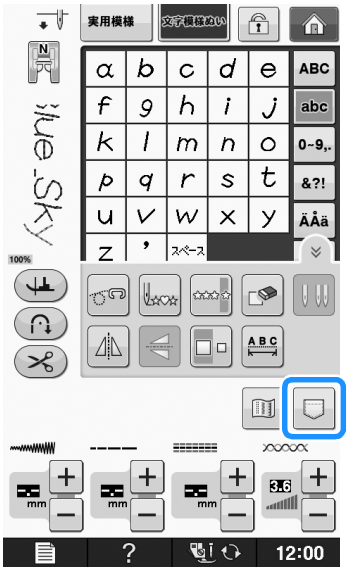
② ケーブル

→ パソコンの「コンピュータ（マイ コンピュータ）」にリムーバブルディスクのアイコンが表示されます。

お願い

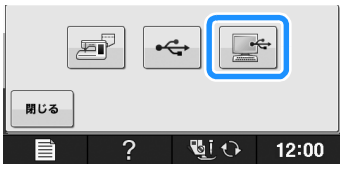
- USB ケーブルは、差し込む向きが決まっています。うまく差し込めない場合は、無理に差し込まず、向きを確認してください。
- パソコンの USB ポートコネクタの位置については、ご使用のパソコンの説明書を参照してください。

3 を押します。



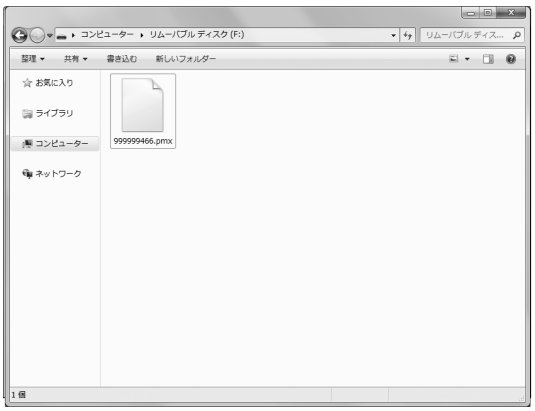
4 を押します。

* 閉じる を押すと、記憶せずに元の画面に戻ります。



→ 模様は、「コンピュータ（マイ コンピュータ）」のリムーバブルディスクに記憶されます。

5 リムーバブルディスクで模様の .pmv ファイルを選び、このファイルをパソコンにコピーします。



お願い

- 「記憶中」のメッセージが表示されているときは、電源スイッチを切らないでください。データが消えるおそれがあります。

模様を呼び出す

1 を押します。

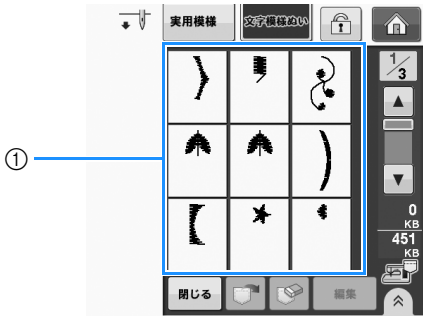


→ ポケット選択画面が表示されます。

2 呼び出す模様を選びます。

* 保存された模様の全体が表示されない場合は、縮小画像を押してください。

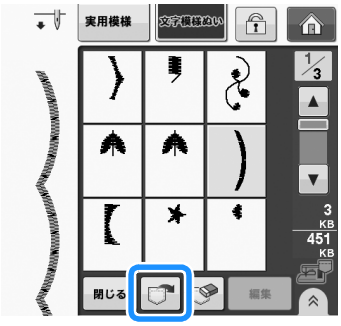
* 閉じる を押すと、記憶せずに元の画面に戻ります。



① 記憶された模様の入っているポケット

3 を押します。

* を押すと、模様が消去されます。

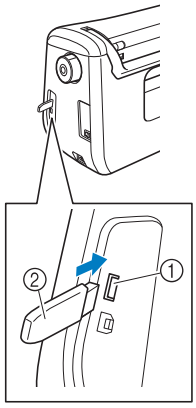


→ 選んだ模様が呼び出され、縫製画面が表示されます。

USB メディアから呼び出す

特定の模様を USB メディアから、または USB メディアのフォルダーから直接呼び出すことができます。模様がフォルダーに格納されている場合は、目的のファイルまで階層をたどります。

1 USBメディアをミシンのUSBポートコネクタに差し込みます。(S-96 参照)



① メディア／マウス用の USB ポートコネクタ
② USB メディア

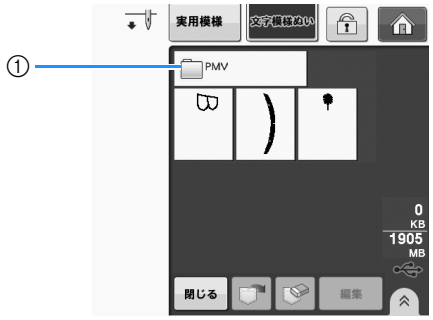
2 [USB] を押します。



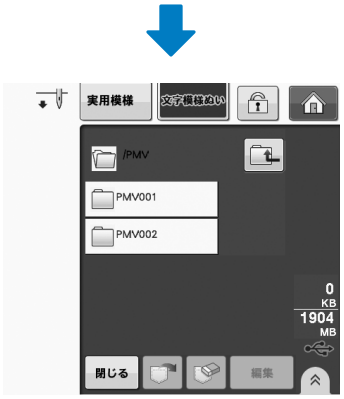
→ USB メディアの内容が表示されます。

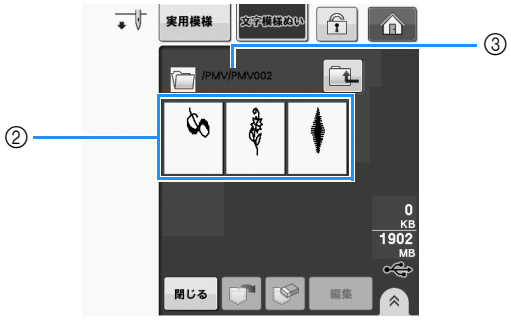
3 複数の模様を分類するためのサブフォルダーがある場合は、[フォルダー] を押します。

* [閉じる] を押すと、呼び出さずに元の画面に戻ります。



→ 保存されている模様とサブフォルダーが表示されます。サブフォルダー内の模様を選択するには、まず模様の入っているサブフォルダーを先に選択してください。





① フォルダー名
② 模様。組み合わされた模様の場合は、１つめの模様だけが表示されています。
③ パス

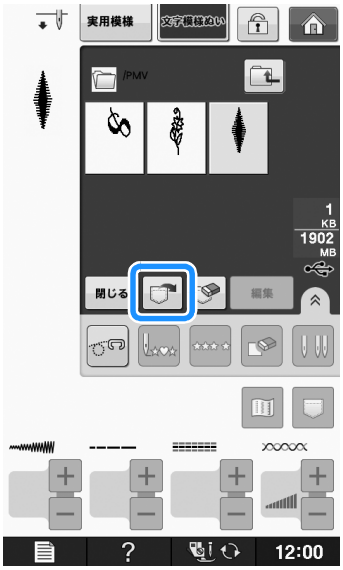
* [フォルダー] を押すと、前のフォルダーに戻ります。

* フォルダーは、パソコンで作成してください。ミシンでフォルダーを作成することはできません。

4 ぬいたい模様のキーを押して、呼び出します。

5 を押します。

* を押すと、模様が消去されます。模様は、USB メディアから削除されます。



→ 選んだ模様が呼び出され、縫製画面が表示されます。

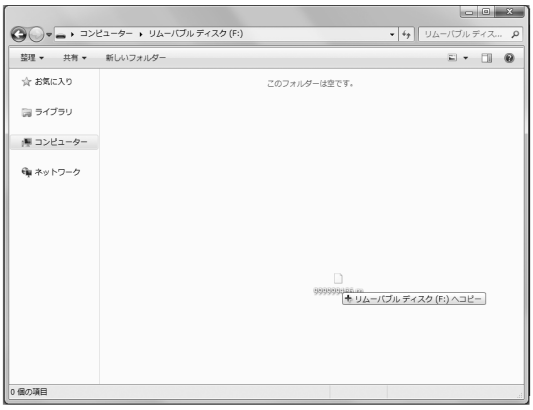
パソコンから呼び出す

1 ミシンとパソコンのUSBポートコネクタにUSB ケーブルを差し込みます。(S-97 参照)

2 パソコンで、「コンピュータ（マイ コンピュータ)」を開いて、「リムーバブルディスク」を選択します。



3 模様データを「リムーバブルディスク」に移動／コピーします。



→「リムーバブルディスク」内の模様データがミシンに書き込まれます。

お願い

- データ書き込み中は USB ケーブルを抜かないでください。
- 「リムーバブルディスク」にフォルダーを作成しないでください。フォルダーは表示されないため、フォルダー内の模様データを呼び出すことができません。

4 を押します。



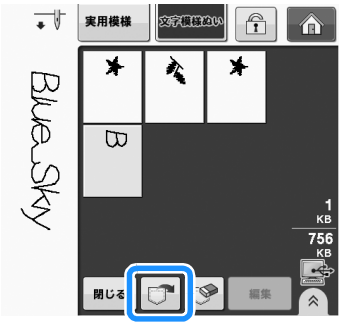
→ パソコンに記憶されている模様が表示されます。

5 ぬいたい模様のキーを押します。

* 閉じる を押すと、呼び出さずに元の画面に戻ります。

6 を押します。

* 模様を消去するときは、を押します。



→ 選んだ模様が呼び出され、縫製画面が表示されます。

お願い

- パソコンから呼び出した模様は、ミシンに一時的に書き込まれるだけで、電源スイッチを切ると消去されます。模様を残したい場合は、ミシンのメモリーに保存してください。(S-95 の「模様を記憶する」参照)

第 4 章
マイイラスト機能

イラストデザイン 103

イラストの入力 105

■ キーのはたらき 105
■ ポイントの移動 107
■ イラストの移動 108
■ 新しいポイントの挿入 109

マイイラストの記憶 110

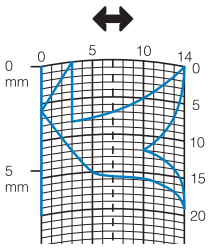
マイイラストをリストに保存する 110
■ 記憶できないときは 110
保存した模様を呼び出す 111

イラストデザイン

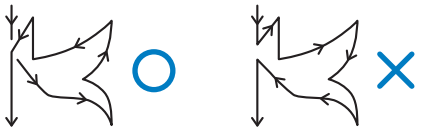
マイイラスト機能を使用して、オリジナルの模様を登録できます。マイイラスト機能で作成したデザインと他の模様を組み合わせたデザインをぬうこともできます。(S-89 参照)

お知らせ
- マイイラスト機能を使用して作成できる模様の大きさは、最大 7mm（幅）× 37mm（長さ）です。
- 最初に、付属のマイイラスト用紙に模様を描くと、マイイラスト機能を使用して、より簡単に模様をデザインすることができます。

1 マイイラスト用紙に模様のデザインを描きます。



お知らせ
- 模様を閉じるように線を交差させると、よりきれいに仕上がります。

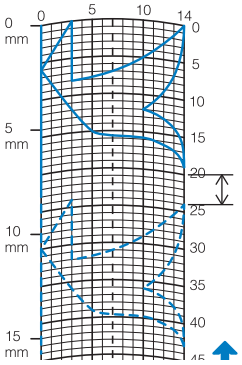


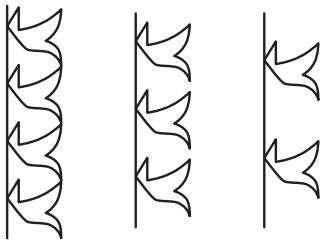
一筆書きの要領で、線の始めと終わりの高さが同じになるように描きます。



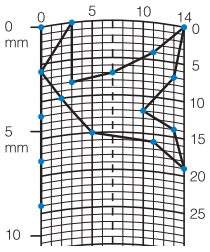
2 模様が繰り返される間隔を決めます。

* 模様の間隔を調節すると、1 つの模様でさまざまな模様を作ることができます。

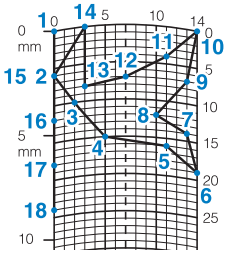




3 目盛りと交差する点を直線で結びます。



4 ぬい順を決めます。



お知らせ
- これで、刺しゅうする模様のデザインが決定されます。

作品例



ぬい方	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
↕	0	12	18	22	23	21	17	14	12	9	6	3	1	3	6
↔	0	0	3	6	10	13	14	13	11	13	14	13	10	6	3
ぬい方	**16**	**17**	**18**	**19**	**20**	**21**	**22**	**23**	**24**	**25**	**26**	**27**	**28**	**29**	**30**
↕	12	41	43	40	41	38	35	32	30	32	35	41	45	47	44
↔	0	0	4	7	11	13	14	13	10	6	3	0	0	4	7
ぬい方	**31**	**32**	**33**	**34**	**35**	**36**	**37**	**38**	**39**	**40**	**41**	**42**	**43**	**44**	**45**
↕	45	47	50	54	56	55	51	45	70						
↔	11	13	14	13	10	6	3	0	0						



ぬい方	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
↕	0	30	32	32	32	33	35	35	37	35	32	30	30	29	26
↔	0	0	1	7	10	12	11	8	12	14	14	11	5	3	8
ぬい方	**16**	**17**	**18**	**19**	**20**	**21**	**22**	**23**	**24**	**25**	**26**	**27**	**28**	**29**	**30**
↕	24	18	13	12	13	10	12	8	12	7	12	6	10	5	10
↔	10	13	14	14	12	11	10	9	8	6	6	3	2	0	2
ぬい方	**31**	**32**	**33**	**34**	**35**	**36**	**37**	**38**	**39**	**40**	**41**	**42**	**43**	**44**	**45**
↕	16	19	23	22	17	22	23	19	42						
↔	1	0	0	6	10	6	0	0	0						



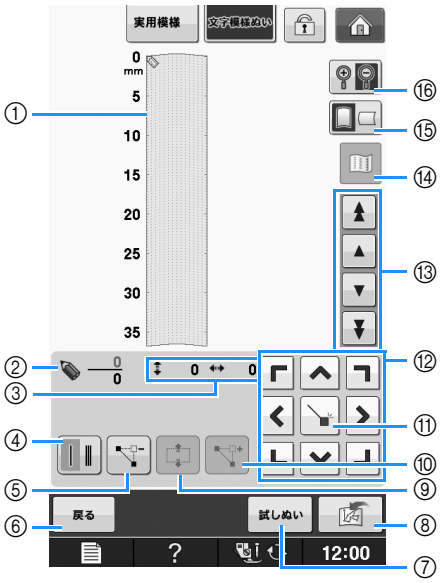
ぬい方	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
↕	0	3	5	8	12	17	20	24	27	29	31	32	30	27	24
↔	0	5	8	11	13	14	14	13	12	11	9	6	3	1	0
ぬい方	**16**	**17**	**18**	**19**	**20**	**21**	**22**	**23**	**24**	**25**	**26**	**27**	**28**	**29**	**30**
↕	21	18	16	15	15	16	18	21	25	28	33	37	41	43	44
↔	0	1	3	5	8	10	12	13	14	14	13	11	8	5	0
ぬい方	**31**	**32**	**33**	**34**	**35**	**36**	**37**	**38**	**39**	**40**	**41**	**42**	**43**	**44**	**45**
↕															
↔															



ぬい方	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
↕	0	5	4	5	8	7	8	11	11	11	16	11	7	4	0
↔	7	7	3	7	7	0	7	7	3	7	7	3	0	3	7
ぬい方	**16**	**17**	**18**	**19**	**20**	**21**	**22**	**23**	**24**	**25**	**26**	**27**	**28**	**29**	**30**
↕	4	7	11	16	21	20	21	24	23	24	27	27	27	32	27
↔	11	14	11	7	7	11	7	7	14	7	7	11	7	7	11
ぬい方	**31**	**32**	**33**	**34**	**35**	**36**	**37**	**38**	**39**	**40**	**41**	**42**	**43**	**44**	**45**
↕	23	20	16	20	23	27	32								
↔	14	11	7	3	0	3	7								

イラストの入力

■ キーのはたらき



① ここに作成中の模様が表示されます。
② 模様のポイントの総数の上に、現在セットされているポイントの数を表示します。
③ の座標を表示します。

No.	画面表示	名称	はたらき	参照ページ
④		1 重ぬい／3 重ぬいキー	2 つのポイントの間で 1 針ぬうか、3 針ぬうかを選ぶことができます。	S-106
⑤		ポイント削除キー	選んだポイントを削除することができます。	S-107
⑥	戻る	戻るキー	模様データの入力画面が終了します。	—
⑦	試しぬい	試しぬいキー	模様の試しぬいができます。	S-107、S-110
⑧		記憶キー	作成中の模様を記憶することができます。	S-110
⑨		ブロック移動キー	ポイントをグループにまとめて、いっしょに移動することができます。	S-108
⑩		ポイント挿入キー	模様のデザインに新しいポイントを挿入することができます。	S-109
⑪		セットキー	模様のデザイン上で、指定した座標にポイントをセットすることができます。	S-106 ～ S-108
⑫		矢印キー	表示領域で を移動します。	S-106 ～ S-109
⑬		ポイント移動キー	を模様の上でポイントからポイントに移動したり、最初に入力されたポイントや最後に入力されたポイントに移動することができます。	S-107 ～ S-109
⑭		イメージキー	模様のイメージを表示することができます。	S-107
⑮		グリッド方向キー	マイイラスト用紙の方向を変えることができます。	S-106
⑯		拡大キー	作成中の模様を拡大して表示することができます。	S-106

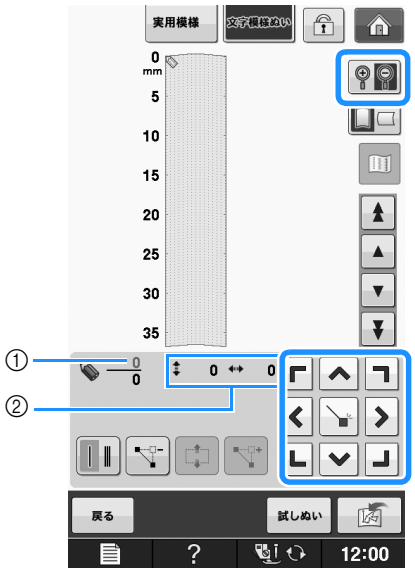
1 文字模様ぬい を押します。

2 を押します。



3 を使って、をマイイラスト用紙の最初のポイントの座標に移動します。

* を押すと、マイイラスト用紙の方向を変えることができます。
* を押すと、作成中の模様のイメージを拡大します。

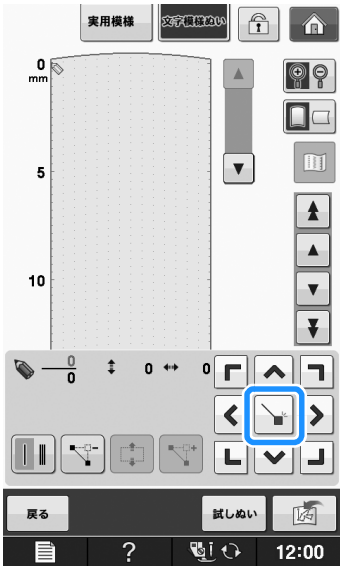


① 現在選択されているポイント／ポイントの総数

② の座標

4 を押して、が示すポイントを追加します。

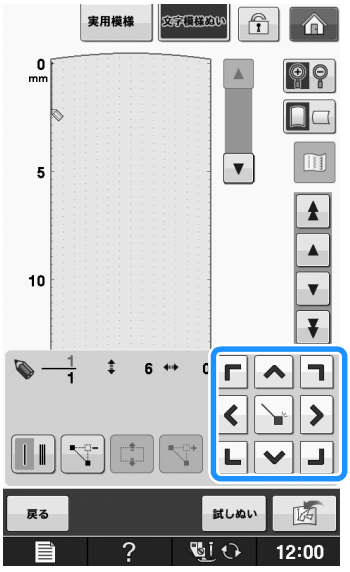
* タッチペンでポイントを挿入するには、タッチペンの先を目標の位置に移動します。画面のポイントからペンを離すと、ペンを離した位置に、ポイントが入力されます。



5 最初の２つのポイント間で１針ぬうか、３針ぬうかを選びます。

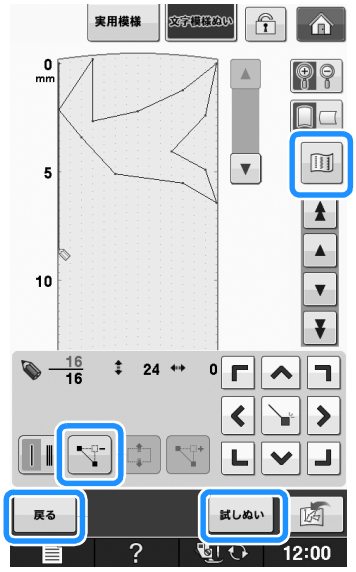
* ３針ぬうには、を押します。

6 を使って を２つ目のポイントに移動し、を押します。



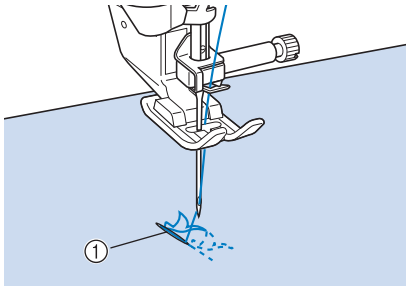
7 マイイラスト用紙にデザインしたとおりになるまで、上記の手順を繰り返します。

* 入力したポイントを削除するには、[ ] を押します。
* 模様の試しぬいをするには、[試しぬい] を押します。
* 元の画面に戻るには、[戻る] を押します。
* 模様のイメージを表示するには、[ ] を押します。



お知らせ

- 入力したポイントが近すぎる場合、布地が正しく送られないことがあります。その場合模様データを編集して、ポイントの間隔を広げます。
- 模様のデザインを繰り返してつなげる場合は、模様のデザインが重ならないように注意して模様を追加してください。



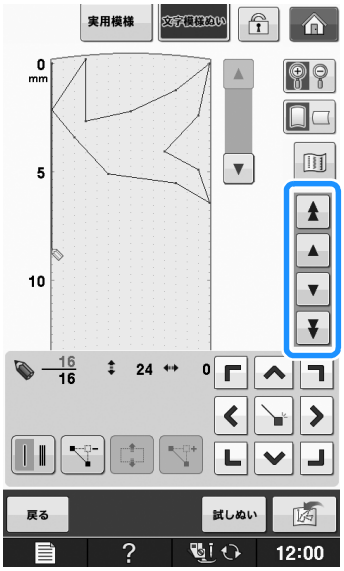
① 連結する模様

- ポイント入力するには、マイイラスト用紙上を指でタッチするか、USB マウスを接続して使用することもできます。

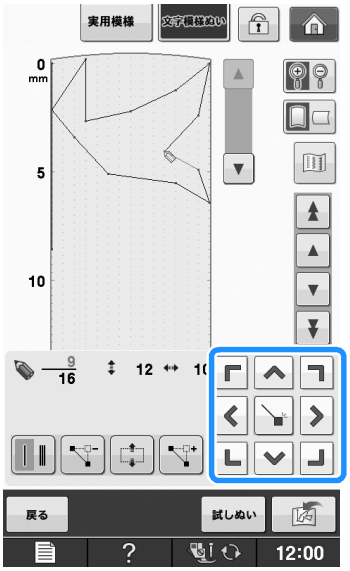
■ ポイントの移動

1 [▲] または [▼] を押して、[ ] を移動したいポイントに移動します。

* [ ] を最初のポイントに移動するには、[ ] を押します。
* [ ] を最後のポイントに移動するには、[ ] を押します。



2 [ ] を使って、ポイントを移動します。



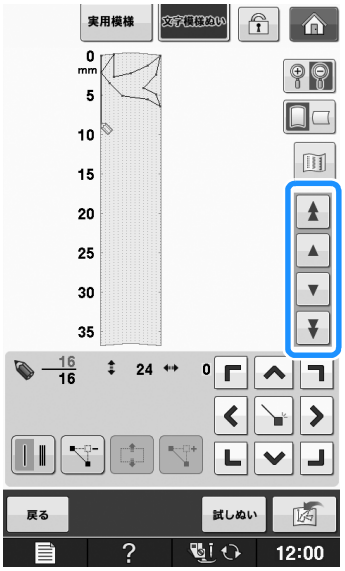
* タッチペンを使って、[ ] を移動することもできます。

■イラストの移動

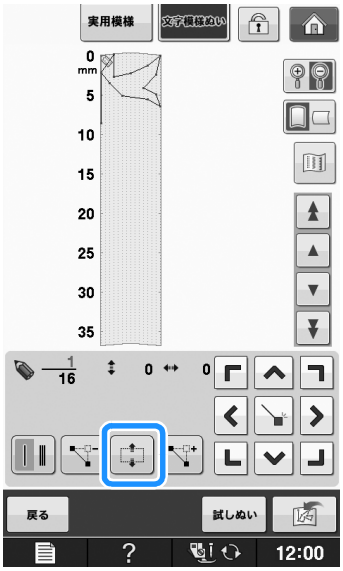
1 ▲ または ▼ を押して、 を移動したいイラスト部分の最初のポイントに移動します。

* を最初のポイントに移動するには、⏫ を押します。

* を最後のポイントに移動するには、⏬ を押します。

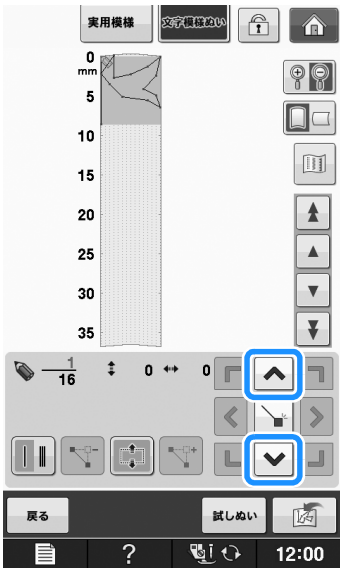


2 を押します。

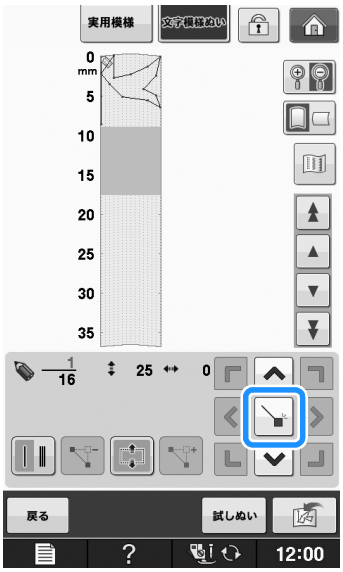


→ 選んだポイントと、その後で入力したすべてのポイントが選択されています。

3 ^ または v を押して、選択されたポイントすべてを移動します。



4 を押します。

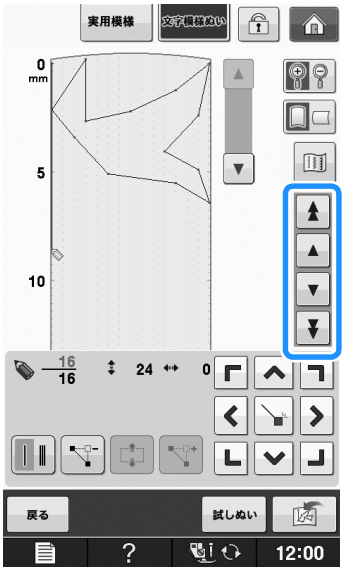


→ 選択したイラストの部分が移動します。

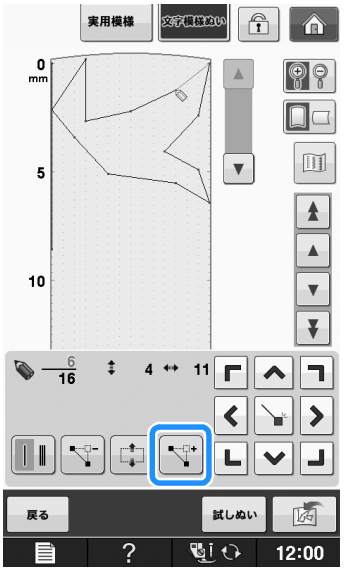
■新しいポイントの挿入

1 ▲ または ▼ を押して、新しいポイントを追加したい場所に を移動します。

* を最初のポイントに移動するには、⏫ を押します。
* を最後のポイントに移動するには、⏬ を押します。

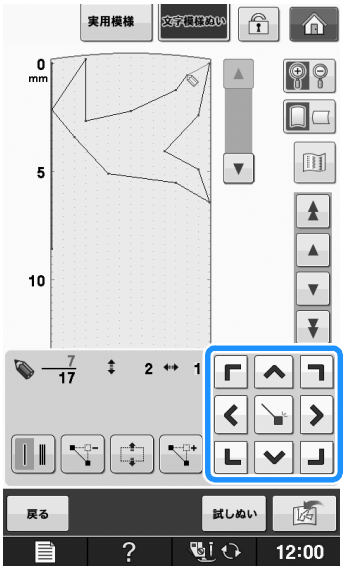


2 を押します。



→ 新しいポイントが挿入され、が新しいポイントに移動します。

3 を使って、ポイントを移動します。



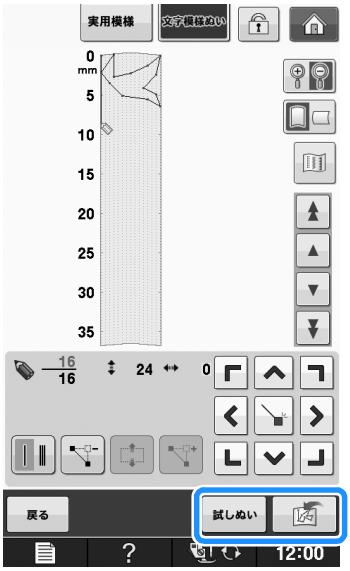
* タッチペンを使って、を移動することもできます。

マイイラストの記憶

マイイラストをリストに保存する

マイイラスト機能を使って作成した模様は、保存して、後で使うことができます。模様データの入力が終わったら、[保存]を押します。「記憶中」のメッセージが表示され、模様が保存されます。

模様を保存する前に、[試しぬい]を押して、試しぬいをすることもできます。



お知らせ

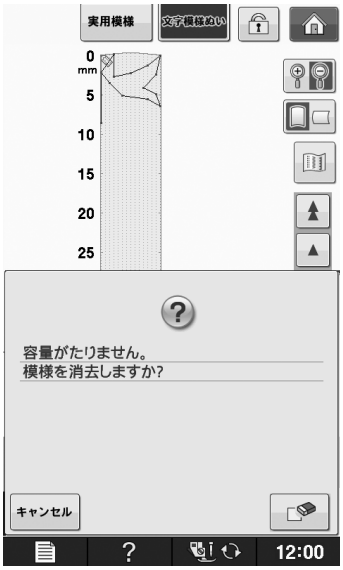
- 模様の保存には数秒かかります。
- 保存した模様の呼び出しについては、S-111 を参照してください。

お願い

- 「記憶中」のメッセージが表示されているときは、電源スイッチを切らないでください。記憶されている模様データが消えるおそれがあります。

■ 記憶できないとき

[保存]を押した後で次のメッセージが表示される場合は、ミシンのメモリー容量がいっぱいであるか、保存する模様が大きすぎて、メモリーの容量が足りないために模様を保存できません。ミシンのメモリーに模様を保存するには、以前に保存した模様を消去する必要があります。



お願い

- マイイラスト機能を使って作成した模様を、USB メディアまたはパソコンに保存することもできます。S-96 の「模様を市販の USB メディアに記憶する」または S-97 の「模様をパソコンに記憶する」を参照してください。

保存した模様を呼び出す

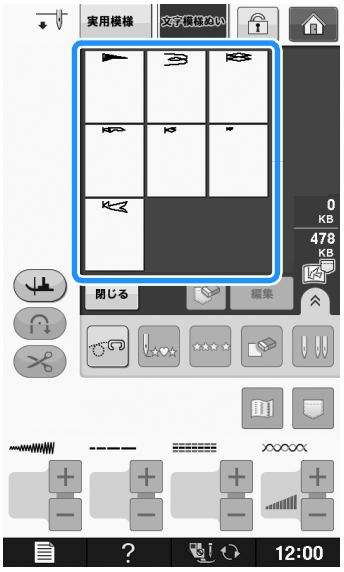
1  を押します。



→ 保存されている模様のリストが表示されます。

2 模様を選びます。

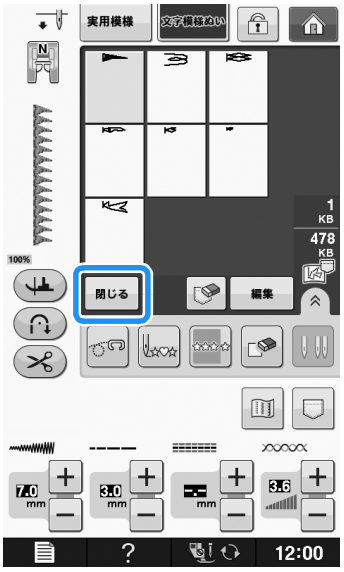
* 模様を呼び出さずに元の画面に戻るには、閉じる を押します。



3 閉じる を押します。

* 保存した模様を削除するには、 を押します。

* 保存した模様を編集するには、編集 を押します。



刺しゅう編

ここでは、刺しゅう模様をぬうときの手順を紹介しています。
ページ数は、「E」の記号で始まります。

第 1 章 刺しゅう E-2
第 2 章 編集刺しゅう E-54

E 刺しゅう編

第 1 章
刺しゅう

刺しゅう模様の選び方 3
- ■ 著作権について 3

ワンポイント／オリジナル模様／花アルファベット／ボビンワーク模様を選ぶ 4
文字模様を選ぶ 5
枠模様を選ぶ 7
刺しゅうカードの模様を選ぶ 7
- ■ 別売のカードリーダーについて 7
- ■ 別売の刺しゅうカードについて 7
- ■ 漢字カードの場合 8

USB メディアやパソコンから模様を選ぶ 8

縫製画面の見方 9
- ■ キーのはたらき 10

布地を張る 11
布地に芯を貼る 11
刺しゅう枠に布地を張る 13
- ■ 刺しゅう枠の種類と用途 13
- ■ 布地の張り方 14
- ■ 刺しゅうシートの使い方 15

小さい布や布の隅に刺しゅうする 16
- ■ 小さい布地に刺しゅうする場合 16
- ■ 布地の隅に刺しゅうする場合 16
- ■ リボンテープなどの細い布地に刺しゅうする場合 16

刺しゅう枠をセットする 17
- ■ 刺しゅう枠の取り外し方 18

刺しゅう模様の確認 19
ぬう位置を確認する 19
刺しゅうイメージを確認する 20
- ■ 画面表示の枠の大きさ 20

刺しゅうしてみましょう 21
きれいに刺しゅうするために 21
- ■ 刺しゅう専用針板カバー 22

刺しゅうする 22
アップリケをする 23
- ■ 準備するもの 23
- ■ 1. アップリケピースを作る 24
- ■ 2. 土台の布地にアップリケの位置をぬう 24
- ■ 3. アップリケピースを土台用の布地に貼り付ける 25
- ■ 4. 残りのパーツをぬいあげる 25

こんなとき 26
下糸が少なくなったら 26
途中で糸が切れたときは 27
始めからぬい直したいときは 28
電源を切った後、刺しゅうを再開する 28

刺しゅうに関する設定の調整 30
糸調子を整える 30
- ■ 正しい糸調子 30
- ■ 上糸が強すぎる場合 30
- ■ 上糸が弱すぎる（上糸が裏に出る）場合 30

自動糸切り機能 31
- ■ 自動糸切り機能を使う 31
- ■ 自動糸切り設定を解除する 31

渡り糸切り機能 31
- ■ 渡り糸切り機能を使う 31
- ■ 渡り糸切り設定を解除する 31
- ■ 渡り糸の長さを選ぶ 32

刺しゅうの速度を調節する 32
刺しゅうの糸番号、糸色名を表示する 33
刺しゅうの枠表示を変える 34

刺しゅう模様の修正 35
ぬう位置を移動させる 35
模様と針を合わせる 35
大きさを変える 36
模様を回転させる 37
模様を左右反転させる 38
編集画面を広げる 38
糸密度を変える（文字・枠模様のみ） 39
1 文字ずつ色を変えてぬう 39
文字をつなげて刺しゅうする 40
連続した刺しゅう（1 色の場合） 42
- ■ 連続した刺しゅうをする 42
- ■ 連続した刺しゅう設定を解除する 42

刺しゅう模様の記憶 43
刺しゅうデータに関する注意 43
- ■ 使用可能な刺しゅうデータの種類 43
- ■ 使用可能な USB デバイス／メディア 43
- ■ 使用可能なパソコンの種類と OS 43
- ■ パソコンでデータを作成・保存するときの注意 43
- ■ Tajima（.dst）刺しゅうデータ 44

刺しゅう模様を記憶させる 44
- ■ 記憶できないときは 44

刺しゅう模様を市販の USB メディアに記憶させる 45
刺しゅう模様をパソコンに記憶させる 46
刺しゅう模様を呼び出す 47
USB メディアから刺しゅう模様を呼び出す 48
パソコンから刺しゅう模様を呼び出す 49

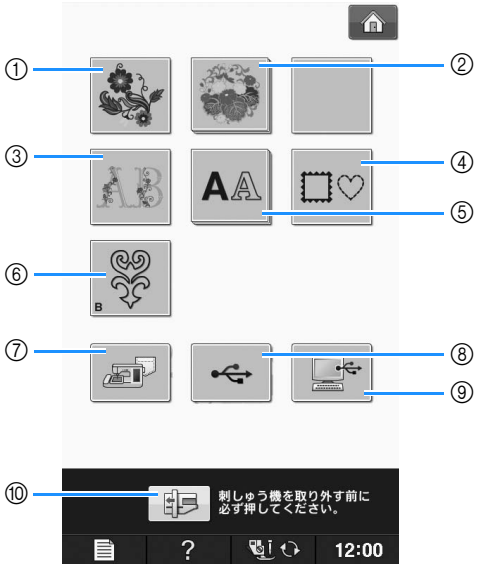
応用ぬい 50
枠模様を使ってアップリケをする（1） 50
枠模様を使ってアップリケをする（2） 51
分割模様をぬう 52

刺しゅう模様の選び方

■ 著作権について

ミシンまたは刺しゅうカードに内蔵されている模様は、一般家庭用としてのみお楽しみいただけます。営利または業務目的での使用は著作権法上固く禁じられておりますのでご注意ください。
このミシンには、刺しゅうぬいの文字・模様が内蔵されています（内蔵されている模様の概要については、「模様一覧」を参照してください）。別売の刺しゅうカードの模様もご利用いただけます。

を押してから、を押して、次の画面を表示してください。このミシンには、6 グループの模様があります。



① ワンポイント
② オリジナル模様
③ 花アルファベット
④ 枠模様
⑤ ひらがな／カタカナ／アルファベット
⑥ ボビンワーク模様（「付録」参照）
⑦ ミシンに記憶した模様の呼び出し（E-47 参照）
⑧ USB メディアからの模様の呼び出し（E-48 参照）
⑨ パソコンからの模様の呼び出し（E-49 参照）
⑩ 刺しゅう機を取り外す前に必ずこのキーを押してください。

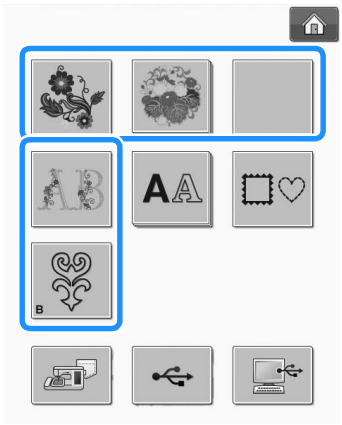
お知らせ

- やのように、重なっているように表示されるキーは、その下にもうひとつ、小グループがあります。小グループのひとつを選択したあとに、模様選択画面が表示されます。

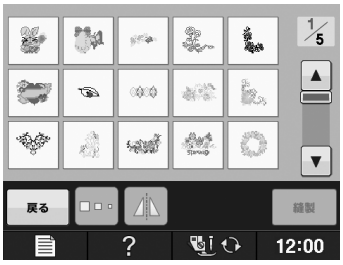
ワンポイント／オリジナル模様／花アルファベット／ボビンワーク模様を選ぶ

1 ぬいたい模様の種類を選びます。

* ボビンワーク模様については、「付録」の「ボビンワークでぬってみましょう」を参照してください。



2 ぬいたい模様のキーを押します。



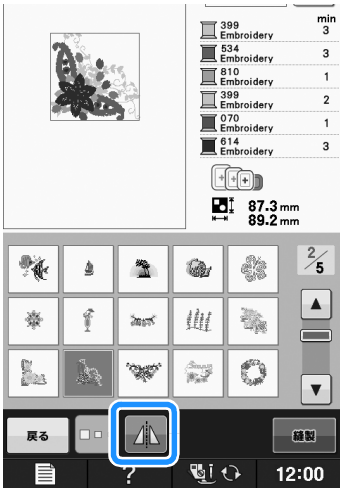
* ▼を押して次ページへ進みます。

* ▲を押して前ページへ戻ります。

→ 選んだ模様が表示されます。

3 を押して、模様を左右に反転させます。

* 模様を選び直したいときは、ぬいたい模様のキーを押します。

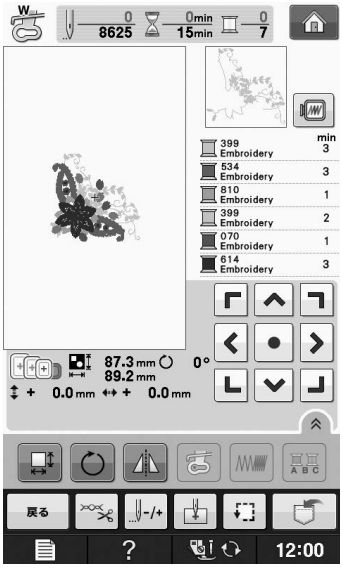


4 縫製を押します。

→ 縫製画面が表示されます。

5 E-9 の「縫製画面の見方」に進みます。

* 元の画面に戻って他の模様を選ぶには、戻るを押します。

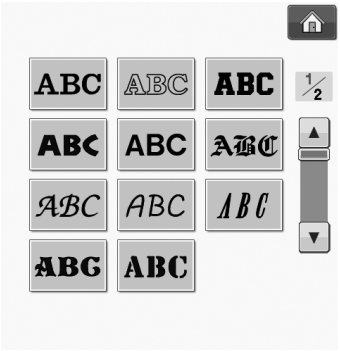


文字模様を選ぶ

例： 「We Fly」と入力してみましょう。

1 AA を押します。

2 お好みの書体のキーを押します。



3 選択画面を切り替えるには、上段のキーを押します。



4 ABC を押してから、「W」を入力します。



* 文字の大きさを変更する場合は、文字を選んでから を押します。このキーを押すたびに、大きさが大から中、小へと変わります。

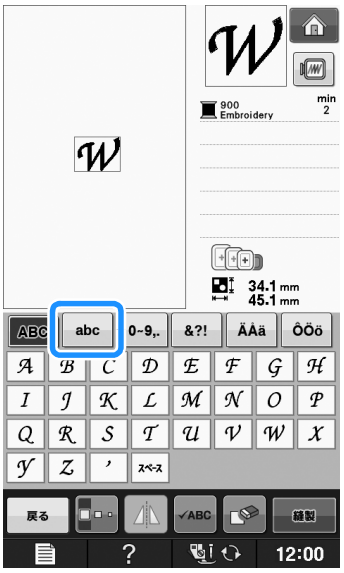
* まちがえた場合は、 を押して取り消します。

* 模様が小さすぎてはっきり見えない場合は、 キーを押して、確認します。

お知らせ

- 大きさを変えると、次に選ぶ文字も同じ大きさになります。
- 文字を組み合わせた後で、まとめて大きさを変えることはできません。

5 abc を押してから、「e」を入力します。



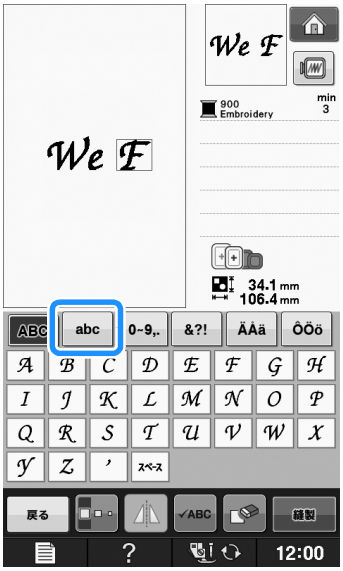
6 スペース を押して、スペースを入れます。



7 再度 ABC を押してから、「F」を入力します。



8 abc を押してから、「ly」を入力します。



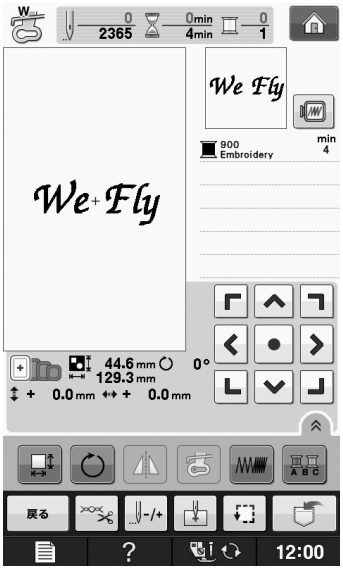
9 縫製 を押します。



→ 縫製画面が表示されます。

10 E-9 の「縫製画面の見方」へ進みます。

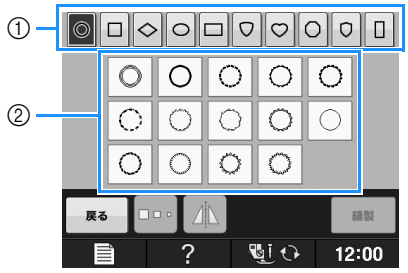
* 元の画面に戻って他の模様を選ぶには、戻る を押します。



枠模様を選ぶ

1  を押します。

2 模様選択画面の上段のキーで枠の形を選びます。

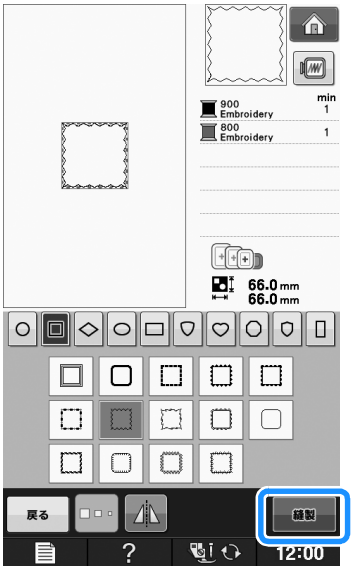


① 枠の形
② 枠の模様
→ 画面の下段にさまざまな枠模様が表示されます。

3 画面の下段のキーでぬいたい枠模様を選びます。

* 模様を選び直したいときは、ぬいたい模様のキーを押します。
→ 選んだ模様が画面に表示されます。

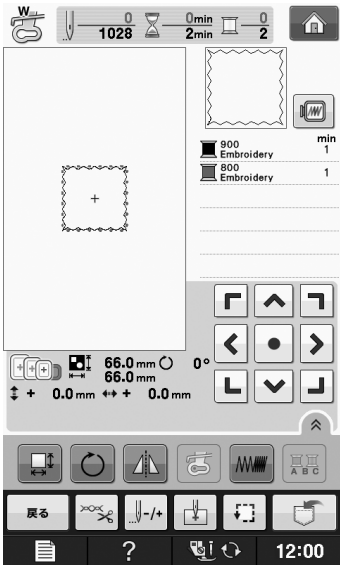
4 縫製 を押します。



→ 縫製画面が表示されます。

5 E-9 の「縫製画面の見方」へ進みます。

* 元の画面に戻って他の模様を選ぶには、戻る を押します。



刺しゅうカードの模様を選ぶ

■ 別売のカードリーダーについて

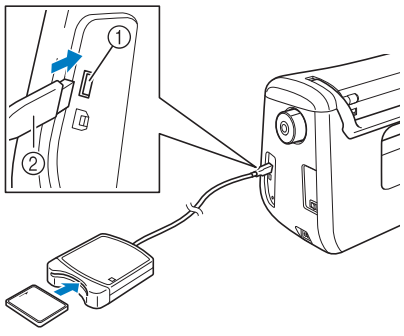
- 当社正規のカードリーダーのみをご使用ください。正規のカードリーダー以外を使用すると、ミシンが誤作動するおそれがあります。

お知らせ
- 本機に接続したカードリーダーに刺しゅうカードを入れて、刺しゅうカードに模様を保存することはできません。

■ 別売の刺しゅうカードについて

- 当社正規の刺しゅうカードのみをご使用ください。正規の刺しゅうカード以外のカードを使用すると、ミシンが誤作動するおそれがあります。
- 海外で販売されている刺しゅうカードは使用できません。ご了承ください。
- 刺しゅうカードは収納ケースに入れて保管してください。

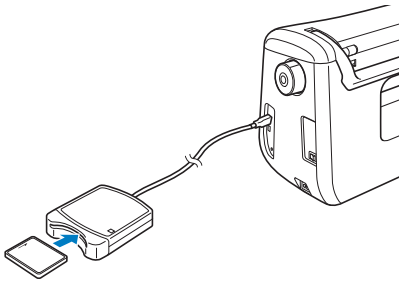
1 カードリーダーを本機のUSBポートコネクタに接続してください。



① メディア／マウス用の USB ポートコネクタ
② カードリーダー

2 刺しゅうカードをカードリーダーに、まっすぐいっぱいまで差し込みます。

* 刺しゅうカードの矢印を上に向けて、差し込みます。



3 USB ポートコネクタのキーを押します。



→ 刺しゅうカードの種類が選択画面に表示されます。

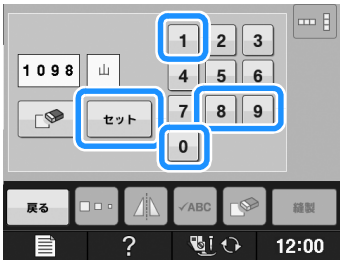
4 E-4 の手順に従い、模様を選びます。

■ 漢字カードの場合

漢字カードに添付されている文字コード表を参照して、4 桁の数字（文字コード）を入力します。
「山」（文字コード：1098）を選ぶ場合。

1 1、0、9、8を順番に押し、入力した漢字が正しければ、セットを押します。

- 文字コードは、漢字カードに添付されている文字コード表をご参照ください。
- まちがえて数字を入力したときは、を押して数字を取り消してから、選び直してください。



2 「山」が選択され、画面に表示されます。

3 他の文字と組み合わせをしたい場合は、続けて次の文字の 4 桁番号を押します。

* 確定した文字を削除したい場合は、キーを押します。

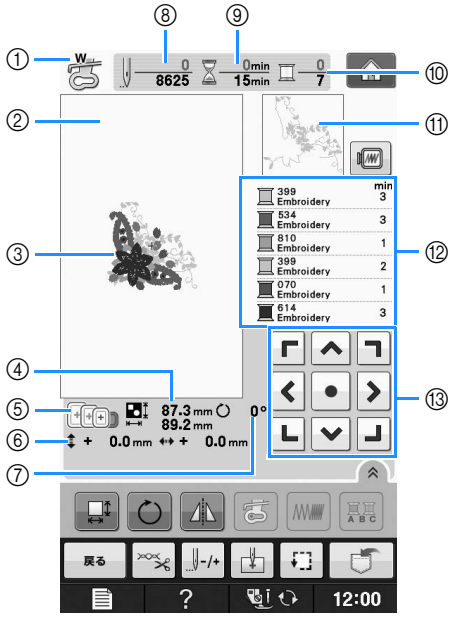
4 選び終わったら、縫製を押します。



USB メディアやパソコンから模様を選ぶ

パソコンや USB メディアから模様を選ぶには、E-48 から E-49 の手順に従ってください。

縫製画面の見方



① 押え記号を示します。
刺しゅうをするときは、必ず刺しゅう押え< W+ >または< W >を取り付けてください。押え記号が画面に表示されると、縫製可能となります。

② LL 枠で刺しゅうできる範囲（縦 30 cm ×横 18cm）を示します。

③ 選択した模様が表示されます。

④ 選択した模様の大きさを示します。

⑤ 使用できる枠の種類を示します。必ず適切な枠を使用してください。(E-13 参照)

⑥ 中央から刺しゅうする位置までの距離を示します（位置を変えたとき)。

⑦ 模様の回転角度を示します。

⑧ 選択した模様の針数と、ぬい終わった針数を示します。

⑨ 選択した模様を刺しゅうするのに必要な時間と、ぬい終わった時間を示します（糸替えの時間と自動的に糸を切る時間は含みません)。

⑩ 選択した模様の色数と、現在刺しゅうしている色の順番を示します。

⑪ 色替えの順番の一番上にある糸で刺しゅうされる部分を示します。

⑫ 色替えの順番と、それぞれの糸色の縫製時間を示します。

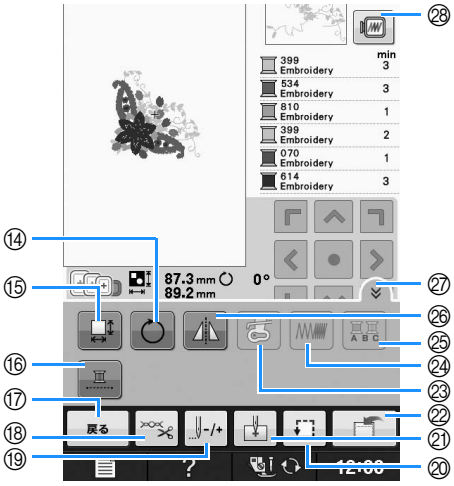
* 表示される時間は、縫製に必要と予測される時間の目安です。実際の縫製時間は、使用する刺しゅう枠の種類によっては、表示よりも長くかかります。また、表示される縫製時間には、糸替えにかかる時間は含まれていません。

⑬ 矢印キー（次ページ参照)

お知らせ
- 各キーのはたらきは、次のページで説明します。

■ キーのはたらき

これらのキーを使って、模様の大きさを変えたり、模様を回転させたりすることができます。



お知らせ

- 模様の種類によって操作できるキーが異なります。灰色で表示されているキーは操作できません。

No.	表示	名称	はたらき	参照ページ
⑬		矢印キー（● はセンターキー）	矢印の方向に模様を移動することができます。模様を縫製範囲の中央に戻すには、センターキーを押します。	E-35
⑭		回転キー	模様を回転することができます。1 回につき 1 度／ 10 度／ 90 度回転することができます。	E-37
⑮		大きさキー	模様の大きさを変えることができます。	E-36
⑯		一色ぬいキー	選択した模様を、一色で一気にぬうことができます。	E-42
⑰	戻る	戻るキー	模様の種類を選択する画面に戻ります。	—
⑱		糸設定キー	自動糸切り、糸調子を指定できます。刺しゅうの場合、これらの機能は自動的に設定されます。	E-31 ～ E-31
⑲	-/+	ぬい目戻る／進むキー	ぬい目を戻したり進めたりすることができます。ぬっている途中で糸が切れたときや、始めからぬい直したい場合に使います。	E-27 ～ E-29
⑳		位置確認キー	模様の位置を確認することができます。模様を刺しゅうするために十分なスペースがあるかどうかを確認できます。	E-19
㉑		ぬい始めの位置キー	ぬい始めの位置を移動して、模様の位置に針を合わせることができます。	E-35
㉒		記憶キー	模様を本機のメモリー、USB、またはパソコンに記憶します。	E-44 ～ E-46
㉓		LED ポインターキー	LED ポインター付き刺しゅう押え＜ W ＋＞（別売）の LED ポインターを点灯させます。	「基本機能編」
㉔		糸密度キー	文字模様または枠模様のぬい目の密度を変えることができます。	E-39
㉕		色替えキー	文字模様を刺しゅうするとき、各文字の色を変更することができます。	E-39
㉖		左右反転キー	模様を左右に反転することができます。	E-38
㉗		機能ページキー	画面の全てのキーを表示することができます。	E-39
㉘		イメージキー	刺しゅうイメージを確認することができます。	E-20

布地を張る

⚠ 注 意

- 布地の厚さは 3mm より薄いものを使用してください。3mm 以上の厚さの布地を使用すると、針が折れるおそれがあります。
- キルティングのような厚めの布地を使用するときは、刺しゅう設定画面で刺しゅう押えの高さを調節すると、きれいに仕上がります。
- 厚地のパイル織りのタオルには、水溶性の芯をタオルの表面に置いて布と一緒に枠に張ることをお勧めします。タオル地の毛足がカバーされて、よりきれいに仕上がります。

お知らせ

- [ ] を押して、刺しゅう設定画面の「刺しゅうの押え高さ」の − と ＋ で押えの高さを調節します。



- 押えを高くするには、設定値を大きくします。（通常は 1.5 mm に設定されています。）

布地に芯を貼る

刺しゅうをきれいに仕上げるために、必ず刺しゅう用接着芯を使用してください。接着芯の使用については、接着芯の説明書をお読みください。

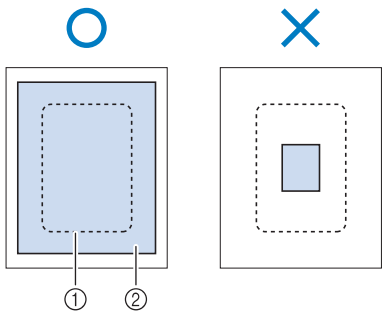
アイロンがかけられない布地（タオルなどの起毛している布地）やアイロンのかけにくい場所に刺しゅうをするときは、接着せずに、布地の下に接着芯を重ねて刺しゅう枠に張ってください。適した接着芯については、お買い上げの販売店にご相談ください。

⚠ 注 意

- 刺しゅうをするときは、必ず刺しゅう用接着芯を使用してください。特に薄地や伸びる布地の場合、芯を使用しないで刺しゅうをすると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。また、模様くずれの原因にもなります。ぬい目が詰まった状態でぬい続けると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。接着芯を使用しないと、きれいな仕上がりにならない場合があります。

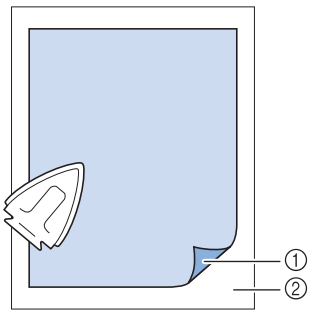
1 刺しゅう用接着芯を準備します。

* 刺しゅう用接着芯は、刺しゅう枠よりも大きくしてください。



① 刺しゅう枠の大きさ
② 接着芯

2 布地の裏側に接着芯をアイロンをかけて貼ります。



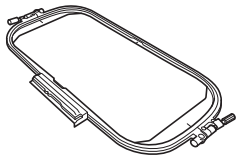
① 接着面
② 布地（裏面）

お知らせ

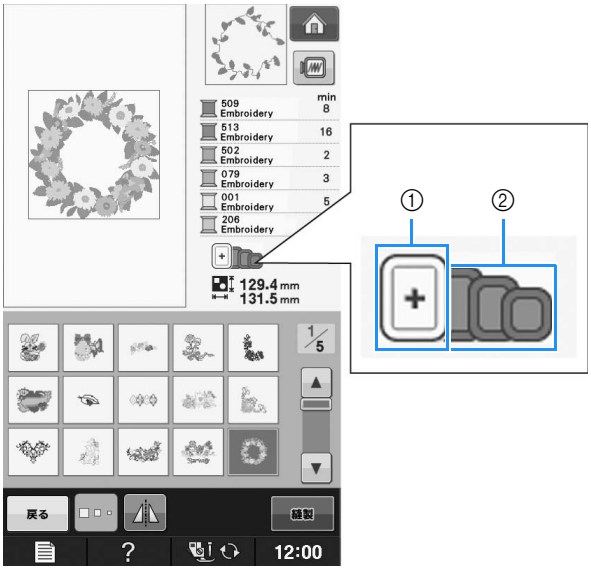
- オーガンジーやローンなど薄手の素材やタオル、コーデュロイなど起毛している布地に刺しゅうをするときは、水で溶ける刺しゅう用水溶性シート（別売：BM4/BM6）を使ってください。洗濯中にシートが溶け、固くならずきれいに仕上がります。

刺しゅう枠に布地を張る

■ 刺しゅう枠の種類と用途

LL 枠	L 枠（別売）	M 枠	S 枠（別売）
			
刺しゅうのできる範囲 30cm × 18cm	刺しゅうのできる範囲 18cm × 13cm	刺しゅうのできる範囲 10cm × 10cm	刺しゅうのできる範囲 2cm × 6cm
文字や模様をつないで刺しゅうしたり、組み合わせたり、大きな刺しゅうをするときに使います。	10cm × 10cm から 18cm × 13cm の模様を刺しゅうするときに使用します。	10cm × 10cm 以下の模様を刺しゅうするときに使用します。	ネーム入れなど、非常に小さい模様を刺しゅうするときに使用します。

上記以外の別売の刺しゅう枠も使用できます。画面に表示されない刺しゅう枠を使用するときは、使用する枠の刺しゅうできる範囲を確認してください。使用できる刺しゅう枠の種類については、お買い上げの販売店にお問い合せください。
模様の大きさに合った刺しゅう枠を選んでください。



① 白色：使用できる枠
② 灰色：使用できない枠

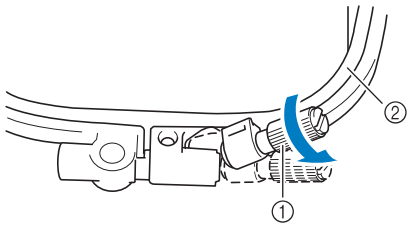
⚠ 注 意

- 模様の大きさよりも小さい刺しゅう枠を使用すると、刺しゅう枠が押えに当たり、けがの原因となります。

■ 布地の張り方

お願い
- 布地の張り方がゆるいと、模様くずれの原因となります。次の手順に従って、布地は平らな場所で、たるまないよう、しっかりと張ってください。

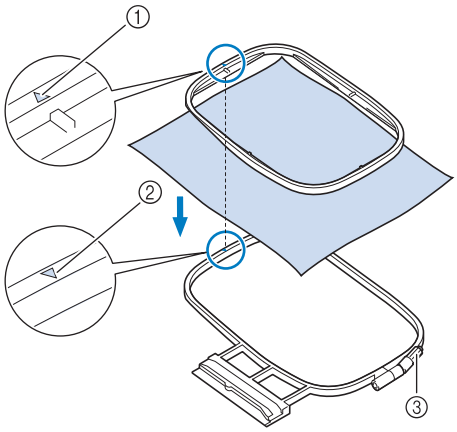
1 枠調節ネジを引き起こしてネジをゆるめ、内枠を外します。



① 枠調節ネジ
② 内枠

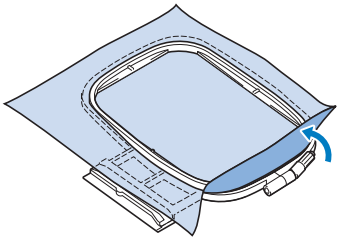
2 布地の表側を上にして外枠の上にのせ、布地を内枠ではさみます。

必ず内枠の △ と外枠の ▽ が合うように、内枠を差し込みます。

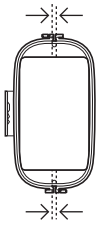


① 内枠の △
② 外枠の ▽
③ 調節ネジ

3 調節ネジを軽くしめ、布地の端を引っ張りながらたるみをなくします。
ネジを緩めないようにしてください。

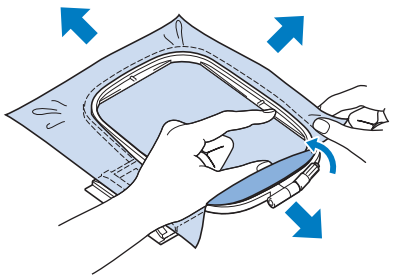


お知らせ
- LL 枠を使用する場合は、枠の上下のスペースが等しくなるように、上下の調節ネジをしめます。

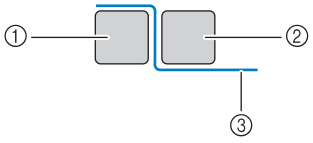


4 布地を引っ張りながら、枠の調節ネジをしっかりとしめ、布地のたるみをなくします。

* 布地を引っ張った後、ピンと張っていることを確認してください。



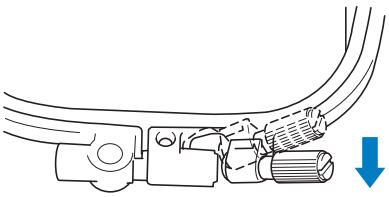
* 刺しゅうを始める前に、内枠と外枠の高さが同じになるようにしてください。



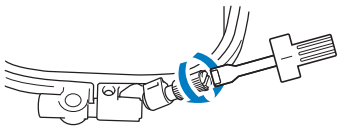
① 外枠
② 内枠
③ 布地の裏

お知らせ
- 布地の 4 辺を引っ張ります。布地を引っ張りながら、調節ネジをしめます。
- 布地を軽くたたくと、太鼓のような音がするくらいが目安です。

5 調節ネジを元の位置に戻します。



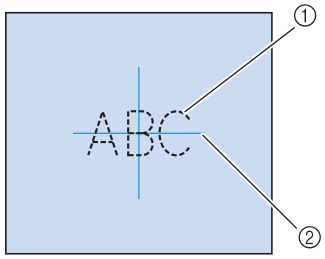
お知らせ
- 調節ネジをしめるときは、付属のドライバーを使ってください。



■刺しゅうシートの使い方

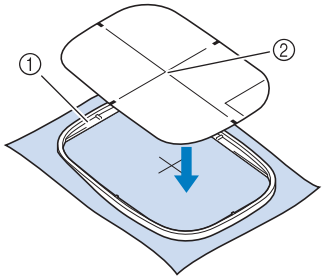
刺しゅうする場所が決まっているときは、刺しゅうシートを使って枠にはめます。

1 布地の刺しゅうする位置に印を付けます。



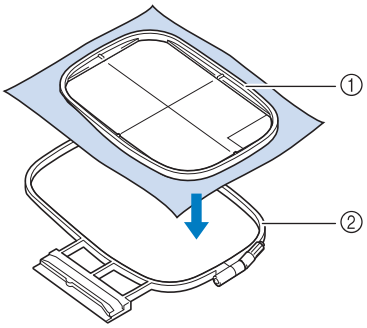
① 刺しゅう模様
② 印

2 刺しゅうシートを内枠にのせます。刺しゅうシートの基準線と布地の印を合わせます。



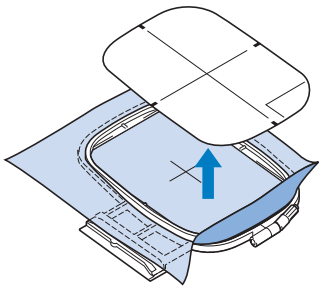
① 内枠
② 基準線

3 内枠を外枠にはめます。折り目やしわができないように、布地がたるまないようにしっかりと引っ張ります。



① 内枠
② 外枠

4 刺しゅうシートを取り出します。



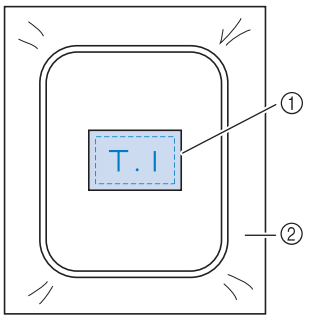
小さい布や布の隅に刺しゅうする

刺しゅう用の芯を補助にして刺しゅうします。芯は刺しゅうが終わってからていねいに取り除きます。

次の例に示すように、ブラザー専用の接着芯をご使用になることをお勧めします。

■ 小さい布地に刺しゅうする場合

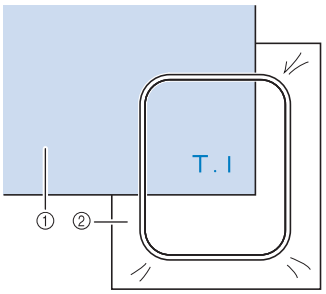
布用スプレーのりを使って、布地を接着芯に貼ります。布用スプレーのりを使いたくない場合は、しつけをします。



① 布地
② 接着芯

■ 布地の隅に刺しゅうする場合

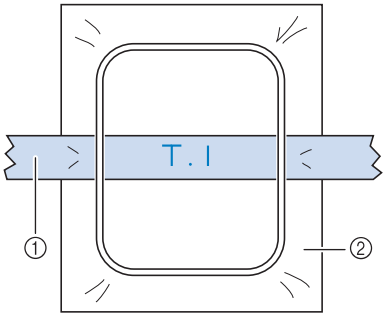
布用スプレーのりを使って、布地を接着芯に貼ってから、刺しゅう枠に張ります。布用スプレーのりを使いたくない場合は、しつけをします。



① 布地
② 接着芯

■ リボンテープなどの細い布地に刺しゅうする場合

布用スプレーのりを使ってテープを接着芯に貼ってから、刺しゅう枠に張ります。布用スプレーのりを使いたくない場合は、テープの両端を接着芯といっしょに刺しゅう枠に張ります。



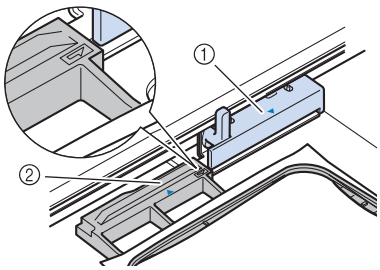
① リボンテープ
② 接着芯

刺しゅう枠をセットする

お願い
- 刺しゅう枠をセットする前に、ボビンに下糸を巻いてセットしてください。

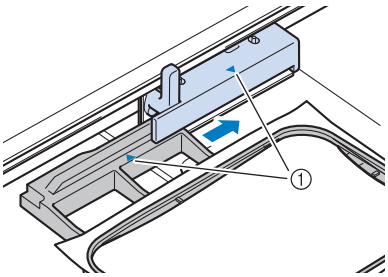
1 (押え上下スイッチ) を押して、押えを上げます。

2 刺しゅう枠のガイドを刺しゅう枠ホルダーの右側面に合わせます。



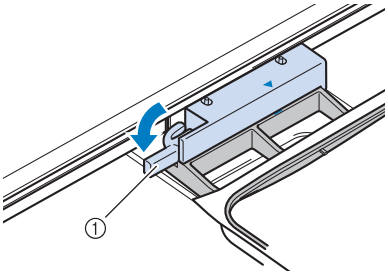
① 刺しゅう枠ホルダー
② 刺しゅう枠のガイド

3 刺しゅう枠の△がホルダーの▽の位置まで来るように、刺しゅう枠をスライドさせます。



① 印

4 枠固定レバーを枠に平行になるまで下げて、刺しゅう枠を刺しゅう枠ホルダーに固定します。



① 枠固定レバー

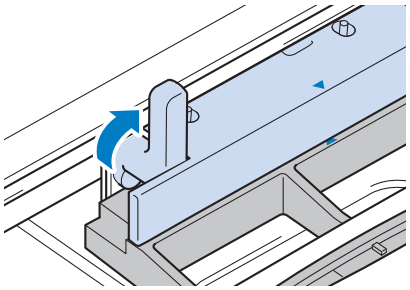
⚠ 注意

- 枠固定レバーを下げずに刺しゅうを始めようとすると、以下の画面が表示されます。枠固定レバーを上げたままで刺しゅうすることはできません。

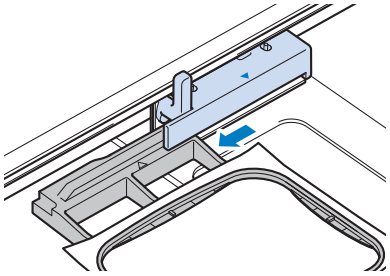


■ 刺しゅう枠の取り外し方

1 枠固定レバーを上げます。



2 刺しゅう枠を手前に引いて取り外します。



お知らせ

- 刺しゅう枠を取り外しにくいときは、手で押えレバーをさらに上にあげて取り外してください。

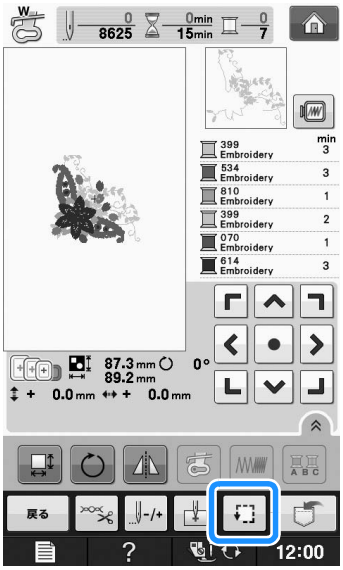
刺しゅう模様の確認

模様は通常刺しゅう枠の中心に配置されています。布地のお好みの場所に刺しゅうするために、配置を変えたい場合は、刺しゅうを始める前に位置を確認できます。

ぬう位置を確認する

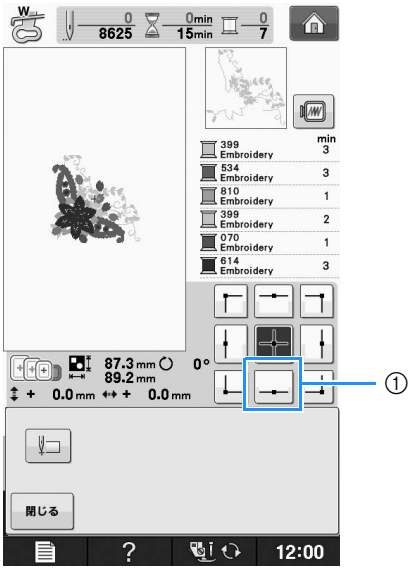
刺しゅう枠が動いて刺しゅう範囲を示します。刺しゅう枠の動きを見て、ぬう位置を確認してください。

1 [ ] を押します。



→ 次の画面が表示されます。

2 [ ] で、ぬう位置を確認したい位置のキーを押します。

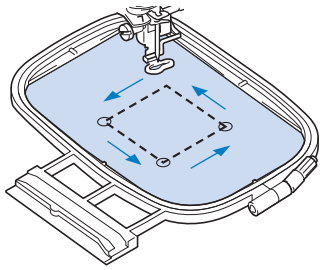


① 選ばれている位置（キーの色が変わります）

→ 刺しゅう枠が動いて選んだ位置を示します。

お知らせ

- 刺しゅう範囲全体を見たいときは [ ] を押します。刺しゅう枠が動いて、刺しゅうの範囲全体を表示します。



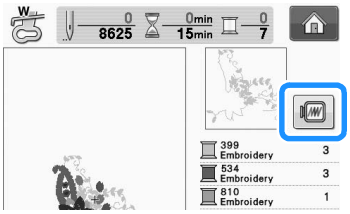
⚠ 注意

- 刺しゅう枠が動いている最中は、針を絶対に下げないでください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

3 [閉じる] を押します。

刺しゅうイメージを確認する

1 を押します。



→ 刺しゅうされる模様のイメージが表示されます。

2 を押して、枠の大きさを選びます。

* 灰色で表示されている枠は、選ぶことはできません。
* を押すと、模様のイメージが拡大表示されます。
* 模様は、下記の画面で表示されているようにぬい上がります。



■ 画面表示の枠の大きさ

表示	枠の名称	刺しゅう範囲
	LL 枠	縦 30cm ×横 18cm
	L 枠	縦 18cm ×横 13cm
	M 枠	縦 10cm ×横 10cm
	S 枠	縦 2cm ×横 6cm

お知らせ

- この画面を表示した状態でも、（スタート／ストップスイッチ）を押して刺しゅうすることができます。

3 閉じる を押して、元の画面に戻ります。

刺しゅうしてみましょう

きれいに刺しゅうするために

刺しゅうをきれいに仕上げるためには、いくつかのポイントがあります。接着芯の貼り方（E-11 参照）や布地の刺しゅう枠への張り方（E-13 参照）は、大きなポイントです。もう 1 つのポイントは、適切な針と糸を使用することです。次の糸の説明を参照してください。

糸	上糸	ブラザー専用の刺しゅう糸またはカントリー刺しゅう糸をご使用ください。 他の糸をご使用になると、刺しゅうがきれいに仕上がらないことがあります。
	下糸	ブラザー専用刺しゅう下糸をご使用ください。

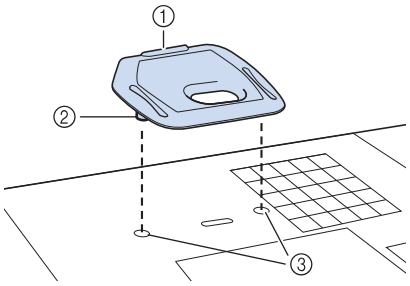
お知らせ
- 上記以外の糸を使用すると、刺しゅうがきれいに仕上がらないおそれがあります。

⚠ 注 意
- ジャケットなどのような厚地の大きなものに刺しゅうする場合は、布地をミシンを置いた台から下へ垂らさないようにしてください。布地の重みで、キャリッジの動きが制限され、刺しゅう枠が針に当たり、針が折れたり曲がったりして、けがをするおそれがあります。
  布地は台から下へ垂らさず、引きずらないように持ち上げてください。

お願い
- 刺しゅうを始める前に、下糸が十分あることを確認してください。ボビンの糸が少なくなってもぬい続けると、糸がからまるおそれがあります。
- 刺しゅう枠が動く範囲に物を置かないようにしてください。刺しゅう枠が当たり、模様くずれの原因となります。
- 大きな布地（特にジャンパーなどの重い衣類）に刺しゅうするときは、テーブルから布地が垂れ下がらないようにしてください。垂れ下がった状態で刺しゅうをすると、刺しゅう機の動きが悪くなり、模様くずれの原因となります。

■ 刺しゅう専用針板カバー

布の種類や接着芯、刺しゅう糸の種類によって、上糸が浮く場合があります。このような場合は、付属の刺しゅう専用針板カバーを針板に取り付けてください。カバーを取り付けるときは、次に示すようにカバー裏面の 2 つの凸部を針板の凹部に挿入します。



① ミゾ
② 凸部
③ 凹部

取り外すときは、ミゾに爪を当て、跳ね上げてください。

⚠ 注 意

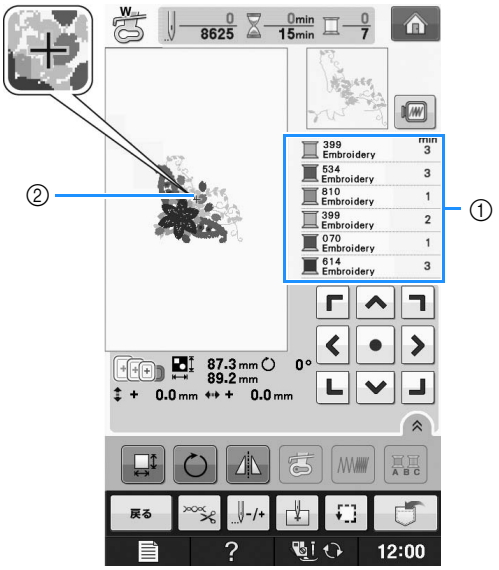
- **刺しゅう専用針板カバーは奥までしっかり押し込んで取り付けてください。取り付け方が悪いと針折れの原因となります。**

お願い

- 刺しゅう専用針板カバーは、刺しゅうの目的以外では使用しないでください。

刺しゅうする

例：

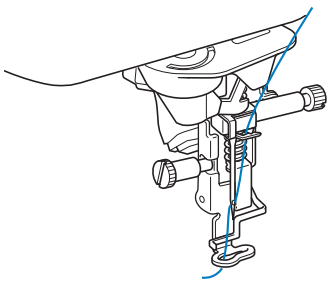


① 色替えの順番
② カーソル

お知らせ

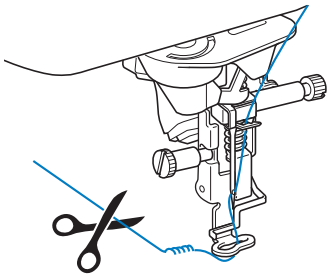
- [+] カーソルが模様の上を移動し、模様のどの部分をぬっているかを示します。

1 1 色目の糸を通し、刺しゅう押えの穴に糸を入れて、少しミシンの後ろへ出して、たるませておきます。後ろへ出した糸は、左手で軽く押さえてください。



2 (押え上下スイッチ) を押して押えを下げ、(スタート／ストップスイッチ) を押してぬい始めます。5 ～ 6 針ぬった後、もう一度 (スタート／ストップスイッチ) を押して、ミシンを止めます。

3 ぬい目のきわで余分な糸を切ります。押えの下にぬい目が隠れているときは、押えを上げてから余分な糸を切ってください。



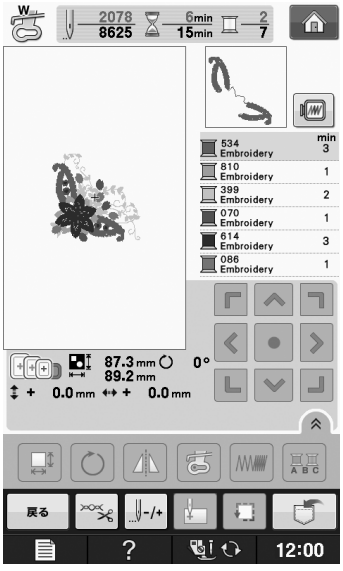
4 (スタート／ストップスイッチ) を押してぬい始めます。

→ 1色目をぬい終わると、自動的に糸を切って止まります。押えは自動的に上がります。
次にぬう色が色替えの順番表示の一番上に移動します。

お知らせ
- 先に使用した糸が残っていると、縫製中に模様の下にぬい込まれることがあり、模様の完成後、糸の処理がむずかしくなります。始めに糸を切ってください。

5 1色目の糸をミシンから取り外し2色目の糸を通します。

6 残りの色も同じ手順でぬいます。



→ 最後の色をぬい終わると、画面に「ぬい終わりました」と表示されます。[OK]を押して、元の画面に戻ります。

お知らせ
- 刺しゅうのときはあらかじめ糸切り機能が設定されているため、余分な渡り糸（模様の部分をつなぐ糸）を自動的に切ります（組み合わせた文字間の渡り糸は切りません）。糸と布地の種類によっては、ぬい始めの上糸の先端が、布地の表面に残ることがあります。その場合は刺しゅうが終わってから、余分な糸を切ります。
設定を解除したい場合は、E-31 の手順に従って設定を解除します。その場合は、渡り糸はカットされませんので、模様を刺しゅうした後に余分な渡り糸をはさみで切ります。

アップリケをする

このミシンでは、アップリケが含まれている模様をぬうことができます。色替え表示の部分に「(アップリケピース)」、「(アップリケノイチ)」、「(アップリケ)」と表示された場合は、以下の手順に従ってください。

1. アップリケピースを作る
↓
2. 土台の布地にアップリケの位置をぬう
↓
3. アップリケピースを土台用の布地に貼り付ける
↓
4. 残りのパーツをぬいあげる

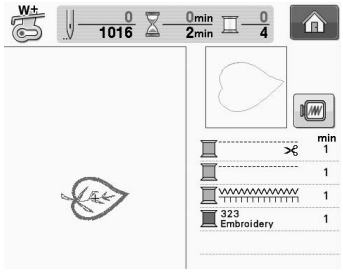
準備するもの

- アップリケピース用の布
- アップリケ土台用の布
- 刺しゅう用接着芯
- 手芸用ののり
- 刺しゅう糸

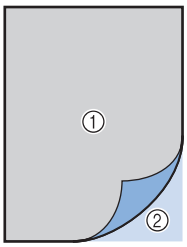
お願い
- 液晶画面の糸色が「(アップリケピース)」「(アップリケノイチ)」「(アップリケ)」と表示されるときは、使用する糸色名・糸番号が表示されませんので、アップリケ模様に合った糸色を選択してください。

■1. アップリケピースを作る

1 アップリケ模様を選択して縫製画面に進みます。



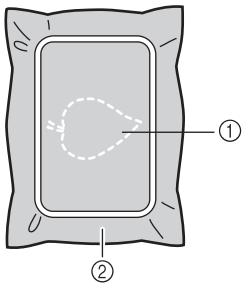
2 アップリケピースの布地の裏に接着芯を貼ります。
布地を刺しゅう枠に張り、刺しゅう機にセットします。



① アップリケ布（綿、フェルトなど）
② 接着芯

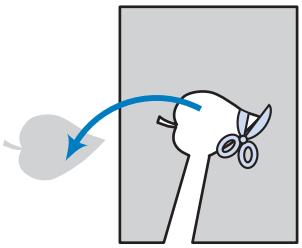
3 刺しゅう糸をセットし、押えレバーを下げ、[↑]（スタート／ストップスイッチ）を押し、アップリケピースの切り取り線をぬいます。

→ アップリケピースの切り取り線をぬってミシンが止まります。



① アップリケピースの切り取り線
② アップリケピースの布地

4 アップリケピースの布地を刺しゅう枠から取り外し、ぬい目の上をていねいに切り取ります。

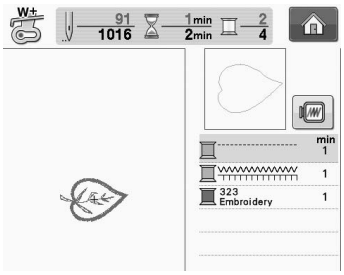


お願い
- ぬい目よりも内側を切るとアップリケをぬうときに布地に糸がかからなくなりますので、必ずぬい目の上をていねいに切り取ってください。
- アップリケピースを切り取った後、糸はきれいに取り除いてください。

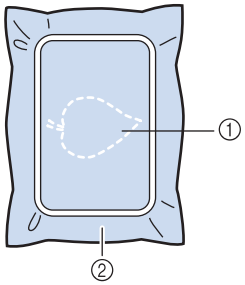
■2. 土台の布地にアップリケの位置をぬう

1 アップリケの土台になる布地の裏側に接着芯を貼ります。
布地を刺しゅう枠に張り、刺しゅう機にセットします。

2 刺しゅう糸をセットし、押えレバーを下げ、[↑]（スタート／ストップスイッチ）を押し、アップリケの位置をぬいます。



→ アップリケの位置をぬってミシンが止まります。



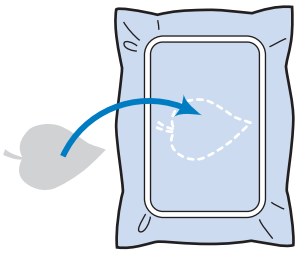
① アップリケの位置
② 土台の布地

3 刺しゅう枠を刺しゅう機から取り外します。

お願い
- 土台用の布は、模様をすべてぬい終わるまで刺しゅう枠から外さないでください。

■3. アップリケピースを土台用の布地に貼り付ける

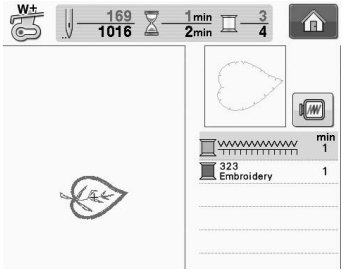
1 アップリケピースの裏側に手芸用のりを薄く付け、「2. 土台の布地にアップリケの位置をぬう」の 2 でぬったアップリケの位置の輪かく線に合わせてしっかり貼り付けます。



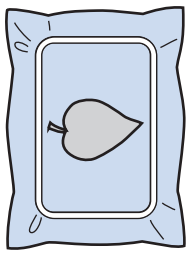
お願い
- アップリケピースを土台布にしっかり貼り付けていないと、ぬっているあいだにピースが浮き上がり、模様とピースがずれてしまうおそれがあります。
- 手芸用のりでアップリケピースを土台布にしっかり固定できない場合は、しつけ糸で仮止めぬいをしてピースを固定してください。
- アップリケピースに薄い布地を使用するときは、アイロン接着シートで布地の補強と位置合わせをしてください。アップリケしたい場所にアイロンで接着できます。
- 土台用の布にアップリケピースを接着するときは、刺しゅう枠から布地を外さないでください。

2 アップリケピースを貼り付けたら、刺しゅう枠をミシンにセットします。

刺しゅう糸をセットし、押えレバーを下げ、(スタート／ストップスイッチ) を押し、アップリケ部分をぬいます。



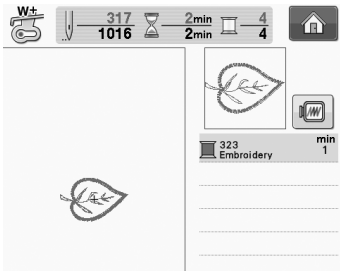
→ アップリケピースを土台の布地にぬって、ミシンがストップします。

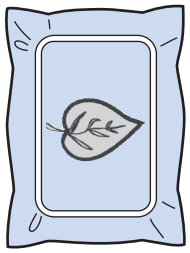


お知らせ
- 模様によっては、「(アップリケピース)」、「(アップリケノイチ)」、「(アップリケ)」の 3 つの手順すべてが表示されないものがあります。「(アップリケ)」が糸色で表示されるときは、その糸色でぬいます。

■4. 残りのパーツをぬいあげる

1 糸替えの順番に従って、刺しゅう糸を交換しながら残りのパーツを刺しゅうします。





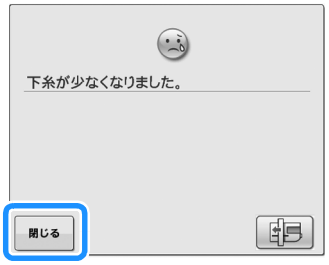
お知らせ
- 押えや針、針板にのりが付くことがありますので、アップリケ模様の刺しゅうが終わったら、のりをきれいに拭き取ってください。
- きれいに仕上げるために、糸替えごとに余分な糸は切ってください。

こんなとき

お願い
- 刺しゅう枠を外したり、セットしたりする際には、刺しゅう機のキャリッジや押えに当たらないように注意してください。模様くずれの原因となります。

下糸が少なくなったら

ぬっている途中で下糸が少なくなると、ミシンが止まり、次のようなメッセージが表示されます。[糸]を押し、以下の手順に従って下糸を交換してください。残りわずかで完成する場合は、[閉じる]を押して、10 目ほどそのままぬえます。10 目ほどぬい終わると、自動的に糸が切れてミシンが止まります。



お知らせ
- 設定画面の「上糸・下糸センサー」が「OFF」に設定されている場合は、上記のメッセージは表示されません。

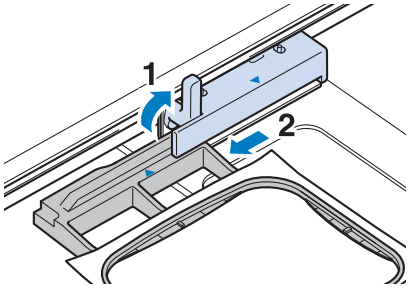
1 [OK]を押します。



→ 自動的に糸が切れた後、キャリッジが移動します。

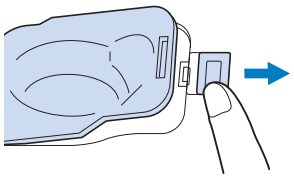
2 枠固定レバーのロックを解除して、刺しゅう枠を外します。

* このとき、布地に無理な力をかけないよう注意してください。枠に張った布地がたるむことがあります。

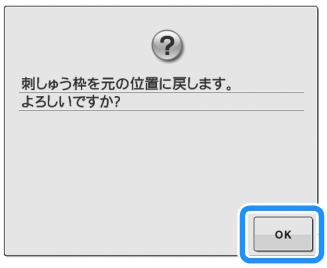


3 下糸を巻いたボビンと交換します。

お知らせ
- 下糸のセットの詳細は「基本機能編」の「下糸をセットする」を参照してください。



4 [OK]を押します。



→ キャリッジが元の位置に戻ります。

5 刺しゅう枠をセットします。

お知らせ
- 刺しゅう枠のセットの詳細は E-17 の「刺しゅう枠をセットする」を参照してください。

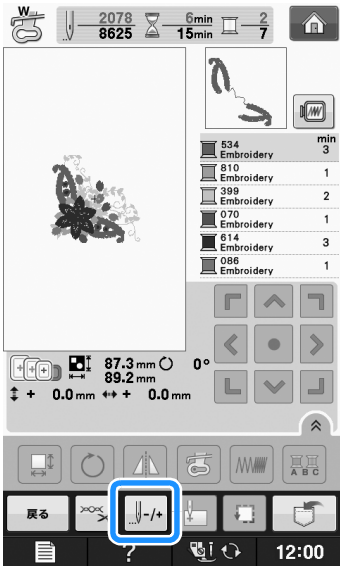
6 刺しゅうを中止した位置に戻るには、次の「途中で糸が切れたときは」の 3 から 6 の手順に従ってください。

途中で糸が切れたときは

1 (スタート／ストップスイッチ) を押して、ミシンを止めます。

2 上糸が切れた場合は、上糸をかけ直します。下糸が切れた場合は、を押して、前ページの 1 から 5 の手順に従って下糸をセットし直します。

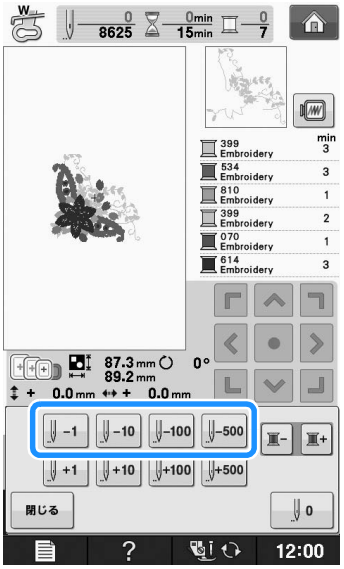
3 -/+ を押します。



4 -1、-10、-100 または -500 を押して、糸が切れた位置から、2 ～ 3 針多く針を戻します。

お知らせ
- ぬい目を重ねるときれいに仕上がります。

* 糸が切れたところまで戻らないときは、 を押して色を選び、その色のぬい始めの位置に戻ってから +1、+10、+100、または +500 を押して、糸が切れたところより少し手前まで進めます。

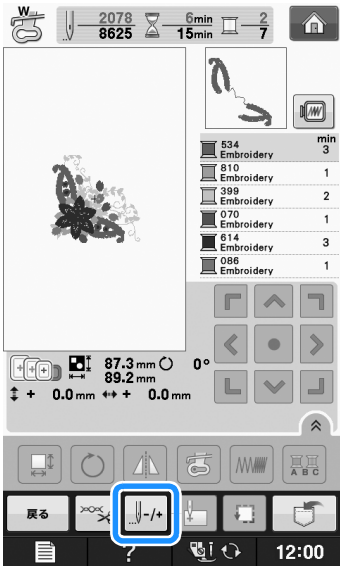


5 閉じる を押して、元の画面に戻ります。

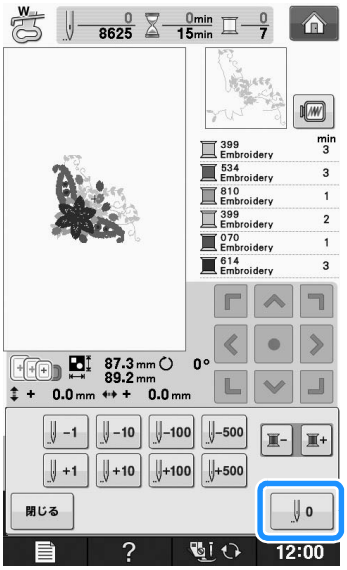
6 (押え上下スイッチ) を押して押えを下げ、(スタート／ストップスイッチ) を押して、刺しゅうを続けます。

始めからぬい直したいときは

1 [-/+]を押します。



2 [0]を押します。



→ 刺しゅう枠が動いて、模様のぬい始めの位置に針が戻ります。

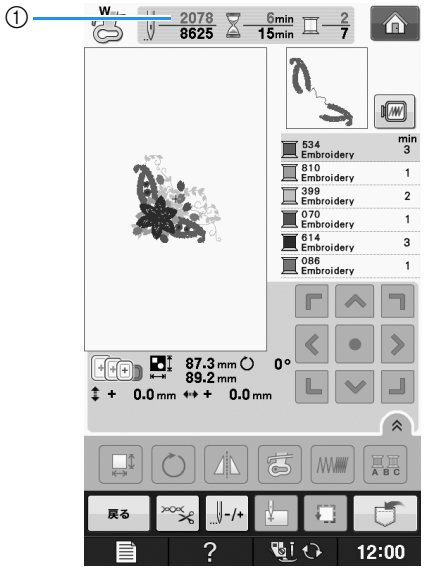
3 (押え上下スイッチ)を押して押えを下げて、刺しゅうを始めます。

電源を切った後、刺しゅうを再開する

刺しゅうが中断されたときは、操作中の色と針数が記憶されます。次にミシンに電源を入れると、中断された操作を続けるかどうかを選ぶことができます。

お知らせ

- 刺しゅう中に電源が切れても、再び電源を入れると、ミシンは、刺しゅうが中断されたポイントに戻ります。



① 刺しゅうが中断されたときの針数

お願い

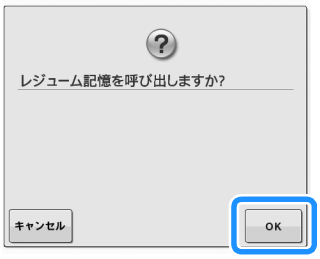
- 刺しゅう機を外さないでください。デザインの記憶が消去されます。

1 電源スイッチを入れます。

2 刺しゅう枠がセットされている場合は、画面に表示される手順に従って、刺しゅう枠を外します。

→ 次のメッセージが表示されます。

3 刺しゅう枠をセットして、OKを押します。

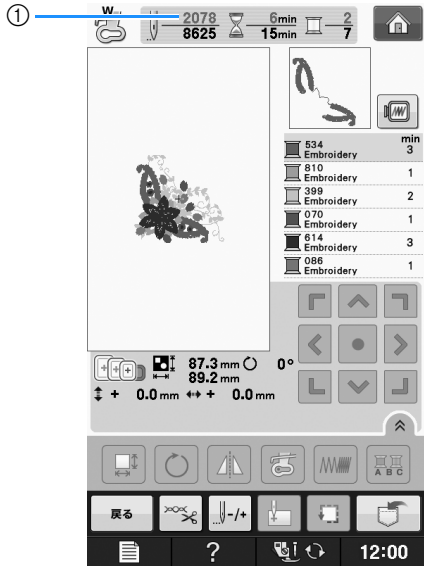


→ 電源を切る前に表示されていた縫製画面が表示されます。

お知らせ

- 新しい操作を始める場合は、キャンセルを押すと、模様選択画面が表示されます。

4 刺しゅうを続けます。



① 刺しゅうが再開されたときの針数

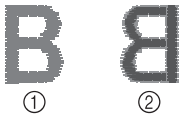
刺しゅうに関する設定の調整

糸調子を整える

刺しゅうのときの糸調子は、上糸が布地の裏側に少し見えるくらいに調整されています。

■ 正しい糸調子

布地の裏側に、少し上糸が見えるくらいに調節します。糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきれいにならず、布地にしわがよったり、糸が切れたりします。



① 表
② 裏

以下の説明に従って、状況に合わせて糸調子を調節してください。

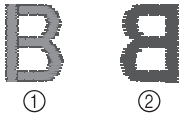
お願い
- 糸調子を極端に弱く設定すると、途中でミシンが停止することがありますが、故障ではありません。糸調子を少し強めにして、ぬい直してください。

お知らせ
- 電源スイッチを切ったり、模様を選び直したりすると、糸調子は標準の設定に戻ります。
- 記憶させた模様を呼び出した場合は、糸調子も記憶させたときの数値になります。

■ 上糸が強すぎる場合

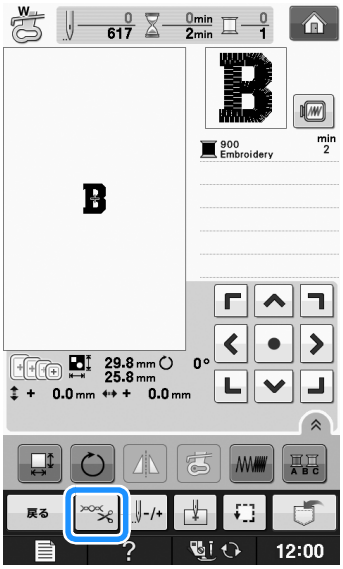
上糸が強すぎると、布地の表側に下糸が出ます。

お願い
- 下糸が正しくセットされていないと、上糸が強くなりすぎることがあります。その場合は、「基本機能編」の「下糸をセットする」を参照して、下糸を正しくセットしなおしてください。

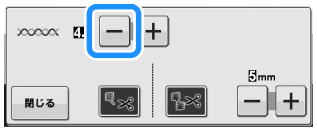


① 表
② 裏

1  を押します。



2 − を押して、上糸を弱めます。
押すごとに糸調子の数値が小さくなります。



3 閉じる を押します。

■ 上糸が弱すぎる（上糸が裏に出る）場合

上糸がたるみます。表側の刺しゅう糸がたるんで、糸の締まりがゆるくなったり、表側に糸のループができたりします。

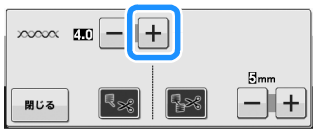
お願い
- 上糸が正しく通っていないと、上糸が弱くなりすぎることがあります。その場合は、「基本機能編」の「上糸通し」を参照して、上糸を正しく通しなおしてください。



① 表
② 裏

1  を押します。

2 ＋を押して、上糸を強めます。
押すごとに糸調子の数値が大きくなります。



3 閉じるを押します。

お願い

- 設定画面の「刺しゅうの糸調子調整」で刺しゅうのときの上糸調子を調整できます。ここでの設定は、全ての模様に適用されます。
  刺しゅうのとき、上糸調子が全体的に強すぎたり弱すぎたりするときに、設定画面で調整してください。＋を押すと上糸が強くなり、－を押すと上糸が弱くなります。さらに、模様ごとに細かい調整が必要な場合は、E-30 の「糸調子を整える」を参照してください。



自動糸切り機能

■ 自動糸切り機能を使う

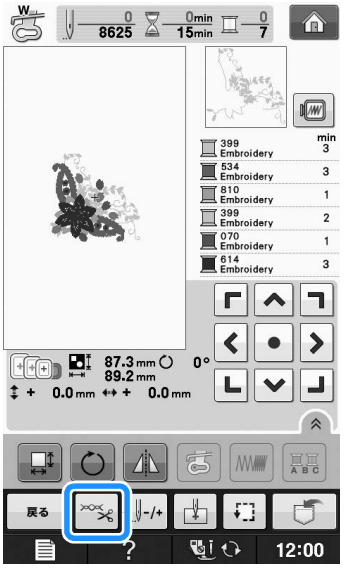
自動糸切り機能は、ぬい終わりのところで自動的に糸を切ります。刺しゅうのときは、この機能があらかじめ設定されています。

■ 自動糸切り設定を解除する

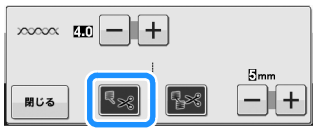
設定を解除するには、を押してからを押します。この機能は、刺しゅうの途中でオンまたはオフにできます。

＊ 電源を切ると、この機能は標準設定に戻ります。

1 を押します。



2 を押して、自動糸切りを解除します。



→ キーの表示が、に変わります。

＊ 1 色の糸をぬい終わると、ミシンは糸を切らずに停止します。

渡り糸切り機能

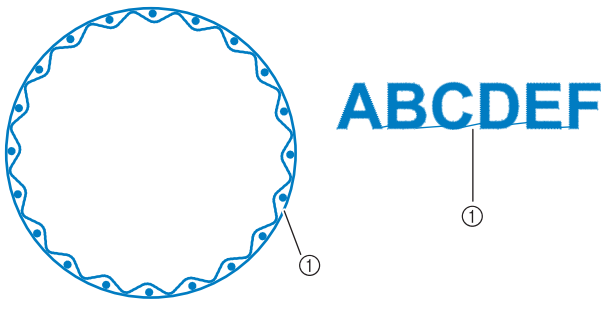
■ 渡り糸切り機能を使う

渡り糸切り機能は、余分な渡り糸を自動的に切ります。刺しゅうのときは、この機能があらかじめ設定されています。

■ 渡り糸切り設定を解除する

設定を解除するには、を押してからを押します。この機能は、刺しゅうの途中でオンまたはオフにできます。

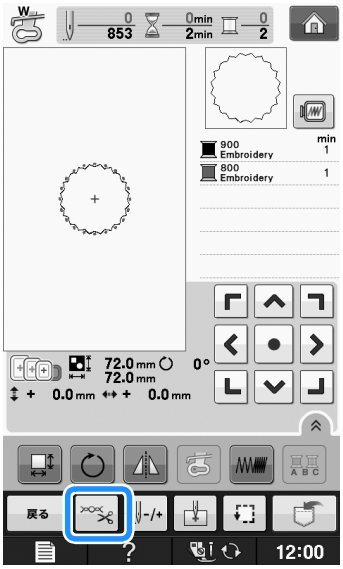
＊ 設定は、ミシンの電源を切っても保存されます。



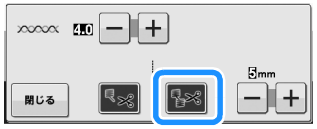
① 渡り糸

お願い
- アルファベットのように、短い渡り糸を自動糸切り機能を設定して刺しゅうするときは、ボールポイント針（刺しゅう用）を使用してください。

1 を押します。



2 を押して、渡り糸切りを解除します。



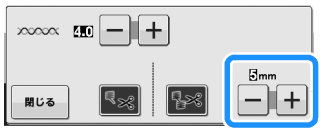
→ キーの表示が、に変わります。
* ミシンは、次のぬい目に進む前に糸を切りません。

■渡り糸の長さを選ぶ

渡り糸切り機能が設定されている場合、残しておく渡り糸の長さを選ぶことができます。長さは、刺しゅうの途中で変更できます。
5mm から 50mm まで、5mm きざみで設定を選択できます。
* 設定は、ミシンの電源を切っても保存されます。

＋ または － を押して、渡り糸の長さを選びます。

例：＋ を押して 25mm を選ぶと、ミシンは次のぬい目に移動する前に、25mm 以下の渡り糸を切らずに残します。



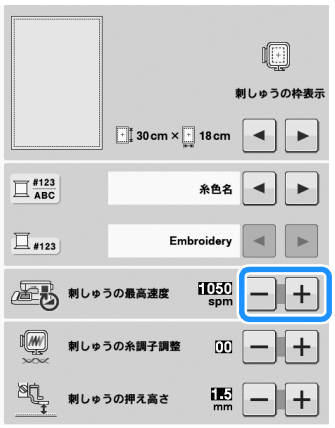
お願い
- 糸切りの多い模様の場合は、布地の裏面に残る糸の量を減らすために、渡り糸の長さ調節を長めに設定することをおすすめします。
- 渡り糸の長さに選ぶ数値が大きければ大きいほど、糸を切る回数が減りますが、布地にはより多くの渡り糸が残ることになります。

刺しゅうの速度を調節する

1 を押します。

2 「刺しゅうの最高速度」の画面で、＋ － を使って刺しゅうの速度を変更します。

* 刺しゅうの最高速度は 3 段階（350spm、600spm、1050spm）あります。



お知らせ

- spm は 1 分間あたりの針数を示します。
- 薄地、厚地、重い布地に刺しゅうするときは、ぬう速さを遅くします。
- 刺しゅうをしている途中でも速度を変えることができます。
- 速度は、設定を変えるまで変わりません。速度の設定は、電源を切っても保存されます。
- メタリックなどの特殊な糸を使用するときは、速度を 600spm に設定してください。
- ボビンワーク模様を選んでいるとき、刺しゅうの速度は「100spm」に設定されます。「100spm」がボビンワークをするときに推奨される速度ですが、「200spm」「350spm」を選択することもできます。

3 閉じる を押します。

刺しゅうの糸番号、糸色名を表示する

糸番号、糸色名を表示できます。

お知らせ

- 画面に表示される色が、実際の糸こまの色と異なる場合があります。

1 を押します。

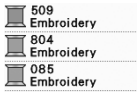
2 #123 ABC の ◀ ▶ を使って糸番号、糸色名のいずれかを表示させます。



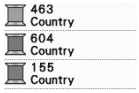
3 糸番号を選んだ場合は、#123 の ◀ ▶ を押して、糸の種類を選びます。



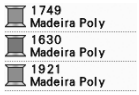
Embroidery 糸番号
(ブラザー刺しゅう糸
(ウルトラポス))



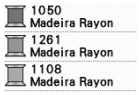
Country 糸番号
(ブラザー刺しゅう糸
(カントリー))



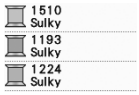
Madeira Poly 糸番号
(マデイラ ポリエステル)



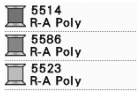
Madeira Rayon 糸番号
(マデイラ レーヨン)



Sulky 糸番号
(サルキー)



Robison-Anton 糸番号
(ロビソン・アントン)



4 閉じる を押します。

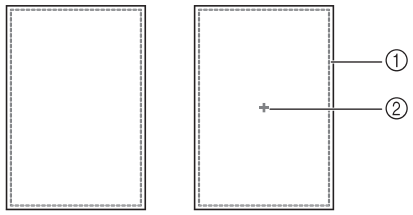
刺しゅうの枠表示を変える

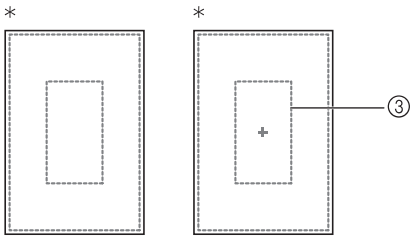
1 [ ] を押します。

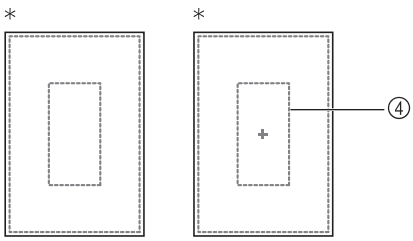
2 「刺しゅうの枠表示」で、◄ ► を使用して刺しゅうの枠表示モードを変更します。

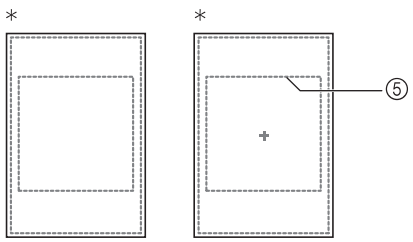
* 刺しゅうの枠表示は 16 通りあります。

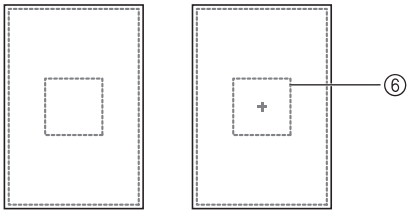


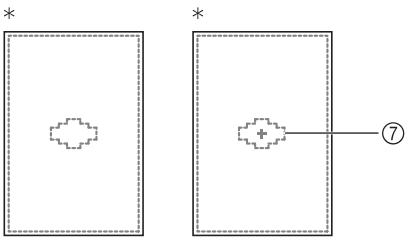


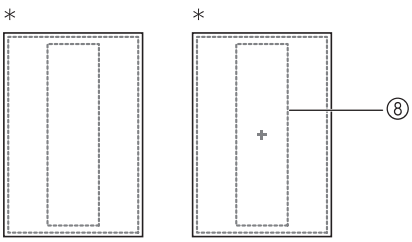


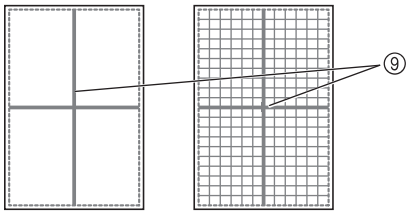












* 別売の刺しゅう枠

① LL 枠の刺しゅう範囲
30cm × 18cm

② 中心の線

③ L 枠（別売）の刺しゅう範囲
18cm × 13cm

④ ボーダー枠（別売）の刺しゅう範囲
18cm × 10cm

⑤ キルト枠（別売）の刺しゅう範囲
15cm × 15cm

⑥ M 枠の刺しゅう範囲
10cm × 10cm

⑦ S 枠（別売）の刺しゅう範囲
2cm × 6cm

⑧ ボーダー枠（別売）の刺しゅう範囲
30cm × 10cm

⑨ グリッド

3 閉じる を押します。

刺しゅう模様の修正

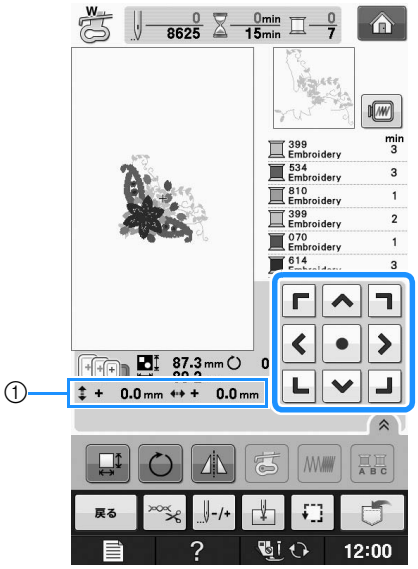
⚠ 注 意

- 模様を修正した場合、使用できる刺しゅう枠の表示を確認して、正しい枠を使用してください。表示される枠以外の刺しゅう枠を使用すると、枠が押えに当たり、けがの原因となります。

ぬう位置を移動させる

を使用して、矢印の方向に移動させます。

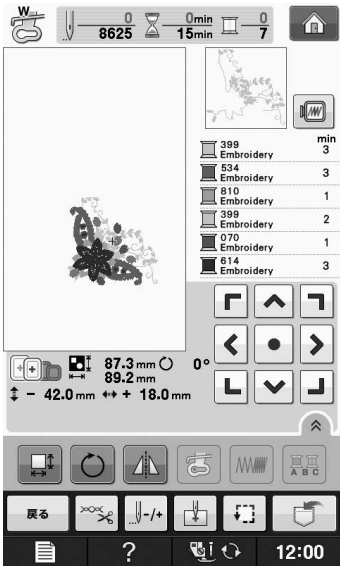
を押すと、中心に戻ります。



① 中心からの移動距離

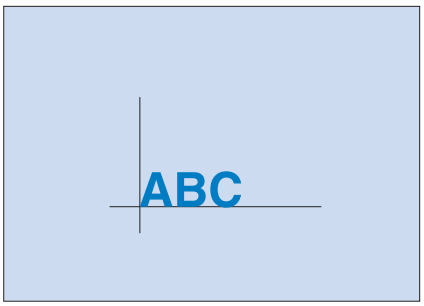
お知らせ

- が表示されていないときは、ぬう位置の移動はできません。

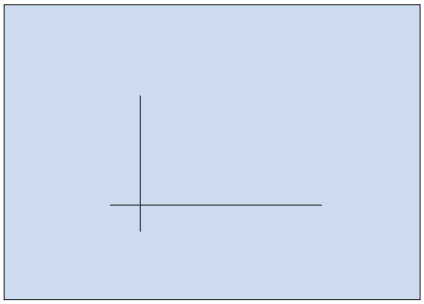


模様と針を合わせる

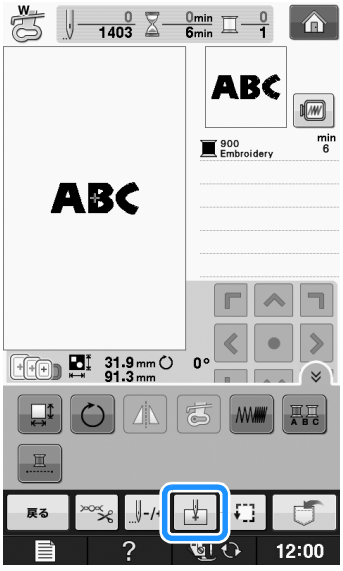
例： 模様の左下と針を合わせます。



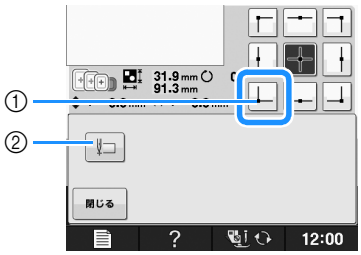
1 次のように、刺しゅうを始める位置に印をつけます。



2 を押します。



3 を押します。



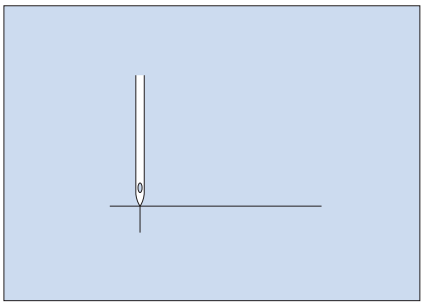
① ぬい始めの位置

② このキーを押すと、つながった文字の並びを揃えることができます。(E-40 参照)

→ 針が模様の左下に移動します（刺しゅう枠は、針が正しい位置になるように動きます）。

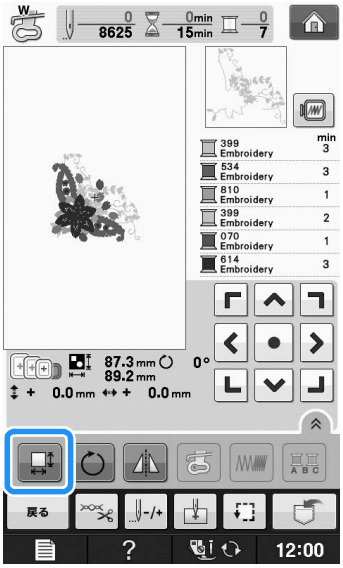
4 閉じる を押します。

5 を使用して、針を合わせ、布地に印をつけて、刺しゅうを始めます。



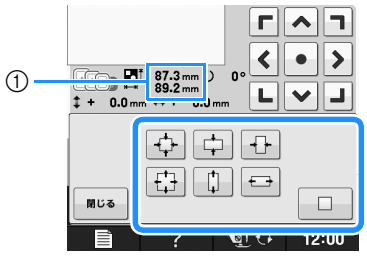
大きさを変える

1 を押します。

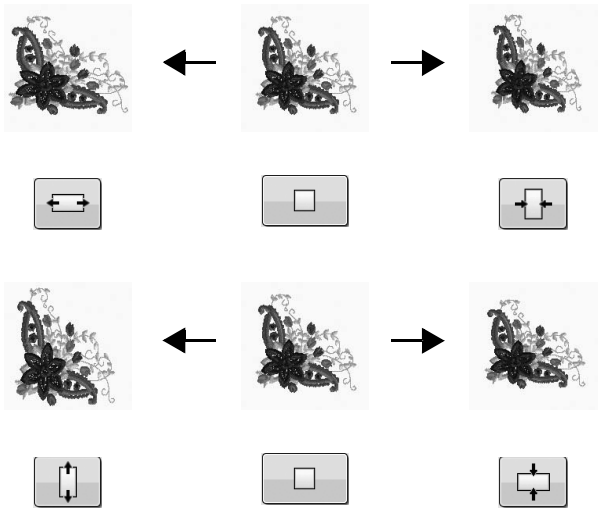


2 大きさを変える方向を選びます。

* を押すと、模様が均等に大きくなります。
* を押すと、模様が均等に小さくなります。
* を押すと、横方向に大きくなります。
* を押すと、横方向に小さくなります。
* を押すと、縦方向に大きくなります。
* を押すと、縦方向に小さくなります。
* を押すと、元の表示に戻ります。



① 模様の大きさ



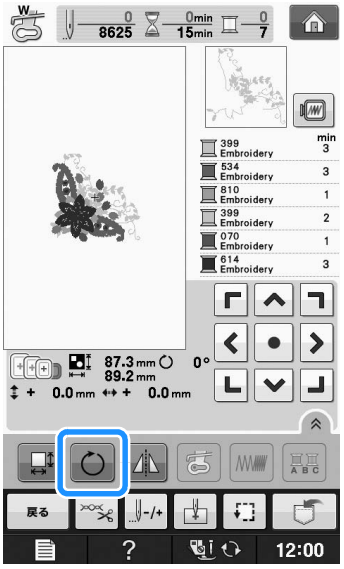
お知らせ

- 文字や模様によって、拡大できる大きさが異なります。
- 文字や模様によっては 90 度回転させると、さらに拡大できます。
- マウスホイールを回して、模様の大きさを変えることができます。マウスホイールを奥へ回すと、模様が縮小されます。マウスホイールを手前に回すと、模様が拡大されます。

3 閉じる を押して、元の画面に戻ります。

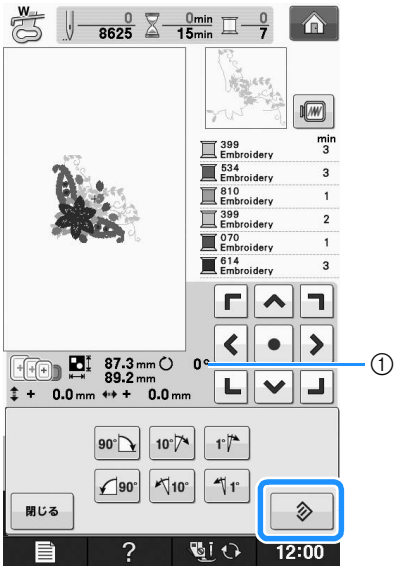
模様を回転させる

1 を押します。



2 模様を回転させる角度を選びます。

* 90° を押すと、押すごとに反時計回りに 90 度ずつ回転します。
* 90° を押すと、押すごとに時計回りに 90 度ずつ回転します。
* 10° を押すと、押すごとに反時計回りに 10 度ずつ回転します。
* 10° を押すと、押すごとに時計回りに 10 度ずつ回転します。
* 1° を押すと、押すごとに反時計回りに 1 度ずつ回転します。
* 1° を押すと、押すごとに時計回りに 1 度ずつ回転します。
* を押すと、元の角度に戻ります 。



① 模様の回転角度



0°



90°

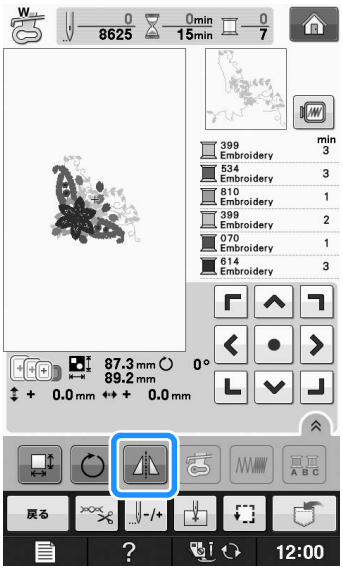
お知らせ

- マウスホイールを回して、模様を回転させることができます。マウスホイールを奥へ回すと、模様が左へ 10 度ずつ回転します。マウスホイールを手前に回すと、模様が右へ 10 度ずつ回転します。

3 閉じる を押して、元の画面に戻ります。

模様を左右反転させる

選んだ模様を左右反転させるには、を押します。このとき、表示がに変わります。を押すと、元に戻ります。





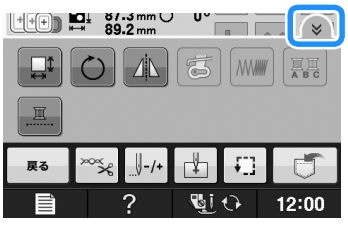


編集画面を広げる

編集画面を広げるには、を押します。



広げた編集画面を閉じるには、を押します。



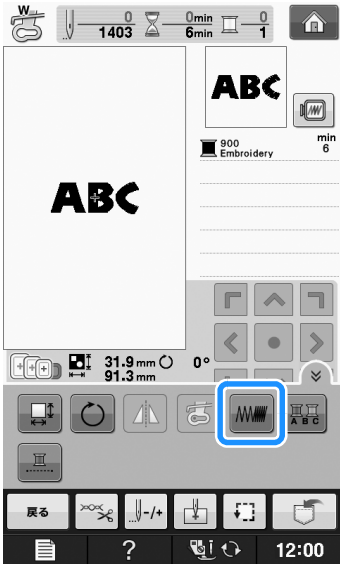
糸密度を変える（文字・枠模様のみ）

文字模様、枠模様には、糸密度を変更できるものがあります。

糸密度を 80% と 120% の間で、5% きざみで設定できます。

1 を押します。

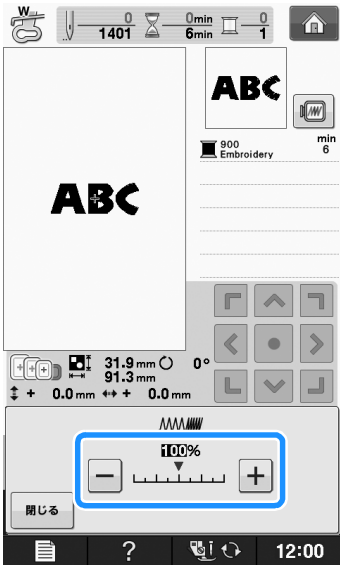
* を押すと、画面のすべてのキーを表示できます。

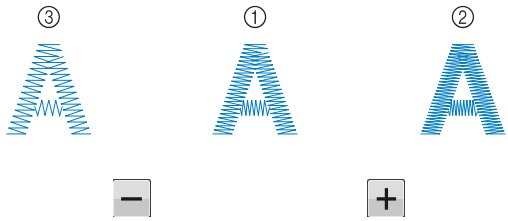


2 密度を変えます。

* 密度をあらくする場合は、− を押します。

* 密度を細かくする場合は、＋ を押します。





① 標準
② 細かい（ぬい目の間隔が狭い）
③ あらい（ぬい目の間隔が広い）
→ ボタンを押すたびに模様の密度が変わります。

3 閉じる を押して、模様選択画面に戻ります。

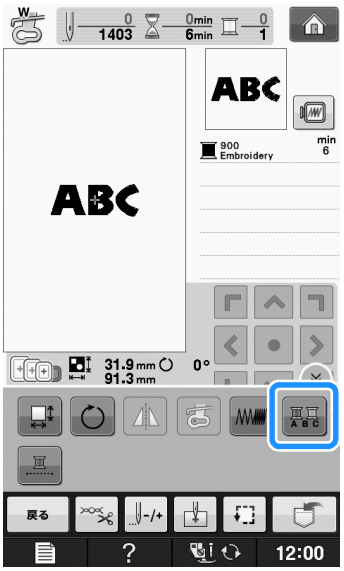
1 文字ずつ色を変えてぬう

ひらがな／カタカナまたはアルファベットを選んだとき、1 文字ずつ違う色でぬうことができます。色替えを設定すると、1 文字ぬうごとにミシンが止まるので、糸の色を変えることができます。

1 を押します。

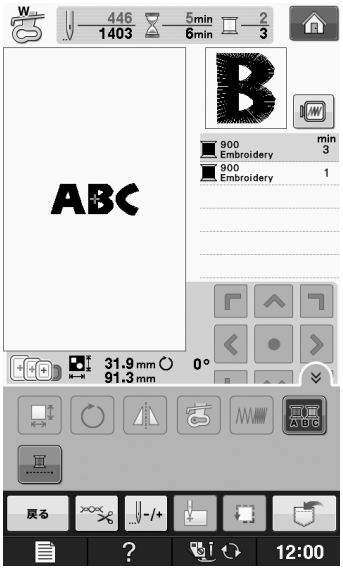
* を押すと、画面のすべてのキーを表示できます。

* このキーをもう 1 度押すと、元の設定に戻ります。



→ 表示が に変わります。

2 1 文字ぬい終わったら糸の色を替えて、次の文字をぬいます。



文字をつなげて刺しゅうする

刺しゅう枠からはみ出して、文字模様をつなげて刺しゅうするには、以下の手順に従ってください。

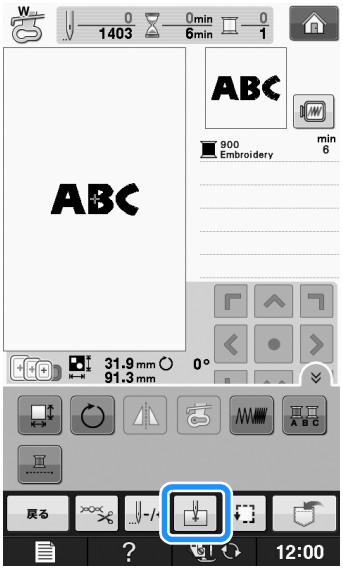
例： 「ABC」の後に「DEF」をつなげる場合

A B C D E F

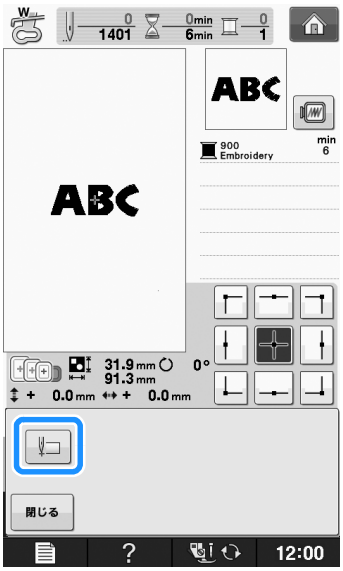
1 「ABC」の文字模様を選びます。

お願い
- 文字模様を選ぶときの詳しい手順については、E-5 の「文字模様を選ぶ」を参照してください。

2  を押します。



3  を押します。

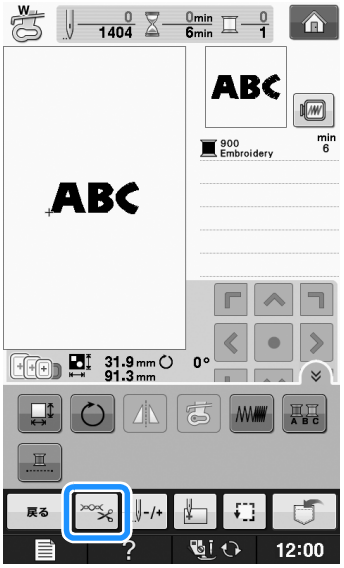


→ ぬい始めが、模様の左下に設定されます。設定した位置に針が落ちるように刺しゅう枠が動きます。

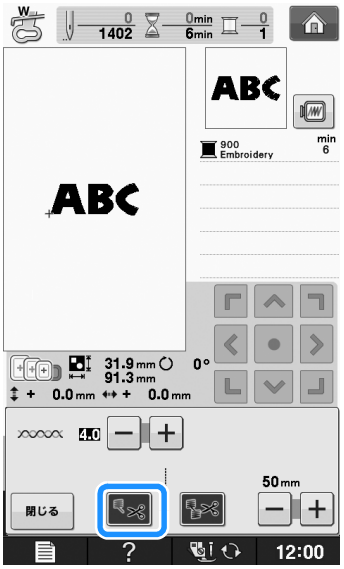
お願い
- ぬい始めの位置設定を解除して、針落ち位置を模様の中心に戻すときは、 を押してください。
-  を押して、ぬい始めの位置をさらに変えることもできます。

4 閉じる を押します。

5 を押します。

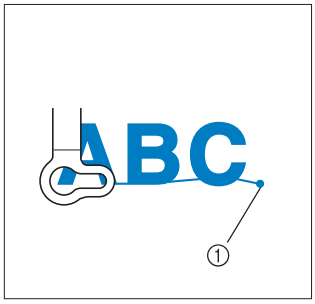


6 を押して、自動糸切り機能を解除し、閉じる を押します。



7 (スタート／ストップスイッチ) を押します。

8 文字模様の刺しゅうが終わったあと、糸を長めに残して切り、刺しゅう枠を取り外します。布地を動かして、残りの文字模様(「DEF」) が刺しゅうできるように刺しゅう枠をもう一度取り付けます。

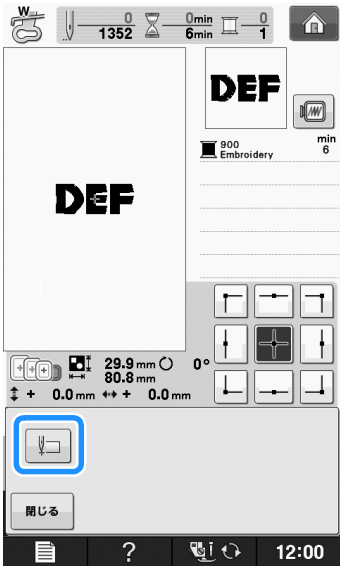


① ぬい終わり位置

9 手順 1 のように、「DEF」の文字模様を選びます。

10 を押します。

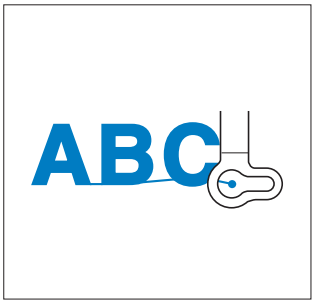
11 を押します。



→ ぬい始めが、模様の左下に設定されます。設定した位置に針が落ちるように刺しゅう枠が動きます。

12 閉じる を押します。

13 を押して、先に刺しゅうした模様のぬい終わり位置からぬい始めるように、針落ち位置を合わせます。



14 (スタート／ストップスイッチ) を押して残りの文字模様をぬい始めます。



連続した刺しゅう（1 色の場合）

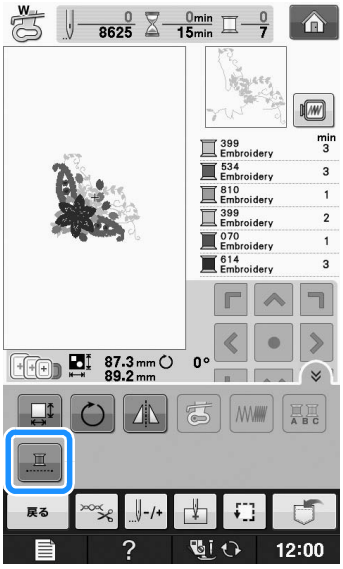
■ 連続した刺しゅうをする

を押して、連続した刺しゅう機能を設定すると、選んだ模様が一色でぬわれます。模様を最後までぬい終わるまで、糸替えのための停止をせずに連続してぬい続けます。

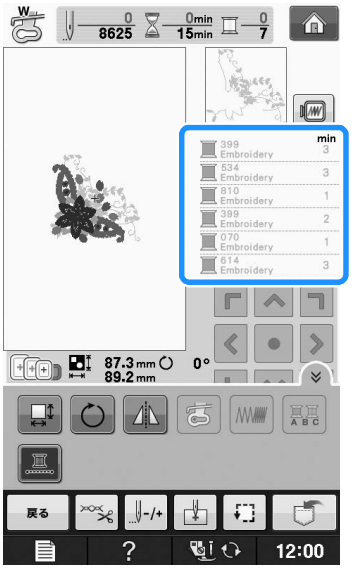
■ 連続した刺しゅう設定を解除する

設定を解除するには、を押します。

* を押して、画面の全てのキーを表示してください。



→ 画面に表示されている糸色表示が、灰色で表示されます。



お知らせ

- 連続した刺しゅう機能が設定されていても、自動糸切り機能と渡り糸切り機能は使用できます。(E-31 参照)

刺しゅう模様の記憶

刺しゅうデータに関する注意

このミシンで作成・記憶したデータ以外の刺しゅうデータを扱うときは、以下の点に注意してください。

⚠ 注 意

- **当社正規の模様以外の刺しゅうデータを使用する際は、糸密度が細かすぎる場合や 3 回以上の重ねぬいをする場合があり、糸切れや針折れが発生するおそれがあります。そのような場合は、当社正規のデータ作成装置（刺しゅう PRO など）で、刺しゅうデータを修正して使用してください。**

■ 使用可能な刺しゅうデータの種類

- このミシンで扱える刺しゅうデータは、.pes、.pen、.phc、および .dst ファイルのみです。当社正規のデータ作成装置またはミシンで作成された模様以外のデータを扱うと、ミシンが誤作動するおそれがあります。
- .pen ファイルについては、当社インターネットの刺しゅうデータダウンロードサイト「ハートステッチズ」（https://sewco-world.brother.co.jp/heartstitches/）で今後掲載される情報をご参照ください。

■ 使用可能な USB デバイス／メディア

刺しゅうデータは、USB メディアに記憶し、呼び出すことができます。次の仕様を満たすメディアを使用してください。

- USB フロッピーディスクドライブ
- USB フラッシュドライブ（USB フラッシュメモリー）

呼び出しのみが可能な刺しゅうデータ

- USB CD-ROM、CD-R、CD-RW ドライブ

次の USB メディアを USB メモリーカードリーダー／ライターとともに使うこともできます。

- SD メモリーカード
- コンパクトフラッシュ
- メモリースティック
- スマートメディア
- マルチメディアカード（MMC）
- XD ピクチャーカード

お願い

- USB デバイス／メディアに保存されたデータのサイズによっては、本機での処理速度が異なります。
- 一部の USB メディアは、このミシンで使用できない場合があります。詳細は、ブラザーソリューションセンター（ http://solutions.brother.co.jp/sewing_support/index.html ）をご覧ください。
- USB デバイス／メディアの挿入後、アクセスランプが点滅を始めます。デバイス／メディアの認識に、5 ～ 6 秒かかります。（この時間は USB デバイス／メディアによって異なります）。

お知らせ

- フォルダーを作成する場合は、パソコンを使用します。
- データのファイル名またはフォルダー名は半角英数字を使用してください。また、ファイル名（フォルダー名）が 9 文字以上の場合は、本機の画面上では最初の 6 文字のみが表示され、残りのファイル名（フォルダー名）は「~」と数字で表示されます。

■ 使用可能なパソコンの種類と OS

- 対応機種：
  USB ポートコネクタ標準装備の IBM-PC またはその互換機
- 対応 OS:
  Microsoft Windows XP,Windows Vista,Windows 7, Windows 8

■ パソコンでデータを作成・保存するときの注意

- 刺しゅうデータのファイル名にはアルファベット 26 文字（A ～ Z、a ～ z）、数字、"-" もしくは "_" を使用してください。他の文字を使用すると、模様が表示されないことがあります。
- 縦 30cm ×横 18cm より大きい刺しゅうデータを選ぶと、メッセージが表示され、模様を 90 度回転するか尋ねてきます。
  90 度回転しても、縦 30cm ×横 18cm より大きい刺しゅうデータは扱うことができません。（デザインは全て、デザイン領域縦 30cm ×横 18cm 内にしてください。）
- 針数、色数の制限を超えて記憶した .pes ファイルは使用できません。当社正規のデータ作成装置で、制限内の模様に修正してご使用ください。
- USB デバイス／メディア内に作成されたフォルダーに格納された模様データは本機で読み込むことができます。

- リムーバブルディスクにはフォルダーを作成しないでください。フォルダーを作成し、フォルダー内にデータを記憶した場合、ミシンで模様データを表示することはできません。
- 刺しゅう機を取り付けていない場合にも、このミシンは刺しゅうデータを扱うことができます。

■ Tajima（.dst）刺しゅうデータ

- .dst データは、模様を一覧する画面にファイル名で表示されます（実際のイメージは表示されません）。ファイル名の最初の 8 文字のみが表示されます。
- Tajima（.dst）データには、具体的な糸色の情報が含まれていないため、標準的な糸色で表示されます。プレビューを確認し、必要に応じて糸色を変えます。

刺しゅう模様を記憶させる

自分の名前など、よく使う文字の組み合わせや、大きさや傾き、位置を変えた模様などをミシンに記憶させることができます。1MB までの模様を記憶させることができます。

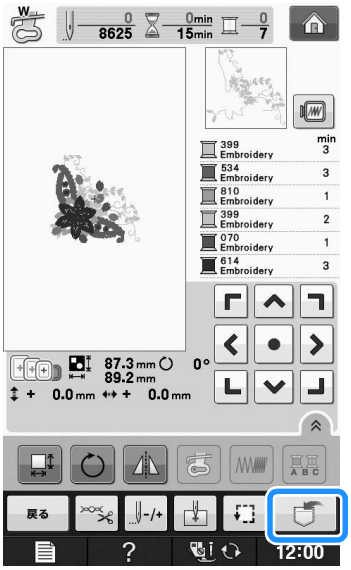
お願い
- 「記憶中」のメッセージが表示されているときは、電源スイッチを切らないでください。記憶されている模様データが消えるおそれがあります。

お知らせ
- 記憶するのに数秒かかります。
- 記憶した模様を呼び出すときは、E-47 を参照してください。

1 模様が縫製画面に表示されているときに、

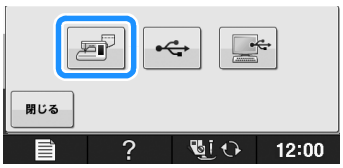


を押します。



2 を押します。

* 閉じるを押すと、記憶せずに元の画面に戻ります。



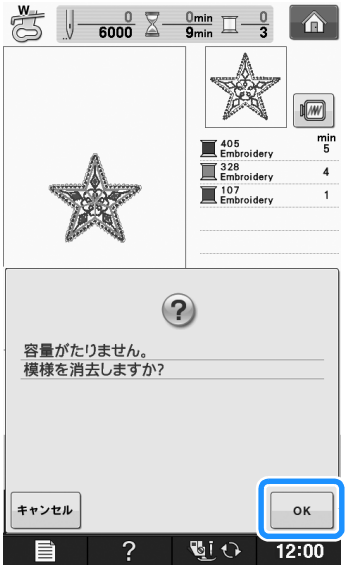
→「記憶中」のメッセージが表示されます。模様が記憶されると、自動的に元の画面に戻ります。

■ 記憶できないときは

下のメッセージが表示されたときは、記憶させる模様の使用メモリー量がミシンの残りのメモリー容量を越えています。すでに記憶されている模様を消去すると、新しい模様を記憶できます。

1 OKを押します。

* キャンセルを押すと、記憶せずに元の画面に戻ります。

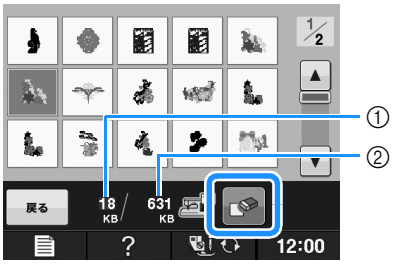


→ 現在、記憶されている模様が表示されます。

2 消去する模様を選びます。



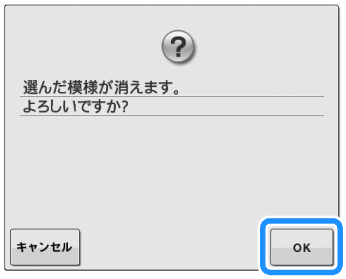
3 を押します。



① 消去される模様が使用しているメモリー
② 新しい模様を保存した後の残りメモリー

4 OK を押します。

* 消去しない場合はキャンセルを押します。



→「記憶中」のメッセージが表示されます。模様が記憶されると、自動的に元の画面に戻ります。

お願い
- 「記憶中」のメッセージが表示されているときは、電源スイッチを切らないでください。記憶しようとしている模様データが消えるおそれがあります。

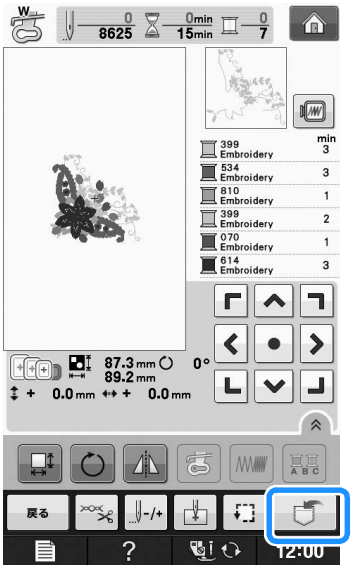
お知らせ
- 模様を消去して、不足していたメモリー容量が確保されると、自動的に新しい模様が記憶されます。模様を消去してもメモリー容量が足りないときは、上記の手順を繰り返し、もう一度記憶されている模様を消去してください。
- 模様の記憶には数秒かかります。
- 記憶した模様を呼び出すときは、E-47 を参照してください。

刺しゅう模様を市販の USB メディアに記憶させる

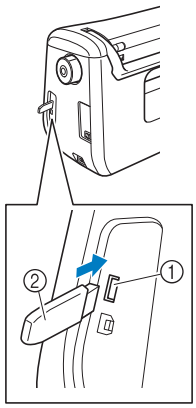
刺しゅう模様をミシンから USB メディアに送るときには、USB メディアのプラグをミシンの USB ポートコネクタに差し込みます。

お知らせ
- 一部の USB メディアは、このミシンで使用できない場合があります。
  詳細は、ブラザーソリューションセンター (http://solutions.brother.co.jp/sewing_support/index.html) をご覧ください。
- USB メディアの種類によって、ミシンの USB ポートコネクタに直接差し込むか、ミシンの USB ポートコネクタに USB カードライター／リーダーを差し込みます。
- USB メディアは、いつでも挿入、取り外しができます。

1 模様が縫製画面に表示されているときに、を押します。



2 USBメディアをミシンのUSBポートコネクタに差し込みます。



① メディア／マウス用の USB ポートコネクタ
② USB メディア

お願い
- 保存する模様のサイズによって、保存にかかる時間は異なります。
- USB メディアポートコネクタには、USB メディア以外のものを挿入しないでください。USB メディアドライブの故障の原因となります。

3  を押します。

* 閉じる を押すと、記憶せずに元の画面に戻ります。



→「記憶中」のメッセージが表示されます。模様が記憶されると、自動的に元の画面に戻ります。

お願い
- 「記憶中」のメッセージ画面が表示されている間は、USB メディアを抜き差ししないでください。記憶中の模様が欠損あるいは、消去されることがあります。

刺しゅう模様をパソコンに記憶させる

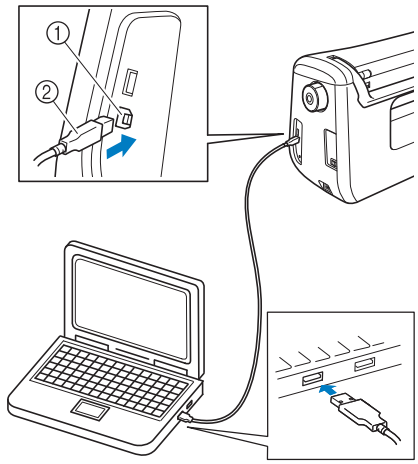
付属の USB ケーブルでミシンをパソコンに接続し、刺しゅう模様をパソコンのリムーバブルディスクに保存したり読み込んだり、呼び出すことができます。合計で約 772KB の模様をパソコンのリムーバブルディスクに保存することができますが、いったん保存した模様はパソコン内に残らず、ミシンの電源を切ったときに消去されます。

お願い
- 「記憶中」のメッセージが表示されているときは、電源スイッチを切らないでください。記憶しようとしている刺しゅう模様データが消えるおそれがあります。

1 ミシンとパソコンのUSBポートコネクタに USB ケーブルを差し込みます。

2 パソコンの電源を入れて、「コンピュータ（マイ コンピュータ）」を選択してください。

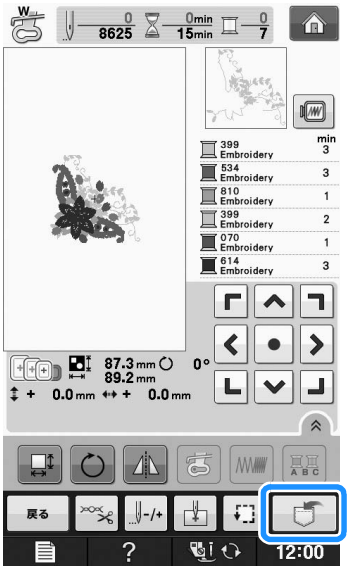
* パソコンとミシンに電源が入っていないときでも、USB ケーブルでパソコンとミシンを接続できます。



① パソコン用 USB ポートコネクタ
② USB ケーブル
→ パソコンの「コンピュータ（マイ コンピュータ）」に「リムーバブルディスク」のアイコンが表示されます。

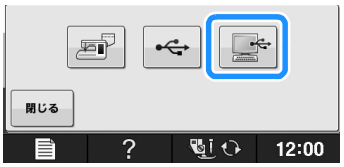
お願い
- USB ケーブルは、差し込む向きが決まっています。うまく差し込めない場合は、無理に差し込まず、向きを確認してください。
- パソコンの USB ポートコネクタ（または USB ハブ）の位置については、ご使用のパソコンの説明書を参照してください。

3 模様が縫製画面に表示されているときに、を押します。



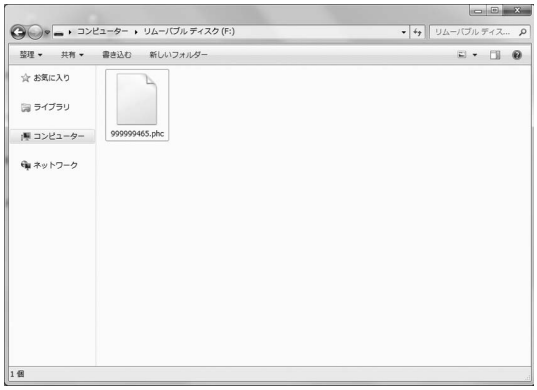
4 を押します。

* を押すと、記憶せずに元の画面に戻ります。



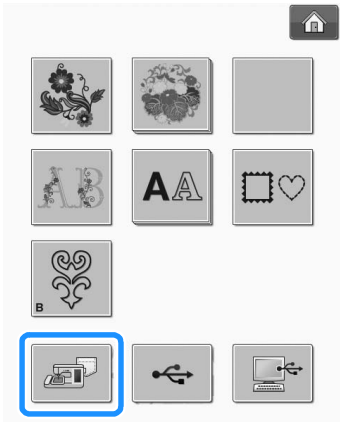
→ 模様は、「コンピュータ（マイ コンピュータ）」の「リムーバブルディスク」に記憶されます。

5 「リムーバブルディスク」で模様の .phc ファイルを選び、このファイルをパソコンにコピーします。



刺しゅう模様を呼び出す

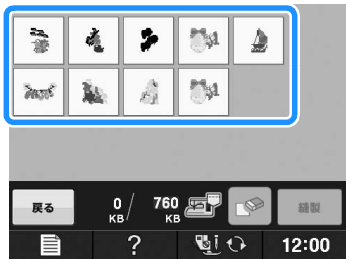
1 を押します。



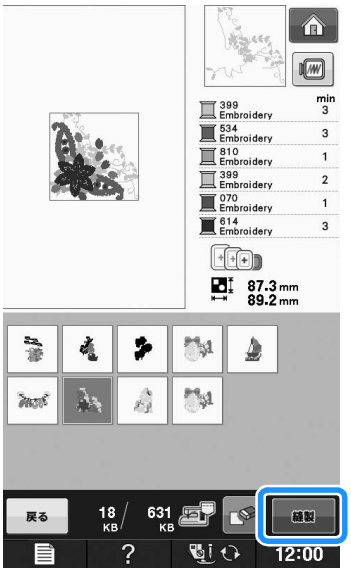
→ 現在記憶されている模様が表示されます。

2 ぬいたい模様のキーを押して、呼び出します。

* を押すと、元の画面に戻ります。



3 を押します。



→ 縫製画面が表示されます。

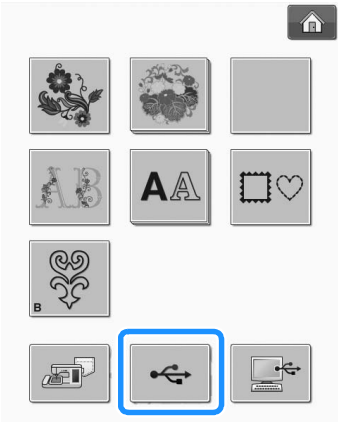
USB メディアから刺しゅう模様を呼び出す

特定の刺しゅう模様を USB メディアから、または USB メディアのフォルダーから直接呼び出すことができます。模様がフォルダーに格納されている場合は、目的のファイルまで階層をたどります。

お知らせ
- 保存する模様のサイズによって、保存にかかる時間は異なります。

1 USBメディアをミシンのUSBポートコネクタに差し込みます。(E-45 参照)

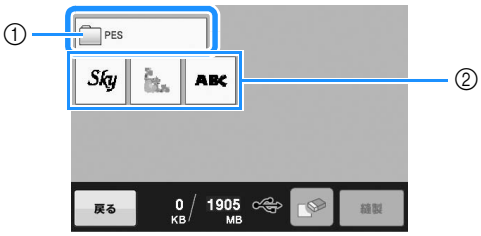
2  を押します。



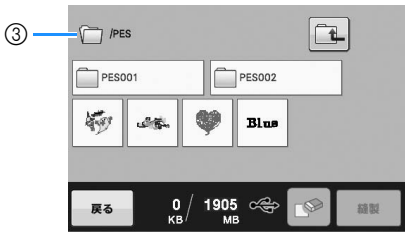
→ 刺しゅう模様と最上位のフォルダーが表示されます。

3 複数の模様を分類するためのサブフォルダーがある場合は、 を押します。

*  を押すと、呼び出さずに元の画面に戻ります。







① フォルダー名
② 最上位のフォルダーに入っている刺しゅう模様
③ パス

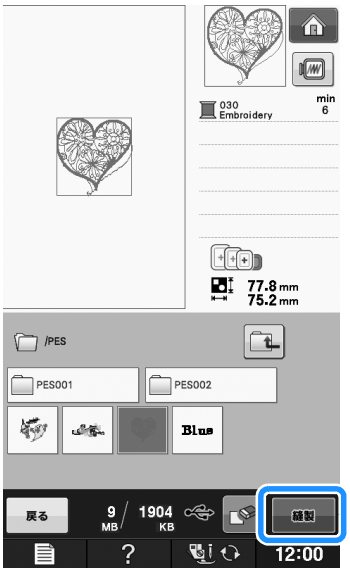
* 現在のフォルダーのパスがリストの上に表示されます。
* サブフォルダーの刺しゅう模様とフォルダーが表示されます。
*  を押すと、前のフォルダーに戻ります。
* フォルダーは、パソコンで作成してください。ミシンでフォルダーを作成することはできません。

4 ぬいたい模様のキーを押して、呼び出します。

*  を押すと、元の画面に戻ります。

5  を押します。

* 模様データを削除するときは、 を押してください。模様データが USB メディアから削除されます。



→ 選んだ刺しゅう模様が呼び出され、縫製画面が表示されます。

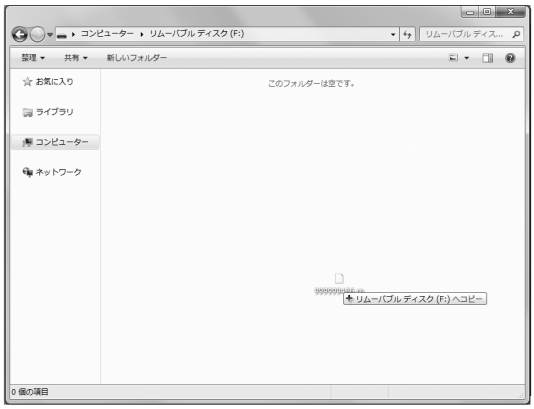
パソコンから刺しゅう模様を呼び出す

1 ミシンとパソコンのUSBポートコネクタにUSB ケーブルを差し込みます。(E-46 参照)

2 パソコンで、「コンピュータ（マイ コンピュータ)」を開いて、「リムーバブルディスク」を選択します。



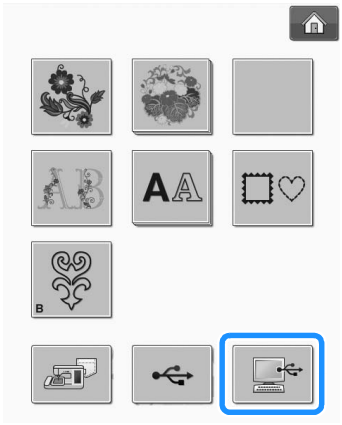
3 模様データを「リムーバブルディスク」に移動／コピーします。



→「リムーバブルディスク」内の模様データがミシンに書き込まれます。

お願い
- データ書き込み中は USB ケーブルを外さないでください。
- 「リムーバブルディスク」にフォルダーを作成しないでください。フォルダーは表示されないため、フォルダー内の模様データを呼び出すことができません。

4  を押します。



→ パソコンに記憶されている模様が選択画面に表示されます。

5 **ぬいたい模様のキーを押して、模様を呼び出します。**

* 戻る を押すと、元の画面に戻ります。



6 縫製 を押します。



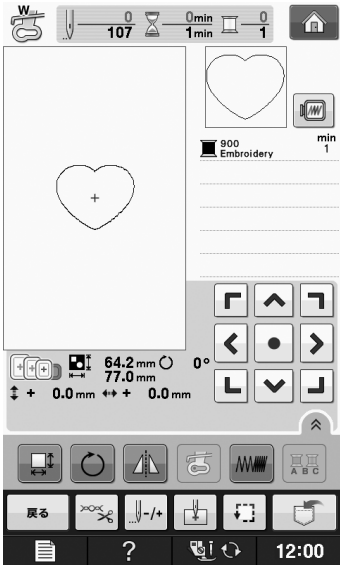
→ 縫製画面が表示されます。

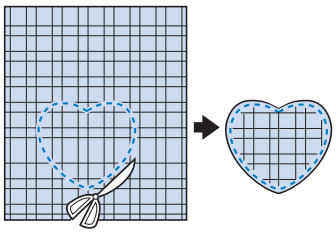
応用ぬい

枠模様を使ってアップリケをする（1）

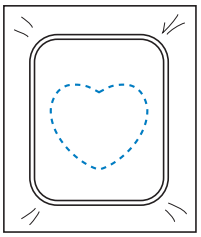
大きさと形が同じ枠模様を使用して、アップリケを作ることができます。直線ぬいで 1 つの模様をぬい、サテンぬいでもう 1 つの模様をぬいます。

1 直線ぬいの枠模様を選びます。アップリケ布に模様を刺しゅうをしてから、ぬい目の外側をていねいに切り取ります。

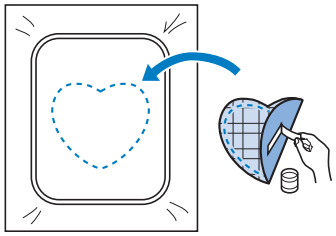




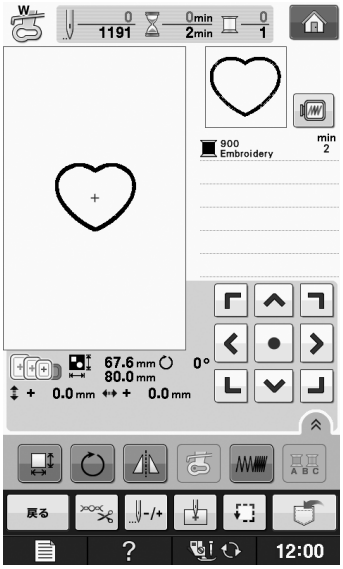
2 ❶ と同じ模様を土台布に刺しゅうします。



3 ❶ で作ったアップリケ布の裏側に、薄くのりまたは布用スプレーのりを付け、土台布のぬい目に合わせて、アップリケを貼り付けます。

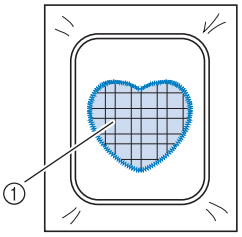


4 同じ形のサテンぬいの枠模様を選びます。❸ のアップリケ布と土台布の上に刺しゅうをして、アップリケを作ります。



お願い

- 直線ぬいの枠模様を選ぶときに、大きさやぬい位置を変えた場合は、サイズと位置を書き留めてください。サテンぬいの枠模様も同じ大きさ、同じ位置になるように変える必要があります。

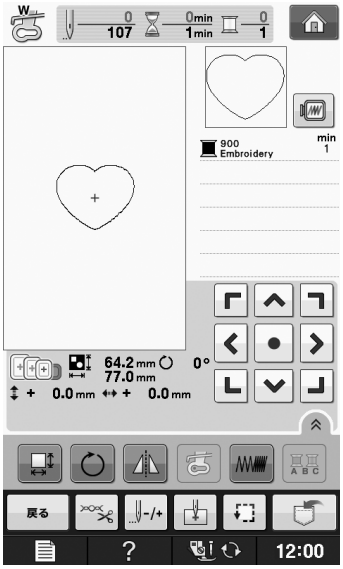


① アップリケ布

枠模様を使ってアップリケをする（2）

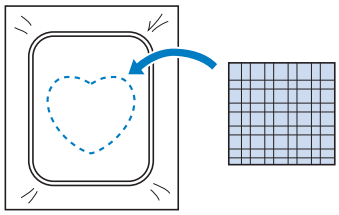
もう１つのアップリケの作り方です。この方法では布地を張り替える必要がありません。直線ぬいで１つの模様をぬい、サテンぬいでもう１つの模様をぬいます。

1 直線ぬいの枠模様を選び、土台布に刺しゅうします。

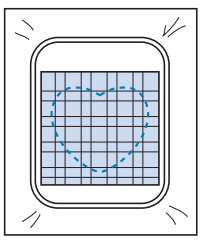


2 ❶の刺しゅうの上にアップリケ布を置きます。

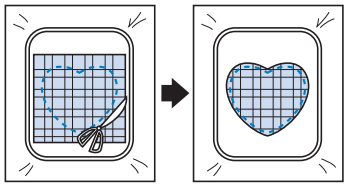
＊ このとき、ぬい目がアップリケ布からはみでないようにしてください。



3 アップリケ布の上からもう一度同じ枠模様を刺しゅうします。

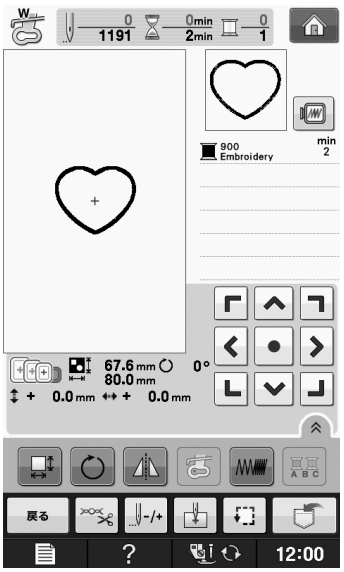


4 刺しゅう機から刺しゅう枠を外し、ぬい目の外側を切り取ります。

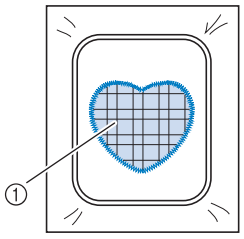


お願い
- 布地は刺しゅう枠にはめたまま切ってください。また、布地に無理な力をかけないでください。枠に張った布地がたるむことがあります。

5 同じ形のサテンぬいの枠模様を選びます。

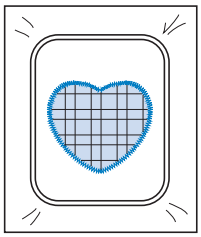


お願い
- 模様の大きさや位置を変えないでください。
- 直線ぬいの枠模様を選ぶときに、大きさやぬい位置を変えた場合は、サイズと位置を書き留めてください。サテンぬいの枠模様も同じ大きさ、同じ位置になるように変える必要があります。



① アップリケ布

6 刺しゅう枠を刺しゅう機にセットし、サテンぬいの模様を刺しゅうしてアップリケを作ります。

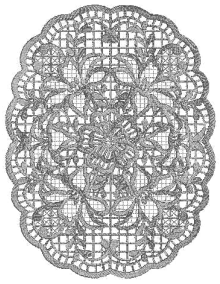


分割模様をぬう

刺しゅう PRO バージョン 7 以降で作成した分割模様をぬうことができます。大型の刺しゅう模様の場合は、刺しゅう枠よりも大きな刺しゅうデザインが複数のパーツに分割され、それぞれのセクションをぬい終わった後にそれを組み合わせて 1 つの模様を作ることになります。

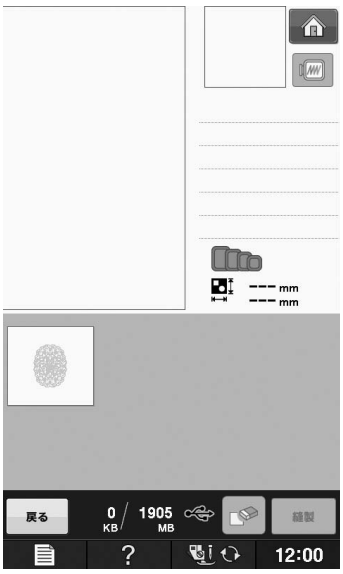
分割模様の作成および、より詳しいぬい方については、刺しゅう PRO に付属している取扱説明書を参照してください。

以下の手順は、USB メディアから下図の分割模様を呼び出し、刺しゅうする方法を説明しています。



1 作成した分割模様が保存されたメディアをミシンに接続し、刺しゅうしたい分割模様を選びます。

* 模様の呼び出しについて詳しくは、E-7 の「刺しゅうカードの模様を選ぶ」、E-48 の「USB メディアから刺しゅう模様を呼び出す」または E-49 の「パソコンから刺しゅう模様を呼び出す」を参照してください。

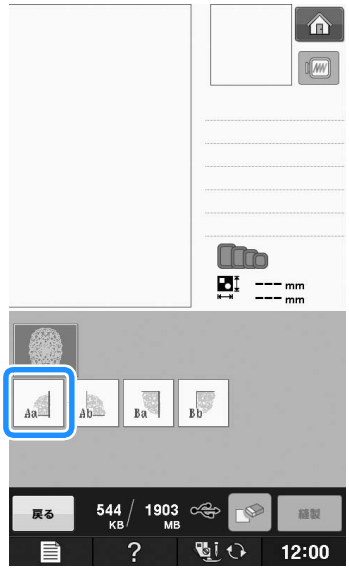


→ 分割模様の場所を選択するための画面が表示されます。

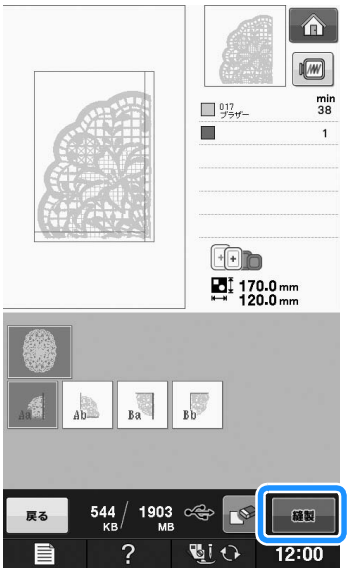
2 刺しゅうするパーツ  を選びます。

* パーツは、アルファベット順に選びます。

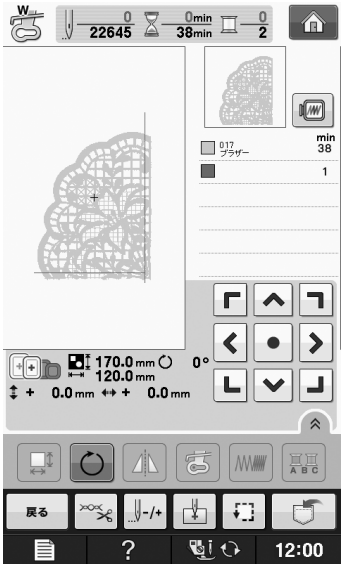
* 通常の模様キーの大きさでは、最大で 12 の部品を 1 つのページに表示できます。模様のパーツ数が 13 以上の場合は、▲ または ▼ でページを切り替えてください。



3 縫製 を押します。



4 必要に応じて、模様を編集します。



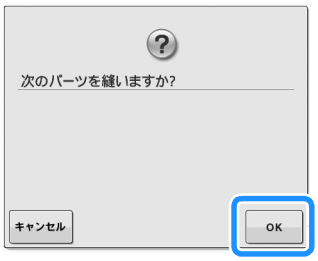
* 詳しくは、E-35 の「刺しゅう模様の修正」を参照してください。

お知らせ

- を押すと、模様を左または右方向に回転させることができます。

5 (スタート／ストップスイッチ) を押して、パーツの刺しゅうを始めます。

6 刺しゅうが終わったら、以下の画面が表示されます。OK を押します。



→ 分割模様のパーツを選択するための画面が表示されます。

7 手順 2 から 6 を繰り返し、模様の残りの部品を組み合わせていきます。

第 2 章
編集刺しゅう

編集刺しゅうでできること 55

刺しゅう模様の選び方 56

ワンポイント／オリジナル模様／花アルファベット／
枠模様／ボビンワーク模様を選ぶ 57
ひらがな／カタカナ／アルファベットを選ぶ 57

編集のしかた..... 59

■ キーのはたらき 60
ぬう位置を移動させる 61
模様を回転させる 61
模様の大きさを変える 61
模様を削除する 61
模様を 200％拡大表示する 61
文字の配列を変える 62
文字の間隔を変える 62
文字の間隔を詰める 63
組み合わせた文字模様を切り離す 63
1 文字ずつ色を変えてぬう.....64
文字をつなげて刺しゅうする 65
刺しゅうの糸色を変える 65
色パレットを作成する 66
■ リストから色パレットに色を追加する 67
■ USB メディアにユーザーパレットデータを保存する 68
■ ユーザーパレットデータを USB メディアから呼び出す.....69
色パレットから色を選ぶ.....69
連続模様をつくる 71
■ 連続模様をぬう 71
■ 連続模様の中のひとつを繰り返す 72
■ 連続模様を糸色ごとに並べ替える 73
■ 糸印をつける.....74
模様を繰り返し刺しゅうする 75
模様を複製する 77
編集が終わったら 77

模様の組み合わせ..... 78

組み合わせ模様を編集する 78
■ 組み合わせ模様を選択する 80
組み合わせ模様を刺しゅうする 81

さまざまな刺しゅうの機能 82

連続した刺しゅう（1 色の場合).....82
■ 連続した刺しゅうをする 82
■ 連続した刺しゅう設定を解除する 82
刺しゅうのしつけぬい 82

編集刺しゅう模様の記憶 83

編集刺しゅうでできること

編集刺しゅうでは、刺しゅう模様と文字の組み合わせ、模様の大きさの変更、模様の回転など、さまざまな編集機能を使用できます。このミシンには、次の 9 つの機能があります。

■ 組み合わせ

刺しゅう模様、枠模様、文字、記憶から呼び出した模様、別売の刺しゅうカードの模様など、いろいろな模様の組み合わせが簡単にできます。

■ 移動

縦 30cm ×横 18cm の範囲で、模様を移動し、位置を液晶画面で確認できます。

■ 回転

模様を 1 度、10 度、または 90 度ずつ回転することができます。

■ 拡大縮小

模様を縦横に拡大縮小することができます。

- 模様によっては、拡大縮小できないものがあります。

■ 左右反転

模様を左右に反転できます。

- 模様によっては、左右反転できないものがあります。

■ 文字の間隔変更

文字の間隔を詰めたり、広げたりすることができます。

■ 文字の配列変更

文字を曲線状に並べたり、斜めに並べたり、文字の配列を変えることができます。6 通りの配列があります。

■ 糸色の変更

模様の色をお好みの糸色に変えることができます。

■ 連続模様の作成

縦方向または横方向に同じ模様をコピーして連続模様を作成できます。

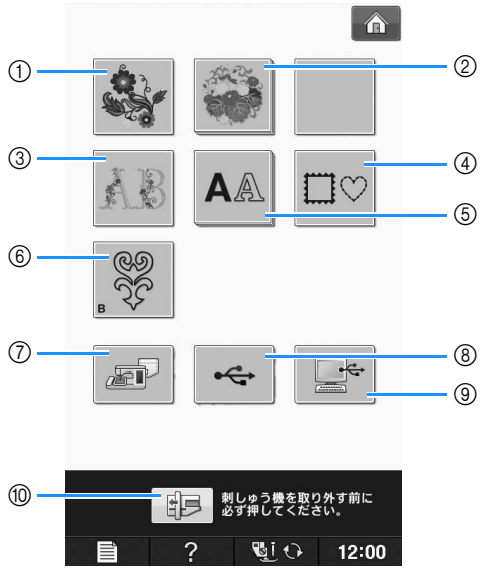






刺しゅう模様の選び方

「基本機能編」の「刺しゅうの準備」の説明に従って刺しゅうの準備をし、を押したあと、を押して次の画面を表示します。



① ワンポイント
② オリジナル模様
③ 花アルファベット
④ 枠模様
⑤ ひらがな／カタカナ／アルファベット
⑥ ボビンワーク模様（「付録」参照）
⑦ ミシンに記憶した模様の呼び出し（E-47 参照）
⑧ USB メディアからの模様の呼び出し（E-48 参照）
⑨ パソコンからの模様の呼び出し（E-49 参照）
⑩ 刺しゅう機を取り外す前に必ずこのキーを押してください。

お知らせ
- それぞれの模様の選択画面の詳細については、別冊の「模様一覧」を参照してください。

お願い
- 刺しゅう機を付けた状態で、実用ぬいや文字・模様ぬいもできます。
  ぬい始める前に、適した押えを取り付けてください。

ワンポイント／オリジナル模様／花アルファベット／枠模様／ボビンワーク模様を選ぶ

1 ぬいたい模様の種類を選びます。

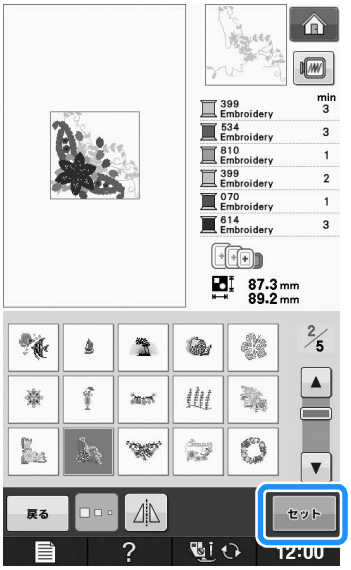
* ボビンワーク模様については、「付録」の「ボビンワークでぬってみましょう」を参照してください。

2 ぬいたい模様のキーを押します。

* 模様選択の詳細については、E-4 から E-7 を参照してください。

→ 模様は、画面の上部に表示されます。

3 セット を押します。



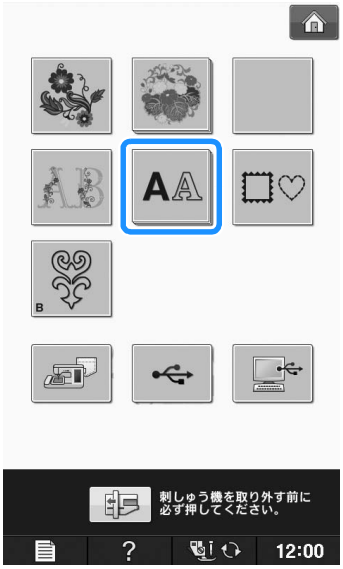
→ 選んだ模様は、編集刺しゅうの画面で赤い四角の枠で囲まれます。

4 E-59 の「編集のしかた」に進んで、模様を編集します。

ひらがな／カタカナ／アルファベットを選ぶ

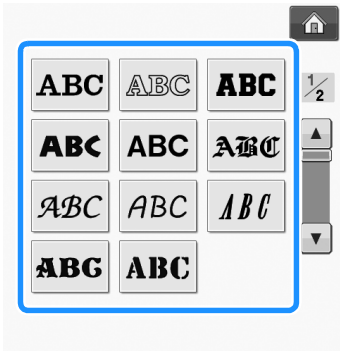
編集刺しゅう画面でひらがな／カタカナ／アルファベットを選ぶときには、同時に編集もできます。

1 AA を押します。



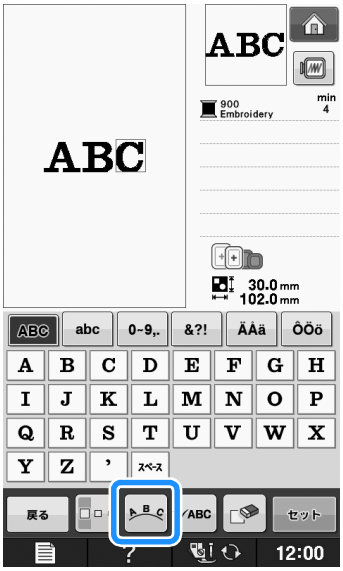
2 書体を選んで、文字を入力します。(例：A B C)

* 文字模様選択の詳細については、E-5 を参照してください。



3 を押して、お好みの文字の配列に変えます。

* 文字が小さすぎて見えない場合は、を押すと、入力した文字すべてを確認できます。



4 お好みの配列を選びます。（例：）

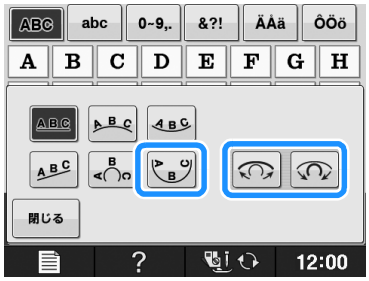
曲線を選ぶ場合は、と を使用すると、曲線の角度が変わります。

* ゆるやかな曲線にするときは を押します。

* 急な曲線にするときは を押します。

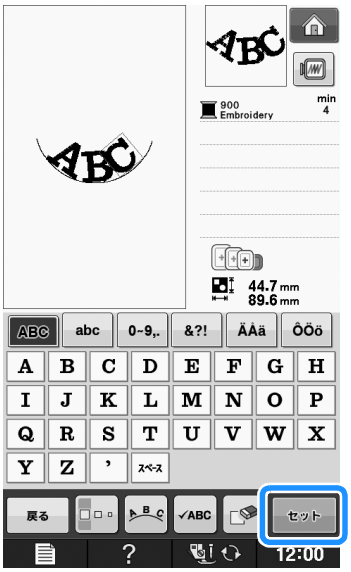
お知らせ

- を選んだときは および は、 および に変わり、傾斜を増加または減少させることができます。



5 閉じる を押して、元の画面に戻ります。

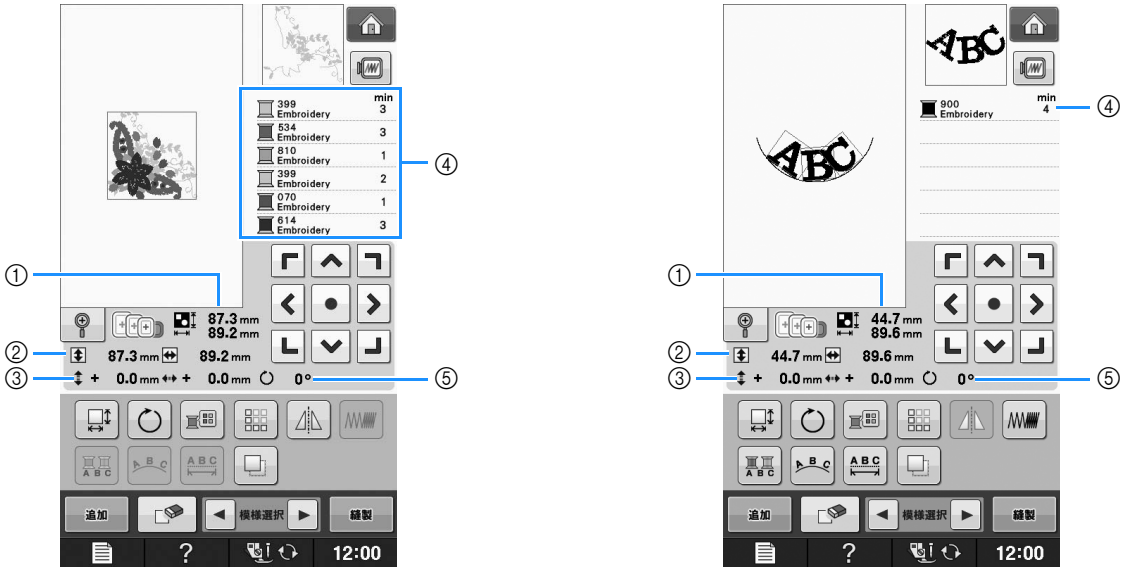
6 選択が終わったら、セット を押します。



→ 編集画面が表示されます。

7 E-59 の「編集のしかた」に進んで、模様を編集します。

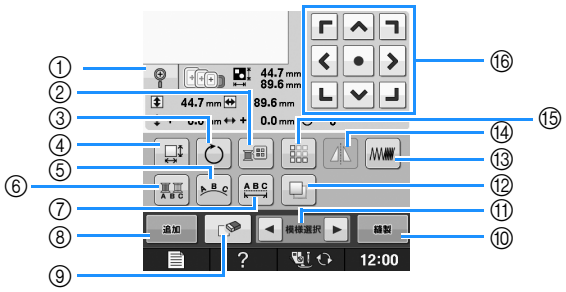
編集のしかた



① 全体の模様の大きさを示します。
② 編集している模様の大きさを示します。
③ ぬう位置を移動したときの、中心からの移動距離を示します。
④ 選択されている模様の色替えの順番と、各色の所要時間を示します。
⑤ 模様の回転角度を示します。

お知らせ
- キーが灰色で表示されている場合、選んだ模様にその機能を使うことはできません。

■ キーのはたらき



No.	画面表示	名称	はたらき	参照ページ
①		拡大キー	模様の画面表示を 200％拡大できます。	E-61
②		糸パレットキー	表示されている模様の色を変えることができます。	E-65
③		回転キー	模様を回転することができます。１回につき１度、10 度、または 90 度回転することができます。	E-37
④		大きさキー	模様の大きさを変えることができます。模様を拡大または縮小できます。	E-36
⑤		配列キー	文字の配列を変えることができます。	E-62
⑥		色替えキー	文字の色を 1 文字ずつ変えることができます。	E-64
⑦		文字間キー	文字の間隔を変えることができます。	E-62
⑧	追加	追加キー	編集中の模様に、別の模様を追加することができます。	E-77
⑨		削除キー	選択した模様（赤い四角の枠で囲まれている模様）を削除します。	E-61
⑩	縫製	刺しゅうキー	次のステップに進みます。	E-77
⑪	◀ 模様選択 ▶	模様選択キー	模様の組み合わせが選ばれているときは、これらのキーを使用して、編集する部分を選びます。（選ばれた模様は、赤い四角で囲まれます。）	E-62
⑫		複製キー	模様を複製することができます。	E-77
⑬		糸密度キー	枠模様や文字模様の密度を変えることができます。	E-39
⑭		左右反転キー	模様を左右に反転することができます。	E-38
⑮		繰り返しキー	繰り返し模様を作成・編集することができます。	E-71
⑯		矢印キー（● はセンターキー）	矢印の方向に模様のぬう位置を移動することができます。● を押すと、元の位置に戻ります。	E-35

ぬう位置を移動させる

縫製位置の移動について詳しくは、E-35 の「ぬう位置を移動させる」を参照してください。

模様を回転させる

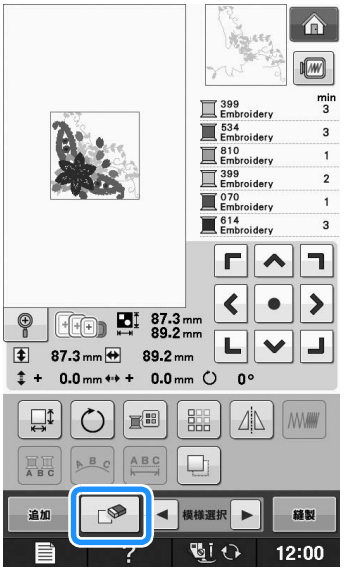
模様の回転について詳しくは、E-37 の「模様を回転させる」を参照してください。

模様の大きさを変える

模様の大きさ変更について詳しくは、E-36 の「大きさを変える」を参照してください。

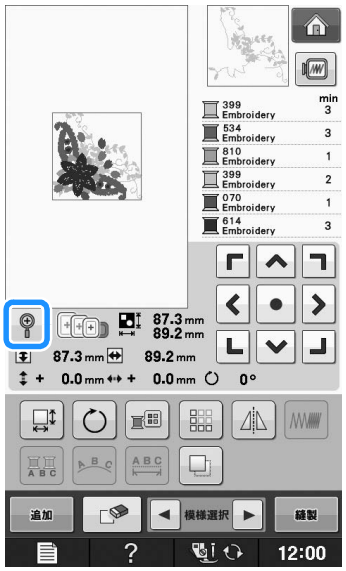
模様を削除する

を押して、画面から模様を削除します。



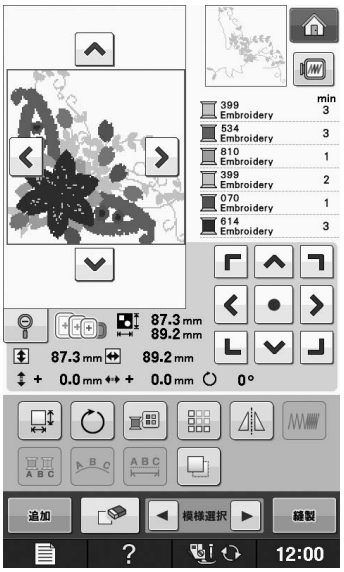
模様を 200%拡大表示する

1 を押します。



→ 模様が 200% 拡大表示されます。

2 画面で模様を確認します。

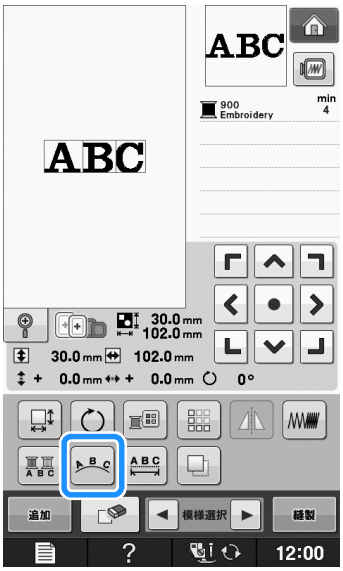


→ を押して、画面表示を上下左右にスクロールできます。

3 を押すと、画面表示が元の大きさ（100%）に戻ります。

文字の配列を変える

1 を押します。



2 お好みのレイアウトのキーを押します。

* レイアウトの詳細については、E-58 を参照してください。

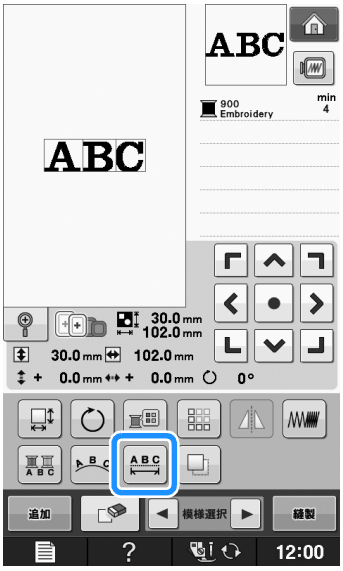


→ 選んだレイアウトが表示されます。

3 閉じる を押します。

文字の間隔を変える

1 を押します。

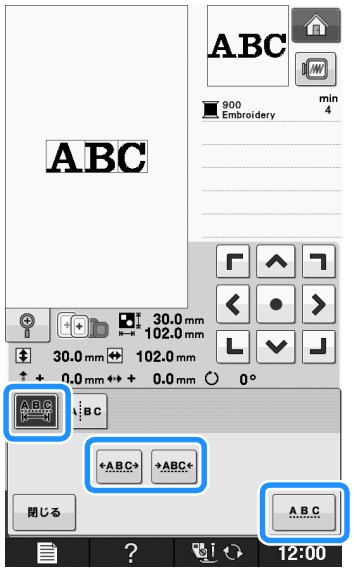


2 を使用して、間隔を変えます。

* を押すごとに、文字の間隔が広くなります。

* を押すごとに、文字の間隔がせまくなります。

* を押すと、元の表示に戻ります。



A B C ↔ ABC

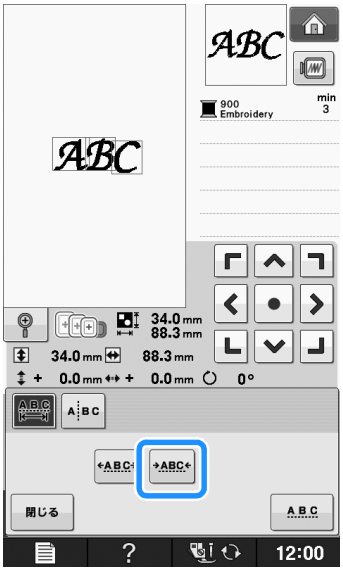
3 閉じる を押すと、元の画面に戻ります。

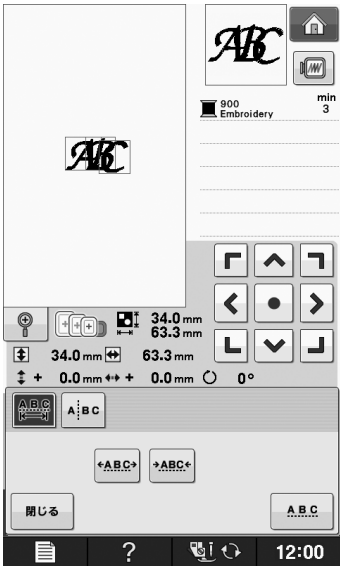
文字の間隔を詰める

グループで最も幅のせまい文字の 50% まで、文字の間隔を詰めることができます。

お知らせ

- 編集したデータを他のミシンに移すことはお勧めできません。一部の機能は他のミシンに搭載されていないため、問題が発生するおそれがあります。
- 文字が直線上に配列されている場合のみ、間隔を詰めることができます。

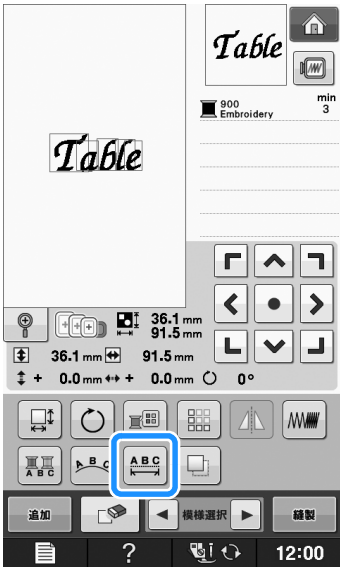




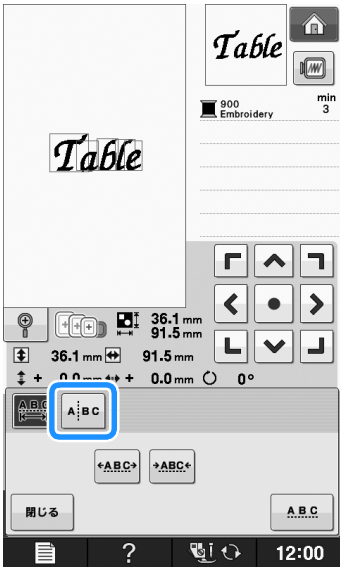
組み合わせた文字模様を切り離す

組み合わせた文字模様を切り離して、文字間を調整したり、別々に編集したりできます。

1 を押します。

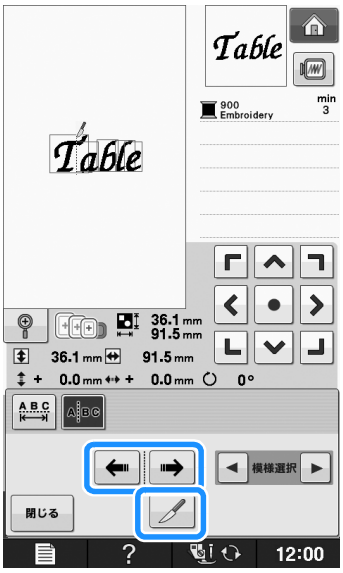


2 を押します。



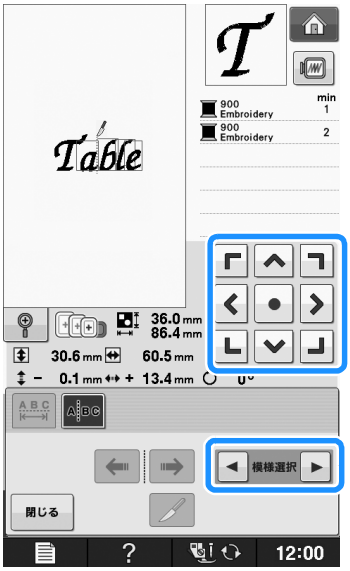
→ キーの表示が変わり、 となります。

3 を押して、切り離したい模様を選び、を押して切り離します。ここでは、「T」と「a」の間を切り離します。



お知らせ
- 一度切り離した模様は、再度組み合わせることはできません。

4 模様選択 を押して模様を選び、を押して文字間を調整してください。



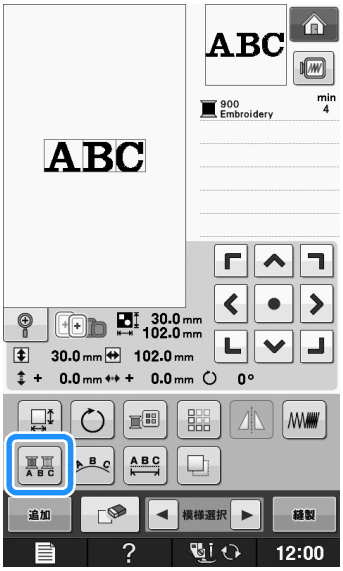
5 閉じる を押します。

1文字ずつ色を変えてぬう

ひらがな / カタカナまたはアルファベットを選んだとき、1文字ずつ違う色でぬうことができます。

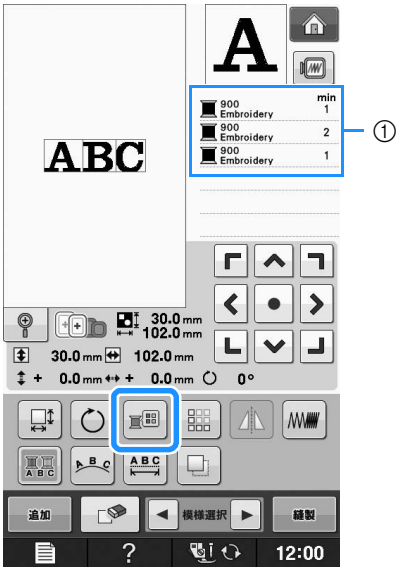
色替えを設定すると、1文字ぬうごとにミシンが止まるので、糸の色を変えることができます。

1 を押します。



2 1文字ぬい終わったら糸の色を替えて、次の文字をぬいます。

* を押すと、刺しゅう糸をお好みの色に変えることができます。(次ページの「刺しゅうの糸色を変える」参照)



① 各文字の色

文字をつなげて刺しゅうする

刺しゅう枠からはみ出して、文字模様をつなげて刺しゅうするには、E-40 の「文字をつなげて刺しゅうする」を参照してください。

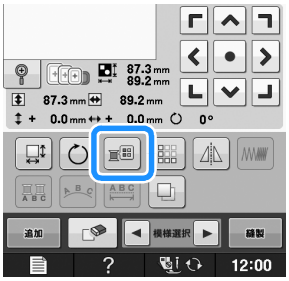
例： 「ABC」の後に「DEF」をつなげる場合

A B C D E F

刺しゅうの糸色を変える

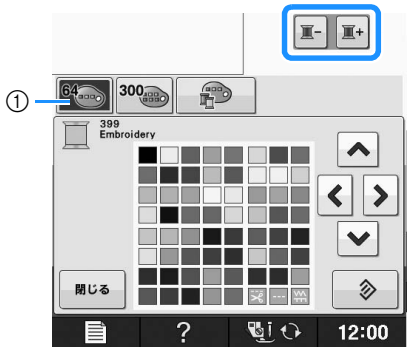
変更する色を色替えの順番の最初に移動し、ミシンの糸色から新しい色を選ぶことで、糸色を変更できます。

1 模様編集画面で を押します。



→ 糸色パレット画面が表示されます。

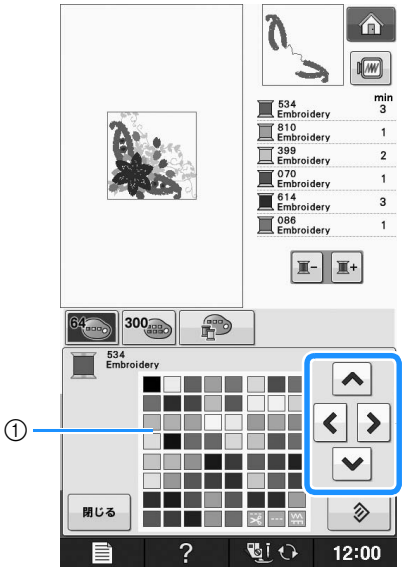
2 または を押して、変えたい色を色替え順の一番上に置きます。



① 64 色の刺しゅう糸色リスト

3 を押して、カラーパレットで新しい色を選びます。

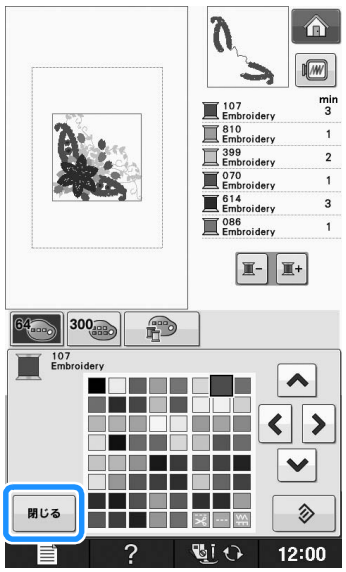
* 元の色に戻るには、 を押します。複数の色を選んだ場合は、選んだすべての色が元に戻ります。
* タッチペンで画面に直接触れて、カラーパレットから色を選ぶことができます。



① カラーパレット

→ 選んだ色が色替え順の一番上に表示されます。

4 閉じる を押します。



→ 変更された色が表示されます。

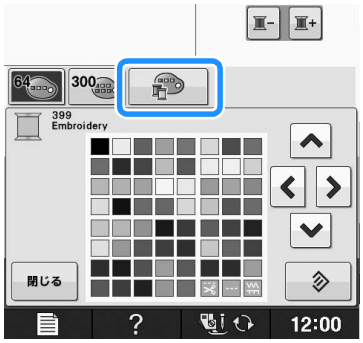
お知らせ

- 色パレットから色を選ぶ場合は、E-69 の「色パレットから色を選ぶ」を参照してください。

色パレットを作成する

最もよく使う糸色を含めた色パレットを作成できます。9 種類の刺しゅう糸製品の中から糸色のリストで糸色を選ぶことができます。お好みの色を選んで、色パレットに移動できます。

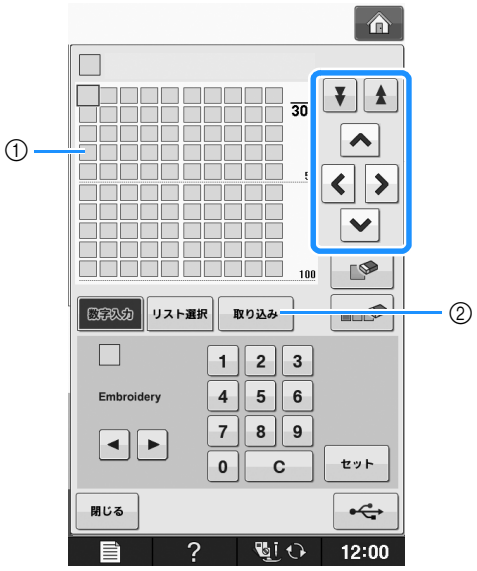
1 模様編集画面で、[ ]を押してから[ ]を押してください。



2 [ ][ ][ ][ ]を使って、色パレットで色を追加する場所を選びます。

* タッチペンでパレットに直接触れることもできます。

* [ ]と[ ]を使用して、色パレットを一度に 100 色分、スクロールできます。

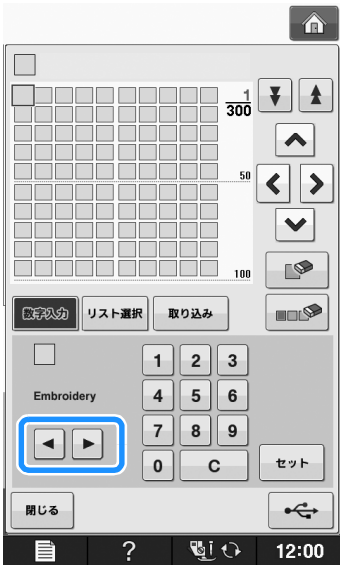


① ユーザーパレット

② [取り込み]を押してユーザーパレットデータを読み込みます（E-69 参照）

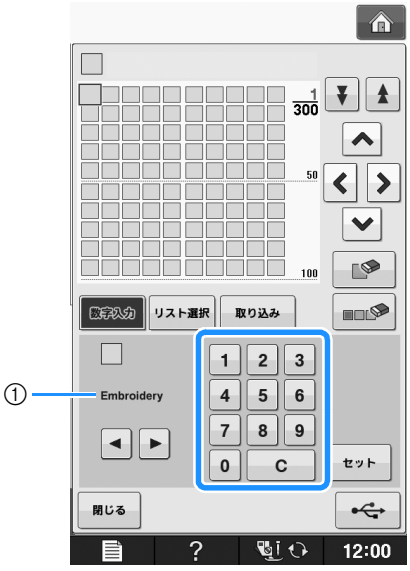
3 [◀][▶]を使用して、刺しゅう糸の製品名を選択します。

* 本製品は 9 種類の刺しゅう糸製品に対応しています。



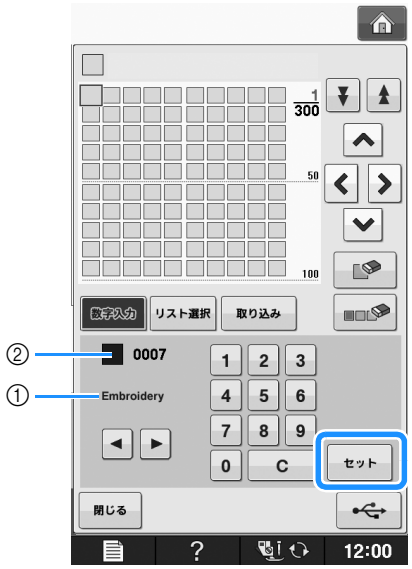
4 [1][2][3][4][5][6][7][8][9][0]を使用して、色の番号（4 桁）を入力します。

* まちがって入力した場合は、[C]を押して、入力した番号を消去してから、正しい番号を入力します。



① 刺しゅう糸の種類

5 セット を押します。



① 刺しゅう糸の種類
② 入力した番号
→ 選んだ糸色が色パレットにセットされます。

お知らせ
- セット を押していない場合は、糸色の番号は変わりません。

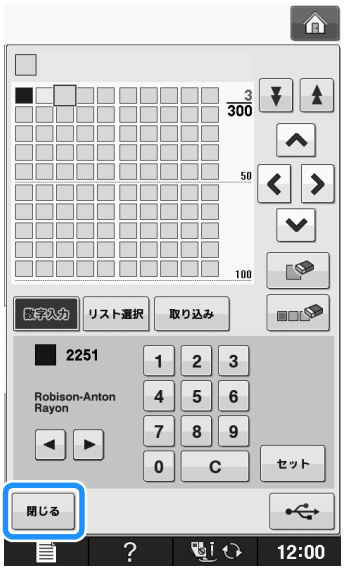
6 上記の手順を繰り返して、お好みの色をすべて指定します。

* 指定した色をパレットから削除するには、 を押します。

* パレットに指定した全ての色を削除するには、 を押します。

お願い
- 作成したユーザーパレットデータを保存することができます。詳しい手順については、E-68 の「USB メディアにユーザーパレットデータを保存する」を参照してください。

7 閉じる を押すと、元の画面に戻ります。



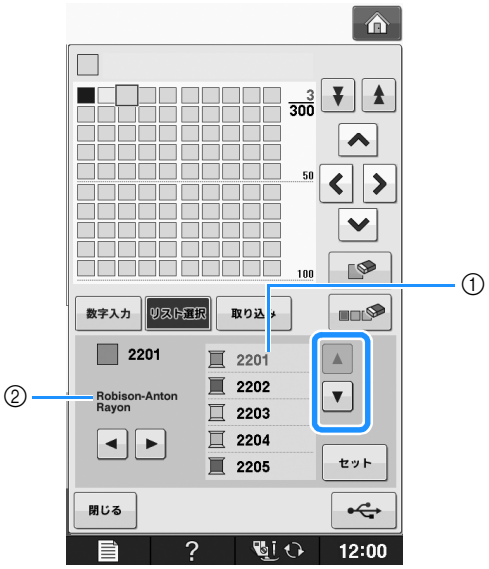
■ リストから色パレットに色を追加する

1 E-66 の「色パレットを作成する」の手順 ❶ から ❸ を繰り返します。

2 リスト選択 を押します。

→ 糸のリストが表示されます。

3 ▲ ▼ を使って糸色を選びます。



① 糸のリスト
② 刺しゅう糸の種類

4 セット を押します。

5 上記の手順を繰り返して、お好みの色をすべて指定します。

* 指定した色をパレットから削除するには、

を押します。

* パレットに指定した全ての色を削除するには、

を押します。

6 閉じる を押すと、元の画面に戻ります。

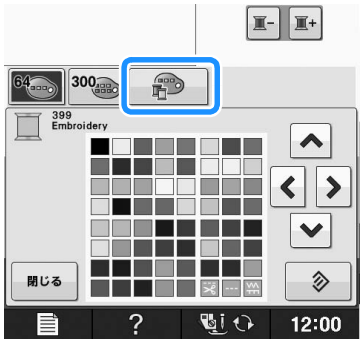
■ USB メディアにユーザーパレットデータを保存する

ユーザーパレットデータを USB メディアに保存することができます。

お知らせ

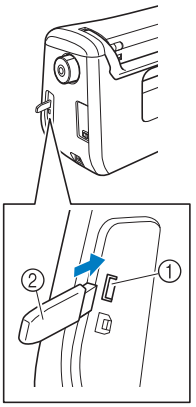
- ユーザーパレットデータは、USB メディアにのみ保存することができます。本機のメモリーやパソコンに保存することはできません。
- ユーザーパレットデータは、.pcp データファイルとして保存されます。

1 を押したあと、を押します。



2 E-66 の「色パレットを作成する」の手順に従って、お好みの糸色をユーザーパレットに指定します。

3 USBメディアをミシンのUSBポートコネクタに差し込みます。



① メディア／マウス用の USB ポートコネクタ
② USB メディア

4 を押します。



→「記憶中」のメッセージ画面が表示されます。
データ保存が完了すると、元の画面に戻ります。

お願い

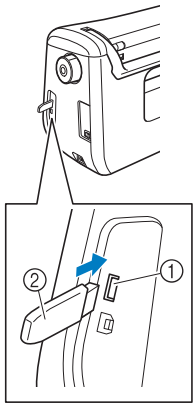
- 「記憶中」のメッセージ画面が表示されている間は、USB メディアを抜き差ししないでください。記憶中の模様が欠損あるいは、消去されることがあります。

■ユーザーパレットデータを USB メディアから呼び出す

ユーザーパレットデータを USB メディアから呼び出すことができます。

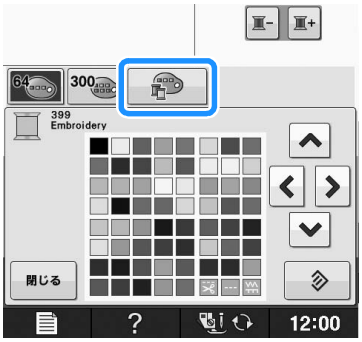
お願い
- USB メディア内に 2 つ以上の .pcp データを入れて操作しないでください。同時に呼び出せるユーザーパレットデータは、1 つです。

1 ユーザーパレットデータを格納したUSBメディアを本機の USB ポートコネクタに差し込みます。

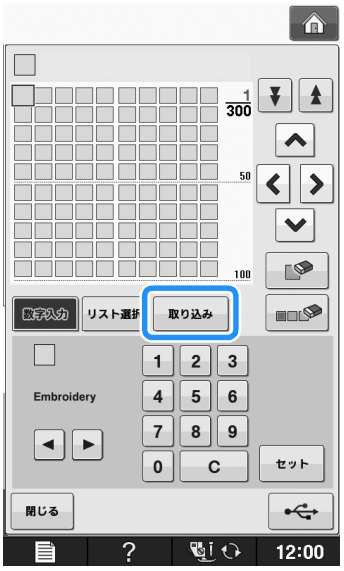


① メディア／マウス用の USB ポートコネクタ
② USB メディア

2 を押し、 を押してください。



3 取り込み を押します。



→「記憶中」のメッセージ画面が表示されます。
データ保存が完了すると、元の画面に戻ります。

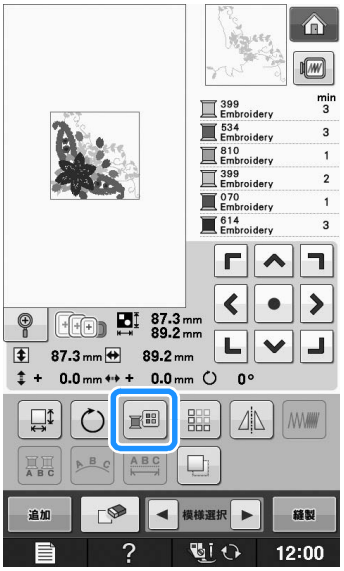
お願い
- 「記憶中」のメッセージ画面が表示されている間は、USB メディアを抜き差ししないでください。記憶中の模様が欠損あるいは、消去されることがあります。

4 呼び出したユーザーパレットが画面に表示されます。

色パレットから色を選ぶ

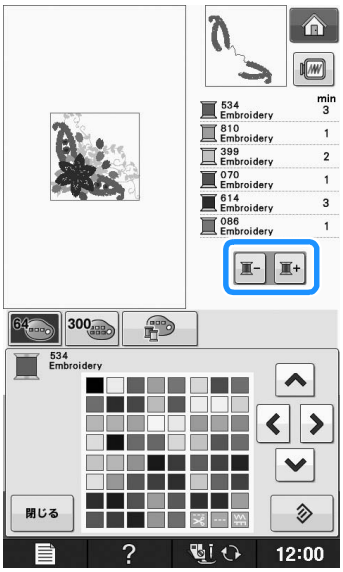
色パレットにセットした、最大 300 色の糸色から選ぶことができます。

1 を押します。

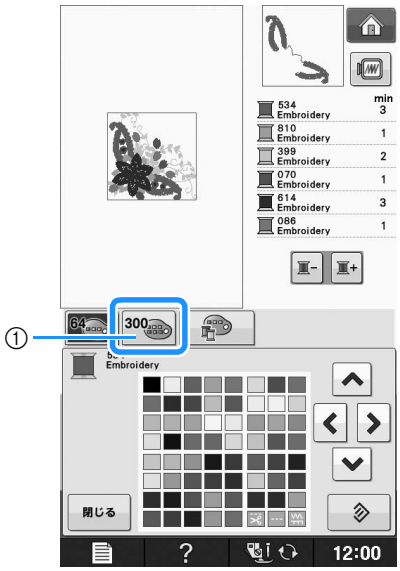


→ 色パレット画面が表示されます。

2 または を押して、変えたい色を色替順の一番上に置きます。



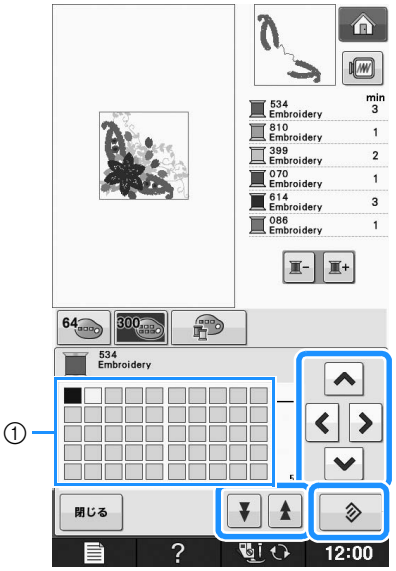
3 を押します。



① カラーパレット／カスタム糸の変更キー
→ カラーパレットが表示されます。

4 を押して、色パレットから新しい色を選びます。

* と を使って、色パレットをスクロールします。
* を押すと、元の色に戻ります。
* タッチペンで画面に直接触れて、色パレットから色を選ぶことができます。



① 色パレット
→ 変更する糸色の候補が表示されます。

5 を押します。

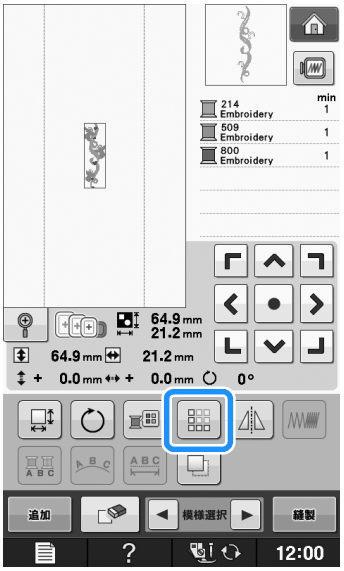
連続模様をつくる

■ 連続模様をぬう

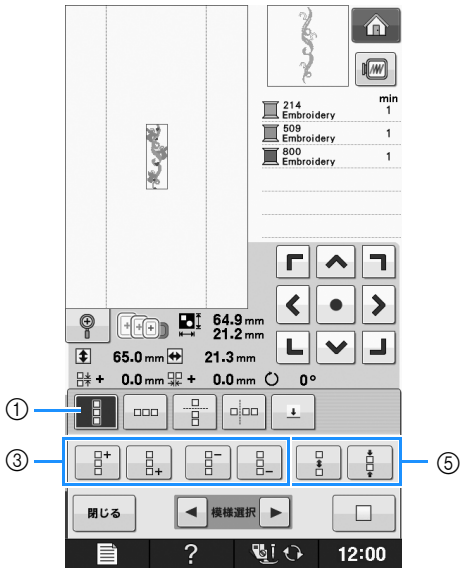
ボーダー機能を使用して、模様を連続させることができます。連続した模様の中で、模様の間隔を調節することもできます。

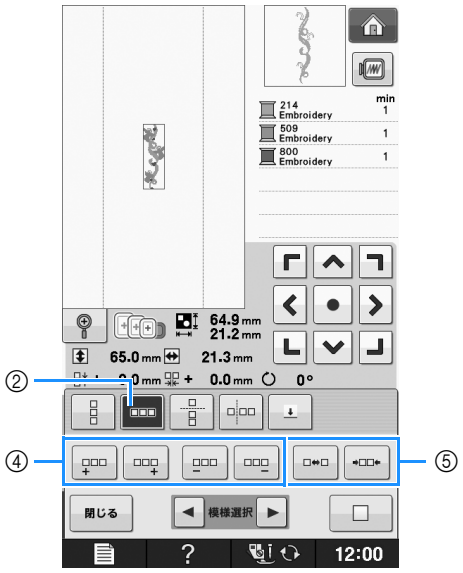
1 模様を選んで、セットを押します。

2 を押します。



3 模様を連続させる方向を選びます。





① 縦方向
② 横方向
③ 連続キーと削除キー（縦方向）
④ 連続キーと削除キー（横方向）
⑤ 間隔キー
→ 選んだ方向によって、模様の方向を示す表示が変わります。

4 一番上に模様を繰り返すには を、一番下に模様を繰り返すには を使用します。

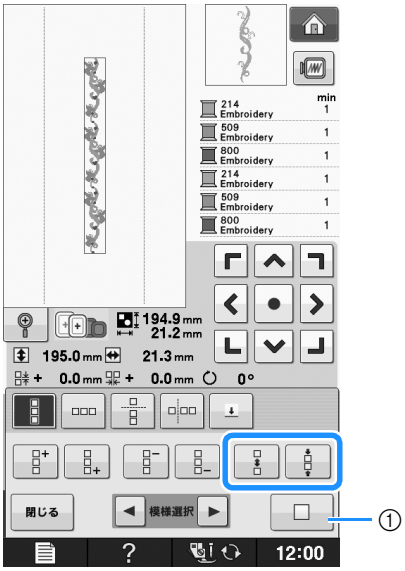
* 一番上の模様を削除するには、 を押します。

* 一番下の模様を削除するには、 を押します。



5 連続模様の間隔を調節します。

* 間隔を広げるには、[ ] を押します。
* 間隔をせまくするには、[ ] を押します。



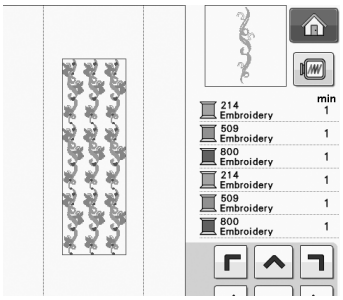
① [□] を押すと、連続模様がひとつの単位に変わります。

お知らせ
- 間隔を調節できるのは、赤い枠で囲まれている模様のみです。

6 ❸ から ❺ の手順を繰り返して、連続模様を作成します。

7 [閉じる] を押して、終了します。

お知らせ
- 複数の模様すべてが、赤い枠で囲われ 1 つの模様になります。



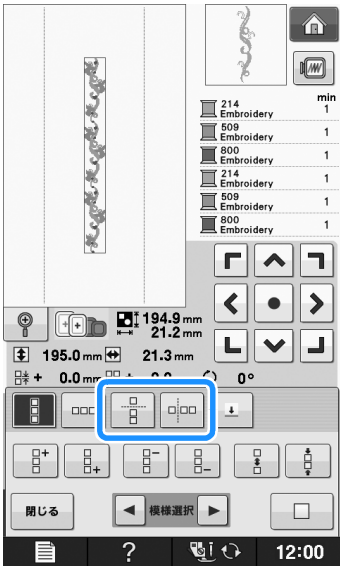
- 模様の連続する方向を変えると、赤い枠の模様すべてが、1 つの連続する模様として自動的にまとめられます。連続模様をひとつの単位に変えるには、[□] を押します。連続した中のひとつを繰り返す方法については、引き続き以下のステップを参照してください。

■ 連続模様の中のひとつを繰り返す

カット機能を使用して、連続模様のひとつを選んで、その単位だけを繰り返すことができます。この機能を使用して、複雑な連続模様をデザインできます。

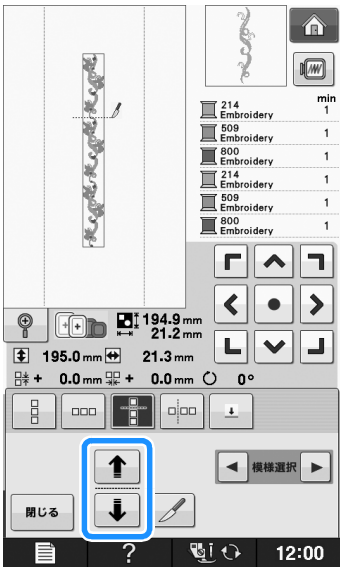
1 連続模様を切る方向を選びます。

* [ ] を押すと、縦方向に切ります。
* [ ] を押すと、横方向に切ります。



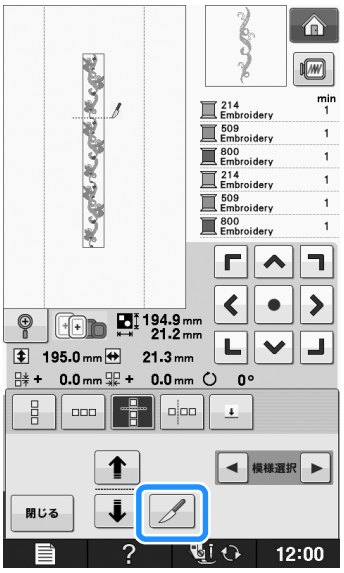
→ 選んだ方向によって、模様の方向を示す表示が変わります。

2 [↑] と [↓] を使って、切り取り線を選びます。



→ 切り取り線が移動します。

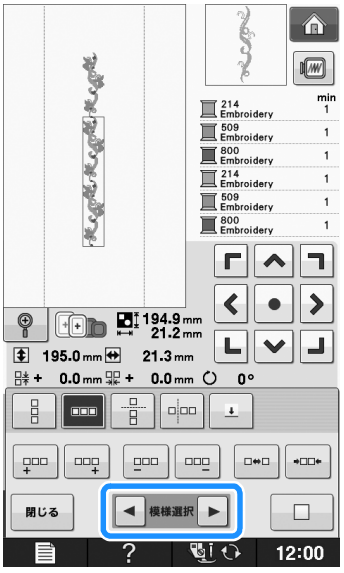
3 を押します。



→ 連続模様が別々の単位に切り分けられます。

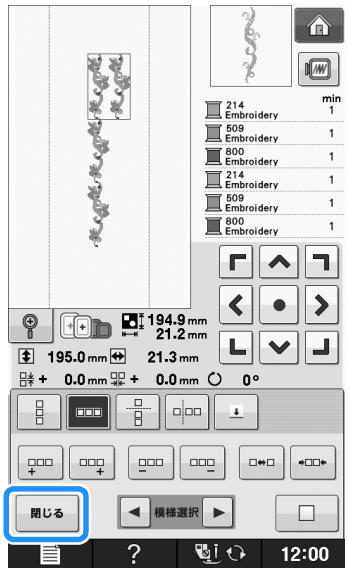
4 を押します。

5 と を使って、繰り返す単位を選びます。



6 選んだ単位を繰り返します。(E-71 3 ～ 5 参照。)

7 閉じる を押して、終了します。



お知らせ

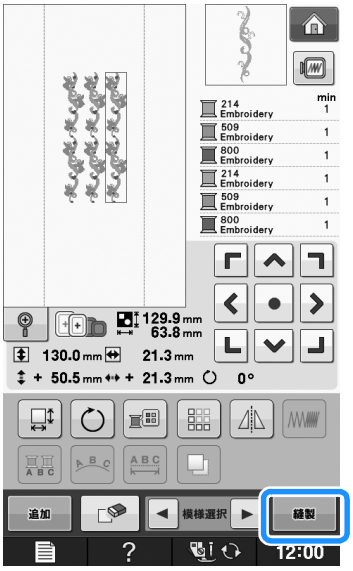
- 連続模様をそれぞれの単位に切り分けると、元の状態に戻すことはできません。
- それぞれの単位は編集画面で別々に編集することができます。E-80 の「組み合わせ模様を選択する」参照。

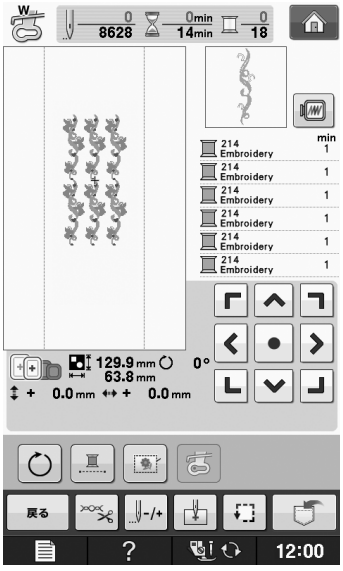
■ 連続模様を糸色ごとに並べ替える

縫製 を押すと、組み合わせた連続模様の縫製順が自動的に糸色ごとに並べ替えられます。縫製順が模様ごとのままでは、実際の縫製のときに、上糸を何度も交換するか、手動で縫製順を入れ替えなければいけません。

お知らせ

- 繰り返し模様とそれ以外の模様を組み合わせて模様を作っているとき、繰り返し模様の縫製順だけが糸色順に並べ替えられます。
- 繰り返し模様を使った模様を 2 つ以上並べて作ると、縫製順は模様ごとに同じ糸色をまとめて刺しゅうするように並び替わります。





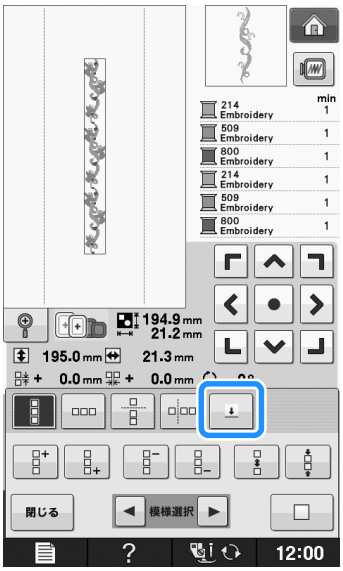
■ 糸印をつける

連続模様をさらに続けてぬう場合、糸印をつけると簡単に次の連続模様を配列することができます。模様がぬい終わると、そのまま最後の糸で、矢印の形をした糸印がぬわれます。続けて連続模様をぬう場合は、この矢印の先が次の模様のぬいはじめの位置になります。

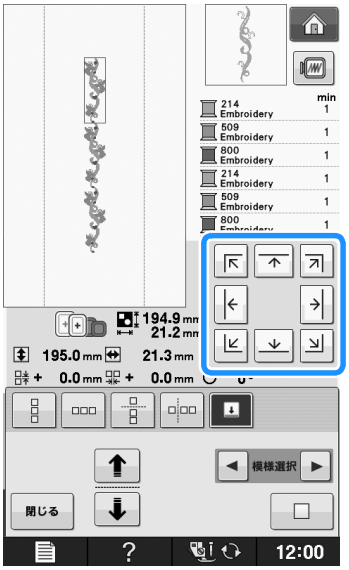
お知らせ

- それぞれの模様を繰り返してぬう場合、糸印は模様の周囲にぬいつけることができます。

1. を押します。
2. を押します。



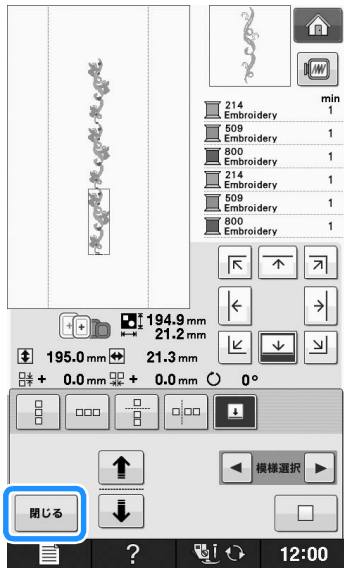
3. を押して、糸印をつける箇所を選びます。



お知らせ

- カット機能を使った場合には、連続した模様が複数になります。その場合、◄と►または▲と▼を使用して、糸印を割り当てる模様を選びます。

4 閉じる を押します。

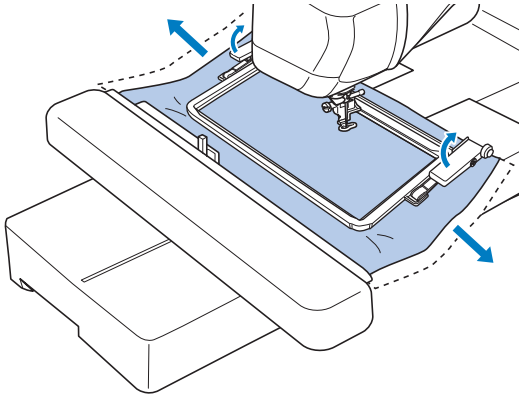


模様を繰り返し刺しゅうする

繰り返し模様を刺しゅうする場合は、刺しゅう枠を張りなおして、次の模様をぬい続けてください。

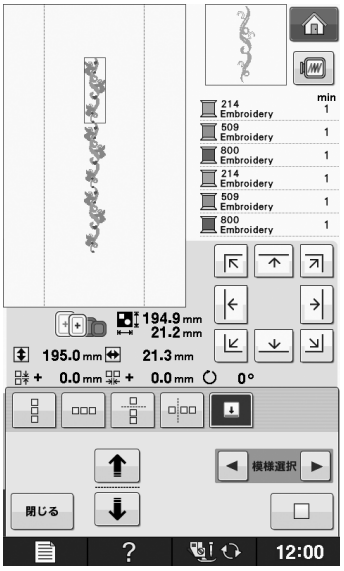
お知らせ

- 別売のボーダー枠を使用すると、刺しゅう枠をミシンから取り外さずに布地を張りなおしできるので、繰り返し模様の刺しゅうにとても便利です。



1 繰り返し模様を作成し、最後の模様の中心に糸印をつけてください。

* E-74 の「糸印をつける」を参照してください。



2 閉じる を押し、縫製 を押してください。

3 (スタート／ストップスイッチ) を押して、刺しゅうを開始してください。

→ 刺しゅうが終わると、最後の糸色を使って、糸印がぬわれます。

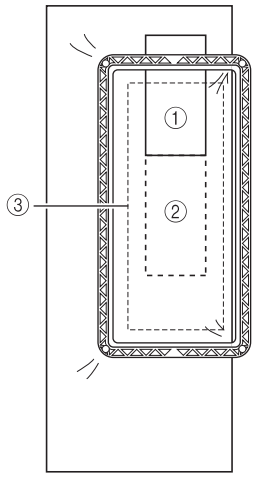


4 刺しゅう枠を取り外してください。

5 刺しゅう枠に布地を張りなおしてください。

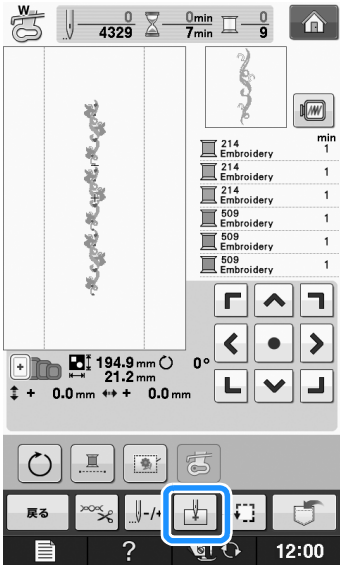
お願い

- 次の模様の刺しゅう範囲が、刺しゅうシートの縫製範囲内に収まるように気をつけてください。

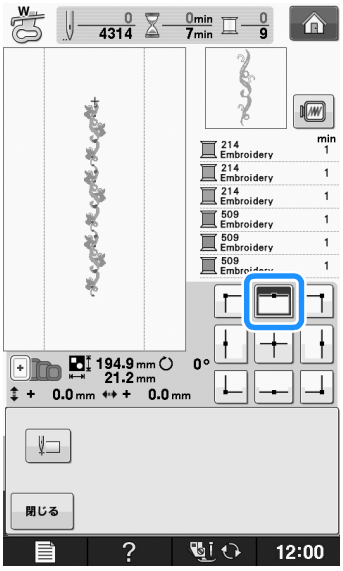


① 最初に刺しゅうした模様
② 次に刺しゅうする模様の位置
③ 刺しゅうシートの縫製範囲

6 本機に刺しゅう枠を取り付けて、を押します。

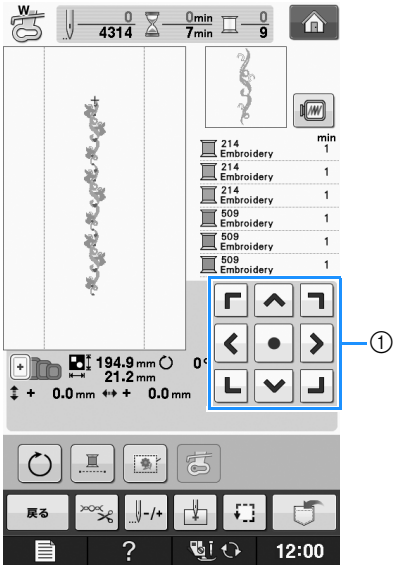


7 を押して、ぬい始めを模様の上側中心に設定します。



8 閉じる を押します。

9 矢印キーを押して刺しゅう枠を動かしながら、布にぬわれた糸印と次の模様のぬい始め位置を合わせます。



① 矢印キー

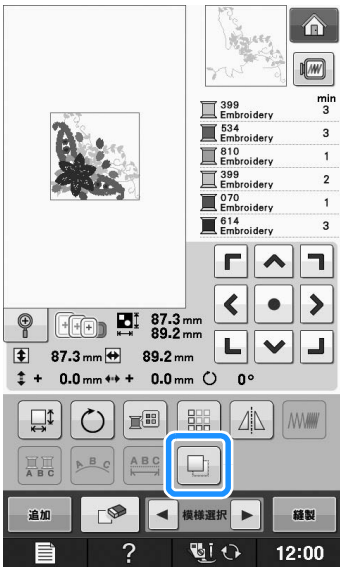
* 刺しゅう位置を確認するときは、を押してください。

10 糸印をほどきます。

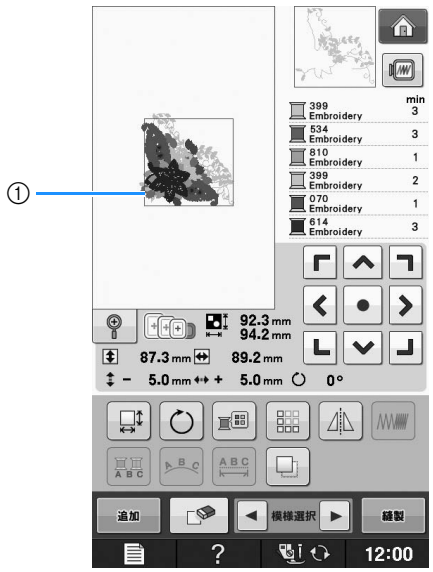
11 （スタート／ストップスイッチ）を押して、刺しゅうを始めます。

模様を複製する

1 を押します。



→ 元の模様の上に重ねて、模様が複製されます。



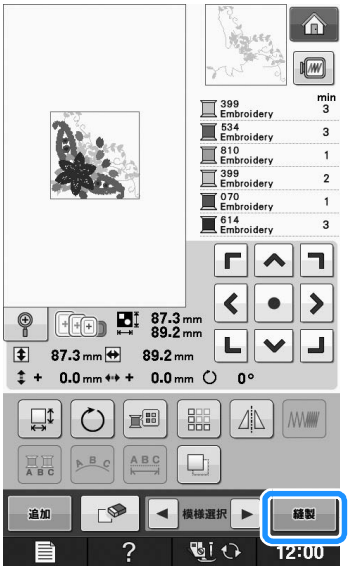
① 複製された模様

お願い

- 画面上に複数の模様がある場合は、◄ と ► で選択された模様だけが複製されます。
- 複製された模様の移動や編集は、それぞれ別々に行ってください。

編集が終わったら

1 縫製 を押します。



* 他の模様と組み合わせるには、追加 を押します。(E-78 参照)

* 模様のぬい方についての詳細は、E-21 を参照してください。

お知らせ

- 縫製 を押した後で編集画面に戻りたい場合は、戻る を押してください。

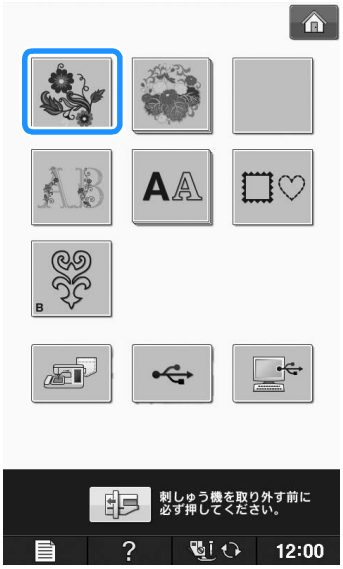
模様の組み合わせ

組み合わせ模様を編集する

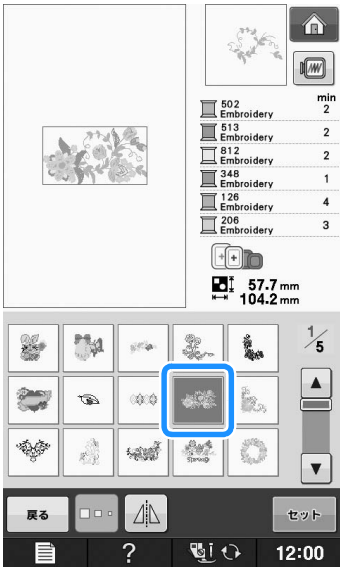
例： アルファベットと刺しゅう模様を組み合わせて編集する



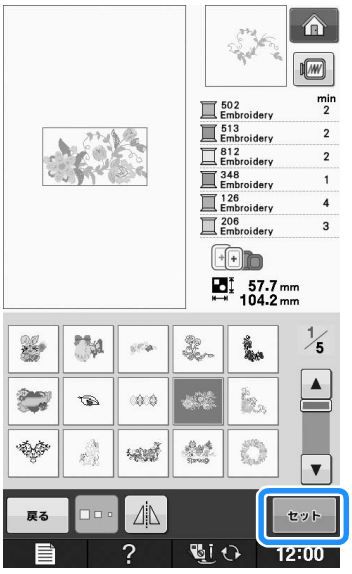
1  を押して刺しゅう模様を選びます。



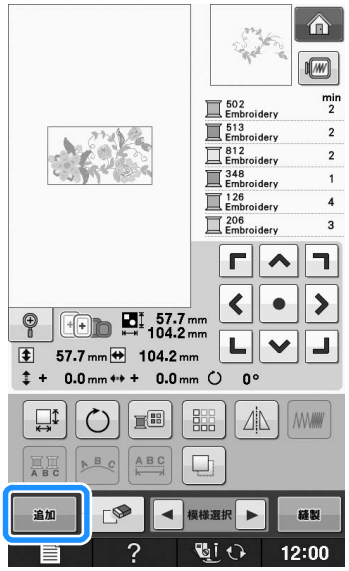
2  を押します。



3 セット を押します。

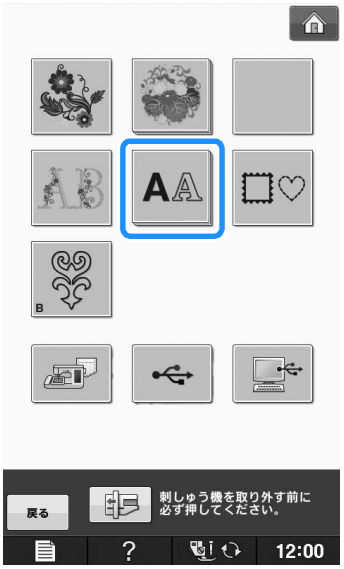


4 追加 を押します。



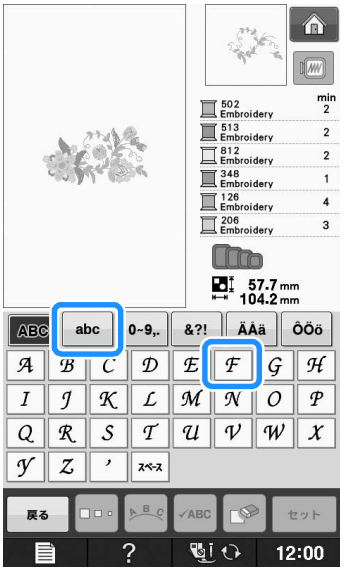
5 AA を押してアルファベットを入力します。

* 戻る を押すと元の画面に戻ります。



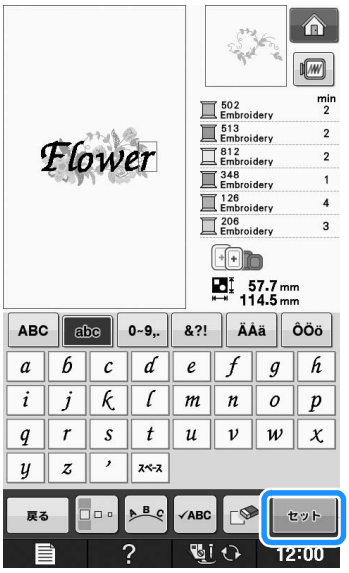
6 ABC を押して、「Flower」と入力します。

* F を選んだ後、abc を押して小文字を選択し、残りの文字を入力してください。



→ 入力した文字が、画面の中央に表示されます。

7 セット を押します。



8 を押して、文字を移動します。

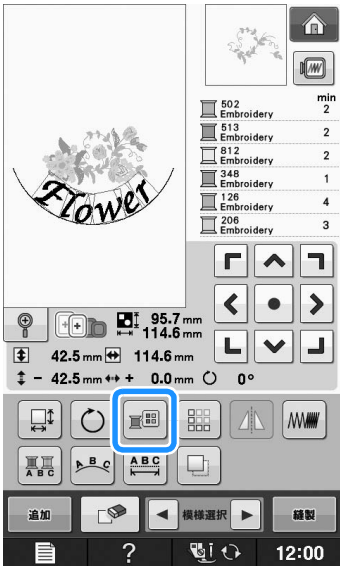
9 を押して、文字の配列を変えます。

閉じる を押してください。

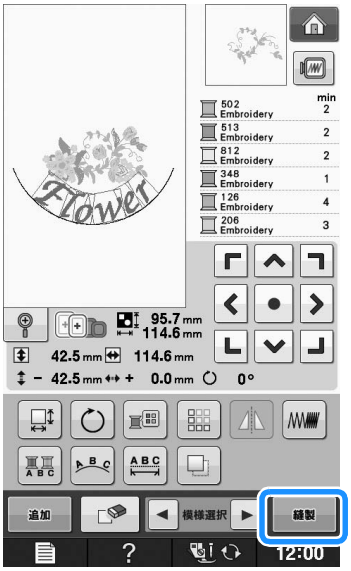
* 文字の配列変更について詳しくは E-62 を参照してください。

10 を押して、文字の色を変えます。

* 色の変更について詳しくは、E-65 を参照してください。

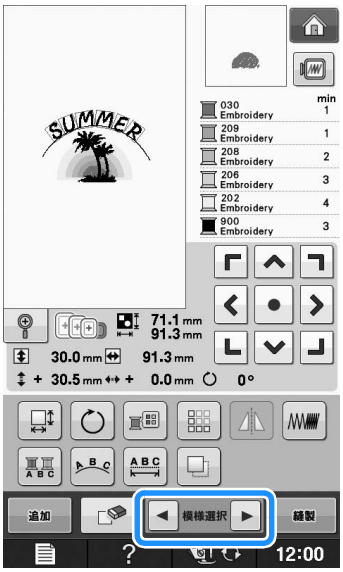


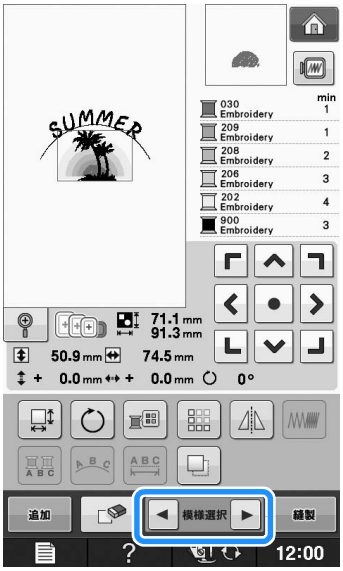
11 すべての編集が終わったら、縫製を押します。



■ 組み合わせ模様を選択する

複数の模様を組み合わせている場合、編集する模様を選ぶときは、◀ 模様選択 ▶ を押してください。





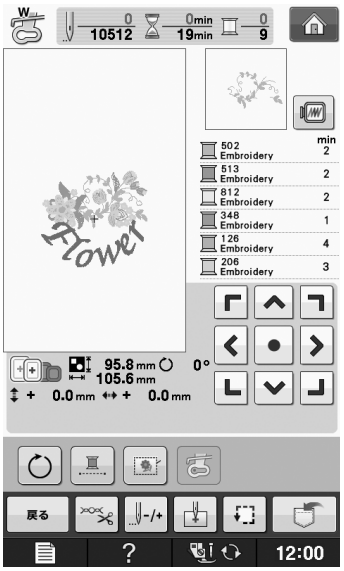
組み合わせ模様を刺しゅうする

組み合わせ模様は、模様を選んだ順番に刺しゅうされます。この例では、以下のような順番で刺しゅうされます。



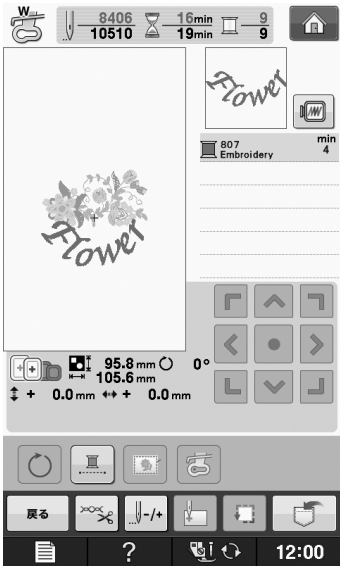
お願い
- E-22 の「刺しゅうする」の操作手順に従ってください。

1 画面右の順番に従って  を刺しゅうします。



→ 模様の刺しゅうが終わると、[+] カーソルが組み合わせ模様の「Flower」の部分に移動します。

2  を刺しゅうします。



→「Flower」をぬい終わると、縫製画面に戻ります。

さまざまな刺しゅうの機能

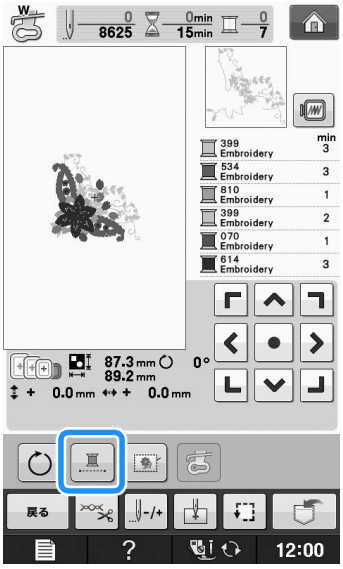
連続した刺しゅう（1 色の場合）

■ 連続した刺しゅうをする

を押して、連続した刺しゅう機能を設定すると、選んだ模様が一色でぬわれます。模様を最後までぬい終わるまで、糸替えのための停止をせずに連続してぬい続けます。

■ 連続した刺しゅう設定を解除する

設定を解除するには、を押します。



刺しゅうのしつけぬい

刺しゅうする前に、模様のまわりにしつけぬいをすることができます。アイロンがかけられない布地や接着芯を接着できない布地を使用するとき、布と接着芯を重ねてしつけぬいをすると、接着芯を布に固定することができて便利です。

接着芯を布に固定すると、ぬい縮みや模様くずれを防ぐことができます。

お願い

- 模様の編集を終えるまでは、しつけぬいを設定しないでください。しつけぬいを設定してから模様を編集すると、しつけぬいと模様の位置がずれて、刺しゅうのあとにしつけぬいをほどけなくなる場合があります。

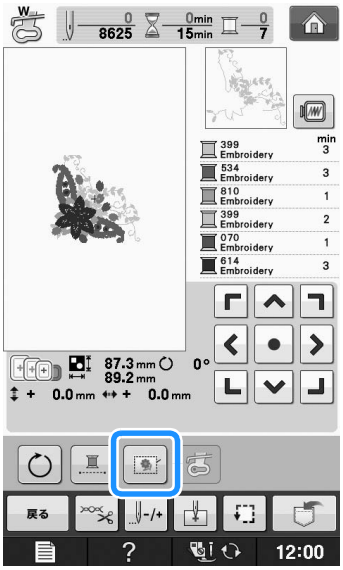
1. を押します。
2. 設定画面の「刺しゅうしつけ設定」で、 を使用して、模様からしつけぬいまでの間隔を変更します。



お知らせ

- 設定値が大きくなると、模様からしつけぬいまでの間隔は大きくなります。
- 設定は、ミシンの電源を切っても保存されます。

3. を押して、元の画面に戻ります。
4. を押します。
5. を押して、しつけぬいを選択します。



お願い

- を押すと、模様は中心に移動します。刺しゅうしつけ設定を選択したあと、模様をお好みの位置に移動してください。

お知らせ

- もう一度 を押すと、しつけぬい設定は解除されます。

→ 模様をぬう前に、しつけぬいが追加されます。

6 (スタート／ストップスイッチ) を押して、刺しゅうを始めます。

7 模様が完成したら、しつけぬいをほどいてください。



編集刺しゅう模様の記憶

第 1 章の刺しゅう模様と同じ方法で、編集した刺しゅう模様をミシンのメモリー、パソコン、または USB メディアへ、記憶したり、後で呼び出したりできます。編集した刺しゅう模様も、第一章の模様の保存と呼び出しと同じ手順で操作できます。
詳細については、E-43 を参照してください。

付録

ここでは、困ったときのヒントや、本機を長くお使いいただくためのお手入れ方法を紹介しています。また、ボビンワークのぬいかたについても紹介します。
ページ数は、「A」の記号で始まります。

第 1 章 ボビンワークでぬってみましょう A-2
第 2 章 お手入れ／困ったときには A-18

A 付録

第 1 章
ボビンワークでぬってみましょう

ボビンワークとは 3

ボビンワークの準備 3

準備するもの 3
- 内かまと針板ふた（別売） 3
- 下糸 4
- 上糸 4
- 針 4
- 押え 4
- 布地 4

上糸を通す 4

下糸の準備 5
- 下糸にテンションをかける場合 6
- 下糸テンションフリーにする場合 7

ボビンワークでぬう（実用ぬい） 9

布地を準備してぬう 9
- 糸の始末をする 11

ボビンワークをフリーモーションでぬう 11

ボビンワークでぬう（刺しゅう） 12

模様を選ぶ 12

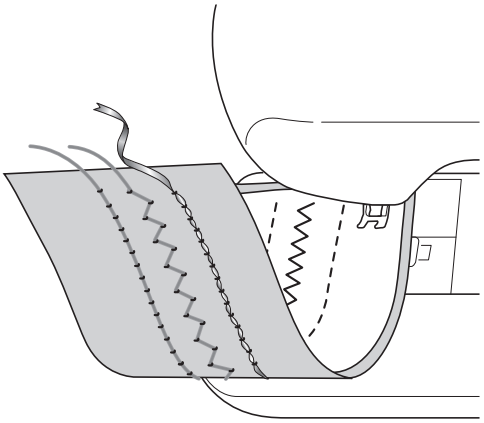
刺しゅうをぬう 13

糸調子を調整する 16
- 上糸の糸調子を調節する 16
- 下糸の糸調子を調節する 16

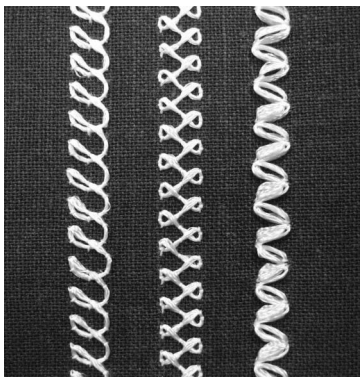
困ったときは 17
- 誤ってミシンの自動糸切り機能で糸を切り、下糸がミシンにひっかかった 17
- ボビンワークの糸調子をなおす 17
- 内かまの板ばねに下糸がひっかかる 17

ボビンワークとは

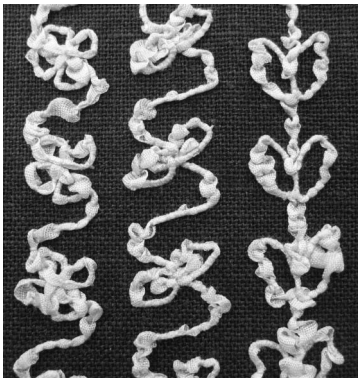
針穴に通すことができない太い糸やリボンをボビンに巻いて、布の裏側を上にしてぬうことにより、布の表側に立体感のあるぬい目を作ります。



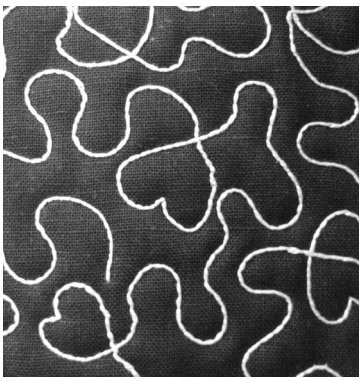
1. **実用ぬい**



2. **飾りぬい**



3. **フリーモーション**

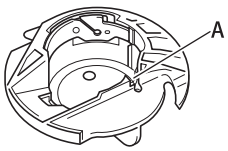


本機に内蔵されているボビンワーク模様を使って、ボビンワーク刺しゅうができます。

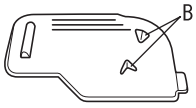
ボビンワークの準備

準備するもの

■ 内かま（別売）と針板ふた



① 内かま（灰色）
A で示した場所に、ミゾがあります。



① 針板ふた
裏側に、B で示した V 型の突起（タブ）が 2 つあります。縫製中、浮き上がりやすいため、針板ふたの突起がボビンを押さえつけて、浮き上がりを防ぎます。

■ 下糸

ボビンワークには、以下のような糸の使用を推奨します。



刺しゅう用手ぬい糸 5 番
または、それより細い糸および飾り糸



やわらかく、織りのあるリボン
(刺しゅうの場合：約 2mm 推奨)

実用ぬい／文字・模様ぬい



薄い刺しゅう用リボン（シルク、シルクのような素材）（3.5mm 以下推奨）

※ 幅広のリボンや太い糸を使用する場合は、下糸にテンションをかけるぬい方とテンションフリーのぬい方のどちらがきれいにぬえるか、試しぬいをしてからぬい方を選んでください。3.5mm くらいの幅広のリボンを使用する場合は、下糸テンションフリーを推奨します。詳しくは、A-7 を参照してください。

お願い
- 5 番より太い刺しゅう糸は使用しないでください。
- ボビンワークに適さない糸もあります。実際の布地と糸を使用して試しぬいをしてください。

■ 上糸

ミシン刺しゅう糸（ポリエステル系）、ナイロン透明糸
上糸をめだたせたくない場合は、下糸と同系色のミシン刺しゅう糸（ポリエステル系、50 番より大きな数字）かナイロン透明糸を推奨します。

■ 針

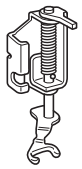
上糸・布に応じて、適した針を使用します。詳しくは、B-59 の「布地と糸の種類による針の使い分け」や B-60 の「刺しゅうの手順」を参照してください。

■ 押え

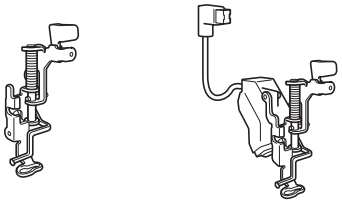
実用ぬい、飾りぬい：
模様ぬい押え <N>



フリーモーション：
オープントゥキルト押え <O>



刺しゅう押え＜ W ＞あるいは、別売の LED ポインター付き刺しゅう押え＜ W+ ＞



■ 布地

実際に使用する布地と糸で、試しぬいをしてください。

お願い
- 使用する布によって、模様がくずれることがあります。実際に使用する布地と糸で試しぬいをし、仕上がりを確認してから本ぬいをしてください。

上糸を通す

1 針を取り付けます。

上糸・布地の種類に適した針を使用してください。
針の取り付け方法は、B-56 の「針の交換」を参照してください。

2 押えを取り付けます。

3 上糸を通します。

上糸の通し方は、B-46 の「上糸通し」を参照してください。

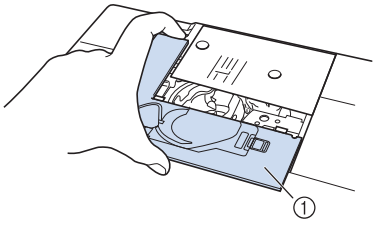
下糸の準備

ボビンワークをはじめる前に、ミシンの外かまを掃除して、ボビンワーク用の内かまに交換してください。

1 針と押えを上げて、電源を切ります。

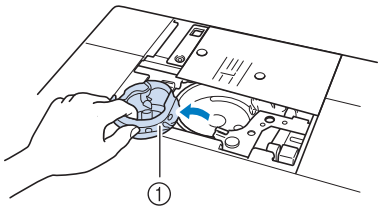
2 補助テーブルか、刺しゅう機を取り外します。

3 針板カバーの前後をつかんで、手前にずらしてから取り外します。



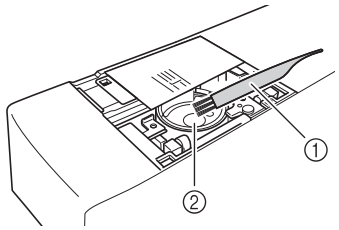
① 針板カバー

4 内かまを取り外します。



① 内かま

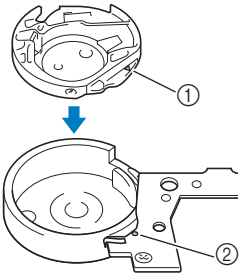
5 ミシンに付属のミシンブラシや掃除機で、外かまとその周辺の糸くずやほこりを取り除きます。

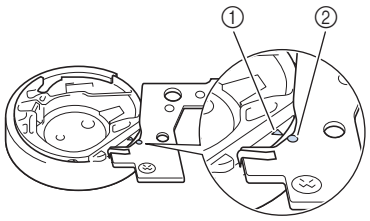


① ミシンブラシ
② 外かま

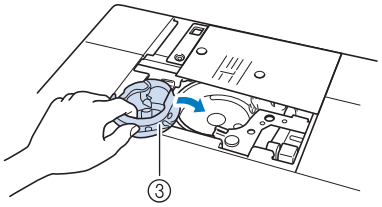
6 ボビンワーク用の内かま（灰色）を柔らかい布でふき、掃除をします。

7 ▲印と●印が合うように、内かまを取り付けます。





＊ ▲印と●印をあわせます。



① ▲印
② ●印
③ 内かま

＊ 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

お願い

- ボビンワーク用の内かま（灰色）は、ボビンワーク専用です。ボビンワークをぬった後は、A-5 の「下糸の準備」の手順に戻ってボビンワーク用の内かま（灰色）を取り外し、外かまを掃除してから、通常の内かま（黒色）を取り付けてください。

⚠ 注 意

- ボビンワークをするときは、必ずボビンワーク専用の内かま（灰色）を使用してください。他の内かまを使用すると、糸がからまり、ミシンが故障するおそれがあります。
- 内かまは正しく取り付けてください。内かまが正しく取り付けられていない状態でぬうと、糸がからまり、ミシンが故障するおそれがあります。

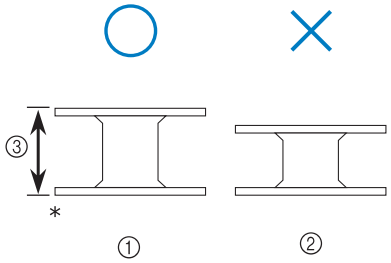
8 下糸を手でボビンに巻きます。下図の量（約 80%）まで巻いたら、糸端をはさみで切ります。



刺しゅうをする前にボビンを用意する際は、A-12 の「模様を選ぶ」の手順 2 を参照してください。

⚠ 注 意

- 付属品または別売の専用ボビンを使用してください。専用品以外のボビンを使用すると、けが、故障の原因となります。

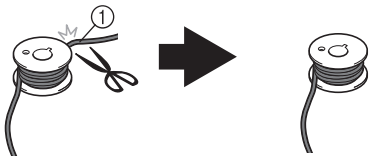


* 実寸大
① 専用品
② 専用品以外
③ 11.5mm

お願い

- ゆっくりと均等に糸を巻いてください。
- ねじれのないよう下糸を巻くと、仕上がりがきれいになります。

9 巻きはじめの糸がボビンの端から出ている場合は、巻き始めの糸端のできるだけボビンに近いところをはさみで切ります。



① 巻き始めの糸端

⚠ 注 意

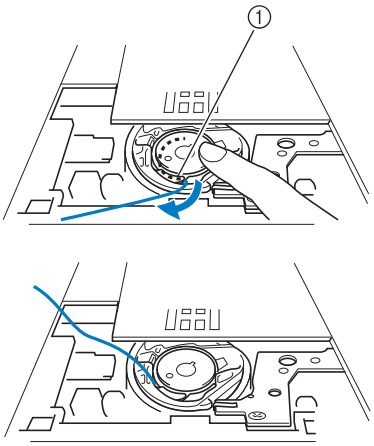
- 糸がボビンの端から出ていると、糸がからんで針が折れるおそれがあります。

10 下糸を巻いたボビンをセットします。

下糸の種類によって、下糸にテンションをかける場合とテンションフリーにする場合があります。

■ 下糸にテンションをかける場合

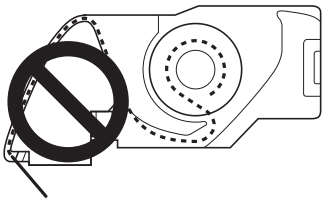
糸が左巻きになるように、ボビンを内かまにセットします。
下図のように板ばねにしっかり糸を通してください。



① 板ばね

⚠ 注 意

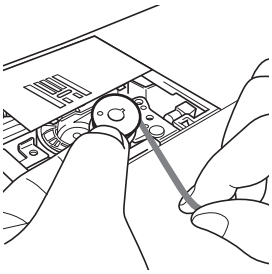
- 下糸をボビンに巻くとき、下糸がほつれていないことを確認してください。下糸がほつれている状態でぬうと、内かまの板ばねに糸がひっかかり、糸がからまりミシンが故障するおそれがあります。
- 針板カバーのミゾやカッターを使用しないでください。使用すると正しく下糸がセットされません。

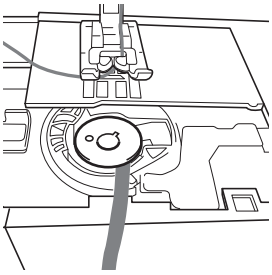


■ 下糸テンションフリーにする場合

試しぬいをしたときに、下糸調子が強すぎて、糸調子を調節してもうまくぬえない場合、板ばねに糸をかけないでぬってください。

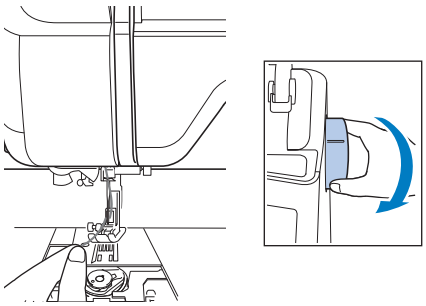
右手で糸端を持ちながら、左手でボビンを持ち、糸が右巻きになるようにミシンにセットします。



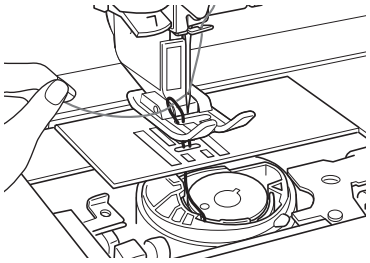


11 下糸の端を約 8cm 引き出します。

12 上糸を軽く持ち、プーリーを手前に回します。プーリーを一回りさせて、針が上がったら、図の位置で止めます。



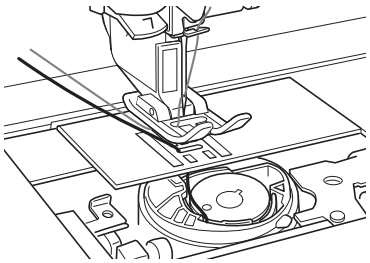
13 上糸をゆっくり引きあげて、下糸を針板の上に引き出します。



→ 下糸が針板の穴から輪になって出てきます。

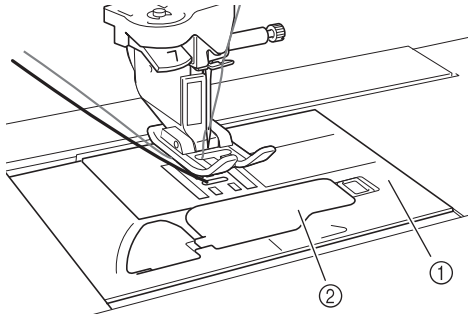
14 引きあがってきた下糸を、針板の下に糸端が出るまでピンセットなどで引き上げてください。

15 上糸と下糸をそろえて、押えの下からミシンの後ろ側へ 10cm ほど引き出します。



16 針板カバーとタブ付き針板ふたを取り付けます。

針板カバーの詳しい取り付け方は、A-19 の「かまの掃除」を参照してください。



① 針板カバー
② タブ付き針板ふた

⚠ 注 意

- ボビンワークをするときは、必ずタブ付き針板ふたを使用してください。他の針板ふたを使用すると、糸がからまり、ミシンが故障するおそれがあります。

お願い

- 針板カバーを取り付けるとき、針板カバーに糸をはさまないでください。

17 補助テーブルや刺しゅう機を取り付けます。

お願い

- 補助テーブルや刺しゅう機を取り付けるとき、補助テーブルや刺しゅう機に糸をはさまないでください。
- 下糸を新しく取り替えるときは、もう一度 A-5 の「下糸の準備」手順 1 から操作をやり直してください。下糸を確実にセットするために、手順に従って操作してください。

→ これで上糸と下糸の準備が完了しました。

お願い

- 実用ぬい模様を使ってボビンワークをするときは、A-9 の「ボビンワークでぬう（実用ぬい）」を参照してください。刺しゅう模様を使うときは、A-12 の「ボビンワークでぬう（刺しゅう）」を参照してください。

ボビンワークでぬう（実用ぬい）

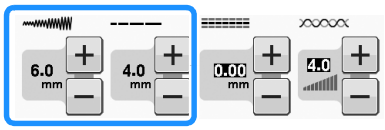
布地を準備してぬう

お願い
- ボビンワークは、ゆったりと軽やかなぬい目でぬうと、きれいに仕上がります。
- 実際に使用する布地と糸で試しぬいをしてください。
- 選択した模様や糸の種類によって、下糸がからむ場合があります。その場合、ただちに縫製を中止して、ミシンの電源を切り、からんだ糸をはさみで切り離した後、外かまと内かまを掃除してください。（A-17 の「誤ってミシンの自動糸切り機能で糸を切り、下糸がミシンにひっかかった」参照）

1 本機の電源を入れます。

2 実用ぬい／飾り・文字模様ぬいモードで模様を選びます。ここでは、例として 1-09 を押します。

お知らせ
- 仕上がりをよくするために、ぬい目の長さと振り幅は大きめの数値に設定してください。選択した模様によっては、ぬい目の長さや振り幅を調節できない場合もあります。

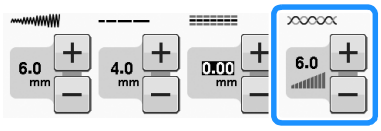


- 布地の種類によっては、ぬい目が詰まる場合があります。複雑でない模様を選択することをお薦めします。仕上がりを確認するために必ず試しぬいをしてください。

複雑でない模様の例：1-01、1-09、6-094

3 上糸の糸調子を調節します。ボビンワークに適した上糸の糸調子は、6 から 8 の間です。

詳しい糸調子の調整方法については、「実用ぬい／文字・模様ぬい編」の「糸調子を調節する」を参照してください。



お願い
- ぬう前に、下糸の量が十分にあることを確認してください。

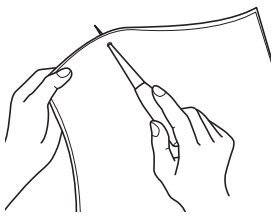
4 自動糸切り機能（）や自動止めぬい機能（）が解除されていることを確認してください。

⚠ 注意
- 縫製をスタートする前に、自動糸切り機能が解除されていることを確認してください。万が一、自動糸切り機能を設定したまま縫製を始めると、糸がからんでミシンが故障するおそれがあります。

5 布地の上側（裏面）に接着芯を置きます。

お願い
- 接着芯の種類や厚みは、使用する布地や糸に合わせてください。

6 糸が太すぎて、下糸が布を通らずに引き上げられない場合は、ぬい始めの位置に目打ちなどで穴を開けて、その穴から下糸を引き上げます。

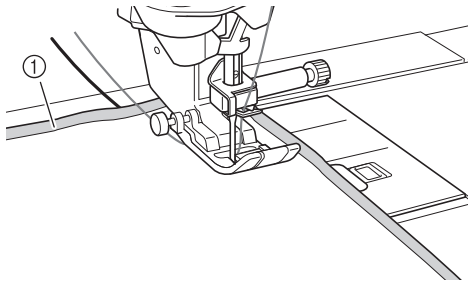


7 を押します。

→ 画面が切り替わり、すべてのキーや操作ボタンがロックされます。

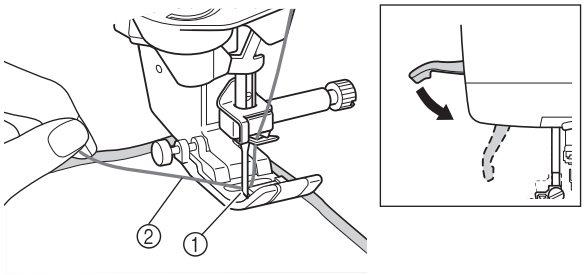
8 押えレバーを上げて、押えを上げます。

9 布の裏側を上にして、布をミシンにセットします。



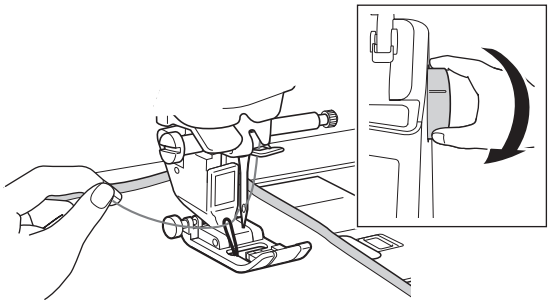
① 布地の裏側

10 プーリーを回して、目打ちで開けた穴に針を合わせ、上糸を押えの上に出し、手で軽く持ちながら、押えを下げます。



① 目打ちの穴
② 押えの上の上糸

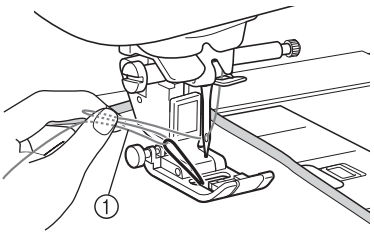
11 上糸を軽く持ち、プーリーを手間に回します。このとき、プーリーの印が図のように上にくるまで回します。



→ 布地の穴を通して、下糸の輪が上がってきます。

お願い

- 下糸が布地の上に上がってこないときは、上糸を下図のように持って下糸を引き上げてください。



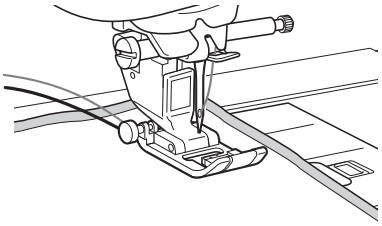
① 上糸

12 押えレバーを上げて、引きあがってきた下糸を市販のピンセットなどで引き上げて、布の上に糸端を出してください。

お願い

- 下糸を引くときは、穴の位置が動かないように、布地を押さえてください。

13 上糸と下糸をそろえて、押えの下から後ろ側へ引き出します。

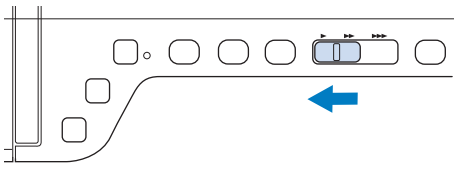


14 ミシンの後ろ側で上糸を手で軽く持ちながら、プーリーを手前に回して、針をもう一度目打ちの穴に落とし、押えレバーを下げます。

15  を押します。

→ すべてのキーや操作ボタンのロックが解除されて、元の画面に戻ります。

16 ぬう速さを低速にして、上糸を押えの後ろ側で軽く持ちながらミシンをスタートさせます。数針ぬった後、上糸を離します。

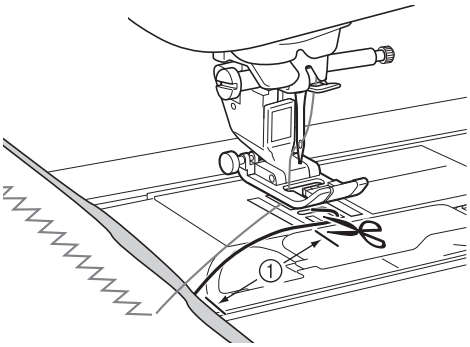


17 ぬい終わり位置まできたら、ミシンをストップします。

> **お願い**
> • ぬい終わりに返しぬい／止めぬいをしないでください。また、ぬい終わりに糸切りスイッチを使用しないでください。糸が絡んで針が折れるおそれがあります。また、下糸を布の裏側に引き上げにくくなります。

18 針と押えを上げます。

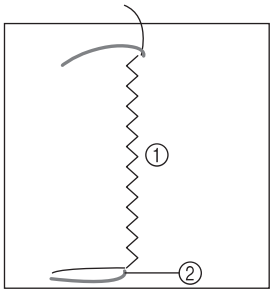
19 糸端を約 10cm 残して、糸をはさみで切ります。



① 10cm

■ 糸の始末をする

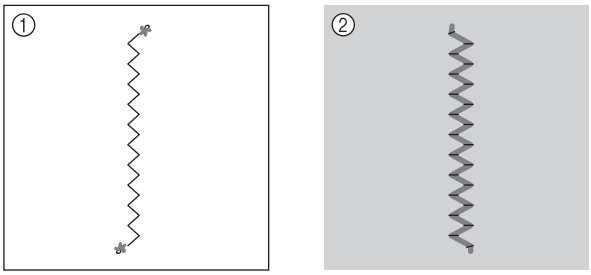
1 ぬい終わりの下糸の端を、布地の裏側に引き出します。



① 布地の裏側
② 下糸

> **お願い**
> • 糸が引き上げにくいときは、リボン刺しゅう用の針を使用して布の裏側に下糸を引き出してください。もしくは、目打ちを使用して、下糸を引き出してください。

2 布地の裏側から、引き上げた下糸を上糸と結び、余った糸をはさみで切ります。



① 布地の裏側
② 布地の表側

> **お願い**
> • 下糸と上糸を結んだ後、結び目がほどけそうな場合は、結び目を布用ボンドで固めてください。

3 きれいに仕上がらないときは、上糸と下糸の糸調整を調整して、もう一度試しぬいをしてください。

詳しい糸調子の調整方法は、A-16 の「糸調子を調整する」を参照してください。

ボビンワークをフリーモーションでぬう

お好みでテンプレートを使ったり、接着芯に図案を下書きしたりして、フリーモーションを楽しんでください。飾りぬいはぬったときの裏側に仕上がることを忘れないで、接着芯は布の裏側に貼り、接着芯側を上にしてぬってください。

* オープントゥキルト押え< O >について詳しくは、S-40 の「フリーモーションキルト」を参照してください。

ボビンワークでぬう（刺しゅう）

模様を選ぶ

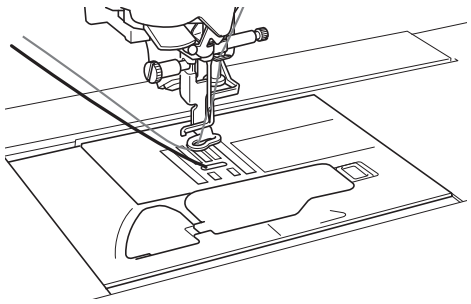
お願い
- A-3 の「ボビンワークの準備」の手順に従って準備をしてから始めてください。

1 刺しゅう押えと刺しゅう機を取り付けます。

2 模様に必要な長さの糸を巻いたボビンをミシンにセットします。

お願い
- それぞれの模様に必要な下糸の長さについては、付属の「模様一覧」を参照してください。ボビンには必ず十分な長さの糸を巻いておいてください。縫製中に下糸がなくなると、刺しゅうを最後まで続けられません。
- 糸が太くて、必要な長さの糸をボビンに巻くことができない場合は、もう一度巻きなおしてみるか、細い糸に替えてください。

3 針板の上に下糸を引き上げます。



4 本機の電源を入れます。

5 OK を押します。

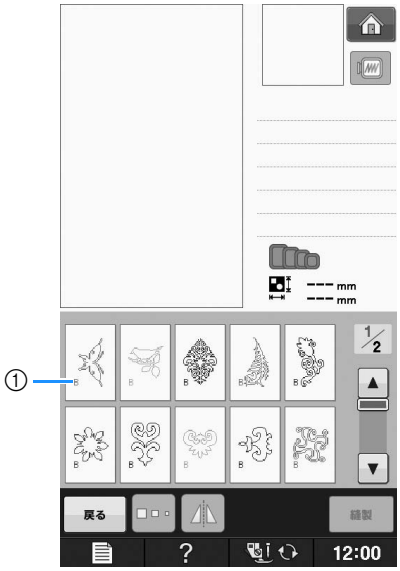
→ キャリッジが動いて、初期設定を行います。

6  を押して、ボビンワーク模様を選びます。

お知らせ
- （編集刺しゅう）モードでは、ボビンワーク模様を選べません。

7  を押してから、お好みのボビンワーク模様を選びます。

ボビンワーク用の刺しゅう模様は、キーの左下に「B」の文字が表示されています。



①「B」印

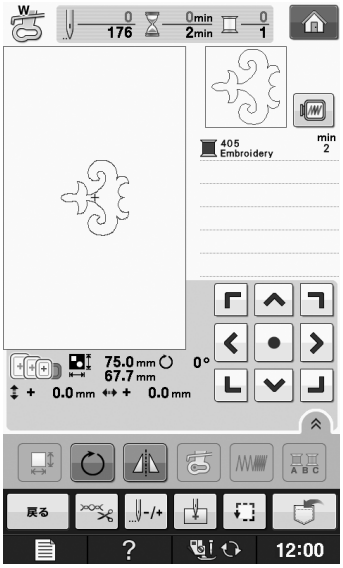
お願い
- ボビンワーク模様は、刺しゅうの始まりと終わりが専用の設定になっています。通常の刺しゅう模様として使用することはできません。
- ボビンワーク模様の縫製速度は、100spm を推奨します。

⚠ 注意
- ボビンワークでぬうときは、ボビンワーク専用の模様を選んでください。ほかの模様を選んでボビンワークでぬうと、故障するおそれがあります。

お知らせ
- ボビンワーク模様を選んだとき、刺しゅうの縫製速度は、100spm に自動で設定されます。ボビンワーク中は、設定画面で選択できる刺しゅうの縫製速度は、100spm から最大 350spm までに制限されます。
- ボビンワーク模様を選んだとき、自動糸切り機能は設定が解除されます。その後、ボビンワーク模様以外の模様を選択すると、ボビンワークをする前に設定していた自動糸切り機能の設定が再度設定されます。

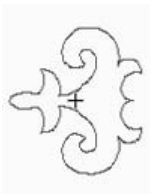
8 縫製 を押します。

→ 縫製画面が表示されます。



お願い

- ボビンワークは布地の裏側を上にしてぬうため、画面に表示されるボビンワーク模様は実際に仕上がる模様が左右反転しています。必要であれば、画面上で模様を左右反転して、仕上がりイメージを確認してください。
  また、画面に表示される糸色で模様を仕上げたい場合は、画面で表示されている糸色の下糸を使用してください。



① 画面上の表示



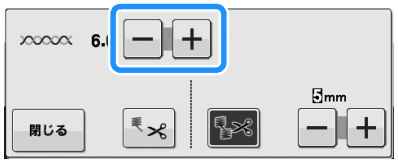
② 実際の刺しゅう（布地の表側）

お知らせ

- ボビンワーク模様は、大きさや糸密度を変更することができません。また、自動糸切り機能も設定することができません。

9 を押して、上糸の糸調子を調整します。

詳しい上糸の糸調子調整については、E-30 の「糸調子を整える」を参照してください。

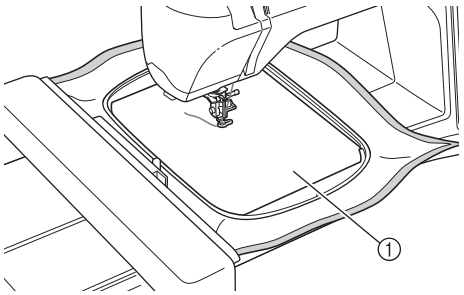


お知らせ

- 上糸の糸調子は、6 から 8 の設定を推奨します。

刺しゅうをぬう

1 布地の表側が下になり、接着芯が上側になるように刺しゅう枠に布地を張ります。刺しゅう枠は模様の大きさに合ったものを選び、ミシンに取り付けます。ボビンワーク模様は、布地の裏側から刺しゅうするので、通常の刺しゅうの反対からぬう手順となります。



① 布地の裏側

注意

- 刺しゅうのときは、必ず接着芯を使用してください。針折れやけがの原因となるおそれがあります。接着芯を使用せずに刺しゅうした場合は、きれいな仕上がりにはなりません。

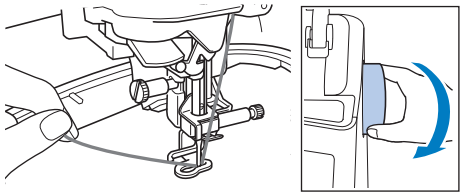
2 閉じる を押します。

3 を押します。

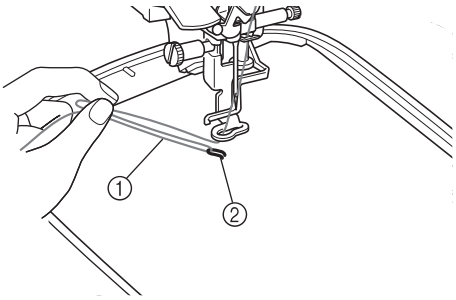
→ 画面が切り替わり、すべてのキーや操作ボタンがロックされます。

4 押えレバーを上げて、押えを上げます。

5 上糸を手で持ちながらプーリーを手前に回して、布の上に下糸を上げます。



6 下図のように、上糸を引いて、布の下から下糸を引き上げます。



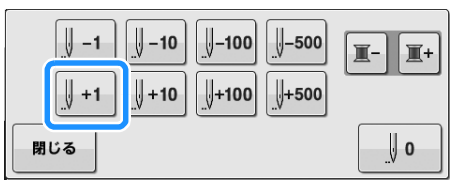
① 上糸
② 下糸

お知らせ
- 下糸を引き上げにくいときは、目打ちを使用して布地に小さな穴をあけて、下糸を引き出してください。

7 を押して、キーとスイッチのロックを解除します。

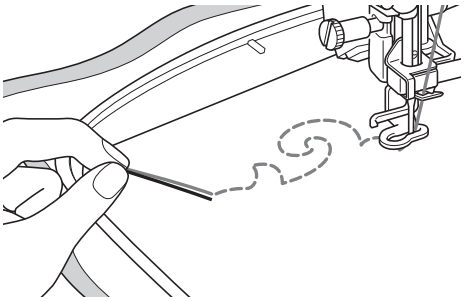
8 押えを下げます。

9 ぬい目を一番始めに動かしておく必要があるので、-/+を押して、+1を押します。

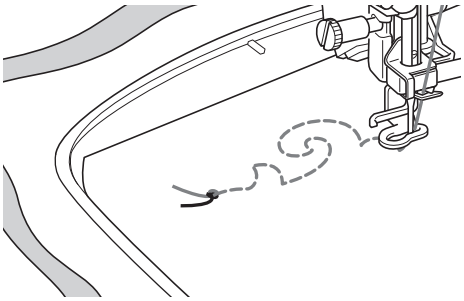


→ 刺しゅう枠がぬい目の最初に移動します。

10 上糸と下糸を合わせて持ちながら、模様をぬい始めます。



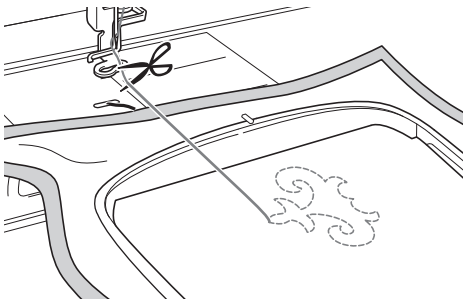
11 縫製を止めて、上糸と下糸を結んで糸がぬけないようにします。



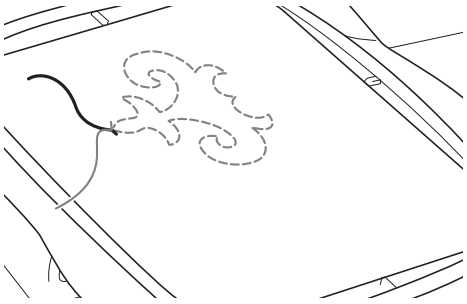
12 最後まで刺しゅうをします。

13 針と押えを上げて、刺しゅう枠を取り外し、上糸と下糸を切ります。

糸を切るとき、仕上げの処理ができるくらいの長さを残すようにしてください。



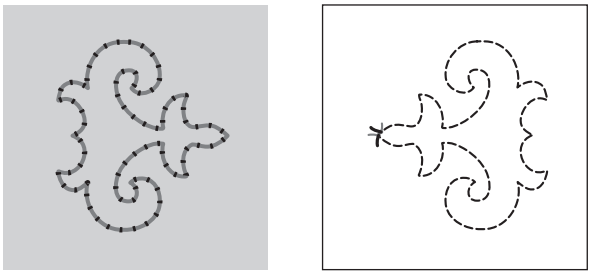
14 リボン刺しゅう用針などの手ぬい針を使って、下糸を上（布地の裏側）に引き上げ、上糸を下糸と結びます。



お知らせ

- 模様の開始位置と終了位置に間が空いてしまった場合は、糸を多めに残して切り、ミシンから布地を取り外します。その後、リボン刺しゅう用針などの手ぬい針を使って、開始位置と終了位置をつなげるように手ぬいで仕上げます。

15 刺しゅう枠から布を外して、刺しゅうの仕上がりを確認します。



① 布地の表側　② 布地の裏側

16 思っていたような仕上がりでなかった場合は、下糸と上糸のテンションを調整し、もう一度刺しゅうしてみます。

詳しくは、A-16 の「糸調子を調整する」を参照してください。

お知らせ

- ボビンワーク模様をぬい終わるたびに、下糸の残量を確認し、次の模様に十分な下糸が残っていることを確認してください。
- ボビンワーク模様を選ぶと、刺しゅうの縫製速度が 100spm に設定されます。縫製速度を変更する手順については、E-32 の「刺しゅうの速度を調節する」を参照してください。

糸調子を調整する

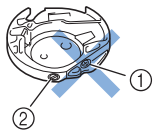
試しぬいで仕上がりを確認した後、必要に応じて糸調子を調節してください。調節後は試しぬいをして、調節結果を確認してください。

■ 上糸の糸調子を調節する

ボビンワークでぬうときは、上糸調子は 6 から 8 の設定を推奨します。
詳しくは、E-30 の「糸調子を整える」を参照してください。

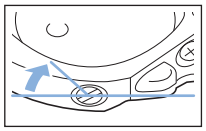
■ 下糸の糸調子を調節する

上糸調子を調節しても、仕上がりがよくならない場合は、下糸の糸調子を調節します。ボビンワーク用の内かま（灰色）のマイナスネジを回して、下糸の糸調子を調整できます。

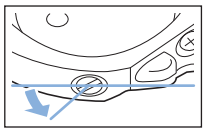


① プラスネジは回さない
② マイナスドライバー（小）を使用して調整する

下糸調子を強くする場合は、マイナスネジを時計回りに 30 － 45 度回してください。

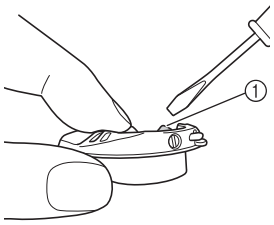


下糸調子を弱くする場合は、マイナスネジを反時計回りに 30 － 45 度回してください。



お願い

- ボビンワーク用内かま（灰色）のマイナスネジを回すと、図のように板ばねが押し上げられることがあります。
  このようなときは、マイナスドライバーで軽く板ばねを押して、内かまの上面よりも下に板ばねを下げてから内かまをミシンに入れてください。



① 板ばね

⚠ 注 意

- ボビンワーク用内かま（灰色）のプラスネジを調節しないでください。ミシンが故障する原因になります。
- マイナスネジが回しにくい場合は、無理に回さないでください。
  ネジを回しすぎたり、無理に回すと、回す方向に関わらず内かまの破損の原因になります。破損した内かまを使用すると、正しい糸調子を保つことができません。

お願い

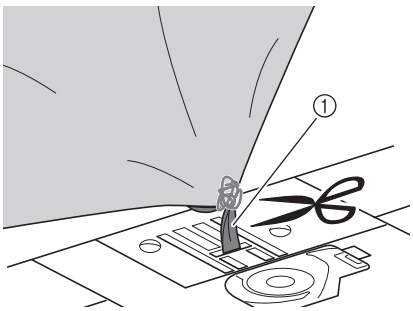
- 調節しても下糸調子が強い場合は、ボビンを内かまにセットするときに、板ばねに糸をかけないでください。（A-7 の「下糸テンションフリーにする場合」参照）

困ったときは

次の項目を確認してください。症状が改善されないときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にお問い合わせください。

■ 誤ってミシンの自動糸切り機能で糸を切り、下糸がミシンにひっかかった

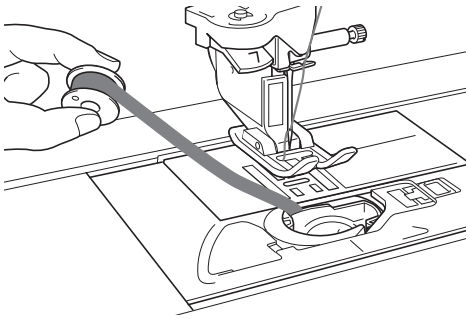
1 針板の上で布側の糸を切って、布を外します。



① 糸

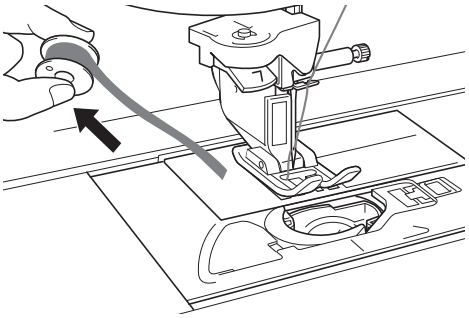
お願い
- 刺しゅうの縫製中であれば、刺しゅう枠を布から取り外してください。

2 ボビンを取り出して、ミシンの左側に出し、下糸を軽く引きます。



3 押えを下げます。

4 もう一度、（糸切りスイッチ）を押して、自動糸切り機能を動作させながら、ボビンを左側に引き、下糸を引き抜きます。

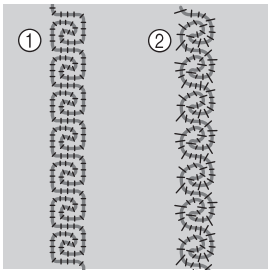


⚠ 注 意
- 糸を無理にひっぱらないでください。ミシンが故障する原因になります。

■ ボビンワークの糸調子をなおす

* 上糸が下糸側に見えてしまうときは、上糸調子を強くしてください。（A-16 の「糸調子を調整する」参照）
* 調整後も上糸が下糸側に見えてしまうときは、下糸調子を弱めるか下糸フリーテンションにしてください。（A-16 の「糸調子を調整する」参照）
* 布地が粗くて、下糸が裏面に見えてしまうときは、上糸と下糸の色を合わせて、きれいに仕上がるようにします。

例： 飾り模様



① 正しい糸調子
② 上糸調子が弱すぎる、あるいは下糸調子が強すぎる

■ 内かまの板ばねに下糸がひっかかる

テンションフリーでぬってください。（A-7 の「下糸テンションフリーにする場合」参照）

第 2 章
お手入れ／困ったときには

お手入れのしかた 19

注油に関して 19
ミシンを保管するときのご注意 19
画面の汚れの掃除 19
ミシンの汚れの掃除 19
かまの掃除 19
内かま周辺のカッターの掃除 21
点検の警告について 21

画面の調整 22

画面の明るさ調整 22
タッチパネルが反応しない 22

困ったとき 23

よくあるご相談 23
上糸がつる 23
■ こんなとき 23
■ 原因 23
■ 対処方法／確認内容 23
布裏で糸がからまる 24
■ こんなとき 24
■ 原因 24
■ 対処方法／確認内容 24
糸調子が合わない 26
■ こんなとき 26
■ 原因／対処方法／確認内容 26
布がミシンに入り込んでとれなくなった 27
■ 布をミシンから取り外す 27
■ ミシンの動作を確認する 29
簡単なミシンの調整 30
■ ぬう前の準備 30
■ ぬっているとき 31
■ 仕上がり 33

エラーメッセージ 35

仕様 37

アップグレードの方法 38

USB メディアを使用してアップグレードする 38
パソコンを使用してアップグレードする 39

索引 40

お手入れのしかた

⚠ 注 意

- 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。けがまたは感電の原因となります。

注油に関して

お客様ご自身による本製品への注油は行わないでください。故障の原因となります。本製品の動作に必要な油はあらかじめ十分に塗布されて出荷されていますので、定期的に注油する必要はありません。万一、プーリーを回すと重い、異常な音がするなどの症状が発生した場合は、ただちに使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

ミシンを保管するときのご注意

以下の場所にミシンを保管しないでください。結露によるさびの発生など、故障の原因となります。

* 温度が著しく高くなる場所
* 温度が著しく低くなる場所
* 急激に温度が変化する場所
* 湿気、湯気が多い場所
* 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所
* 屋外や直射日光の当たる場所
* ほこり、油煙の多い場所

お願い

- 本製品を末永くご愛用いただくために、ときどき電源を入れて、縫製してください。長期間保管したまま使用しない状態が続くと、ミシンの性能を損なうおそれがあります。

画面の汚れの掃除

画面が汚れた場合は、乾いたやわらかい布地等で軽くふきとってください。有機溶剤や洗剤は使用しないでください。

お願い

- 湿った布で画面を拭かないでください。

お知らせ

- 画面が結露したり、曇ったりする場合がありますが、故障ではありません。しばらくすると、結露や曇りはなくなります。

ミシンの汚れの掃除

ミシンが汚れた場合は、乾いたやわらかい布地等で軽くふきとってください。有機溶剤や洗剤は使用しないでください。

かまの掃除

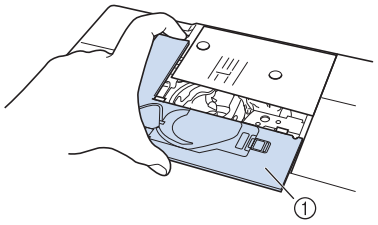
ほこりがたまると縫製不良になったり、下糸検出が効かない場合があります。いつもきれいにしておきましょう。

1. （針上下スイッチ）を押して針を上げます。
2. 電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

⚠ 注 意

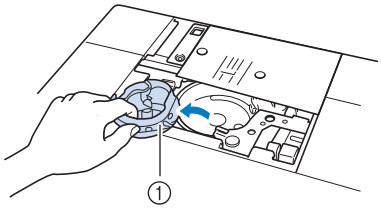
- 電源スイッチが「切」になっていることを確認してから、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。けが・感電の原因となります。

3. 針と押え、押えホルダーを外します。(B-53 ～ B-56 参照)
4. 補助テーブルまたは刺しゅう機を取り付けている場合は外します。
5. 針板カバーを手前に引いて外します。



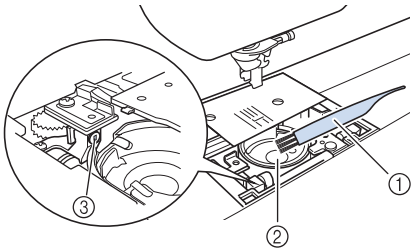
① 針板カバー

6 内かまを取り出します。



① 内かま

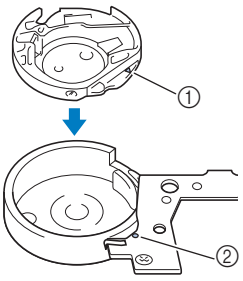
7 ブラシや掃除機で、外かまと下糸センサーの周辺の糸くずやほこりを取り除きます。

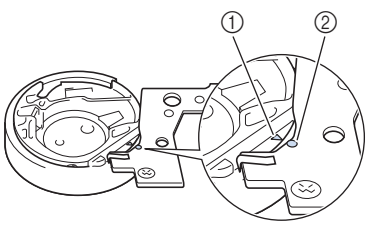


① ミシンブラシ
② 外かま
③ 下糸センサー

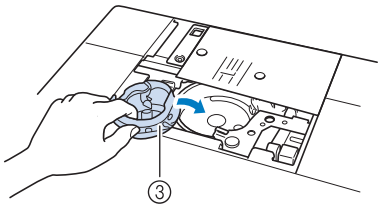
お願い
- 内かまに油をささないでください。
- 糸くずやほこりが下糸センサーの周辺にたまると、センサーが正しく作動しないおそれがあります。

8 内かまの ▲ 印とミシンの ● 印が合うように、内かまを取り付けます。





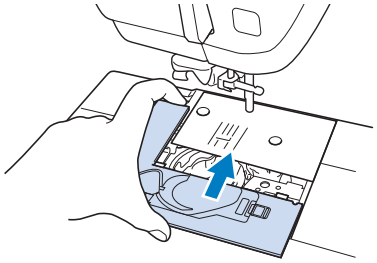
* ▲ 印と ● 印を合わせます。



① ▲ 印
② ● 印
③ 内かま
* 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

⚠ 注 意
- 傷がついた内かまは使用しないでください。万一使用すると、上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。新しい内かまが必要な場合は、最寄りの販売店にご連絡ください。
- 内かまは正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

9 針板カバーの突起を針板に差し込み、そのままミシンに取り付けます。



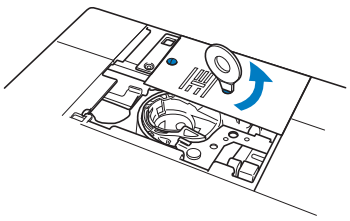
お願い
- 針板が取り外されている場合は、針板カバーを取り付ける前に、ネジ回しで針板をミシンに取り付けてください。

内かま周辺のカッターの掃除

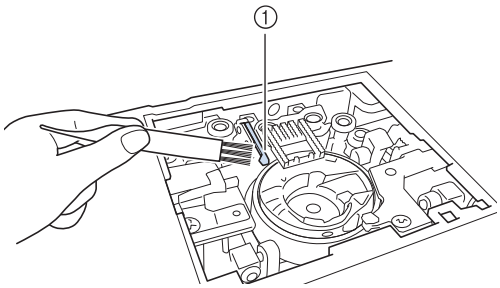
針板の下にあるカッターを定期的に掃除してください。カッターにほこりや糸くずがたまると、糸切りスイッチを押したり自動糸切り機能を使用したときに、糸が切れにくくなります。糸が切れないときは、カッターを掃除してください。

1 「かまの掃除」の 1 から 5 の手順に従って、針板カバーを取り外します。

2 付属のネジ回しを使って針板のネジを外し、針板を取り外します。



3 ブラシや掃除機で、内かま周辺のカッターの糸くずやほこりを取り除きます。

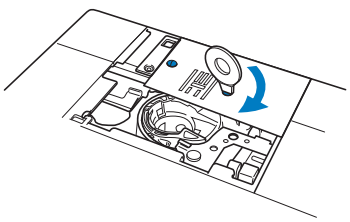


① カッター

⚠ 注 意

- カッターに触らないでください。けがをするおそれがあります。

4 付属のネジ回しを使って針板のネジを締めて、針板カバーを取り付けます。



5 針板カバーの突起を針板に差し込み、そのままミシンに取り付けます。

点検の警告について



上記の表示が出た場合は、お買い上げの販売店にご相談のうえ、定期点検をご依頼ください。

OK を押すと、表示は消えてミシンの機能を引き続き使うことができますが、適切な点検が完了するまでは何度も表示されます。

この表示が出たときは、必ずミシンの定期点検をご依頼ください。正しい時期に定期点検を行うことによって、ミシンを長くご利用いただくことができます。

画面の調整

画面の明るさ調整

ミシンを使う環境によって、画面がはっきり見えない場合、画面の明るさ調整ができます。

1 [設定] を押します。

→ 設定画面が表示されます。

2 [共通] を押します。

→ 共通の設定画面が表示されます。

3 設定画面の 6 ページ目を表示します。

4 [－] [＋] を押して画面の明るさを調整します。

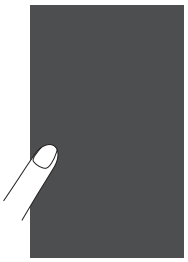


* 設定値が下がると画面は暗くなります。設定値が上がると、画面は明るくなります。

タッチパネルが反応しない

液晶画面のキーを押しても反応しない（キー入力ができない、またはキーがずれている）場合、以下の手順に従ってください。

1 電源スイッチを切り、画面（どの部分でもよい）を指で押しながら電源スイッチを入れます。

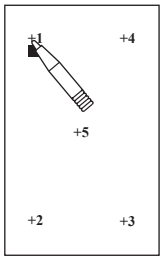


→ タッチパネル調整画面が表示されます。

2 付属のタッチペンを使って、画面に表示されている＋印の中心を 1 から 5 まで順番に軽く押します。

お願い

- 必ず付属のタッチペンを使用して調整してください。シャープペンシル、ピンなどの先のとがったものを使用しないでください。また、画面に無理な力をかけないでください。故障の原因となります。



3 電源スイッチを切り、もう一度電源を入れます。

お願い

- 調整をしても画面が反応しない場合、または調整ができない場合は、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。

困ったとき

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に次の項目および当社サポートページ、ブラザーソリューションセンター（http://solutions.brother.co.jp/sewing_support/index.html）の Q&A を確認してください。それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

よくあるご相談

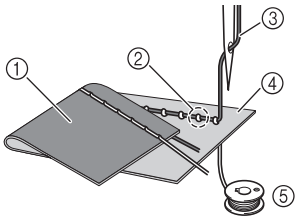
以下のよくあるご相談については、詳しい原因と対処方法を記載しております。お問い合わせの前にご確認ください。

■ 上糸がつる	A-23
■ 布裏で糸がからまる	A-24
■ 糸調子が合わない	A-26
■ 布がミシンに入り込んでとれなくなった	A-27

上糸がつる

■ こんなとき

* 上糸がピンと一本線になっている。
* 布地の上側の面に下糸がポツポツと出ている（イラスト参照）。
* 上糸がつっていて、引くと抜けてしまう。
* 上糸がつっていて、布にしわがよってしまう。
* 上糸が強く、糸調子を調節してぬい直してもまったく変わらない。



① 布地の下側の面
② 布地の上側の面に下糸が出ている
③ 上糸
④ 布地の上側の面
⑤ 下糸

■ 原因

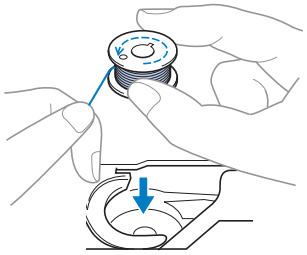
下糸のセットがまちがっている
下糸のセットがまちがっていると、下糸に適正な張力が加わらず、上糸が引き上げられる際に布地まで一緒に引っぱられてしまいます。そのため、布地の上に糸が出てしまいます。

■ 対処方法／確認内容

下糸を正しくセットしなおします。

1. 電源を切ります。
2. いったんボビンを内かまから取り出します。
3. 糸が正しい方向から出るように、ボビンを内かまにセットします。

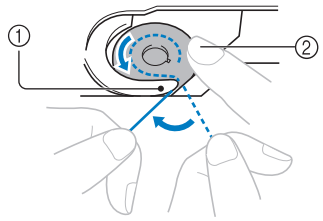
   * 糸が必ず左巻きになるように、右手でボビンを持ち、左手で糸端を持ちます。そのまま右手でボビンを内かまに入れます。



糸が逆方向から出た状態でボビンをセットすると、正しい糸調子でぬうことができません。

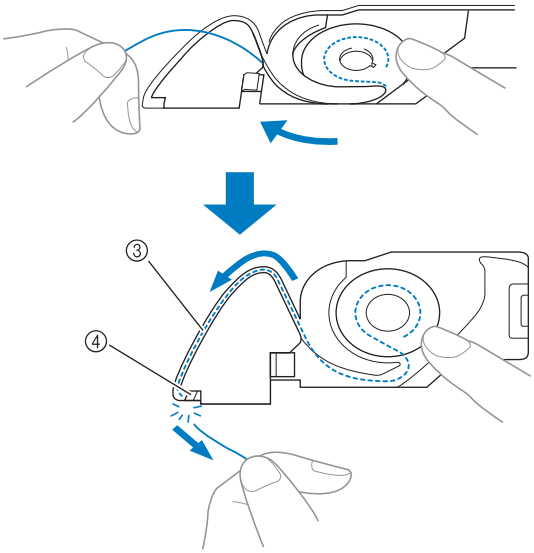
4 ボビンを指で押さえながら糸を針板のミゾに通します。

* 右手でボビンを押さえ、左手で巻き終わりの糸をツメに引っかけます。



① ツメ
② 右手でボビンを押えます。

糸を引っぱりながら針板のミゾにそって糸を通し、最後に手前に引いてカッターで糸を切ります。



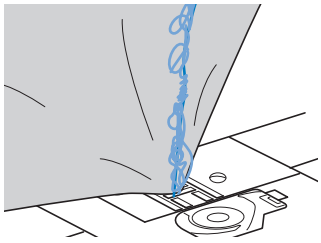
③ ミゾ
④ カッター（カッターで糸を切ります。）

内かまにボビンの糸を正しくセットしなければ、正しい糸調子でぬうことができません。

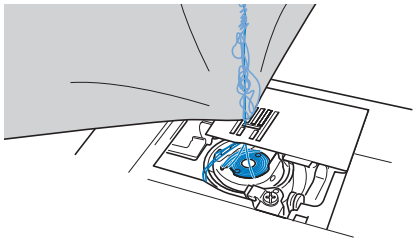
布裏で糸がからまる

■ こんなとき

* 布の下側で糸がグチャグチャにからんでしまう。



* ぬい始めるとすぐにガタガタと音がして進まなくなる。
* 布地の下側を見ると、かまの中まで糸が何重にもからまっている。



■ 原因

上糸のセットがまちがっている
上糸のセットがまちがっていると、布地を貫通した上糸をしっかりと引き上げることができず、かまの中に上糸がたまり、グチャグチャにからんでしまいます。

■ 対処方法／確認内容

からんだ糸を取り除き、上糸をセットしなおします。

1 からんだ糸を取ります。取れない場合は、はさみで糸を切ります。

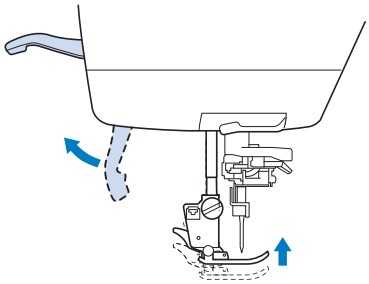
* 「かまの掃除」の A-19 の「お手入れのしかた」を参照してください。

2 いったん上糸をミシンから取り外します。

3 以下の手順に従って、上糸をもう一度セットしなおします。

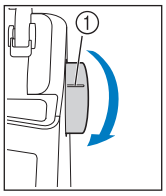
* ボビンを内かまから取り出した場合は、B-38 の「下糸の準備」と A-23 の「上糸がつる」の対処方法／確認内容を参照して、セットしなおしてください。

4 押えレバーを上げて、押えを上げます。

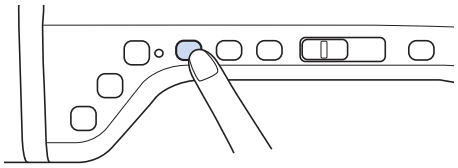


＊ 押えが上がっていなければ、正しく糸通しできません。

5 プーリーを手前に回し、ミシン本体上の線とプーリーの印を合わせます。あるいは、(針上下スイッチ)を1回か2回押して針を上に上げます。

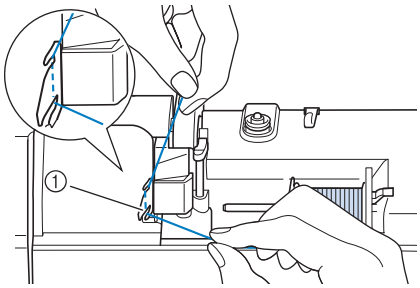


あるいは



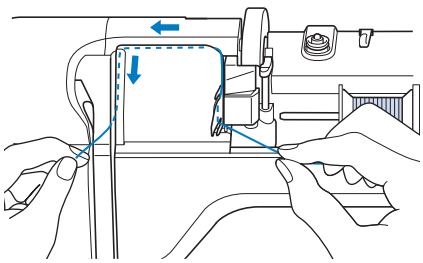
① 印

6 両手で糸を持ちながら、糸案内板のミゾに下から上へ糸を通します。

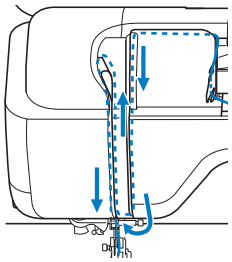


① 糸案内板

7 右手で糸を持ちながら、図のように糸通しガイドに沿って糸を通してください。

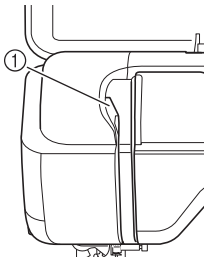


8 図のように、上から下へ、下から上へ、最後にもう一度下へ、ミゾにそって糸を通します。



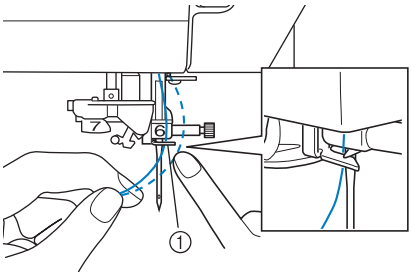
お知らせ

- ミゾの上部から中を見ると、てんびんに糸がかかっていることを確認できます。



① ミゾの上部を確認します。

9 図のように、両手で糸を持ちながら針棒糸かけ（6の印）に糸をかけます。



① 針棒糸かけ

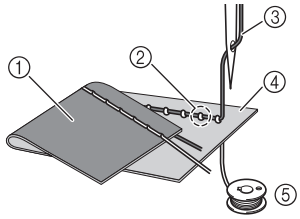
10 B-46の「上糸通し」の手順10から15に従って、糸を通します。

糸調子が合わない

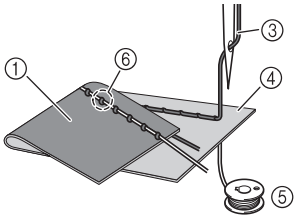
■ こんなとき

- 症状① 布地の上側にポツポツと下糸が出ている。
- 症状② 布地の上側で上糸が直線になる。
- 症状③ 布地の下側にポツポツと上糸が出ている。
- 症状④ 布地の下側で下糸が直線になる。
- 症状⑤ 布地の下側のぬい目がゆるい、またはたるむ。

□ 症状①



□ 症状③



① 布地の下側の面
② 布地の上側の面に下糸が出ている
③ 上糸
④ 布地の上側の面
⑤ 下糸
⑥ 布地の下側の面に上糸が出ている

■ 原因／対処方法／確認内容

□ 原因 1

糸が正しくミシンにセットされていない。

＜上記の症状①、②に該当する場合＞
下糸が正しくセットされていません。
上糸調子を S-12 の「上糸が強すぎる（下糸が表に出る）場合」を参照してセットし直します。

＜上記の症状③～⑤に該当する場合＞
上糸が正しく通っていません。
A-24 の「布裏で糸がからまる」を参照して糸をかけ直します。

□ 原因 2

布地に合った糸や針を使用していない。

ミシン針は布地の種類や糸の太さによって使い分けが必要です。
布地に合った糸と針を使用しないと、糸調子が合わなかったり、布地にしわが寄ったり、目とびの原因になったりします。

＊ B-59 の「布地と糸の種類による針の使い分け」の一覧表を参照して、布地に合った糸と針を使用しているか確認してください。

□ 原因 3

上糸調子の設定値が適正でない。

適正な糸調子になるように調節します。
使用する布地／糸の種類やぬい方によって、適正な糸調子は異なります。

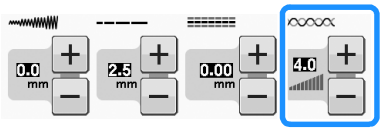
＊ 実際にお使いになる布地の端切れで試しぬいをして、糸調子を調節してください。

お願い

- 上糸の通し方や下糸のセットが正しくされていない場合は、糸調子の調節が正しく行えません。上糸かけ、下糸セットの確認を先に行ってから、糸調子の調節を行ってください。

＊ 布地の上側に下糸が見える場合
糸調子の［－］を押します。（糸調子を弱くします。）

＊ 布地の下側に上糸が見える場合
糸調子の［＋］を押します。（糸調子を強くします。）



布がミシンに入り込んでとれなくなった

布がミシンに入り込んでとれない場合、糸が針板の下でからんでいることがあります。以下の手順で、布をミシンから取り外してください。

操作が手順どおりに進まない場合は、無理に作業を続けず、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

■ 布をミシンから取り外す

1 直ちにミシンを停止させます。

2 電源を切ります。

3 針を取り外します。

針が布に刺さっている場合は、プーリーを奥側に回して針を布から外してから、針を取り外してください。

* B-56 の「針の交換」を参照してください。

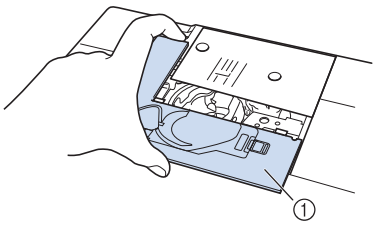
4 押えレバーを上げて、押えと押えホルダーを取り外します。

* B-53 の「押えの交換」を参照してください。

5 布を持ち上げて、布の下の糸を切ります。

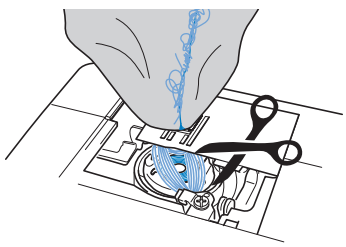
ここで布を取り外すことができる場合は、取り外してください。かまの掃除をするために引き続き、次の手順へお進みください。

6 針板カバーを外します。



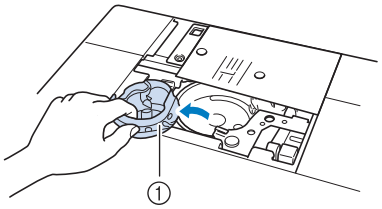
① 針板カバー（手前部分）

7 からんだ糸を切ってボビンを取り出します。



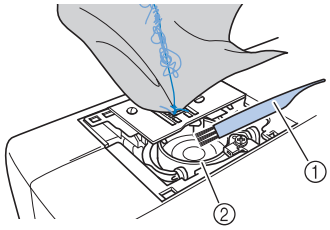
8 内かまを取り出します。

内かまに糸が残っている場合は、取り除いてください。



① 内かま

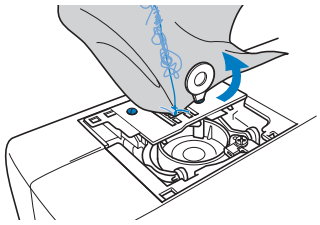
9 付属のミシンブラシや掃除機で、外かま周辺の糸くずやほこりを取り除きます。



① ミシンブラシ
② 外かま

ここまでの手順で布を取り外せた場合	→ 手順 16 に進む
ここまでの手順で布が取り外せない場合	→ 手順 10 に進む

10 付属のネジ回しを使って、針板の二つのネジを取り外します。

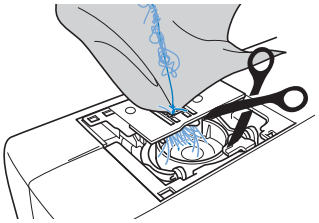


お願い

- 取り外したネジを、ミシンの中に落とさないように注意してください。

11 針板を少し持ち上げ、絡んだ糸を切って、針板を取り外します。

針板から布と糸を取ります。



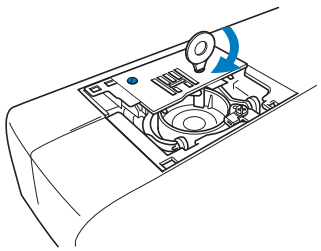
ここまでの手順を終えても布が取り外せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

12 かまや送り歯のまわりの糸を取り除きます。

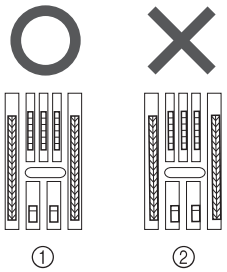
13 プーリーを回して、送り歯を上に上げます。

14 針板の 2 つのネジ穴を針板取付け部の 2 つの穴に合わせながら、ミシンに針板をはめ込みます。

15 針板の右側のネジを手で軽く締めます。次に、左側のネジをネジ回しでしっかり締めます。最後に右のネジもしっかり締めます。



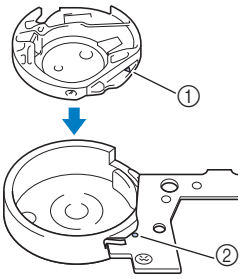
プーリーを回して、送り歯が針板のミゾの端に当たらず、スムーズに動くことを確認してください。

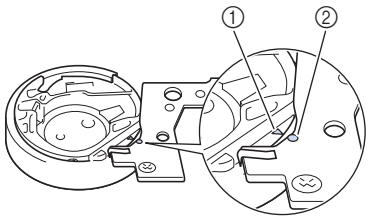


① 正しい送り歯の位置
② 正しくない送り歯の位置

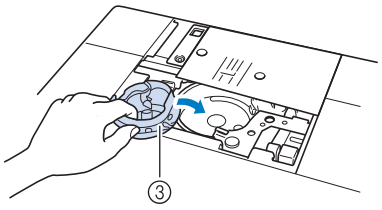
お願い
- 取り外したネジを、ミシンの中に落とさないように注意してください。

16 内かまの ▲ 印とミシンの ● 印が合うように、内かまを取り付けます。





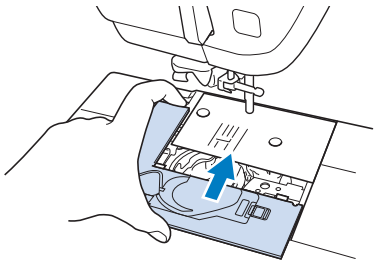
* ▲ 印と ● 印を合わせます。



① ▲ 印
② ● 印
③ 内かま
* 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

⚠ 注 意
- 傷がついた内かまは使用しないでください。万一使用すると、上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。新しい内かまが必要な場合は、最寄りの販売店にご連絡ください。
- 内かまは正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

17 針板カバーの突起を針板に差し込み、そのままミシンに取り付けます。



お願い
- 針板が取り外されている場合は、針板カバーを取り付ける前に、ネジ回しで針板をミシンに取り付けてください。

18 針の状態を確認して、針をミシンに取り付けます。

曲がっているなど針が悪くなっている場合は、必ず新しい針を取り付けてください。
* B-56 の「針の交換」を参照してください。

⚠ 注意
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因になります。

お願い
- ここまでの手順を終えたあとは、ミシンが正しく動くように、以降の「ミシンの動作を確認する」の手順を続けてください。

お知らせ
- 布がミシンに入り込んだ際に、針が損傷しているおそれがありますので、新しい針に交換することをお勧めします。

■ ミシンの動作を確認する

いったん針板を取り外したあとは、正しく取り付けられていることを確認するために、ミシンの動作確認をしてください。

1 電源を入れます。

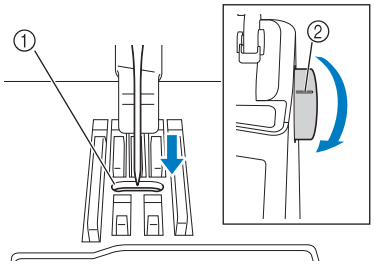
2 中基線の模様 

を選択します。

お願い
- 押えと糸は、まだミシンにセットしないでください。

3 プーリーをゆっくりと手前に回し、針が針穴の中央に落ちることを左右前後から見て確認します。

針が針板に当たる場合は、もう一度針板を取り外し、「布をミシンから取り外す」の手順 13 (A-28) からやり直してください。



① 針穴
② プーリー

4 ジグザグ模様 

を選択します。このとき、ぬい目の長さと振り幅を最大にしてください。

設定の変更については、S-10 の「ジグザグの振り幅を調節する」「ぬい目の長さを調節する」を参照してください。

5 プーリーをゆっくりと手前に回し、針棒と送り歯が正しく動くことを確認します。

針や送り歯が針板に当たる場合は、ミシンの故障が考えられますので、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

6 電源を切ってから、ボビンと押えをセットします。

* B-43 の「下糸をセットする」、B-53 の「押えの交換」を参照してください。

7 上糸をかけなおします。

* 上糸のかけ方については、B-46 の「上糸通し」を参照してください。

お願い
- 上糸が正しくセットされていなければ、糸がらみの原因になります。正しく上糸をセットしてください。

8 普通地で試しぬいをします。

お願い
- 正しくぬえない場合、原因として、上糸が正しくセットされていないことや薄い布地を使用していることが考えられます。試しぬいの仕上がりが良くない場合は、上糸のかけ方やお使いの布地を確認してください。

簡単なミシンの調整

修理を依頼される前に、次の項目を点検してください。それでも直らないときは、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番)」にご相談ください。

? を押し、使い方 を押すと、ぬっていて困ったときのための簡単なトラブルチェックをご使用いただけます。

■ ぬう前の準備

症状	原因	対処	参照ページ
糸通しができない。針穴に糸が通らない。	針が正しい位置にない。	針上下スイッチを押して針を上げます。	B-11
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	B-56
	針が曲がっている。	新しい針に交換します。	B-56
	上糸の通し方がまちがっている。	上糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-46
	糸通しフックが曲がっていて針穴に通っていない。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン 119 番)」にご相談ください。	—
	糸通し装置が動かない。糸通し装置が戻らない。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン 119 番)」にご相談ください。	—
	9 番の針を使っている。	糸通し装置に対応しない針です。手で糸を針穴に通してください。	B-49
押えレバーで押えを下げることができない。	押え上下スイッチを使って、押えが上げられている。	押え上下スイッチを押して、押えを下げます。	B-11
下糸がボビンにきれいに巻けない。	下糸巻き案内に糸がしっかりかかっていない。	下糸巻き案内に糸をしっかりとかけます。	B-40
	ボビンの回転が遅い。	下糸巻きの回転スピードを速くするため、下糸巻き画面で「+」キーを押します。	B-41
	引き出した糸を正しく巻き付けていない。	引き出した糸は、時計回りに 5 ～ 6 回ボビンに巻き付けます。	B-40
下糸を引き出すことができない。	針が曲がっている。	新しい針に交換します。	B-56
	下糸のセットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	B-43
ミシンの操作ができない。	すべてのキーとスイッチが でロックされている。	を押して、すべてのキーとスイッチを解除します。	B-53、B-56
液晶画面に何も表示しない。	電源スイッチが入っていない。	電源スイッチを入れます。	B-19
	電源プラグがコンセントに差し込まれていない。	電源プラグをコンセントに差し込みます。	B-19
液晶画面が見にくい。	画面の明るさ設定が合っていない。	画面の調整をします。	A-22
液晶画面を押しても、反応しない。	画面がロックされている。	次のいずれかのキーを押して、画面ロックを解除します。	—
液晶画面がくもる	液晶画面が結露している。	少し待つと、くもりはなくなります。	—
刺しゅう機が動かない。	模様が選ばれていない。	模様を選びます。	E-3、E-56
	電源スイッチが入っていない。	電源スイッチを入れます。	B-19
	刺しゅう機が正しくセットされていない。	刺しゅう機を正しくセットします。	B-64
	刺しゅう枠を付けた状態で初期設定を行った。	正しく初期設定を行います。	B-64
LED ポインター付き刺しゅう押え< W+ >の LED ポインターが正しい位置を示さない。	厚手の伸縮性のある布地をぬうときは、布の凸部で正しい位置を示すことができません。	布地の厚みに合わせて、手動で刺しゅうの位置合わせをしてください。	E-35
	布地の表面がでこぼこしていると、正しく位置を認識できません。	LED ポインターの表示は、あくまでも参考として使用してください。	B-63

■ぬっているとき

症状	原因	対処	参照ページ
ミシンが動かない	スタート／ストップスイッチを押していない。	スタート／ストップスイッチを押します。	B-11
スタート／ストップスイッチを押しても、針が上下に動かない	模様が選ばれていない。	模様を選びます。	S-21、S-77、E-3、E-56
	押えが下がっていない。	押えを下げます。	B-11
	フットコントローラーを接続したままスタート／ストップスイッチを押している。	フットコントローラーを接続しているときは、スタート／ストップスイッチは使用できません。フットコントローラーを使ってミシンを操作してください。スタート／ストップスイッチを使用する場合は、フットコントローラーを取り外してください。	S-4
	スピードコントロールレバーがジグザグの振り幅を調節するように設定されている	スタート／ストップスイッチではなく、フットコントローラーを使って、ミシンを操作します。または、設定画面で「振り幅コントロール」を OFF にします。	B-26、S-5
	ボタン穴かがりレバーが下がった状態で、ボタン穴かがりまたはかんどめ以外の模様を選択してスタート／ストップスイッチを押した。	ボタン穴かがりレバーを上げます。	S-56、S-60
	ボタン穴かがりレバーが上がった状態で、ボタン穴かがりまたはかんどめの模様を選択してスタート／ストップスイッチを押した。	ボタン穴かがりレバーを下げます。	S-56、S-60
針が折れる	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	B-56
	針のとめネジがゆるんでいる。	とめネジをしっかりしめます。	B-56
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-56
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-58、E-21
	模様に合った押えを使用していない。	指定の押えを取り付けます。	S-67
	上糸調子が特に強すぎる。	糸調子を調節します。	S-12、E-30
	布地を不当に引っ張っている。	布地を引っ張らないようにします。	—
	糸こまが正しくセットされていない。	糸こまの付け方を確認して、付け直します。	B-46
	針板の穴の周辺にキズがある。	針板を交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	A-19
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	B-53
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	A-19
	品質の悪い針を使っている。	新しい針に交換します。	B-56
	本機専用のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機専用ボビンを使用してください。	B-38、B-43
	針のとめネジがゆるんでいる。	とめネジをしっかりしめます。	B-56
	上糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-46
	下糸セットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	B-43
	押えの取り付けがまちがっている。	押えを正しく取り付けます。	B-53
	押えホルダーのネジがゆるんでいる。	押えホルダーのネジを確実にしめます。	B-54
	布地が厚すぎる。	プーリーを手で回して針が布地に通ることを確認してください。	S-8
	厚い布地などを縫製中に布地を押しこんでいる。	無理に布地を押しこまないようにしてください。	S-8
	ぬい目が細かすぎる。	ぬい目をあらくします。	S-10
	刺しゅうをするときに、布地に刺しゅう用接着芯を貼っていない。	刺しゅうをするときは、必ず刺しゅう用接着芯を布地に貼ります。	S-81、E-11
	下糸が正しく巻かれていない。	下糸を正しく巻きます。	B-43

症状	原因	対処	参照ページ
上糸が切れる	上糸の通し方がまちがっている（糸こまが正しくセットされていない、糸こま押えの大きさが合っていない、糸が針棒糸かけから外れているなど)。	糸を正しく通します。	B-46
	糸にこぶや結び目がある。	糸のこぶや結び目を取り除きます。	—
	針に比べて糸が太すぎる。	針と糸の組み合わせを確認します。	B-58
	上糸調子が強すぎる。	糸調子を調節します。	S-12、E-30
	糸がからまっている。	かまなどにからんだ糸をはさみなどで切って取り除きます。	A-19、A-24
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-56
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	B-56
	針板の穴の周辺にキズがある。	針板を交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番)」にご相談ください。	A-19
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番)」にご相談ください。	B-53
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番)」にご相談ください。	A-19
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-58、E-21
	糸が結ばれたり、からんだりしている。	上糸と下糸を通しなおします。	B-43、B-46
	本機専用のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機専用ボビンを使用してください。	B-38、B-43
布裏で糸がからまる	上糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-46、A-24
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-58、E-21
上糸がつる	下糸セットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	B-43、A-23
下糸が切れる	下糸セットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	B-43
	下糸が正しく巻かれていない。	下糸を正しく巻きます。	B-38
	ボビンにキズがあり、回転がなめらかでない。	ボビンを交換します。	B-43
	糸がからまっている。	かまなどにからんだ糸をはさみなどで切って取り除きます。	A-19、A-24
	本機専用のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機専用ボビンを使用してください。	B-38、B-43
布地にしわがよる	上糸の通し方、または下糸のセットのしかたがまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。または、下糸を正しくセットします。	B-43、B-46
	糸こまが正しくセットされていない。	糸こまの付け方を確認して、付け直します。	B-46
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-58、E-21
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-56
	薄地に対してぬい目があらすぎる。	ぬい目を細かくします。	S-10
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	S-12、E-30
	模様に合った押えを使用していない。	指定の押えを取り付けます。	S-67
ぬい目が飛ぶ	糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-43、B-46
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-58、E-21
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-56
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	B-56
	品質の悪い針を使っている。	新しい針に交換します。	B-56
	針板の下にゴミがたまっている。	ミシンブラシなどでゴミを取り除きます。	A-19
	薄い布地や伸びる布地をぬっている。	布地の下に薄い紙をしいてぬいます。	S-9
ぬい目ができない	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-56
	下糸セットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	B-43
	上糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-46

症状	原因	対処	参照ページ
ぬい音が高い ガタガタと音がする	送り歯にゴミがたまっている。	ゴミを取り除きます。	A-19
	かまの部分に糸くずが巻きこまれている。	かまの掃除をします。	A-19
	上糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-46
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	A-19
	本機専用のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機専用ボビンを使用してください。	B-38、B-43
	内かまに針が刺さった穴やスリキズがある。	内かまを交換します。お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	A-19
布地を送らない	送り歯が下がっている。	を押してからプーリーを回して送り歯を上げます。	S-40
	ぬい目が細かすぎる。	ぬい目の長さを長くします。	S-10
	模様に合った押えを使用していない。	指定の押えを取り付けます。	S-67
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-56
	糸がからまっている。	かまなどにからんだ糸をはさみなどで切って取り除きます。	A-19、A-24
布地が逆方向に送られる。	送り機構が故障した。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	—
針が針板に当たる。	針の止めネジがゆるんでいる。	針の止めネジをしっかりしめます。針が曲がっている場合や針先がつぶれている場合は新しい針に交換します。	B-56
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-56
布がミシンに入り込んでとれない。	糸が針板の下でからんでいる。	布を持ち上げて、布の下の糸を切ります。次にかまの掃除をします。	A-27
折れた針がミシンの中に落ちた。	—	ミシンの電源を切ってから、針板を外します。ミシンの中に落ちた針が見える場合は、ピンセットなどで取り出します。針を取り出したら、針板を元に戻します。 電源を入れる前に、プーリーを手でゆっくり手前に回してなめらかに回るか確認してください。プーリーがなめらかに回らない場合やミシンの中に落ちた針を取り出せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	A-19
プーリーを回したときに重い。	糸がかまなどにからんでいる。	かまにからんだ糸を取り除きます。内かまを正しい位置に取り付けなおします。	A-19、A-24
刺しゅう機が動かない	模様が選ばれていない。	模様を選びます。	E-3、E-56
	電源スイッチが入っていない。	電源スイッチを入れます。	B-19
	刺しゅう機が正しくセットされていない。	刺しゅう機を正しくセットします。	B-64
	刺しゅう枠を付けた状態で初期設定を行った。	正しく初期設定を行います。	B-64

■仕上がり

症状	原因	対処	参照ページ
糸調子が合わない	上糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-46
	下糸セットのしかたがまちがっている。	下糸をセットし直します。（針板を取り外した場合は、針板を取り付けし直し、内かまを取り付ける前に針板のネジを確実にしめます。）	B-43
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-58、E-21
	押えホルダーが正しく取り付けられていない。	押えホルダーを正しく取り付けます。	B-54
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	S-12, E-30
	下糸が正しく巻かれていない。	下糸を正しく巻きます。	B-38
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-56
	本機専用のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機専用ボビンを使用してください。	B-38、B-43

症状	原因	対処	参照ページ
文字模様がくずれる	模様に合った押えを使用していない。	指定の押えを取り付けます。	S-67
	模様が正しく調整されていない。	模様の調整をし直します。	S-82
	薄地や伸びる布地なのに芯を貼っていない。	布地に接着芯を貼ります。	S-81
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	S-12、E-30
	ぬっている途中で布地を引っ張ったり押さえたり、布地がずれたりしている。	布地がまっすぐ送られるように、布に手を軽く添えてぬいます。	S-3
	糸がからまって、かまなどに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰まっていた場合は、掃除します。	A-19、A-27
刺しゅう模様がくずれる	糸がからまっている。	かまなどにからんだ糸をはさみなどで切って取り除きます。	A-27
	刺しゅう枠に布地がきちんと張られていない(布地の張り方がゆるいなど)。	布地の張り方がゆるいと、模様くずれやぬい縮みの原因となります。刺しゅう枠に布地を正しく張ります。	E-14
	接着芯を貼っていない。	特に伸びる布地、薄地、目の粗い布地、ぬい縮みしやすい布地には、必ず刺しゅう用接着芯を貼ります。適切な接着芯については、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番)」にご相談ください。	E-11
	キャリッジや刺しゅう枠が周辺に置いてある物に当たっている。	キャリッジや刺しゅう枠が物にぶつかると模様くずれの原因となります。刺しゅう枠が動く範囲には物を置かないようにします。	E-19
	刺しゅう枠からはみでた布地をアーム側に置いている。(刺しゅう枠がつかえて動かない)	刺しゅう枠からはみ出た布地がアームの反対側になるようにして枠を張り替え、模様を 180 度回転して刺しゅうをします。	E-14
	重い衣類に刺しゅうして、刺しゅう機の動きが悪くなった。	アームベットと水平になるように電話帳などを置いたり、重い側を軽く持ち上げるようにしてぬいます。	—
	テーブルから刺しゅうする布地が垂れ下がっている。	布地が垂れ下がった状態で刺しゅうをすると、刺しゅう機の動きが悪くなります。テーブルから布地が垂れ下がらないようにします。	—
	布地がひっかかっている、またははさみ込まれている。	ミシンを止めて布地を正しい位置に直します。	—
	下糸交換などでぬっている途中に刺しゅう枠を外したり、セットするときに枠を刺しゅう押えにあてたり、押したりした。または刺しゅう機を動かした。	ぬっている途中で刺しゅう押えに物がぶつかったり、刺しゅう機が動いたりすると模様くずれの原因となります。ぬっている途中で刺しゅう枠を外したり、セットしたりするときには注意してください。	E-26
	刺しゅう用接着芯が、刺しゅう枠よりも小さいなど、正しく貼られていない。	刺しゅう用接着芯を布地に正しく貼ります。	E-11
刺しゅうした布地の表側に糸のループができる	糸調子が正しく調節されていない。	糸調子を調節します。	E-30
	布地、糸、模様の組み合わせによって、上糸が浮いてしまう。	刺しゅう専用針板カバーを使用します。	E-22
	内かまと下糸の組み合わせが正しくない。	正しい組み合わせになるように、内かま、あるいは下糸を交換してください。	E-21

⚠ 注意

- このミシンには、糸切れ確認装置が付いています。上糸が通されていない状態でスタート／ストップスイッチを押しても、ミシンは正常に作動しません。また、選択した模様によっては、針が上で停止したまま布を送ります。これは針棒の解除機能によるものです。そのとき縫製音と異なった音が発生しますが、故障ではありませんのでご了承ください。
- 使用中に停電が発生した場合
  電源スイッチを切って、電源プラグを抜いてください。
  再度電源スイッチを入れる場合は、運転の手順に従って正しく行ってください。

エラーメッセージ

ミシンが正しくセットされていない状態でスタート／ストップスイッチや返しぬいスイッチ、止めぬいスイッチを押したときや、誤った操作をしたときは、ミシンが止まり、メロディとエラーメッセージでお知らせします。エラーメッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

(表示中のエラーメッセージは 閉じる を押すか、正しい操作をすると消えます)。

⚠ 注 意

- **必ず糸をかけ直してください。糸をかけ直さずに（スタート／ストップスイッチ）を押すと、針折れや糸調子不良、故障の原因となります。**

マーク	エラーメッセージ	原因／対処
	2 本針の設定のときには、上糸通しスイッチは使えません。	2 本針が設定されている状態で自動糸通しスイッチを押したときに表示されます。
	LED ポインター付き刺しゅう押えを外してください。	ミシンに LED ポインター付き刺しゅう押え＜ W+ ＞が取り付けられている状態で実用模様／文字・飾り模様をぬおうとすると表示されます。実用模様／文字・飾り模様モードに入る前に、LED ポインター付き刺しゅう押え＜ W+ ＞を取り外してください。(B-62 参照)
	USB 通信中	USB メディアとの通信中に表示されます。
	USB メディアエラー	USB メディアでエラーが発生したときに表示されます。
	USB メディアが交換されました。読み込んでいる最中に交換しないでください。	呼び出したい模様が記憶された USB メディアを取り出した後で、その模様を選択しようとしたときに表示されます。
	USB メディアが入っていません。USB メディアを入れてください。	USB メディアを挿入していない状態で、模様を呼び出そうとしたり、保存しようとしたときに表示されます。
	安全装置が働きました。糸がからんでいませんか？針が曲がっていませんか？	糸がらみなどで、モーターがロックしたときに表示されます。
	糸がうまくかかっていない可能性があります。始めから糸をかけ直して下さい。	自動上糸通しのとき、上糸が正しく通されていない可能性があるときに表示されます。
	上糸を確かめ、もう一度かけ直してください。	上糸が切れたときなど、上糸が正しく通っていない状態で、スタート／ストップスイッチまたは返しぬいスイッチを押したときに表示されます。
	選んだ模様が消えます。よろしいですか？	模様を選んだ後に 実用模様 あるいは 文字模様ぬい を押して、表示している模様が削除されるときに表示されます。
	押えが自動で下がります。よろしいですか？	押えが上がった状態で を押したときに表示されます。
	押え上下スイッチで押えを下げてください。	押えが上がっている状態で、スタート／ストップスイッチなどのスイッチを押したときに表示されます。
	押えレバーを下げてください。	押えレバーが上がっていて針が下がっている状態で、押え上下スイッチを押したときに表示されます。
	書き込みに失敗しました。	USB メディアに 100 個以上の設定画面を画像データとして保存しようとしたときに表示されます。この場合は、USB メディアから不要な画像データを削除するか、別の USB メディアを使用してください。(B-33 参照)
	この USB メディアには対応していません。	本機が対応していない USB メディアを使おうとしたときに表示されます。対応する USB メディアの一覧は、、ブラザーソリューションセンター (http://solutions.brother.co.jp/sewing_support/index.html) にてご覧ください。
	この USB メディアは使用できません。	使用できないメディアを使おうとしたときに表示されます。

マーク	エラーメッセージ	原因／対処
	このキーは使えません。	実用模様モード以外で［ぬい方］を押したときや、実用模様／文字・飾り模様モード以外で［模様説明］を押したときに表示されます。
	このモードではぬえません。	選択中の模様では使用できない機能を使おうとしたときに表示されます。
	この模様はデュアルフィードモードでぬうことが出来ません。	選択中の模様では、デュアルフィード機能押えを使用できないときに表示されます。他の模様を選択してください。(B-68 参照)
	時刻を設定してください。	ミシンに日時設定がされていないときに表示されます。日時を設定してください。(B-20 参照)
	刺しゅう枠が動きます。手や物を刺しゅう枠から離して OK キーを押してください。	刺しゅう機の初期設定をするときに表示されます。
	下糸が少なくなりました。	下糸が少なくなったときに表示されます。
	下糸巻きの安全装置が働きました。糸がからんでいませんか？	下糸巻き中に、糸がらみなどでモーターがロックしたときに表示されます。
	シャットオフサポートモードが働きました。ミシンの電源を切ってください。	ミシンが電源オフサポートモードのときに表示されます。ミシンをスタートするには、いったん電源を切る必要があります。(B-30 参照)
	スピードコントロールレバーで振り幅を調節するときは、スタート／ストップスイッチは使用できません。フットコントローラーを使用してください。	スピードコントロールレバーがジグザグの振り幅を調節するように設定されている状態でスタート／ストップスイッチを押したときに表示されます。フットコントローラーでミシンを操作してください。
	設定が消えます。よろしいですか？	実用模様のぬい方設定を削除するために、あるいは［1-5］を押したときに表示されます。［OK］を押すと、設定が削除されます。
	対応したフォーマットではありません。	本機が対応していない形式のファイルを読み込もうとしたときに表示されます。対応するファイル形式の一覧を確認してください。(S-94 参照)
	データ容量の制限を超えました。これ以上模様を選ぶことはできません。	編集刺しゅうで、データ容量の制限を超える模様を読み込んだり、たくさんの模様を編集したりしたときに表示されます。
	定期点検を行ってください。	ミシンの定期点検が必要です。(A-19 参照)
	デュアルフィードモジュールを外してください。	デュアルフィード押えがミシンに取り付けられた状態で、刺しゅうをしようとすると表示されます。(B-68 参照)
	電源スイッチを切ってから針板を交換してください。	直線針板を取り付けた状態で、中基線以外の模様でぬおうとしたときに表示されます。ミシンの電源を入れたまま針板を取り外したとき、刺しゅうモードまたは編集刺しゅうモードでミシンの電源を入れたときに表示されます。(B-22 参照)
	布を取り除いてから、糸通ししてください。	デュアルフィード押えが取り付けられており、押えの高さが 3 ミリ以上の状態で、自動糸通しスイッチを押すと表示されます。 布を取り除いてから、再度自動糸通しスイッチを押してください。
	針板カバーが取り付けられていません。針板カバーを取り付けて下さい。	針板カバーが取り付けられていないときに表示されます。
	針が下がっているときに、このキーは使用できません。	針が下がった状態で画面上のキーを押したときに表示されます。
	ファイルサイズが大きすぎます。規定サイズ以内のファイルを使用して下さい。	ミシンが読み込める容量を超えたサイズの模様を読み込もうとしたときに表示されます。データのサイズと形式を確認してください。(S-95 参照)
	不具合が生じました。電源をいったん OFF してから再度やり直してください。	ミシンが故障していることが考えられますので、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」までお問い合わせください。

マーク	エラーメッセージ	原因／対処
	フットコントローラーが付いているときは、スタート／ストップスイッチは使用できません。	フットコントローラーを取り付けた状態で、実用ぬいや文字・模様ぬいをするためにスタート／ストップスイッチを押したときに表示されます。（刺しゅうをしている間、このメッセージは表示されません。）
	ポケットがいっぱいです。模様を消去してください。	記憶容量がいっぱいで、模様の設定を消去する必要があるときに表示されます。
	ボタン穴かがりレバーを上げてください。	ボタン穴かがりレバーが下がった状態で、ボタン穴かがり以外の模様を選んで、スタート／ストップスイッチ、返しぬいスイッチまたは止めぬいスイッチを押したときに表示されます。
	ボタン穴かがりレバーを下げてください。	ボタン穴かがりレバーが上がった状態で、ボタン穴かがりの模様を選んで、スタート／ストップスイッチ、返しぬいスイッチまたは止めぬいスイッチを押したときに表示されます。
	文字の配列ができません。	文字数が多くて曲線の配列ができないときに表示されます。
	模様の呼び出し中です。しばらくお待ち下さい。	編集刺しゅうで、模様を呼び出しているときに表示されます。
	容量がたりません。模様を消去しますか？	記憶容量がいっぱいで、模様を記憶できないときに表示されます。
	レジューム記憶を呼び出しますか？	縫製中にミシンの電源を切った後で、もう一度電源を入れたときに表示されます。 OK を押すと、電源を切ったときの状態（模様の位置と縫製済みの針数）に戻ります。E-27 の「途中で糸が切れたときは」の手順に従って、針位置を合わせて、模様の続きをぬってください。

仕様

	項目	仕様
ミシン本体	本体寸法	57.1 cm（幅）× 33.2 cm（高さ）× 28.4 cm（奥行）
	箱収納寸法	68.5 cm（幅）× 55.0 cm（高さ）× 37.7 cm（奥行）
	製品質量	15.3 kg
	ぬい速度	毎分 70 ～ 1050 針
	針	家庭用ミシン針（HA × 1）
	定格電圧 / 消費電力	100 V (50/60Hz) 67W （電源オフサポートモード時の消費電力：0.5W）
刺しゅう機	本体寸法	54.5 cm（幅）× 13.0 cm（高さ）× 46.4 cm（奥行）
	箱収納寸法	68.5 cm（幅）× 55.0 cm（高さ）× 18.8 cm（奥行）
	ミシンセット時寸法	81.5 cm（幅）× 33.2 cm（高さ）× 46.4 cm（奥行）
	製品質量	3.9 kg

アップグレードの方法

USB メディアまたはパソコンを使って、ミシンにインストールされているソフトウェアをアップグレードすることができます。

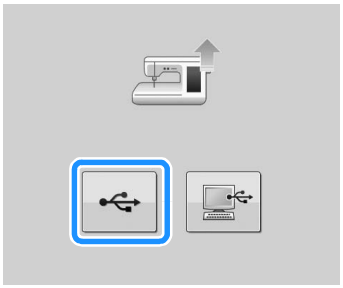
お願い
- USB メディアを使ってソフトウェアをアップグレードするときは、USB メディア内にアップグレードファイルだけを保存してください。それ以外のデータが含まれていると、正しくアップグレードができません。

USB メディアを使用してアップグレードする

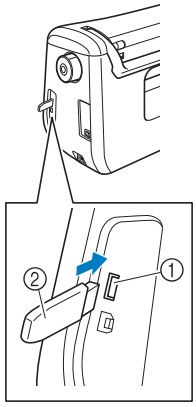
1 (自動糸通しスイッチ) を押しながら、電源スイッチを入れます。

→ 次の画面が表示されます。

2 を押します。



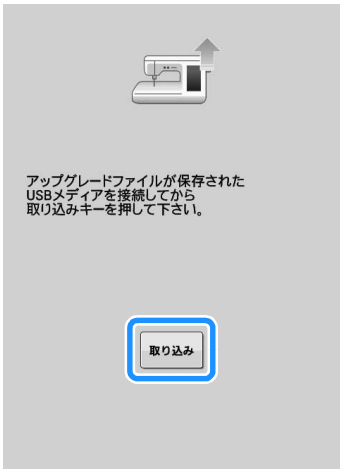
3 アップグレードファイルのみを保存した USB メディアをミシンの USB ポートコネクタに差し込みます。



① メディア／マウス用の USB ポートコネクタ
② USB メディア

お願い
- アクセスインジケーター付 USB メディアを使用する場合は、パソコンやミシンに USB メディアを挿入したときに、アクセスインジケーターが点滅し始め、USB メディアが認識されるまで約 5 ～ 6 秒かかることがあります。(USB メディアの種類によって、認識されるまでの時間が異なります。)

4 取り込み を押します。



→ アップグレードファイルがダウンロードされます。

お知らせ
- エラーが発生すると、エラーメッセージが赤い文字で表示されます。ダウンロードが正常に行われると、アップグレード完了のメッセージが表示されます。



5 USB メディアを外し、ミシンの電源スイッチを入れ直します。

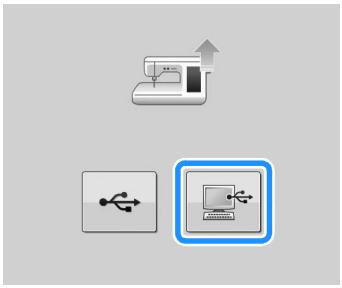
パソコンを使用してアップグレードする

お願い
- USB ケーブルの使用中は、パソコンに他の USB メディアを接続しないでください。

1 (自動糸通しスイッチ) を押しながら、電源スイッチを入れます。

→ 次の画面が表示されます。

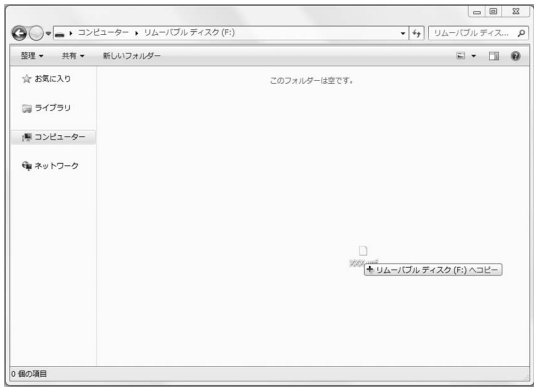
2  を押します。



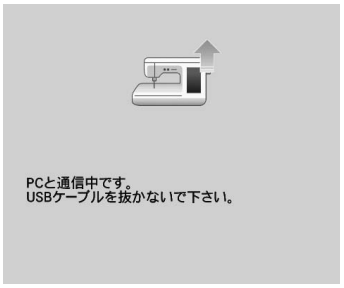
3 ミシンとパソコンのUSBポートコネクタに USB ケーブルを差し込みます。

→「コンピュータ（マイコンピュータ）」に「リムーバブルディスク」が表示されます。

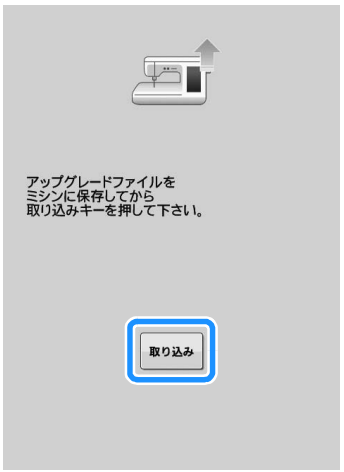
4 アップグレードファイルを「リムーバブルディスク」にコピーします。



→「PC と通信中です。USB ケーブルを抜かないでください」のメッセージが表示されます。



5 メッセージが消えたら、取り込み を押します。



→ アップグレードファイルがダウンロードされます。

お知らせ
- エラーが発生すると、エラーメッセージが赤い文字で表示されます。ダウンロードが正常に行われると、アップグレード完了のメッセージが表示されます。



6 USB ケーブルを外し、ミシンの電源スイッチを入れ直します。

索引

数字

1 重ぬい /3 重ぬいキー S-106
2 本針 B-49
2 本針キー B-49

L

L/R シフト S-11
LED ポインター付き刺しゅう押え B-62
LED ポインターの調整 B-63

U

USB ケーブル B-67, S-97, E-46, E-49, A-39
USB ポートコネクタ
　パソコン用 B-9, S-97, E-46
　メディア／マウス用 S-96, E-45
USB マウス B-30, B-68
USB メディア
　記憶する S-96, E-45
　種類 S-94, E-43
　呼び出す S-99, E-48

あ

アイレット S-62
アダプター B-54
アップグレードの方法 A-38
アップリケ S-48
　キルトぬい S-38
　刺しゅうの枠模様を使用する E-50
　刺しゅう模様 E-23
　ジグザグぬい S-31
アーム S-62
アルファベット
　刺しゅう E-5
　編集刺しゅう E-57
　文字・模様ぬい S-78

い

位置確認キー E-19
糸
　糸調子 S-12, E-30
　布地と針と糸の組み合わせ B-59
糸案内 B-9, B-39, B-42, B-50
糸案内板 B-9, B-42, B-46
糸色表示 E-33
糸切り B-9, S-4
糸切り／糸調子キー E-30
糸切りスイッチ B-11
糸こま押え B-9
糸こま押え（特殊） B-39
糸こまネット B-52
糸印 E-74
糸たて棒 B-9, B-38, B-50
糸パレットキー E-64, E-65, E-69
糸密度キー S-87, E-39
イメージキー S-22, S-88, S-107, E-20
色替キー E-39, E-64
色パレット E-66, E-69

う

ウォーキングフット B-54
内かま
　掃除 A-19
上糸通し
　2 本針モード B-49
　糸こまネットを使用する B-52
　手動で上糸を通す B-49
　自動糸通しスイッチ B-46
上ふた B-9

え

液晶画面 B-9, B-22
　明るさ調整 A-22
　掃除 A-19
　ロックする S-18
エコーキルト S-43
エコモード B-30
エラーメッセージ A-35

お

大きさキー E-36, E-61
大きさ選択キー S-86
送り歯 B-10, S-40
押え
　アダプター B-54
　圧力 S-17
　種類 S-67
　取り付ける B-53
　取り外す B-53
押え記号 E-9
押え上下スイッチ B-11
押えホルダー B-10, B-53
押えホルダーのネジ B-10
押えレバー B-9, S-8
折り伏せぬい S-29

か

回転キー E-37, E-61
返しぬい／止めぬい S-5, S-6
返しぬいスイッチ B-11, S-5
拡大キー S-106
飾りぬい
　デイジーステッチ S-53
　ドロンワーク S-54
換気口 B-9
かんどめ S-59
画面明るさ A-22

き

記憶する
　USB メディア S-96, E-45
　刺しゅう模様 E-44
　実用ぬい S-22
　パソコン S-97, E-46
　マイイラスト S-110
　ミシンのメモリー S-95, E-44
　文字・模様ぬい S-95
　模様の設定 S-22
キーのはたらき
　刺しゅう E-10
　実用ぬい B-24
　編集刺しゅう E-60
　マイイラスト機能 S-105
　文字・模様ぬい S-84
キルト
　フリーモーション S-40
キルトぬい S-35
　サテンぬい S-39
ギャザー S-28

く

繰り返しキー E-71, E-74
クレイジーキルト S-31
グリッド方向キー S-106

こ

コードガイドふた S-32
ゴムひもつけ S-33

さ

サイドカッター押え S-33
サテンぬい S-39, S-87
左右反転キー S-21, S-86, E-38

し

シェルタックぬい S-49
刺しゅう
　糸色表示 E-33
　キーのはたらき E-10
　自動糸切り機能 E-31
　速度を調節する E-32
　小さい布地にぬう E-16
　電源を切った後、刺しゅうを再開する E-28
　布地の隅 E-16
　始めからぬい直す E-28
　模様を選ぶ E-3
　リボンテープ E-16
　渡り糸切り機能 E-31
刺しゅう押え B-61, B-62
刺しゅうカード E-7
刺しゅうカードリーダー E-7
刺しゅう機 B-11, B-64
　キャリッジ B-11
刺しゅうキー E-77
刺しゅうシート E-15
刺しゅう専用針板カバー E-22
刺しゅうの枠表示 E-34
刺しゅう模様
　アップリケ模様 E-23
　位置合わせ E-35
　位置の確認 E-19
　選ぶ E-3, E-56
　記憶する E-44, E-45, E-46
　組み合わせ E-21, E-78
　刺しゅうする E-22
　修正 E-35, E-77
　複製 E-59
　編集 E-40
　文字をつなげる E-40
　呼び出す E-47, E-48
　枠模様を使ってアップリケをする E-50, E-51
刺しゅう枠
　刺しゅうシートの使い方 E-15
　種類 E-13
　セットする E-17
　取り外し方 E-18
　布地の張り方 E-14
下糸を巻く B-38
下糸通し
　下糸をセットする B-43
　下糸を引き出す B-45
下糸巻き案内 B-9, B-40, B-42
下糸巻き装置 B-9
しつけぬい S-27
シャッター B-46
仕様 A-37
ジグザグぬい S-30
実用ぬい
　アドバイスキー B-37
　選び方 S-21
　記憶する S-22
　キーのはたらき B-24
　ぬい方キー B-36
　ぬい方早見表 S-67
　模様選択画面 S-67
　呼び出す S-23
自動糸切りキー S-14
自動糸通しスイッチ B-11, B-46
自動止めぬいキー S-6
自動布地センサーシステム S-17

す

垂直糸たて棒 B-52
スカラップぬい S-50
スタート／ストップスイッチ B-11
ステップ模様 S-92
スピーカー B-27
スピードコントロールレバー B-9, B-11, S-3
スモッキングぬい S-50

せ

接着芯 E-11
設定
　糸切り E-31
　糸調子 S-12, E-30
　画面の明るさ A-22
　刺しゅうの設定 B-29
　自動糸切り S-14, E-31
　自動止めぬいをする S-6
　セットキー B-26, E-32, E-66
　そのほかの設定 B-27
　ぬい方の設定 B-26
　ぬい目の長さ S-10
　表示言語 B-31
　振り幅 S-10
セットキー S-106

そ

操作スイッチ B-9
掃除
　内かま A-19
　液晶画面 A-19
　本体表面 A-19

た

たちめかがり S-31
タッチペン S-106, E-65, A-22
試しぬいキー S-107, S-110
ダーツ S-28
ダーニング（つくろいぬい） S-58

ち

調整
　画面の明るさ A-22
直線押え S-26
直線ぬい S-24
直線針板 S-26

つ

つき合わせぬい S-50

て

点線ジグザグぬい S-33
デュアルフィード押え B-68
電源オフサポートモード B-30
電源コード B-20
電源ジャック B-9

電源スイッチ B-9, B-19

と

止めぬいスイッチ B-11, S-5
トラブルチェック A-23

に

ニーリフター B-9, S-15

ぬ

ぬい方キー B-36
ぬい方早見表 S-67
ぬい始めの位置キー E-36
ぬい目戻る／進むキー E-27, E-28
布地
　厚地をぬう S-8
　薄地をぬう S-9
　布地と針と糸の組み合わせ B-59
　伸びる布地をぬう S-9, S-57

は

配列キー E-58, E-62
針
　2 本針 B-49
　布地と針と糸の組み合わせ B-59
　針位置の変え方 S-25
　針の交換 B-56
針板 B-10
針板カバー B-10, S-26
針板ふた B-10, B-44
針位置 S-17, S-25
針・押え交換キー B-50, B-53, B-54, B-56, B-61
針上下スイッチ B-11
針のとめネジ B-10
針棒糸かけ B-10, B-50
ハンドル B-9
ボタン穴かがり
　ボタン穴かがり S-54
　ボタンが台皿にのらない場合 S-57
パッチワーク S-31

ひ

ひらがな／カタカナ
　刺しゅう E-5
　編集刺しゅう E-57
　文字・模様ぬい S-78
ピーシング S-36
　ガイド付きピーシング押え S-37
ピボット S-15
ピンタック S-30

ふ

ファゴティングぬい S-51
ファスナーつけ
　つき合わせ S-63
　脇あき S-64
付属品 B-13
　別売品 B-14
付属品入れ B-12
フットコントローラー B-9, S-5
フリーモーションキルト
　エコーキルト押え＜E＞ S-43
　オープントゥキルト押え＜O＞ S-40
　フリーモーションキルト押え＜C＞ S-41
フリーモーションモード S-40
ブロック移動キー S-108
プーリー B-9

へ

ヘアルーム S-53
ヘルプキー B-34
編集
　刺しゅう E-35
　編集刺しゅう E-59
　マイイラスト機能 S-105
　文字・模様ぬい S-84
編集刺しゅう
　糸色を変える E-65
　色パレット E-66, E-69
　キーのはたらき E-60
　組み合わせ模様 E-78, E-81
　編集刺しゅうでできること E-55
　連続模様 E-71

ほ

補助テーブル B-9, B-12
ホーム画面 B-22
ボタン穴かがりレバー B-10, S-56, S-58
ボタンつけ S-60
　4 つ穴ボタン S-61
　糸足 S-61
ボビン
　下糸が少なくなったら E-26
　下糸を引き出す B-45
　セットする B-43
　巻く B-38
ボビン受け座 B-42
ボビンクリップ B-14
ボビンホルダー（スイッチ） B-40
ボビンワーク A-2
ボールポイント針（刺しゅう用） B-58, E-32
ポイント削除キー S-107
ポイント挿入キー S-109

ま

マイイラスト機能
　キーのはたらき S-105
　デザイン S-103
　データの入力 S-105
　呼び出す S-111
　リストに保存する S-110
まつりぬい S-45

み

ミシン糸
　布地と針と糸の組み合わせ B-59
ミシン針
　布地と針と糸の組み合わせ B-59

も

文字間隔キー E-62
文字・模様ぬい
　選び方 S-77
　記憶する S-95, S-96, S-97
　キーのはたらき S-84
　組み合わせ S-89
　調整 S-82
　ぬう S-81
　編集 S-84
　呼び出す S-98, S-99, S-100
模様の頭出しキー S-87
模様の組み合わせ
　編集刺しゅう E-78
　文字・模様ぬい S-89
模様の長さキー S-86

や

矢印キー S-106, E-35, E-79

よ

横送り S-62
横書き／縦書き S-87
よこたてキー S-87
呼び出す
　刺しゅう模様 E-47
　実用ぬい S-23
　パソコン S-100, E-49
　マイイラスト S-111
　ミシンのメモリー S-98, E-47
　文字・模様ぬい S-98

れ

連続刺しゅう（一色ぬい）.....E-42
連続模様 E-71

アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にお問い合わせください。

■ 保証書について

- ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理については、お買い上げの販売店、または下記の「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

■ お客様相談室（ミシン119番）050-3786-1134

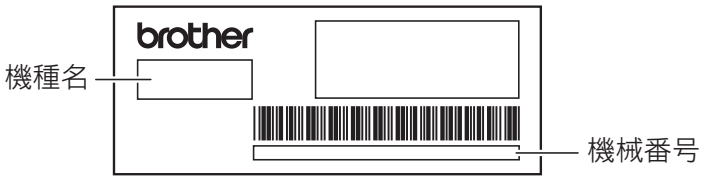
本製品の使い方やアフターサービスについてご不明の場合は、
お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」までお問い合わせください。

〒467-8577 愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1

お客様相談室（ミシン119番） Tel：050-3786-1134
Fax：052-824-3031

受付時間：月曜日～金曜日　9：00 ～ 17：30
休業日：土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日

- お客様相談室（ミシン 119 番）は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
  ミシン背面の定格ハリマーク（銀色シール）の下記部分をご確認ください。



- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

■ ホームページ

ブラザーのホームページでは、製品に関する様々な情報を掲載しております。

http://www.brother.co.jp/

ブラザーソリューションセンターでは、製品に関するサポート情報を掲載しております。

http://solutions.brother.co.jp/sewing_support/index.html

ブラザー工業株式会社
愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1　〒467-8561

114-C52
Printed in Taiwan

XF7608-001